

宮古市市民意識調査報告書

平成31年3月

宮古市企画部企画課

目 次

第 1 章 調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2

第 2 章 対象者の属性

第 3 章 調査結果の分析

1. 身近な生活環境への評価	7
（1）生活環境に対する満足度	8
（2）年代別にみた生活環境に対する満足度	13
（3）地区別にみた生活環境に対する満足度	16
（4）生活環境に対する必要度	19
（5）年代別にみた生活環境に対する必要度	24
（6）地区別にみた生活環境に対する必要度	27
（7）行政施策の類型化	30
（8）地域への愛着度	34
（9）市への愛着度	36
（10）定住意向	38
（11）市外在住の家族の定住（移住）意向	40
（12）市外在住の知人の定住（移住）意向	42
（13）くらしやすさの時系列比較	43
2. 地域や社会とのかかわりに対する意識	45
（1）地域や社会への参加意識	45
（2）年代別にみた地域や社会への参加意識	46
（3）地区別にみた地域や社会への参加意識	48
（4）社会活動への参加状況	50
（5）年代別にみた社会活動への参加状況	51
（6）地区別にみた社会活動への参加状況	55
（7）社会活動への関心と参加意向	59
（8）年代別にみた社会活動への関心と参加意向	60
（9）地区別にみた社会活動への関心と参加意向	64
（10）近所付き合いの状況	68
（11）住みよい地域社会を実現していくうえでの問題点	71
（12）災害における避難時の心配事	72

3. 市政への関心と行政サービス	73
(1) 市政への関心度	73
(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況	75
(3) 広報紙の内容についての意見	76
(4) 行政サービスについての感想	77
(5) インターネットの利用状況	78
(6) インターネットの利用手段	79
(7) インターネットの利用環境	80
(8) インターネットを利用しない理由	80
(9) 市のホームページの利用状況	81
(10) 市のホームページの利用度及び満足度	83
(11) 市のホームページで掲載・充実してほしい情報	85
(12) 市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブの利用状況	86
(13) 市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブで 掲載・充実してほしい情報	87
(14) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用状況	88
(15) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用頻度	88
(16) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用場所	89
(17) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の良いところ	89
4. 今後の宮古市のまちづくり	90
(1) 各種施策に対する意識	90
(2) 年代別にみた各種施策に対する意識	93
(3) 地区別にみた各種施策に対する意識	99
5. 東日本大震災からの復興	105
(1) 「住まいと暮らしの再建」の状況	105
(2) 「産業・経済復興」の状況	107
(3) 「安全な地域づくり」の状況	109
(4) 「住まいと暮らしの再建」において重要な施策	111
(5) 「産業・経済復興」において重要な施策	114
(6) 「安全な地域づくり」において重要な施策	117

第4章 前回調査との比較

1. 身近な生活環境への評価	120
(1) 生活環境に対する満足度（分野別・項目別）	120
(2) 生活環境に対する必要度（分野別・項目別）	125
(3) 行政施策の類型化	130
(4) 地域への愛着度	131
(5) 市への愛着度	131
(6) 定住意向	132
2. 地域や社会とのかかわりに対する意識	133
(1) 地域や社会への参加意識	133
(2) 社会活動への参加状況	134
(3) 社会活動への関心と参加意向	135

3. 市政への関心と行政サービス	136
(1) 市政への関心度	136
(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況	136
(3) 行政サービスについての感想	137
(4) インターネットの利用状況	138
(5) インターネットの利用手段	138
(6) インターネットの環境	139
(7) インターネットを利用しない理由	139
(8) 市のホームページの利用状況	139
4. 今後の宮古市のまちづくり	140
(1) 各種施策に対する意識	140
5. 東日本大震災からの復興	142
(1) 「住まいと暮らしの再建」の状況	142
(2) 「産業・経済復興」の状況	142
(3) 「安全な地域づくり」の状況	143
(4) 「住まいと暮らしの再建」において重要な施策	143
(5) 「産業・経済復興」において重要な施策	144
(6) 「安全な地域づくり」において重要な施策	144

資 料 宮古市市民意識調査票

第1章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、平成31年度に予定している宮古市総合計画（2020～2029年度）の策定作業にあたっての基礎資料とするため、行政全般及び個々の取組みに対する市民の満足の状態やニーズを把握することを目的として実施する。

2. 調査項目

- ・身近な生活環境への評価（満足度と必要度）
- ・地域や社会とのかかわりに対する意識
- ・市政への関心と行政サービスへの感想、情報化環境
- ・今後の宮古市のまちづくり
- ・東日本大震災からの復興

3. 調査の設計

調査地域	宮古市全域
調査対象	市内に居住する18歳以上の男女
標本数	3,000人
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成30年11月15日～11月30日

4. 回収結果

調査地域	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区	無回答	宮古市全域
配布数	2,400	200	200	200	-	3,000
回収数	844	79	67	60	23	1,073
回収率	35.2%	39.5%	33.5%	30.0%	-	35.8%

※調査項目「Q4住まいの地区」に対する回答により、以下の区分で集計した。

宮古地区…宮古、鉾ヶ崎、佐原、山口、田代、千徳、磯鷄、崎山、花輪、津軽石、重茂

田老地区…田老（末前から樫内）、田老（大平から乙部）、田老（和野から畑）

新里地区…茂市・墓目・腹帯、刈屋・和井内

川井地区…川井・箱石・川内、門馬、小国・江繋

5. 報告書の見方

- ・「回答数」は設問における有効回答数で、比率算出の基数となる。
- ・割合はすべて百分率（％）で示しているが、小数点第2位以下を四捨五入しているため、割合の合計が100にならない場合がある。
また、複数の項目の割合を合計した場合も、見かけ上の合計値とは異なる場合がある。
- ・複数回答可の設問については、原則として、その設問に対して有効な回答数を基数としているため、百分率の合計が100を超える場合がある。
- ・身近な生活環境に対する満足度と必要度の評価を行うため、問1における回答を点数化している。点数化の方法は、選択肢毎にウエイトを設定し、回答数にウエイトを乗じることを基本としている。また、得点の評価を100点満点とするため、乗じた値の合計値を全回答数で割っている。

選択肢	ウエイト
満足している	100
必要である	100
まあ満足している	75
どちらともいえない	50
上記以外	0

点数化の例)

以下のような回答があった場合

選択肢	回答数
満足している	476
まあ満足している	432
どちらともいえない	98
あまり満足していない	27
満足していない	12
無回答	28
合計	1,073

$$\text{点数} \rightarrow 476 \times 100 = 47,600$$

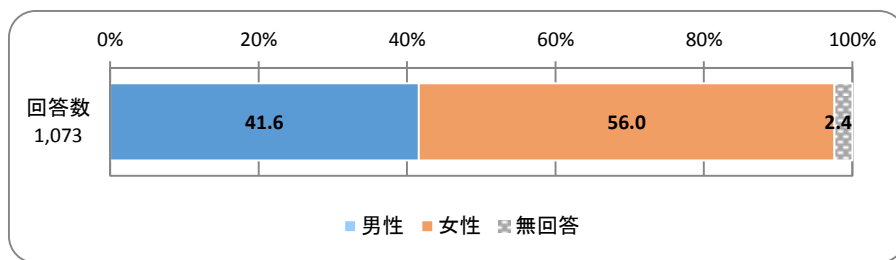
$$\text{点数} \rightarrow 432 \times 75 = 32,400$$

$$\text{点数} \rightarrow 98 \times 50 = 4,900$$

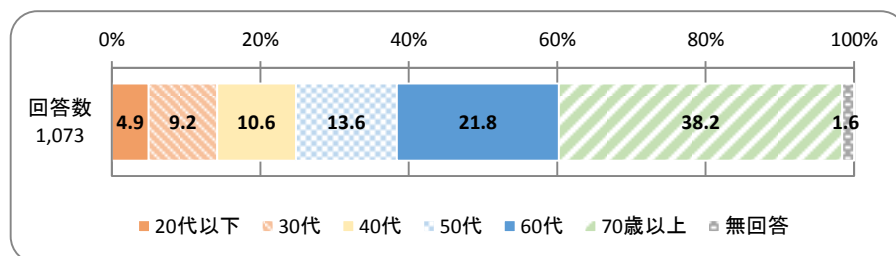
$$\begin{aligned} \text{評価点} &= (47,600 + 32,400 + 4,900) \div 1,073 \\ &= 84,900 \div 1,073 \\ &= 79.1 \end{aligned}$$

第2章 対象者の属性

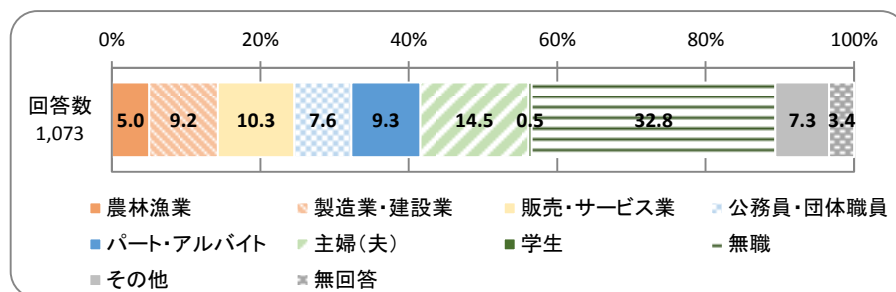
■性別



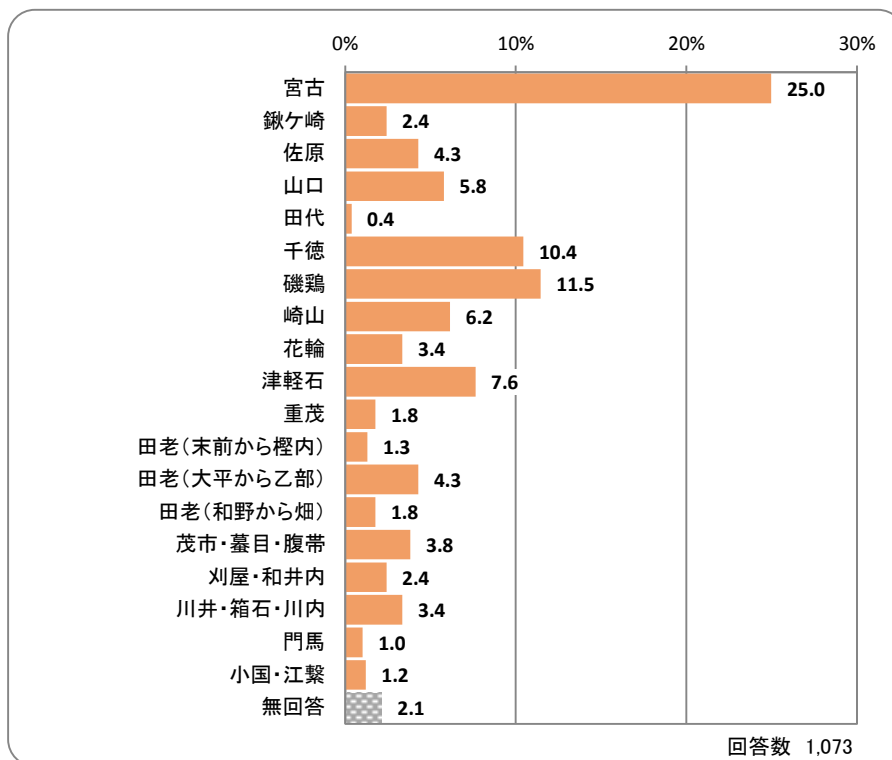
■年齢



■職業

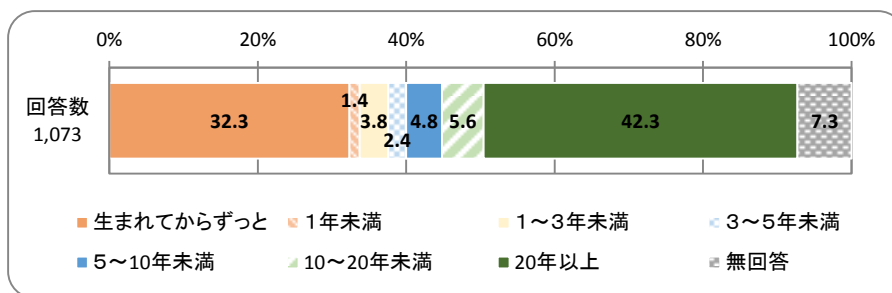


■ 居住地区

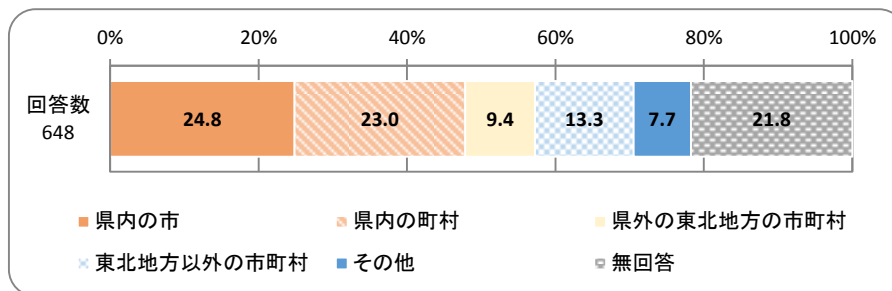


※田老(末前から檜内) …末前・青倉・養呂地・神田・小田代・檜内
 田老(大平から乙部) …大平・小林・塚町・田中・田の沢・上町・中町・下町・川向・荒谷・乙部
 田老(和野から畑) …和野・新田平・新田・重津部・青野滝・小堀内・水沢・撰待・撰待和野・畑

■ 居住年数

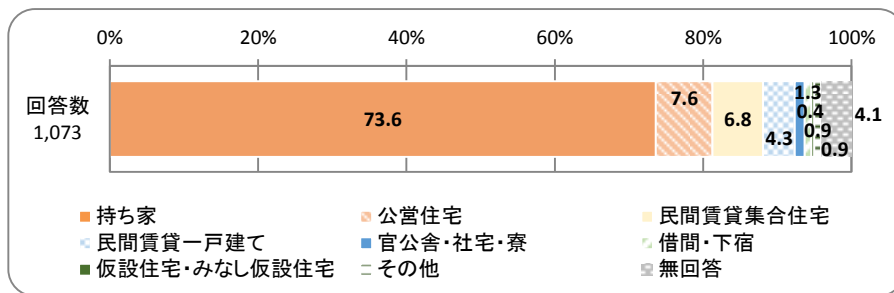


■ 前居住地

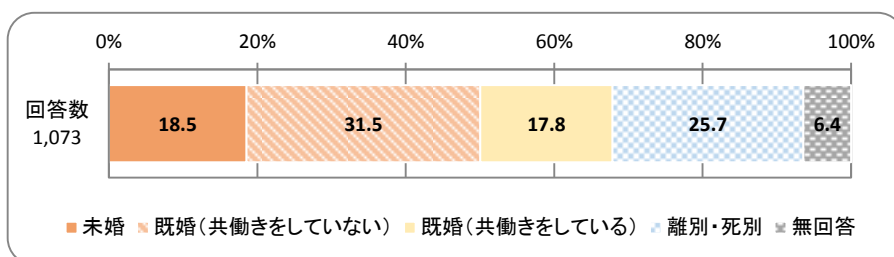


※「Q5 居住年数」で「生まれてからずっと」、「無回答」以外を回答した方を対象

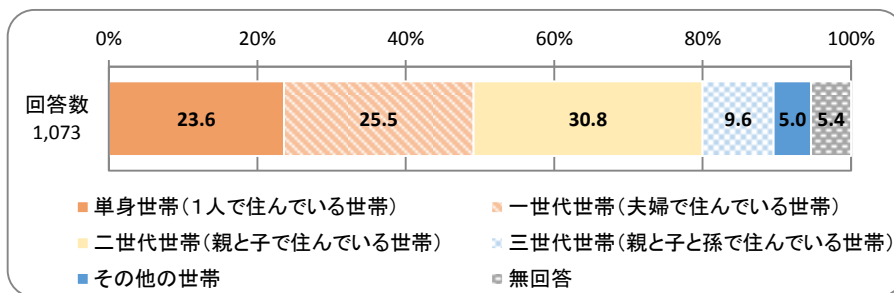
■住居形態



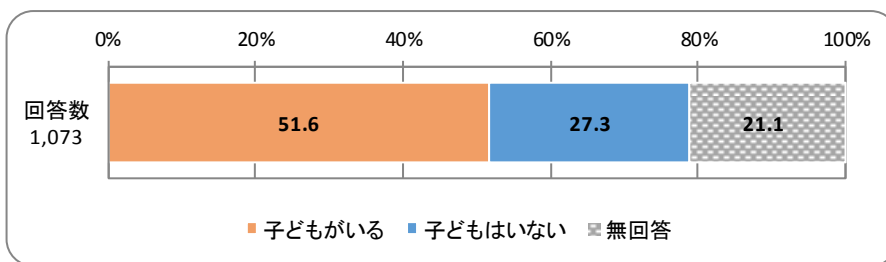
■婚姻状況



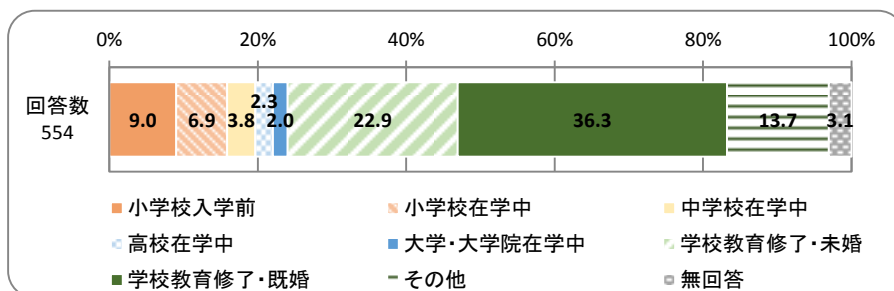
■家族構成



■子どもの有無

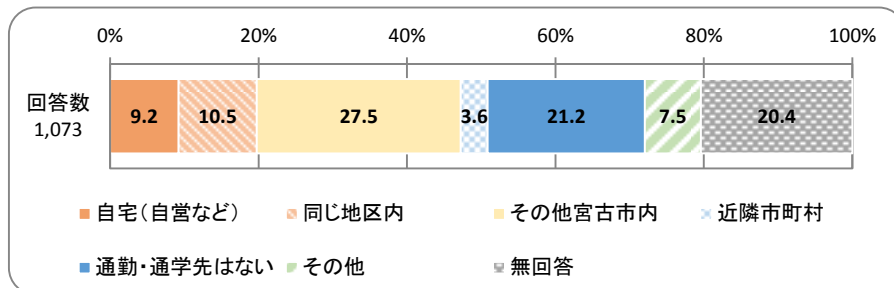


■子どもの就学状況

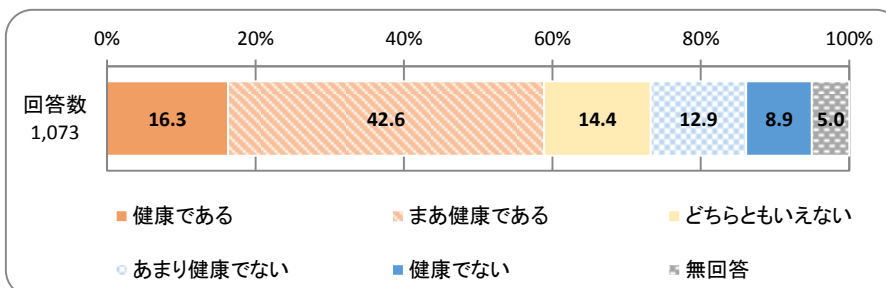


※「Q10 子どもの有無」で「子どもがいる」と回答した方を対象

■通勤・通学先



■健康状態



第3章 調査結果の分析

1. 身近な生活環境への評価

市で現在展開している各種の施策が、市民生活の中でどの程度「満足されているか」、また、市民生活にとってどの程度「必要とされているか」を知るため、具体的に62の項目を提示し、その各々について「日頃の生活の中でどのように感じているか」（満足度）を5段階評価で、「あなた自身の生活にとってどの程度必要なことか」（必要度）を3段階評価の形式で聞いた。

結果の分析に関しては、満足度や必要度を項目間で比較するために、回答を点数化（100点満点）した。点数化の方法については、「第1章 調査の概要」における報告書の見方を参照のこと。

なお、提示している62の施策項目は大きく分けて5つの分野からなり、分野の内訳は「自然・都市環境」に関するもの10項目、「教育・文化」に関するもの10項目、「福祉・健康」に関するもの12項目、「産業・就労」に関するもの13項目、「基盤整備」に関するもの17項目である。

分野・項目一覧

分野	項目	分野	項目
自然・都市環境	海や山などの自然環境に恵まれている	産業・就労	末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである
	自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある		小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである
	まちの雰囲気や親しみがある		市内には娯楽やレジャー施設がある
	人情味があり、人とのふれあいがあがる		おいしい店や楽しく飲食できる店がある
	気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる		食品や日用品などの買い物に便利である
	ごみやし尿の収集処理の状況がよい		市内に魅力ある観光スポットや特産品がある
	ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる		新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌がある
	清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある		市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある
	河川がきれいで親しみがある		農業は担い手が多く、盛んである
	公害が少ない		林業は担い手が多く、盛んである
教育・文化	気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある	水産業は担い手が多く、盛んである	
	市内で様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる	魚価の安定、消費拡大の対策がとられている	
	身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある	市の工業は盛んで多くの市民の就労の場になっている	
	地域の集会所が整備されている	港湾は様々なことに有効に活用されている	
	自主的な活動を行う機会や場が身近にある	宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある	
	青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている	鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である	
	学校の教育環境が整っている	国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる	
	情操教育が充実している	幹線となる市道がよく整備されている	
福祉・健康	生活上の課題を相談できる場所が身近にある	基盤整備	身近な生活道路が整備されており安心して通行できる
	必要なときに手助けをしてもらえる環境がある		駐輪・駐車場が困らない程度にある
	高齢者に対する在宅サービス制度が充実している		公園・緑地などが整備・保全されている
	老人ホームなどの福祉施設が整備されている		公営住宅もあり住むところの心配はない
	障がい者が社会参加しやすい環境がある		年をとっても安心して住める住まいとなっている
	保育園や幼稚園などが整備されている		身近な情報や知りたい情報を入手する手段がさまざまある
	子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある		行政サービスの窓口が適当な場所にある
	育児に関する悩みや不安を相談できる場所がある		民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである
	住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある		火災に対する消防体制が整っている
	救急の場合も安心して利用できる医療機関がある		災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる
	市民の健康づくりに対する取り組みが活発である		災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる
	仕事や地域活動などで女性も活動しやすい		自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている

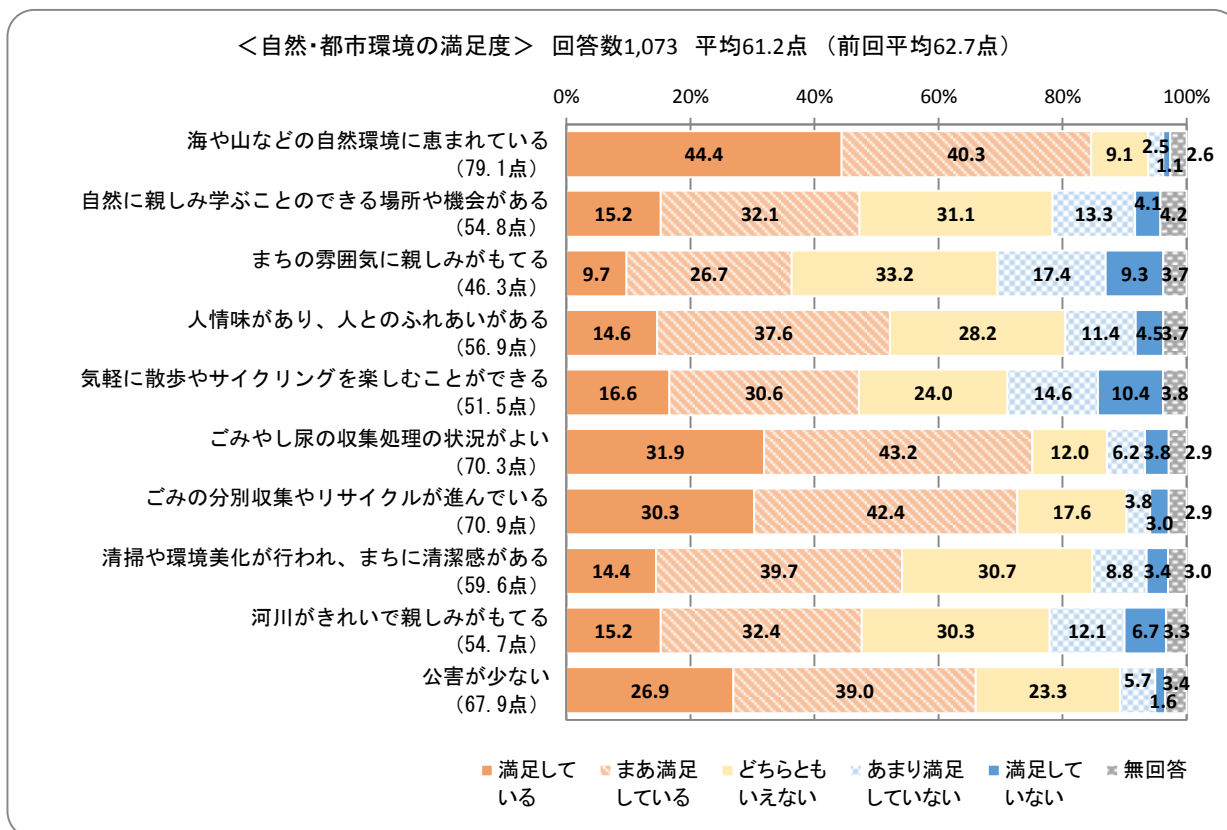
(1) 生活環境に対する満足度

問1 あなたは次のことがらについて、日頃の生活の中でどのように感じていますか。また、あなた自身の生活にとってどの程度必要なことですか。
あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の得点をみると、「海や山などの自然環境に恵まれている」が最も高く79.1点となっている。その他の項目で平均点(61.2点)を超えたものは、「ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる」(70.9点)、「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」(70.3点)、「公害が少ない」(67.9点)の3項目となった。また、「満足している」と回答された割合の最も高い項目は「海や山などの自然環境に恵まれている」の44.4%となったほか、「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」(31.9%)、「ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる」(30.3%)の順となっている。

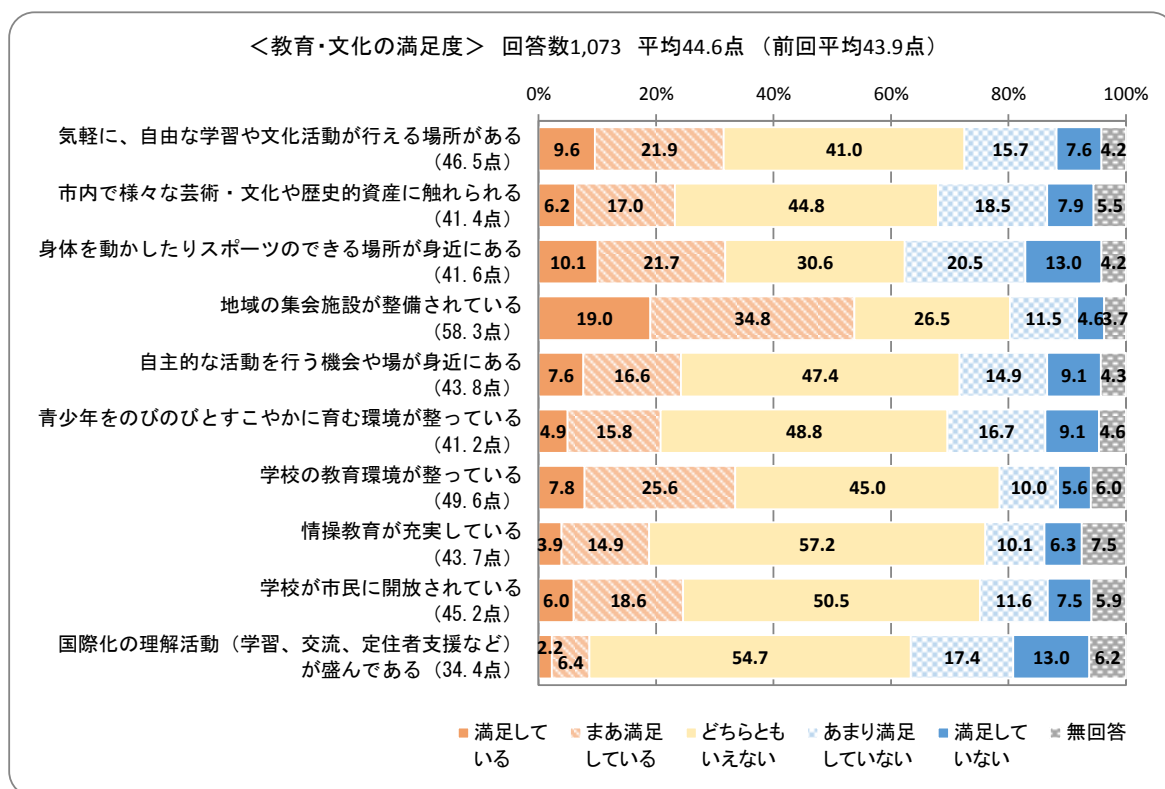
一方、「満足していない」と回答された割合の最も高い項目は「気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる」の10.4%となったほか、「まちの雰囲気親しみがもてる」(9.3%)、「河川がきれいで親しみがもてる」(6.7%)の順となっている。



■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の得点をみると、「地域の集会施設が整備されている」が最も高く58.3点となっている。その他の項目で平均点(44.6点)を超えたものは、「学校の教育環境が整っている」(49.6点)、「気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある」(46.5点)、「学校が市民に開放されている」(45.2点)の3項目となった。また、「満足している」と回答された割合の最も高い項目は「地域の集会施設が整備されている」の19.0%となったほか、「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」(10.1%)、「気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある」(9.6%)の順となっている。

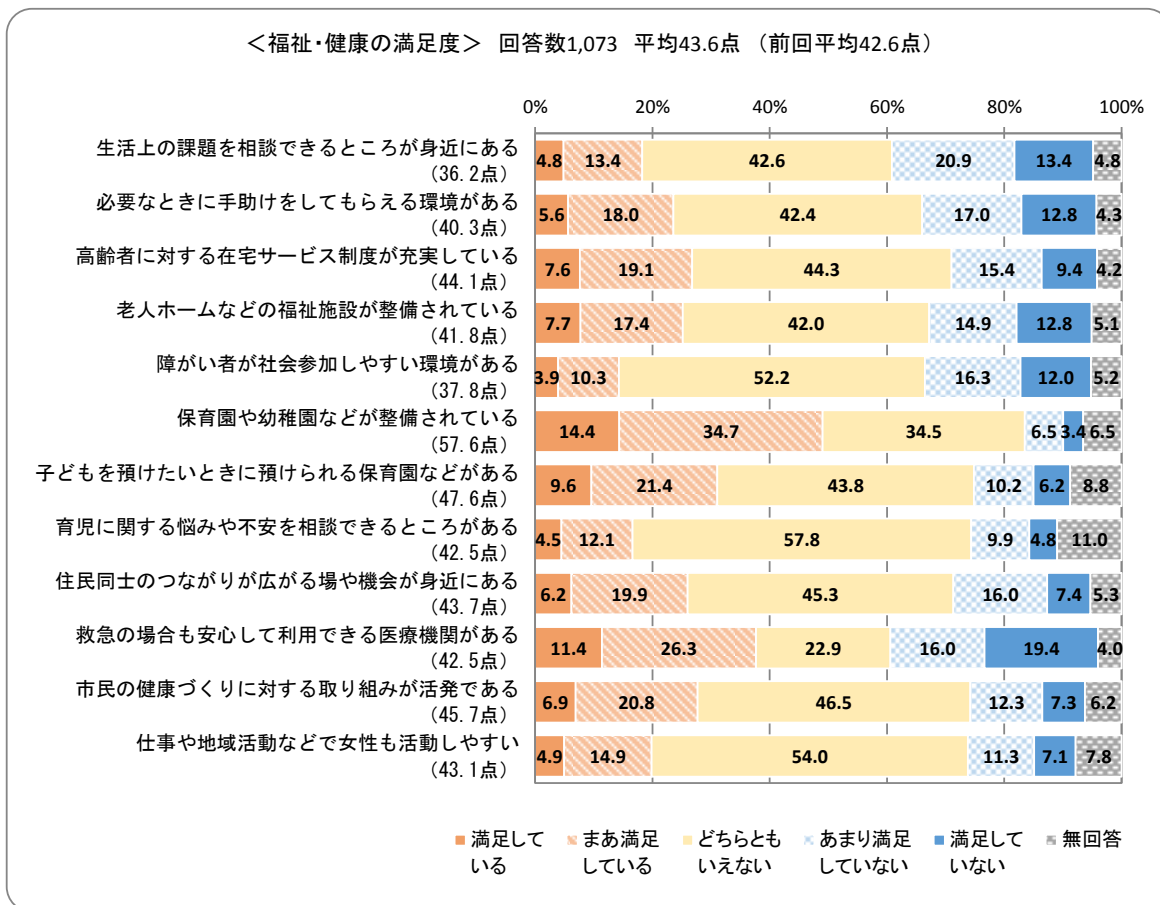
一方、「満足していない」と回答された割合の最も高い項目は同数で「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」と「国際化の理解活動(学習、交流、定住者支援など)が盛んである」の13.0%となったほか、同数で「自主的な活動を行う機会や場が身近にある」、「青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている」(9.1%)の順となっている。「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」については、「満足している」という回答も比較的多いが「満足していない」という回答も多い傾向にある。



■「福祉・健康」の満足度

福祉・健康における満足度の得点をみると、「保育園や幼稚園などが整備されている」が最も高く57.6点となっている。その他の項目で平均点(43.6点)を超えたものは、「子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある」(47.6点)、「市民の健康づくりに対する取り組みが活発である」(45.7点)、「高齢者に対する在宅サービス制度が充実している」(44.1点)、「住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある」(43.7点)の4項目となった。また、「満足している」と回答された割合の最も高い項目は「保育園や幼稚園などが整備されている」の14.4%となったほか、「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」(11.4%)、「子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある」(9.6%)の順となっている。

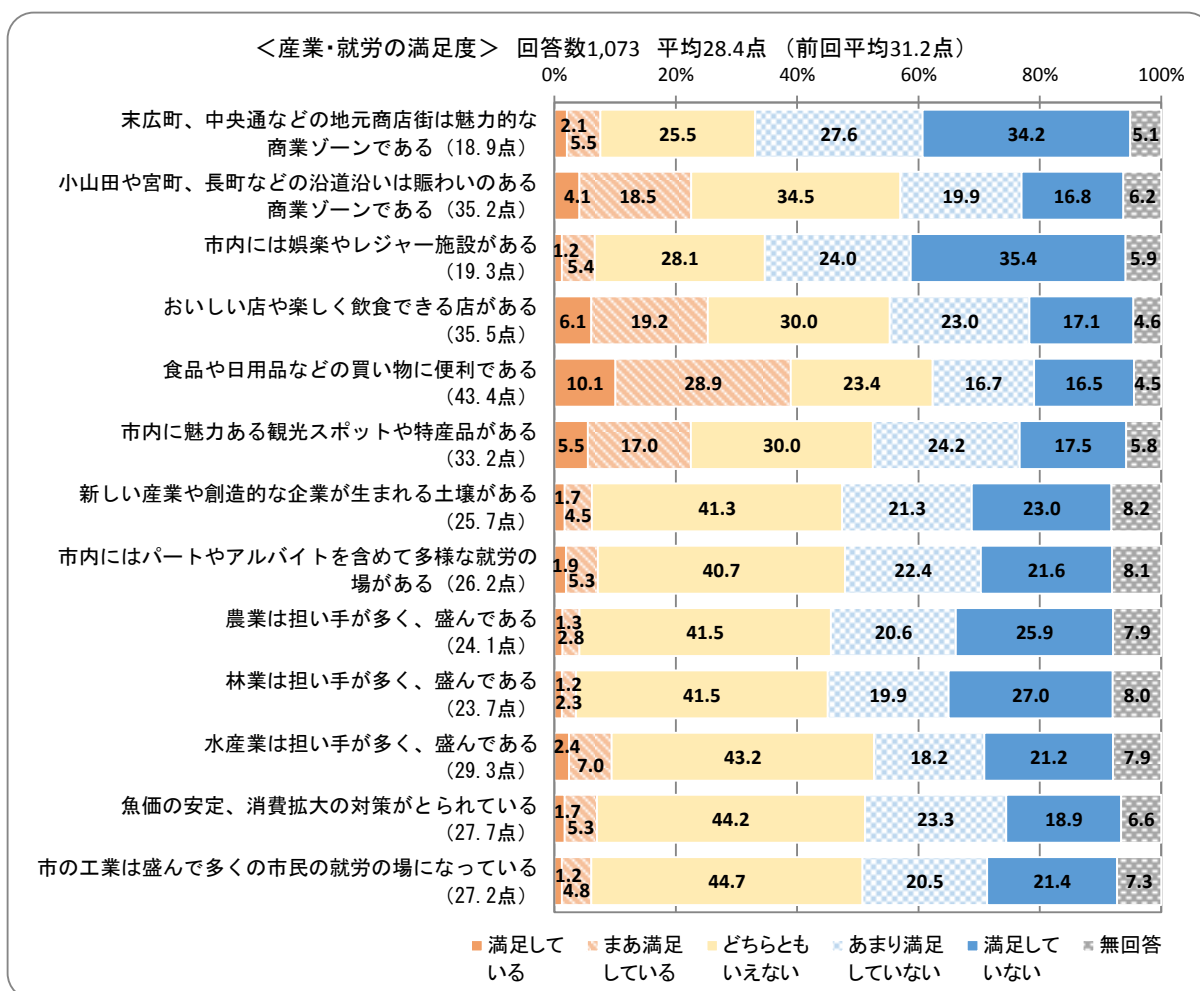
一方、「満足していない」と回答された割合の最も高い項目は「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」の19.4%となったほか、「生活上の課題を相談できるところが身近にある」(13.4%)、同数で「必要ときに手助けをしてもらえる環境がある」(12.8%)、「老人ホームなどの福祉施設が整備されている」(12.8%)の順となっている。「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」については、「満足している」という回答も比較的多いが「満足していない」という回答も多い傾向にある。



■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の得点をみると、「食品や日用品などの買い物に便利である」が最も高く43.4点となっている。その他の項目で平均点(28.4点)を超えたものは、「おいしい店や楽しく飲食できる店がある」(35.5点)、「小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである」(35.2点)、「市内に魅力ある観光スポットや特産品がある」(33.2点)、「水産業は担い手が多く、盛んである」(29.3点)の4項目となった。しかしながら、「満足している」と回答された割合をみると、最も高い項目である「食品や日用品などの買い物に便利である」の10.1%を除く全ての項目で6.1%を下回っている。

一方、「満足していない」と回答された割合の最も高い項目は「市内には娯楽やレジャー施設がある」の35.4%となったほか、「末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである」(34.2%)、「林業は担い手が多く、盛んである」(27.0%)の順となっている。5つの分野のうちで最も満足度の平均点が低いことから、市民が産業・就労の現状について不満に思っている状況が窺える。

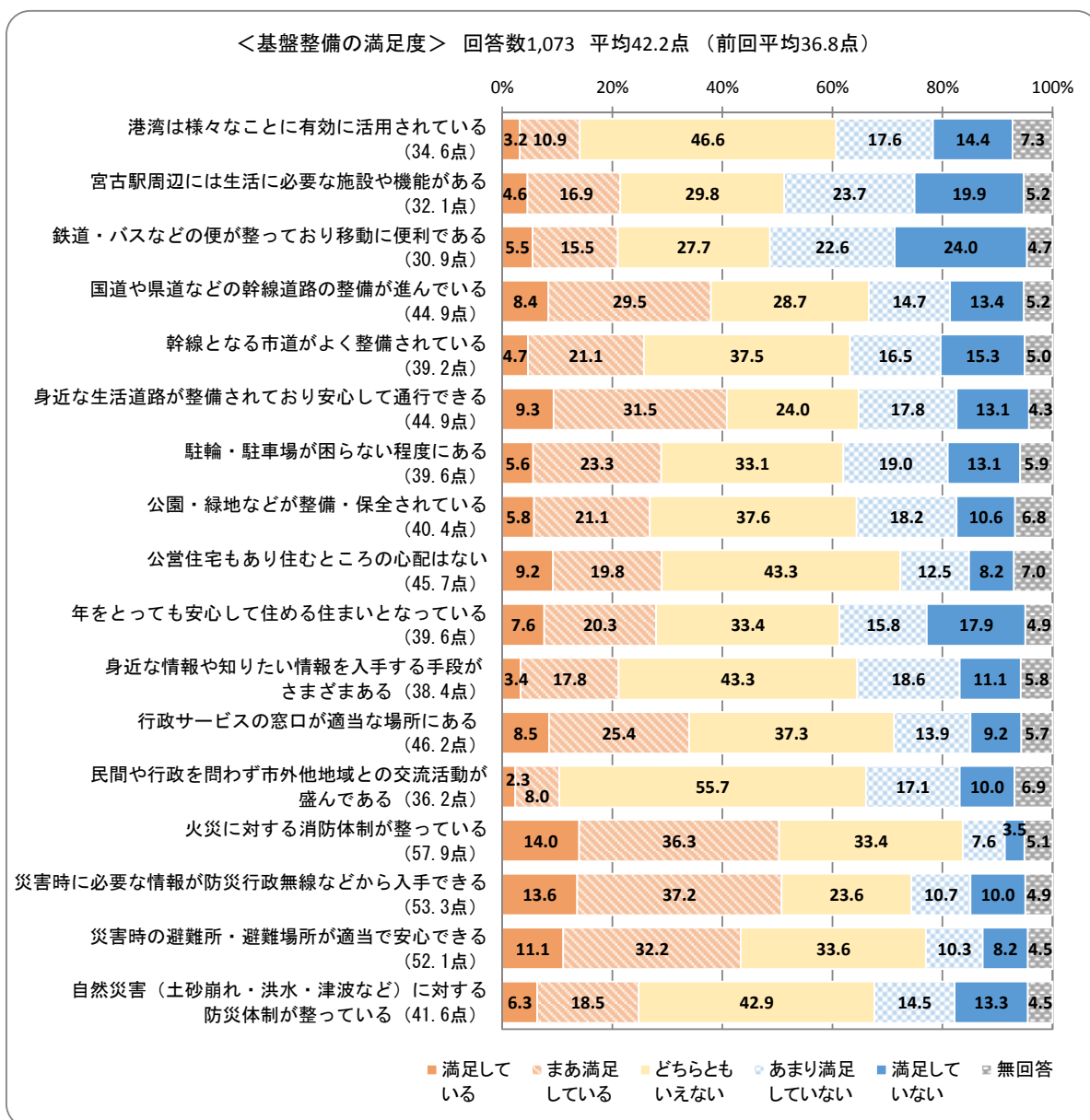


■「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の得点をみると、「火災に対する消防体制が整っている」が最も高く 57.9 点となっている。その他の項目で平均点 (42.2 点) を超えたものは、「災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる」(53.3 点)、「災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる」(52.1 点)、「行政サービスの窓口が適当な場所にある」(46.2 点)、「公営住宅もあり住むところの心配はない」(45.7 点)、同数で「国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる」、「身近な生活道路が整備されており安心して通行できる」(44.9 点)の6項目となった。また、「満足している」と回答された割合の最も高い項目は「火災に対する消防体制が整っている」の 14.0%となったほか、「災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる」(13.6%)、「災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる」(11.1%)の順となっている。

一方、「満足していない」と回答された割合の最も高い項目は「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」の 24.0%となったほか、「宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある」(19.9%)、「年をとっても安心して住める住まいとなっている」(17.9%)の順となっている。

災害に対する基盤整備については満足との回答が多いが、宮古駅周辺や公共の交通機関、道路整備に対しては不満とする回答が多い傾向にある。



(2) 年代別にみた生活環境に対する満足度

■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の得点を年代別にみると、「海や山などの自然環境に恵まれている」がこの分野では最も高い平均点（81.4点）となっている。その内訳は「10・20代」が86.8点で最高点、「70代以上」が76.2点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「まちの雰囲気に関心がある」（47.1点）は「10・20代」が50.9点で最高点、「60代」が43.5点で最低点となった。「10・20代」、「70代以上」に最高点が多く、「30代」に最低点が多かった。

「自然・都市環境」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
海や山などの自然環境に恵まれている	81.4	86.8	80.8	81.1	82.5	80.9	76.2
自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある	56.5	64.2	55.3	55.9	54.5	55.0	54.0
まちの雰囲気に親しみがある	47.1	50.9	48.7	44.5	47.4	43.5	47.3
人情味があり、人とのふれあいがある	55.8	55.2	50.8	54.8	58.0	55.0	60.7
気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる	50.6	55.7	46.5	43.2	52.4	50.5	55.3
ごみやし尿の収集処理の状況がよい	69.3	65.6	68.4	69.3	67.0	73.3	72.0
ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる	69.9	69.8	62.1	71.5	70.0	73.0	73.0
清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある	59.7	61.3	57.1	59.9	60.8	57.4	61.5
河川がきれいに関心がある	57.2	65.1	58.3	57.7	56.7	52.0	53.4
公害が少ない	68.7	71.2	70.2	64.7	68.3	70.7	67.3
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

※年代の無回答者を除いて集計したため、市の平均点（P.8～12）とは異なる。

最高点 最低点

■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の得点を年代別にみると、「地域の集会施設が整備されている」がこの分野では最も高い平均点（57.9点）となっている。その内訳は「70代以上」が60.6点で最高点、「50代」が53.8点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである」（35.3点）は「30代」が37.4点で最高点、「70代以上」が32.7点で最低点となった。「10・20代」、「60代」、「70代以上」に最高点が多く、「30代」に最低点が多かった。

「教育・文化」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある	46.9	50.5	45.2	47.6	45.5	44.3	48.5
市内で様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる	41.9	46.2	38.4	41.0	43.5	40.6	41.8
身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある	40.4	40.1	35.6	39.5	41.3	41.0	44.9
地域の集会施設が整備されている	57.9	59.4	56.6	57.9	53.8	59.3	60.6
自主的な活動を行う機会や場が身近にある	42.8	39.6	40.7	43.4	41.6	45.6	45.6
青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている	42.9	49.5	39.4	48.2	39.7	39.5	41.0
学校の教育環境が整っている	49.5	50.9	44.7	50.7	49.3	51.1	50.4
情操教育が充実している	44.7	44.8	44.7	46.7	42.8	46.9	42.0
学校が市民に開放されている	46.6	46.7	49.0	47.8	45.9	47.4	42.9
国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである	35.3	35.4	37.4	34.2	35.3	36.5	32.7
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

最高点 最低点

■「福祉・健康」の満足度

福祉・健康における満足度の得点を年代別にみると、「保育園や幼稚園などが整備されている」がこの分野では最も高い平均点（57.4点）となっている。その内訳は「40代」が60.3点で最高点、「10・20代」が55.2点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「生活上の課題を相談できるところが身近にある」（36.1点）は「10・20代」が39.2点で最高点、「50代」が33.9点で最低点となった。「10・20代」に最高点が多く、「50代」に最低点が多かった。

「福祉・健康」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
生活上の課題を相談できるところが身近にある	36.1	39.2	34.3	36.8	33.9	34.2	38.4
必要なときに手助けをしてもらえる環境がある	41.0	48.6	40.2	38.8	37.0	39.1	42.3
高齢者に対する在宅サービス制度が充実している	44.6	50.0	47.5	42.3	38.4	44.1	45.5
老人ホームなどの福祉施設が整備されている	43.7	54.2	46.5	43.0	35.1	40.7	42.4
障がい者が社会参加しやすい環境がある	39.6	48.1	42.9	37.7	35.6	36.0	37.4
保育園や幼稚園などが整備されている	57.4	55.2	55.8	60.3	56.0	58.8	58.5
子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある	47.8	43.9	49.0	49.3	47.9	50.5	46.2
育児に関する悩みや不安を相談できるところがある	44.9	49.5	48.0	45.2	45.9	41.6	39.4
住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある	43.5	46.2	39.6	41.7	44.2	43.8	45.4
救急の場合も安心して利用できる医療機関がある	38.3	35.4	31.8	33.8	33.6	43.3	51.6
市民の健康づくりに対する取り組みが活発である	45.2	46.7	42.4	44.5	43.7	44.6	49.0
仕事や地域活動などで女性も活動しやすい	44.9	49.5	46.7	45.2	44.0	41.3	42.7
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

最高点 最低点

■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の得点を年代別にみると、「食品や日用品などの買い物に便利である」がこの分野では最も高い平均点（43.3点）となっている。その内訳は「60代」が46.4点で最高点、「40代」が39.9点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「市内には娯楽やレジャー施設がある」（16.0点）は「70代以上」が24.2点で最高点、「30代」が8.6点で最低点となった。「10・20代」に最高点が多く、「30代」に最低点が多かった。

「産業・就労」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである	17.7	21.2	12.9	13.8	17.3	17.0	23.7
小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである	33.8	30.2	27.5	33.8	36.3	38.2	36.7
市内には娯楽やレジャー施設がある	16.0	13.2	8.6	9.4	20.4	20.3	24.2
おいしい店や楽しく飲食できる店がある	36.4	47.2	36.1	28.7	34.8	35.3	36.4
食品や日用品などの買い物に便利である	43.3	42.5	43.4	39.9	44.7	46.4	42.9
市内に魅力ある観光スポットや特産品がある	34.8	44.3	33.1	32.5	34.9	31.4	32.8
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌がある	25.1	27.8	21.5	24.1	24.3	25.0	28.0
市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある	27.4	36.8	25.3	25.7	24.1	26.0	26.6
農業は担い手が多く、盛んである	25.9	32.1	25.8	28.3	22.9	23.9	22.5
林業は担い手が多く、盛んである	26.4	34.4	28.0	29.4	22.8	22.8	20.8
水産業は担い手が多く、盛んである	32.6	46.2	34.3	34.6	26.2	27.7	26.8
魚価の安定、消費拡大の対策がとられている	30.1	35.8	33.3	33.1	28.3	24.1	26.0
市の工業は盛んで多くの市民の就労の場になっている	31.6	43.4	37.1	33.8	28.8	23.8	22.7
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

最高点 最低点

■「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の得点を年代別にみると、「火災に対する消防体制が整っている」がこの分野では最も高い平均点（58.9点）となっている。その内訳は「10・20代」が62.3点で最高点、「50代」が57.0点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」（28.5点）は「70代以上」が37.1点で最高点、「50代」が22.4点で最低点となった。「30代」と「70代以上」に最高点が多く、「50代」に最低点が多かった。

「基盤整備」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
港湾は様々なことに有効に活用されている	36.3	45.3	36.9	38.2	29.8	32.5	35.1
宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある	31.6	35.4	32.6	27.0	29.8	28.3	36.2
鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である	28.5	26.4	27.5	27.9	22.4	29.6	37.1
国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる	43.4	40.1	42.7	39.3	43.2	47.4	47.4
幹線となる市道がよく整備されている	39.0	39.6	41.7	37.1	34.6	39.9	41.2
身近な生活道路が整備されており安心して通行できる	43.3	43.4	41.9	39.7	40.1	45.7	49.2
駐輪・駐車場が困らない程度にある	40.0	37.3	44.7	37.9	40.1	40.6	39.4
公園・緑地などが整備・保全されている	40.9	45.8	40.2	39.7	39.0	39.4	41.3
公営住宅もあり住むところの心配はない	44.8	45.8	42.7	42.3	42.0	47.8	48.3
年をとっても安心して住める住まいとなっている	37.4	36.3	36.9	36.8	29.5	38.7	45.9
身近な情報や知りたい情報を入手する手段がさまざまである	38.1	32.5	40.4	38.8	39.6	39.1	38.4
行政サービスの窓口が適当な場所にある	47.3	50.0	52.8	45.4	42.3	47.3	46.1
民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである	36.2	33.5	37.9	36.8	36.6	35.5	37.0
火災に対する消防体制が整っている	58.9	62.3	58.1	59.0	57.0	59.5	57.6
災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる	53.4	52.8	55.3	51.1	51.9	56.0	53.4
災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる	53.8	54.7	56.6	55.0	52.7	53.8	49.8
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている	43.0	42.0	46.0	46.1	42.0	41.8	40.2
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410
						最高点	最低点

(3) 地区別にみた生活環境に対する満足度

■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の得点を地区別にみると、「海や山などの自然環境に恵まれている」がこの分野では最も高い平均点（76.6点）となっている。その内訳は「田老地区」が82.0点で最高点、「新里地区」が69.8点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「まちの雰囲気に親しみがもてる」（45.8点）は「宮古地区」が46.7点で最高点、「田老地区」が45.3点で最低点となった。「宮古地区」に最高点が多く、「川井地区」に最低点が多かった。

「自然・都市環境」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
海や山などの自然環境に恵まれている	76.6	80.6	82.0	69.8	73.8
自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある	53.0	56.0	50.9	53.7	51.3
まちの雰囲気に親しみがもてる	45.8	46.7	45.3	45.9	45.4
人情味があり、人とのふれあいがある	57.7	57.0	56.6	61.2	55.8
気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる	52.1	51.9	50.3	50.7	55.4
ごみや尿の収集処理の状況がよい	67.5	71.9	69.9	64.9	63.3
ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる	69.5	71.9	71.5	66.8	67.9
清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある	58.1	60.6	60.8	56.3	54.6
河川がきれいで親しみがもてる	55.1	55.1	56.3	58.6	50.4
公害が少ない	67.7	68.5	69.9	67.9	64.6
回答数	1,050	844	79	67	60

※居住地区の無回答者を除いて集計したため、市の平均点（P.8～12）とは異なる。

最高点 最低点

■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の得点を地区別にみると、「地域の集会施設が整備されている」がこの分野では最も高い平均点（59.3点）となっている。その内訳は「川井地区」が62.9点で最高点、「田老地区」が56.0点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである」（33.7点）は「新里地区」が36.2点で最高点、「田老地区」が32.0点で最低点となった。「宮古地区」に最高点が多く、「田老地区」に最低点が多かった。

「教育・文化」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある	42.2	48.9	36.7	45.1	37.9
市内で様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる	40.7	42.0	36.4	42.5	41.7
身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある	40.4	42.4	33.2	45.9	40.0
地域の集会施設が整備されている	59.3	58.6	56.0	59.7	62.9
自主的な活動を行う機会や場が身近にある	42.3	44.7	40.2	41.8	42.5
青少年をのびのびとすやかに育む環境が整っている	38.8	42.6	38.9	37.3	36.3
学校の教育環境が整っている	46.7	51.1	45.9	49.3	40.4
情操教育が充実している	40.9	45.2	42.1	39.2	37.1
学校が市民に開放されている	44.2	46.1	40.2	50.4	40.0
国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである	33.7	34.7	32.0	36.2	32.1
回答数	1,050	844	79	67	60

最高点 最低点

■「福祉・健康」の満足度

福祉・健康における満足度の得点を地区別にみると、「保育園や幼稚園などが整備されている」がこの分野では最も高い平均点（56.0点）となっている。その内訳は「田老地区」が61.4点で最高点、「新里地区」が48.9点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「生活上の課題を相談できるところが身近にある」（35.8点）は「川井地区」が39.2点で最高点、「新里地区」が32.8点で最低点となった。「川井地区」に最高点が多く、「宮古地区」、「新里地区」に最低点が多かった。

「福祉・健康」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
生活上の課題を相談できるところが身近にある	35.8	36.6	34.5	32.8	39.2
必要なときに手助けをしてもらえる環境がある	41.9	39.9	43.0	41.0	43.8
高齢者に対する在宅サービス制度が充実している	45.3	44.0	43.4	42.9	50.8
老人ホームなどの福祉施設が整備されている	46.8	40.5	44.3	50.4	52.1
障がい者が社会参加しやすい環境がある	36.1	38.8	32.3	35.8	37.5
保育園や幼稚園などが整備されている	56.0	58.8	61.4	48.9	55.0
子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある	46.1	48.7	51.3	43.7	40.8
育児に関する悩みや不安を相談できるところがある	40.3	43.5	40.5	39.9	37.1
住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある	45.5	43.4	46.8	44.4	47.5
救急の場合も安心して利用できる医療機関がある	44.3	42.4	47.2	36.9	50.8
市民の健康づくりに対する取り組みが活発である	47.7	45.4	47.5	47.4	50.4
仕事や地域活動などで女性も活動しやすい	42.8	43.9	40.5	44.0	42.9
回答数	1,050	844	79	67	60
				最高点	最低点

■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の得点を地区別にみると、「食品や日用品などの買い物に便利である」がこの分野では最も高い平均点（38.4点）となっている。その内訳は「宮古地区」が45.7点で最高点、「川井地区」が32.5点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「林業は担い手が多く、盛んである」（20.5点）は「宮古地区」が25.0点で最高点、「田老地区」が18.4点で最低点となった。「宮古地区」に最高点が多く、「川井地区」に最低点が多かった。

「産業・就労」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである	22.0	18.0	25.0	20.1	25.0
小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである	34.5	35.9	40.2	32.8	29.2
市内には娯楽やレジャー施設がある	22.6	18.0	27.5	22.0	22.9
おいしい店や楽しく飲食できる店がある	34.9	36.0	34.8	34.7	34.2
食品や日用品などの買い物に便利である	38.4	45.7	38.6	36.9	32.5
市内に魅力ある観光スポットや特産品がある	34.3	32.9	39.2	33.2	31.7
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌がある	27.0	25.3	27.8	26.5	28.3
市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある	24.1	27.4	24.4	25.0	19.6
農業は担い手が多く、盛んである	20.7	25.5	20.3	17.5	19.6
林業は担い手が多く、盛んである	20.5	25.0	18.4	19.0	19.6
水産業は担い手が多く、盛んである	25.6	31.0	21.8	23.1	26.3
魚価の安定、消費拡大の対策がとられている	27.9	27.9	27.2	30.6	25.8
市の工業は盛んで多くの市民の就労の場になっている	25.2	28.3	23.1	25.4	23.8
回答数	1,050	844	79	67	60
				最高点	最低点

■「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の得点を地区別にみると、「火災に対する消防体制が整っている」がこの分野では最も高い平均点（57.0点）となっている。その内訳は「田老地区」が59.5点で最高点、「川井地区」が51.3点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」（30.6点）は「川井地区」が39.2点で最高点、「新里地区」が22.8点で最低点となった。「田老地区」に最高点が多く、「新里地区」、「川井地区」に最低点が多かった。

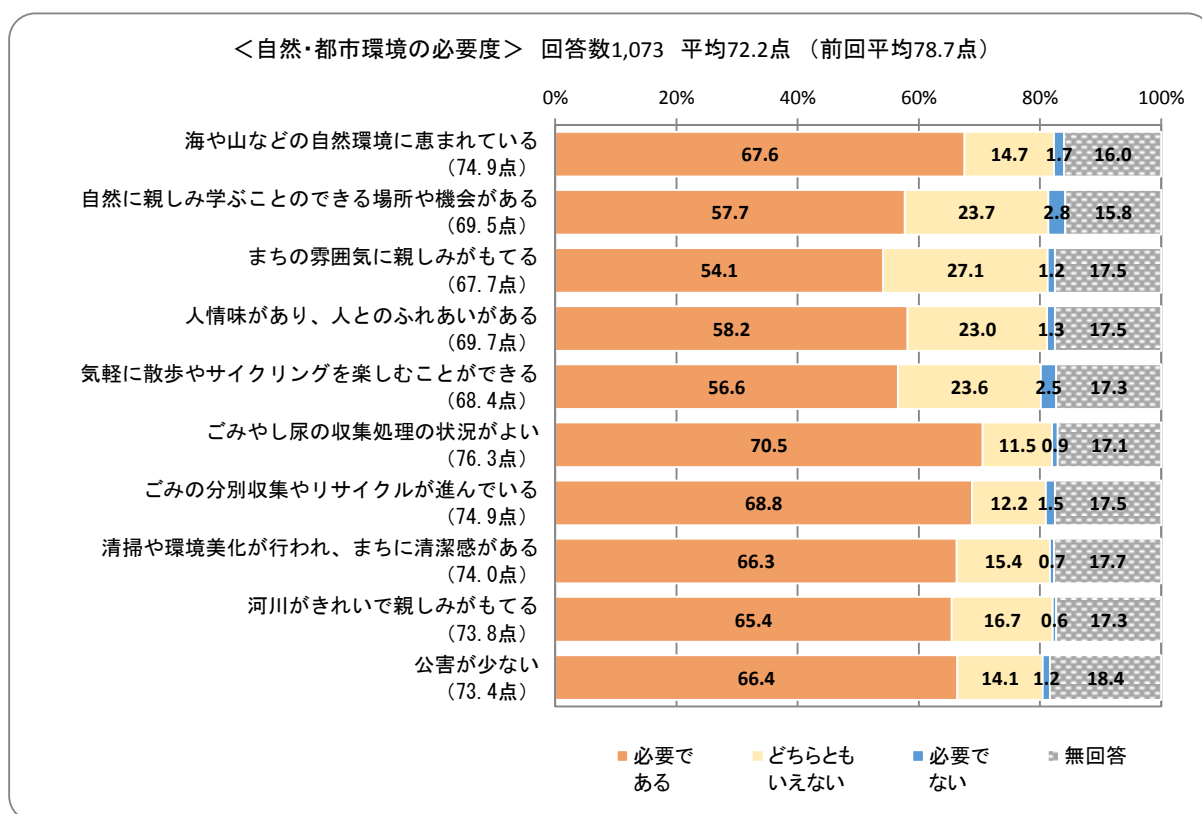
「基盤整備」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
港湾は様々なことに有効に活用されている	34.0	35.5	35.1	28.7	36.7
宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある	33.5	31.9	34.8	26.9	40.4
鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である	30.6	31.4	28.8	22.8	39.2
国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる	42.8	46.4	47.5	35.8	41.3
幹線となる市道がよく整備されている	36.3	40.7	38.9	33.2	32.5
身近な生活道路が整備されており安心して通行できる	41.0	46.9	44.9	34.7	37.5
駐輪・駐車場が困らない程度にある	39.3	40.0	44.9	38.4	33.8
公園・緑地などが整備・保全されている	39.0	41.3	42.4	39.2	32.9
公営住宅もあり住むところの心配はない	44.7	46.5	52.8	41.0	38.3
年をとっても安心して住める住まいとなっている	38.9	39.8	45.9	39.2	30.8
身近な情報や知りたい情報を入手する手段がさまざまある	38.0	39.0	38.9	43.3	30.8
行政サービスの窓口が適当な場所にある	45.4	47.0	48.4	46.6	39.6
民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである	37.3	36.2	41.1	36.2	35.8
火災に対する消防体制が整っている	57.0	58.7	59.5	58.6	51.3
災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる	55.3	53.3	59.8	52.6	55.4
災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる	49.9	53.4	57.9	43.3	45.0
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている	38.8	43.3	44.3	31.0	36.7
回答数	1,050	844	79	67	60
				最高点	最低点

(4) 生活環境に対する必要度

■「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の得点をみると、「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」が最も高く76.3点となっている。その他の項目で平均点(72.2点)を超えたものは、同数で「海や山などの自然環境に恵まれている」、「ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる」(74.9点)、「清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある」(74.0点)、「河川がきれいで親しみがもてる」(73.8点)、「公害が少ない」(73.4点)の5項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」の70.5%となったほか、「ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる」(68.8%)、「海や山などの自然環境に恵まれている」(67.6%)の順となっている。

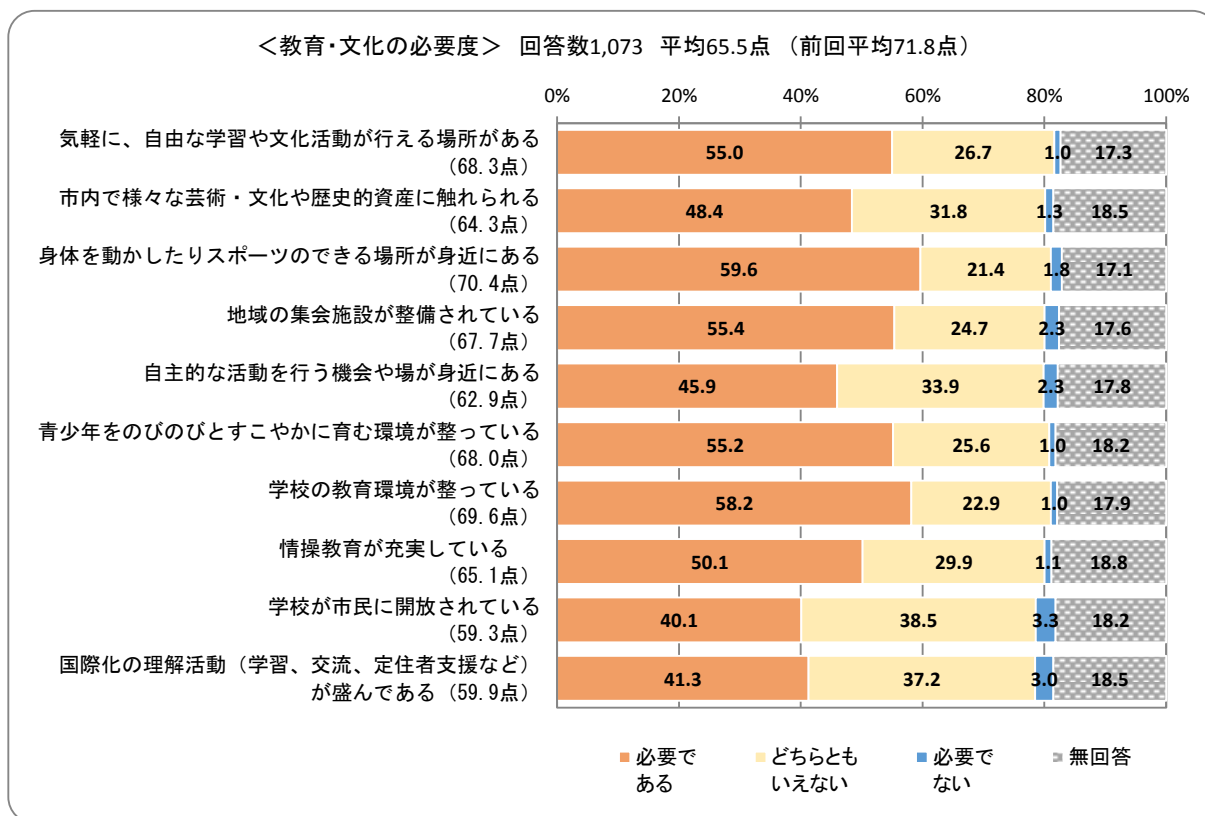
一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は、「自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある」となったが、2.8%と値は低い。自然や都市環境に関する満足度は高い傾向にあったが、市民の意向として今後も重要な施策であると思われる。



■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の得点をみると、「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」が最も高く70.4点となっている。その他の項目で平均点(66.5点)を超えたものは、「学校の教育環境が整っている」(69.6点)、「気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある」(68.3点)、「青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている」(68.0点)、「地域の集会施設が整備されている」(67.7点)の4項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」の59.6%となったほか、「学校の教育環境が整っている」(58.2%)、「地域の集会施設が整備されている」(55.4%)の順となっている。

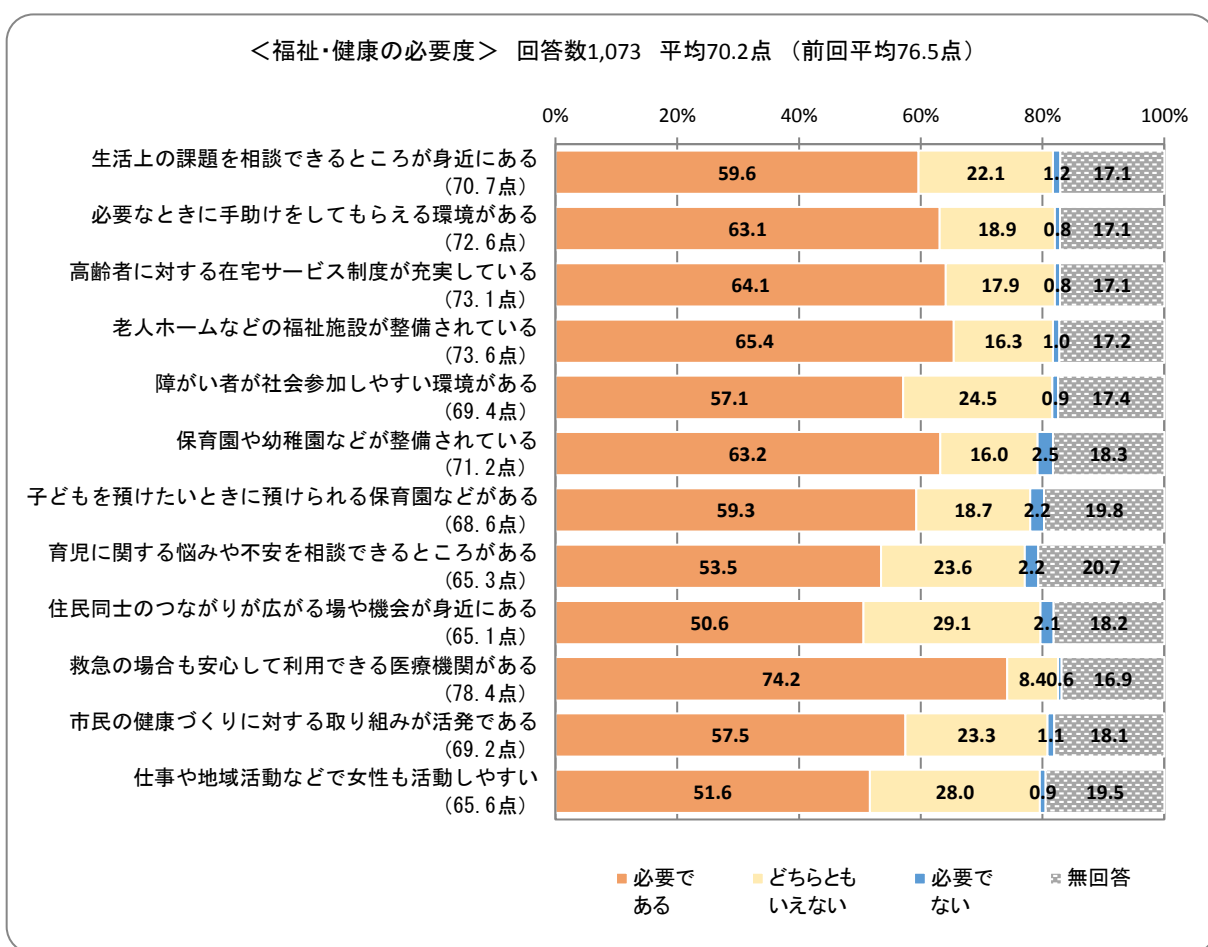
一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は「学校が市民に開放されている」となったが、3.3%と値は低い。項目によっては「どちらともいえない」との回答が多く、回答者個々人の考え方の違いが窺える。



■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の得点をみると、「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」が最も高く78.4点となっている。その他の項目で平均点(70.2点)を超えたものは、「老人ホームなどの福祉施設が整備されている」(73.6点)、「高齢者に対する在宅サービス制度が充実している」(73.1点)、「必要なときに手助けをしてもらえる環境がある」(72.6点)、「保育園や幼稚園などが整備されている」(71.2点)、「生活上の課題を相談できるところが身近にある」(70.7点)の5項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」の74.2%となったほか、「老人ホームなどの福祉施設が整備されている」(65.4%)、「高齢者に対する在宅サービス制度が充実している」(64.1%)の順となっている。

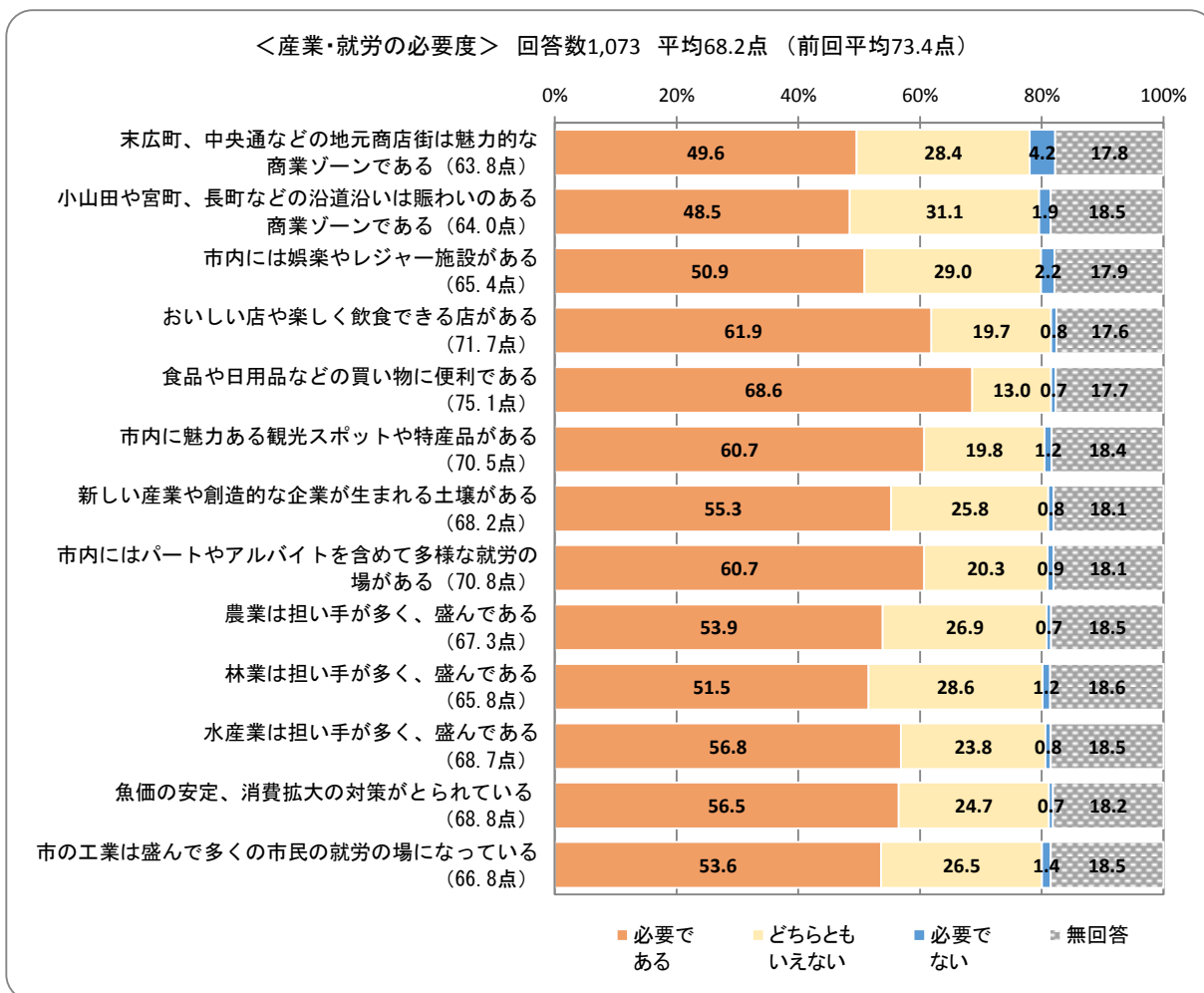
一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は「保育園や幼稚園などが整備されている」となったが、2.5%と値は低い。救急医療機関の整備や、高齢者に係わる福祉の充実を望む声が多い。



■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の得点をみると、「食品や日用品などの買い物に便利である」が最も高く75.1点となっている。その他の項目で平均点(68.2点)を超えたものは、「おいしい店や楽しく飲食できる店がある」(71.7点)、「市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある」(70.8点)、「市内に魅力ある観光スポットや特産品がある」(70.5点)、「魚価の安定、消費拡大の対策がとられている」(68.8点)、「水産業は担い手が多く、盛んである」(68.7点)の5項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「食品や日用品などの買い物に便利である」の68.6%となったほか、「おいしい店や楽しく飲食できる店がある」(61.9%)、同数で「市内に魅力ある観光スポットや特産品がある」、「市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある」(60.7%)の順となっている。

一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は「末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである」となったが、5.0%にも満たない4.2%となっている。満足度、必要度ともに「食品や日用品などの買い物に便利である」が最も高い得点となっており、これまで以上の充実が期待されていることがわかる。

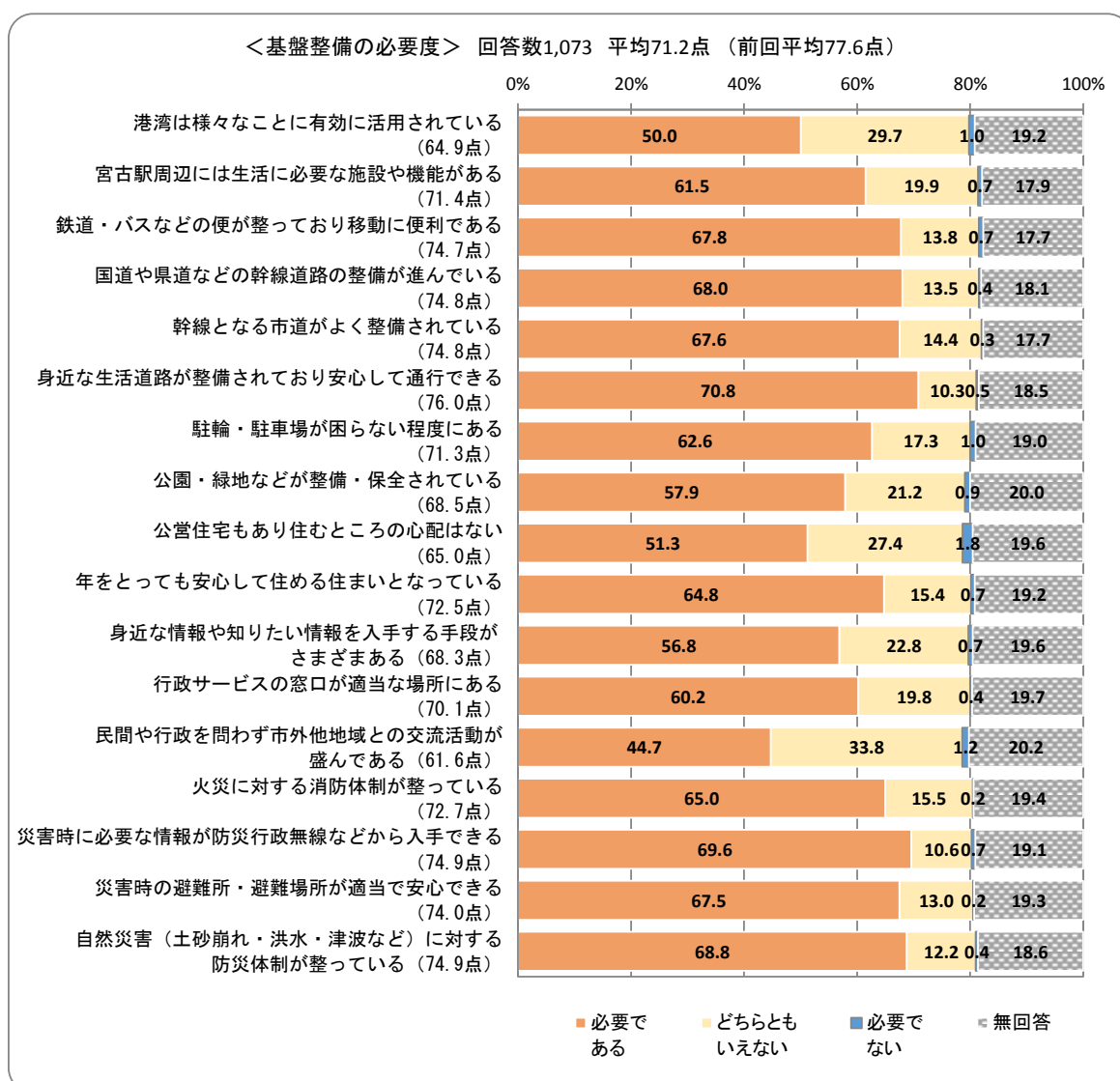


■「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の得点をみると、「身近な生活道路が整備されており安心して通行できる」が最も高く76.0点となっている。その他の項目で平均点(71.2点)を超えたものは、同数で「災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる」、「自然災害(土砂崩れ・洪水・津波など)に対する防災体制が整っている」(74.9点)、同数で「国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる」、「幹線となる市道がよく整備されている災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる」(74.8点)、「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」(74.7点)、「災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる」(74.0点)、「火災に対する消防体制が整っている」(72.7点)、「年をとっても安心して住める住まいとなっている」(72.5点)、「宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある」(71.4点)、「駐輪・駐車場が困らない程度にある」(71.3点)の10項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「身近な生活道路が整備されており安心して通行できる」の70.8%となったほか、「災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる」(69.6%)「自然災害(土砂崩れ・洪水・津波など)に対する防災体制が整っている」(68.8%)の順となっている。

一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は「公営住宅もあり住むところの心配はない」となったが、1.8%と値は低い。

全体的に前回調査に比べて低くなっており、フェリー航路の開設やクルーズ船の寄港、復興道路・復興支援道路の整備が進んでいることが影響していると考えられる。



(5) 年代別にみた生活環境に対する必要度

■「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の得点を年代別にみると、「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」がこの分野では最も高い平均点(81.8点)となっている。その内訳は「30代」が90.4点で最高点、「70代以上」が66.2点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる」(74.5点)は「30代」が86.4点で最高点、「70代以上」が56.6点で最低点となった。全ての項目で「30代」が最高点、「70代以上」が最低点となった。

「自然・都市環境」の必要度 (年代別)	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
海や山などの自然環境に恵まれている	80.1	81.1	86.4	86.0	82.5	79.9	64.5
自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある	76.2	82.1	87.9	79.8	77.7	72.0	57.7
まちの雰囲気に親しみもてる	74.6	81.1	83.8	80.7	76.4	70.7	55.0
人情味があり、人とのふれあいがある	75.3	77.4	84.8	79.8	78.8	70.9	60.0
気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる	74.5	77.4	86.4	77.2	76.4	72.9	56.6
ごみやし尿の収集処理の状況がよい	81.8	84.9	90.4	86.4	83.2	79.7	66.2
ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる	80.4	84.0	85.9	85.5	82.2	80.1	64.4
清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある	81.1	85.8	90.9	86.4	83.9	78.4	60.9
河川がきれいで親しみもてる	79.9	82.1	90.4	84.2	82.2	78.8	61.7
公害が少ない	80.8	86.8	91.4	86.0	83.9	77.8	59.1
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

※年代の無回答者を除いて集計したため、市の平均点(P.8~12)とは異なる。

最高点 最低点

■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の得点を年代別にみると、「学校の教育環境が整っている」がこの分野では最も高い平均点(76.6点)となっている。その内訳は「30代」が89.4点で最高点、「70代以上」が56.1点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「学校が市民に開放されている」(63.8点)は「30代」が73.2点で最高点、「70代以上」が48.3点で最低点となった。「30代」に最高点が多く、全ての項目で「70代以上」が最低点となった。

「教育・文化」の必要度 (年代別)	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある	74.2	77.4	84.8	75.4	78.1	72.6	56.8
市内で様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる	69.6	67.9	79.8	71.1	76.4	69.7	52.4
身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある	76.6	79.2	87.9	80.7	78.8	73.9	58.9
地域の集会施設が整備されている	71.1	67.0	77.8	71.9	75.7	75.0	59.0
自主的な活動を行う機会や場が身近にある	67.6	70.8	74.7	66.7	70.9	68.8	53.4
青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている	74.8	80.2	85.9	75.0	77.4	75.4	54.6
学校の教育環境が整っている	76.6	81.1	89.4	78.5	78.1	76.1	56.1
情操教育が充実している	71.5	75.5	83.3	72.8	73.6	72.0	52.0
学校が市民に開放されている	63.8	62.3	73.2	63.6	68.2	67.1	48.3
国際化の理解活動(学習、交流、定住者支援など)が盛んである	66.0	75.5	69.7	68.9	68.2	64.7	48.7
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

最高点 最低点

■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の得点を年代別にみると、「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」がこの分野では最も高い平均点（85.8点）となっている。その内訳は「30代」が98.0点で最高点、「70代以上」が64.6点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある」（69.5点）は「30代」が79.8点で最高点、「70代以上」が55.9点で最低点となった。全ての項目で「30代」が最高点、「70代以上」が最低点となった。

「福祉・健康」の必要度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
生活上の課題を相談できるところが身近にある	76.9	82.1	84.3	80.7	81.2	73.9	59.1
必要なときに手助けをしてもらえる環境がある	78.8	84.9	86.9	80.3	83.2	76.1	61.2
高齢者に対する在宅サービス制度が充実している	77.9	76.4	86.9	82.0	81.8	77.8	62.6
老人ホームなどの福祉施設が整備されている	78.3	78.3	84.8	83.3	80.8	78.6	64.0
障がい者が社会参加しやすい環境がある	75.1	77.4	82.3	80.7	77.4	75.4	57.6
保育園や幼稚園などが整備されている	78.2	84.9	87.9	80.7	79.1	78.6	57.7
子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある	75.9	82.1	89.4	78.9	75.0	75.0	55.2
育児に関する悩みや不安を相談できるところがある	73.0	80.2	86.9	75.9	72.9	71.6	50.6
住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある	69.5	68.9	79.8	68.4	74.0	69.9	55.9
救急の場合も安心して利用できる医療機関がある	85.8	91.5	98.0	90.4	85.6	84.4	64.6
市民の健康づくりに対する取り組みが活発である	74.5	72.6	82.8	80.3	78.1	76.5	56.7
仕事や地域活動などで女性も活動しやすい	74.2	83.0	87.9	78.9	73.6	72.4	49.1
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410
						最高点	最低点

■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の得点を年代別にみると、「食品や日用品などの買い物に便利である」がこの分野では最も高い平均点（82.3点）となっている。その内訳は「30代」が92.4点で最高点、「70代以上」が61.5点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである」（69.3点）は「30代」が78.3点で最高点、「70代以上」が54.3点で最低点となった。全ての項目で「30代」が最高点、「70代以上」が最低点となった。

「産業・就労」の必要度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである	69.3	76.4	78.3	68.9	71.6	66.5	54.3
小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである	71.9	79.2	83.8	77.6	74.3	66.2	50.2
市内には娯楽やレジャー施設がある	74.2	80.2	91.4	84.2	71.2	67.5	50.4
おいしい店や楽しく飲食できる店がある	79.9	87.7	91.9	86.4	79.5	76.3	57.3
食品や日用品などの買い物に便利である	82.3	88.7	92.4	88.6	82.2	80.6	61.5
市内に魅力ある観光スポットや特産品がある	78.9	86.8	90.9	85.5	77.7	78.4	54.3
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌がある	74.7	75.5	85.4	81.1	77.7	74.1	54.6
市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある	78.6	83.0	92.9	84.6	78.8	76.1	56.1
農業は担い手が多く、盛んである	74.2	81.1	85.9	75.9	73.3	75.2	53.8
林業は担い手が多く、盛んである	72.5	79.2	83.8	74.1	71.6	73.5	53.0
水産業は担い手が多く、盛んである	75.7	84.0	86.4	78.1	75.7	73.5	56.2
魚価の安定、消費拡大の対策がとられている	75.4	82.1	84.8	78.9	76.4	73.7	56.7
市の工業は盛んで多くの市民の就労の場になっている	72.8	74.5	82.8	76.8	75.7	72.6	54.5
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410
						最高点	最低点

■「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の得点を年代別にみると、「身近な生活道路が整備されており安心して通行できる」がこの分野では最も高い平均点（83.6点）となっている。その内訳は「30代」が96.0点で最高点、「70代以上」が61.5点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「港湾は様々なことに有効に活用されている」（65.5点）は「30代」が81.8点で最高点、「10・20代」が40.4点で最低点となった。「30代」に最高点が多く、全ての項目で「70代以上」が最低点となったほか、全ての項目で最高点と最低点の差が30点近くあり、年代により必要と感じる基盤整備にばらつきがあることが窺える。

「基盤整備」の必要度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
港湾は様々なことに有効に活用されている	65.5	40.4	81.3	75.9	71.2	71.8	52.1
宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある	78.2	84.9	86.9	82.9	79.5	75.9	59.0
鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である	81.3	87.7	90.4	83.8	82.5	81.2	62.0
国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる	82.5	90.6	92.9	86.4	83.6	81.0	60.4
幹線となる市道がよく整備されている	82.6	90.6	91.9	88.2	83.9	80.1	60.6
身近な生活道路が整備されており安心して通行できる	83.6	88.7	96.0	89.9	82.5	82.7	61.5
駐輪・駐車場が困らない程度にある	79.0	84.0	91.4	86.8	77.7	77.6	56.6
公園・緑地などが整備・保全されている	75.8	83.0	89.9	81.1	69.9	76.5	54.5
公営住宅もあり住むところの心配はない	72.8	84.9	79.8	81.1	69.5	70.1	51.3
年をとっても安心して住める住まいとなっている	79.3	83.0	90.4	86.8	78.4	77.4	59.8
身近な情報や知りたい情報を入手する手段がさまざまある	75.5	80.2	85.9	82.9	74.3	75.6	54.1
行政サービスの窓口が適当な場所にある	76.8	84.0	87.4	80.3	75.3	75.9	58.0
民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである	68.0	73.6	77.8	74.1	65.1	66.7	50.4
火災に対する消防体制が整っている	79.0	82.1	89.9	82.9	80.5	78.6	60.1
災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる	81.2	82.1	92.4	85.5	83.6	81.4	62.3
災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる	80.8	84.0	92.9	87.3	79.5	79.3	61.6
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている	82.1	87.7	94.4	89.0	79.8	79.5	62.3
回答数	1,056	53	99	114	146	234	410

最高点 最低点

(6) 地区別にみた生活環境に対する必要度

■ 「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の得点を地区別にみると、「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」がこの分野では最も高い平均点（72.5点）となっている。その内訳は「宮古地区」が78.4点で最高点、「田老地区」が67.1点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「まちの雰囲気に親しみがもてる」（62.4点）は「宮古地区」が70.1点で最高点、「田老地区」が56.3点で最低点となった。全ての項目で「宮古地区」が最高点、「田老地区」に最低点が多かった。

「自然・都市環境」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
海や山などの自然環境に恵まれている	70.5	77.1	69.0	70.1	65.8
自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある	65.5	71.5	59.5	70.1	60.8
まちの雰囲気に親しみがもてる	62.4	70.1	56.3	64.9	58.3
人情味があり、人とのふれあいがある	66.5	71.6	63.3	69.4	61.7
気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる	64.5	70.6	57.0	69.4	60.8
ごみやし尿の収集処理の状況がよい	72.5	78.4	67.1	74.6	70.0
ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる	72.3	76.8	68.4	73.9	70.0
清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある	69.0	76.7	62.0	71.6	65.8
河川がきれいである	69.4	76.1	63.9	72.4	65.0
公害が少ない	69.3	75.7	64.6	69.4	67.5
回答数	1,050	844	79	67	60

※居住地区の無回答者を除いて集計したため、市の平均点（P.8～12）とは異なる。 最高点 最低点

■ 「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の得点を地区別にみると、「地域の集会施設が整備されている」がこの分野では最も高い平均点（67.0点）となっている。その内訳は「宮古地区」が68.9点で最高点、「田老地区」が64.6点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである」（55.5点）は「宮古地区」が62.3点で最高点、「田老地区」が47.5点で最低点となった。「宮古地区」に最高点が多く、「田老地区」に最低点が多かった。

「教育・文化」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある	63.8	71.0	55.7	64.2	64.2
市内で様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる	58.6	67.1	51.9	61.2	54.2
身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある	66.1	73.0	59.5	68.7	63.3
地域の集会施設が整備されている	67.0	68.9	64.6	68.7	65.8
自主的な活動を行う機会や場が身近にある	62.2	64.0	58.9	64.9	60.8
青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている	63.0	70.9	57.0	66.4	57.5
学校の教育環境が整っている	63.0	73.0	57.6	66.4	55.0
情操教育が充実している	59.2	68.1	55.1	61.9	51.7
学校が市民に開放されている	57.0	61.0	48.7	63.4	55.0
国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである	55.5	62.3	47.5	60.4	51.7
回答数	1,050	844	79	67	60

 最高点 最低点

■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の得点を地区別にみると、「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」がこの分野では最も高い平均点（74.2点）となっている。その内訳は「宮古地区」が80.8点で最高点、「川井地区」が69.2点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「仕事や地域活動などで女性も活動しやすい」（59.6点）は「宮古地区」が68.5点で最高点、「田老地区」が53.8点で最低点となった。「宮古地区」に最高点が多く、「田老地区」、「川井地区」に最低点が多かった。

「福祉・健康」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
生活上の課題を相談できるところが身近にある	67.0	73.0	55.7	71.6	67.5
必要なときに手助けをもらえる環境がある	68.6	75.0	56.3	74.6	68.3
高齢者に対する在宅サービス制度が充実している	69.6	75.1	63.9	69.4	70.0
老人ホームなどの福祉施設が整備されている	70.9	75.6	67.1	71.6	69.2
障がい者が社会参加しやすい環境がある	66.2	71.6	61.4	70.9	60.8
保育園や幼稚園などが整備されている	65.6	74.1	61.4	69.4	57.5
子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある	62.0	72.1	54.4	65.7	55.8
育児に関する悩みや不安を相談できるところがある	59.9	68.1	53.2	65.7	52.5
住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある	63.3	66.6	59.5	67.9	59.2
救急の場合も安心して利用できる医療機関がある	74.2	80.8	71.5	75.4	69.2
市民の健康づくりに対する取り組みが活発である	64.7	71.7	59.5	64.9	62.5
仕事や地域活動などで女性も活動しやすい	59.6	68.5	53.8	60.4	55.8
回答数	1,050	844	79	67	60

最高点 最低点

■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の得点を地区別にみると、「食品や日用品などの買い物に便利である」がこの分野では最も高い平均点（69.3点）となっている。その内訳は「宮古地区」が77.9点で最高点、「田老地区」が63.9点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである」（56.6点）は「宮古地区」が67.4点で最高点、「川井地区」が45.8点で最低点となった。全ての項目で「宮古地区」が最高点、「田老地区」、「川井地区」に最低点が多かった。

「産業・就労」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである	56.8	67.1	51.3	60.4	48.3
小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである	56.6	67.4	56.3	56.7	45.8
市内には娯楽やレジャー施設がある	58.2	68.8	53.8	61.9	48.3
おいしい店や楽しく飲食できる店がある	64.8	75.1	59.5	69.4	55.0
食品や日用品などの買い物に便利である	69.3	77.9	63.9	67.2	68.3
市内に魅力ある観光スポットや特産品がある	63.8	73.9	58.2	64.9	58.3
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌がある	62.2	71.4	55.7	64.2	57.5
市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある	65.1	73.9	61.4	65.7	59.2
農業は担い手が多く、盛んである	63.9	69.6	60.1	64.2	61.7
林業は担い手が多く、盛んである	61.9	68.3	58.9	61.2	59.2
水産業は担い手が多く、盛んである	63.0	71.5	62.7	61.2	56.7
魚価の安定、消費拡大の対策がとられている	62.6	72.0	60.1	63.4	55.0
市の工業は盛んで多くの市民の就労の場になっている	60.4	70.3	55.7	61.2	54.2
回答数	1,050	844	79	67	60

最高点 最低点

■「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の得点を地区別にみると、「自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている」がこの分野では最も高い平均点（71.6点）となっている。その内訳は「宮古地区」が77.1点で最高点、「田老地区」が67.1点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである」（56.5点）は「宮古地区」が64.6点で最高点、「川井地区」が49.2点で最低点となった。「宮古地区」に最高点が多く、「田老地区」、「川井地区」に最低点が多かった。

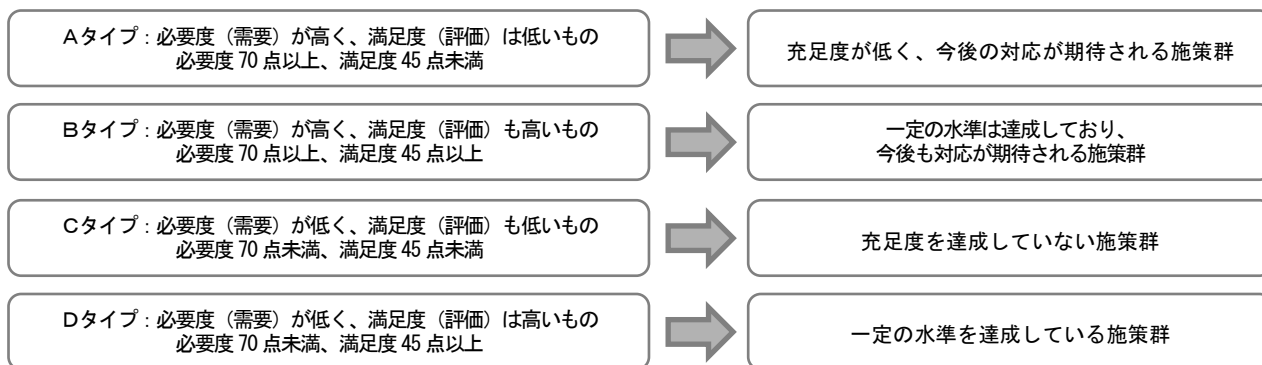
「基盤整備」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
港湾は様々なことに有効に活用されている	58.2	68.2	55.1	62.7	46.7
宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある	65.8	74.2	61.4	70.1	57.5
鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である	69.0	77.7	64.6	69.4	64.2
国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる	70.3	77.4	63.9	71.6	68.3
幹線となる市道がよく整備されている	70.8	77.4	65.2	72.4	68.3
身近な生活道路が整備されており安心して通行できる	71.5	78.7	65.2	75.4	66.7
駐輪・駐車場が困らない程度にある	67.4	73.8	60.1	73.9	61.7
公園・緑地などが整備・保全されている	62.0	71.8	56.3	66.4	53.3
公営住宅もあり住むところの心配はない	61.6	67.2	57.0	67.9	54.2
年をとっても安心して住める住まいとなっている	68.8	74.8	61.4	72.4	66.7
身近な情報や知りたい情報を入手する手段がさまざまある	63.9	71.0	60.1	67.9	56.7
行政サービスの窓口が適当な場所にある	66.4	72.5	62.7	67.2	63.3
民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである	56.5	64.6	49.4	62.7	49.2
火災に対する消防体制が整っている	68.9	74.9	64.6	70.9	65.0
災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる	70.8	77.6	67.1	70.1	68.3
災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる	69.0	76.8	65.2	71.6	62.5
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている	71.6	77.1	67.1	73.9	68.3
回答数	1,050	844	79	67	60

最高点 最低点

(7) 行政施策の類型化

総合的な施策管理や施策展開のためには、個別施策の達成状況の評価や進捗状況の管理だけでなく、個別の施策を市政運営の方向性や市民満足度との関係から互いに関連づけ、あるいは一体的に捉えることが重要となる。そこで、アンケート調査結果に基づいて、「施策目標の評価」の視点から個別施策をまとまりのある施策群として捉えるよう類型化を試みる。

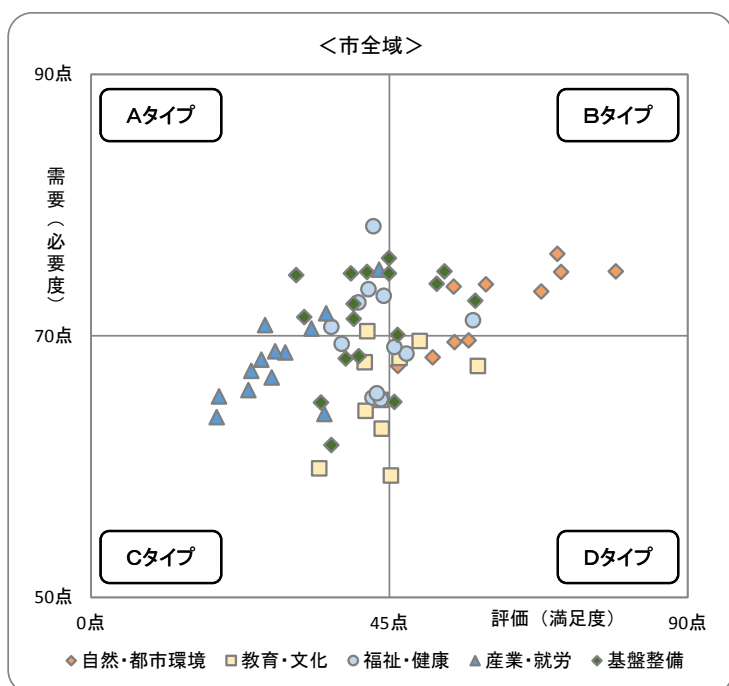
ここでは、施策目標への評価と需要を踏まえて、下記の4つの施策群に分類することにする。なお、第4章で前回調査との比較をするため、数値軸は前回調査に合わせることにする。



4つの施策群を市全域と市内4地区(宮古地区、田老地区、新里地区、川井地区)で比較してみる。

■市全域の傾向

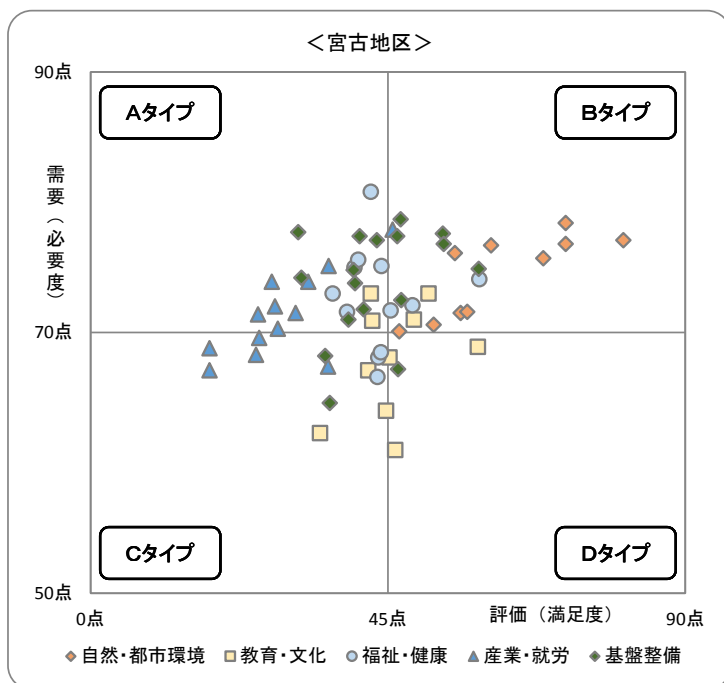
Cタイプには22の項目が属しており、全項目の35.5%を占めている。また、Aタイプは18項目(29.0%)、Bタイプ、Cタイプは同数で11項目(17.7%)となっている。



<市全域>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	6	0	4
教育・文化	1	0	5	4
福祉・健康	5	1	4	2
産業・就労	4	0	9	0
基盤整備	8	4	4	1
合計	18	11	22	11

■宮古地区の傾向

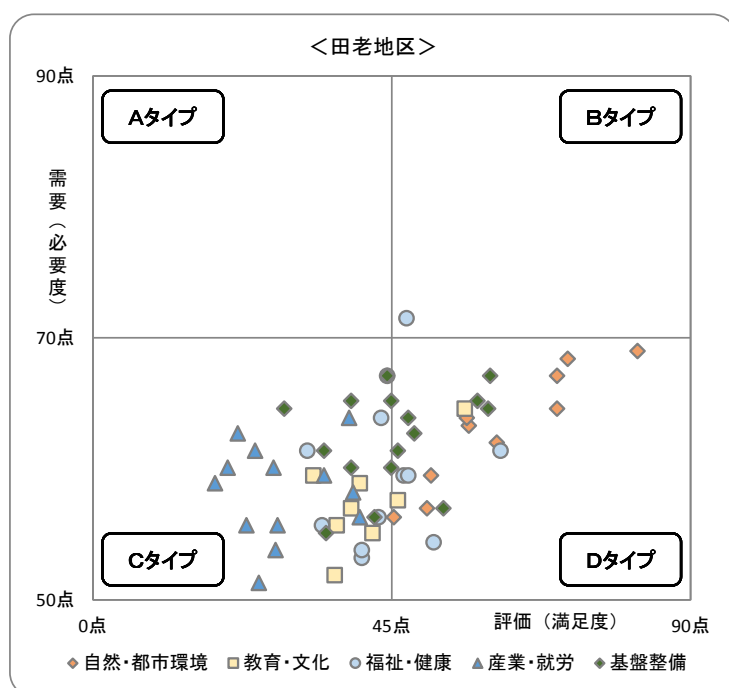
Aタイプには23の項目が属しており、全項目の37.1%を占めている。また、Bタイプは22項目(35.5%)、Cタイプは13項目(21.0%)、Dタイプは4項目(6.5%)となっている。全地区の中でAタイプの割合が最も多く、市全域の傾向に近いカタチとなっている。



<宮古地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	10	0	0
教育・文化	2	2	3	3
福祉・健康	6	3	3	0
産業・就労	7	1	5	0
基盤整備	8	6	2	1
合計	23	22	13	4

■田老地区の傾向

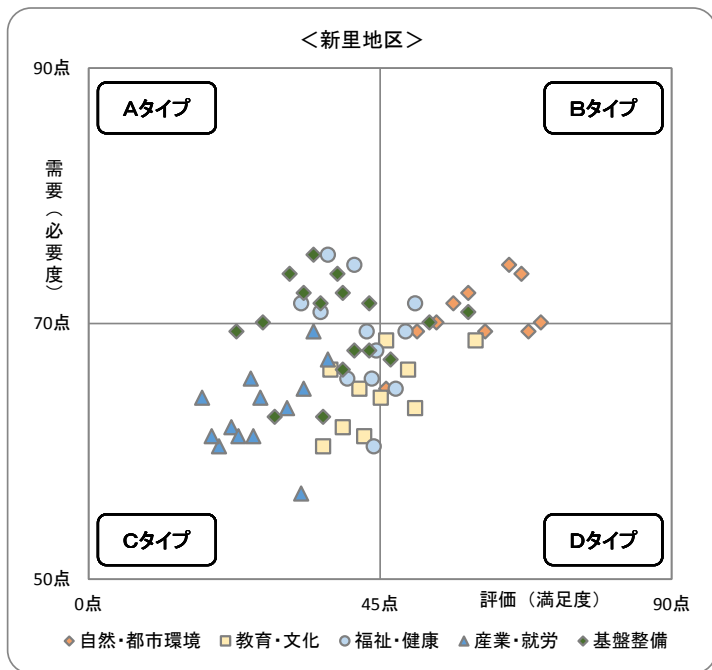
Cタイプには38の項目が属しており、全項目の61.3%を占めている。また、Dタイプは23項目(37.1%)、Bタイプは1項目(1.6%)、Aタイプは0項目となっている。



<田老地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	0	0	10
教育・文化	0	0	8	2
福祉・健康	0	1	7	4
産業・就労	0	0	13	0
基盤整備	0	0	10	7
合計	0	1	38	23

■新里地区の傾向

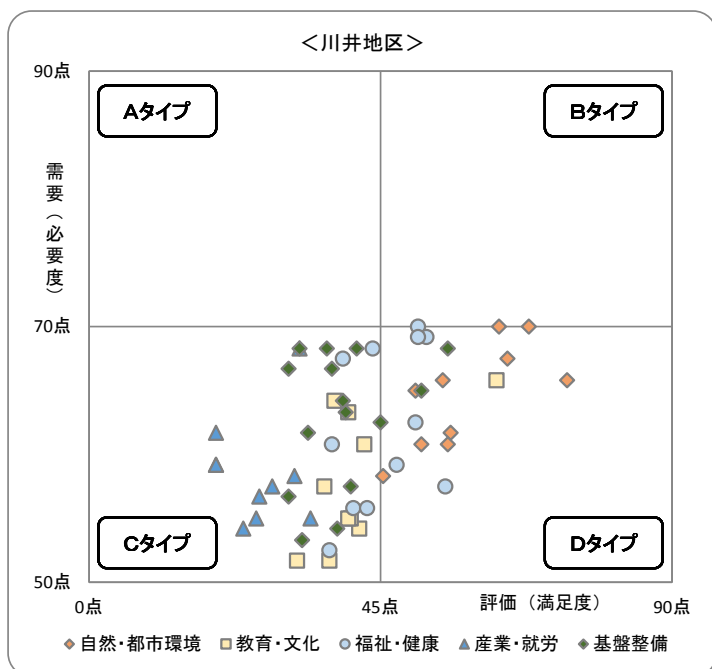
Cタイプには29の項目が属しており、全項目の46.8%を占めている。また、Aタイプ、Dタイプは同数で12項目(19.4%)、Bタイプは9項目(14.5%)となっている。



<新里地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	6	0	4
教育・文化	0	0	5	5
福祉・健康	4	1	5	2
産業・就労	0	0	13	0
基盤整備	8	2	6	1
合計	12	9	29	12

■川井地区の傾向

Cタイプには42の項目が属しており、全項目の67.7%を占めている。また、Dタイプは17項目(27.4%)、Bタイプは3項目(4.8%)、Aタイプは0項目となっている。



<川井地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	2	0	8
教育・文化	0	0	9	1
福祉・健康	0	1	6	5
産業・就労	0	0	13	0
基盤整備	0	0	14	3
合計	0	3	42	17

「自然・都市環境」は満足度、必要度ともに高く、「産業・就労」改善に対する期待が大きい

	満足度 平均点 (A)	必要度 平均点 (B)	満足度と 必要度の差 (A)－(B)
自然・都市環境	61.2	72.2	-11.0
教育・文化	44.6	65.5	-20.9
福祉・健康	43.6	70.2	-26.6
産業・就労	28.4	68.2	-39.8
基盤整備	42.2	71.2	-29.0

身近な生活環境について、分野別得点の平均点は上の表のようになった。

満足度の平均点は「自然・都市環境」が最も高く 61.2 点となり、次いで「教育・文化」(44.6 点)、「福祉・健康」(43.6 点)、「基盤整備」(42.2 点)、「産業・就労」(28.4 点)の順となっている。

一方、必要度の平均点は「自然・都市環境」が最も高く 72.2 点となり、次いで「基盤整備」(71.2 点)、「福祉・健康」(70.2 点)、「産業・就労」(68.2 点)、「教育・文化」(65.5 点)の順となっている。満足度、必要度ともに「自然・都市環境」が最も高く、今後も重要な施策として回答した方が多いことがわかる。

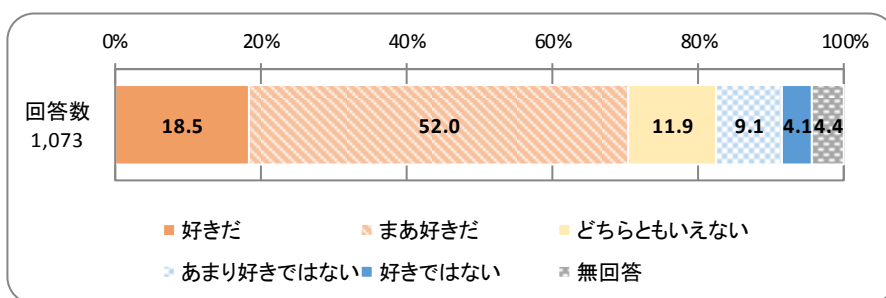
また、満足度と必要度の差を比べると、「産業・就労」の差が最も大きく 39.8 点となり、次いで「基盤整備」(29.0 点)、「福祉・健康」(26.6 点)、「教育・文化」(20.9 点)、「自然・都市環境」(11.0 点)の順となっている。市民が今後の施策に期待するものは、「産業・就労」に係わる 13 項目に多いという結果になった。

(8) 地域への愛着度

問2 あなたは、今お住まいの地域をどの程度好きですか。(○印は1つ)

7割が地域を「好きだ」と感じている

「好きだ」(「好きだ」(18.5%)と「まあ好きだ」(52.0%)の合計)は70.5%となり、「好きではない」(「あまり好きではない」(9.1%)と「好きではない」(4.1%)の合計)は13.2%で、「好きだ」が「好きではない」を57.3ポイント上回った。

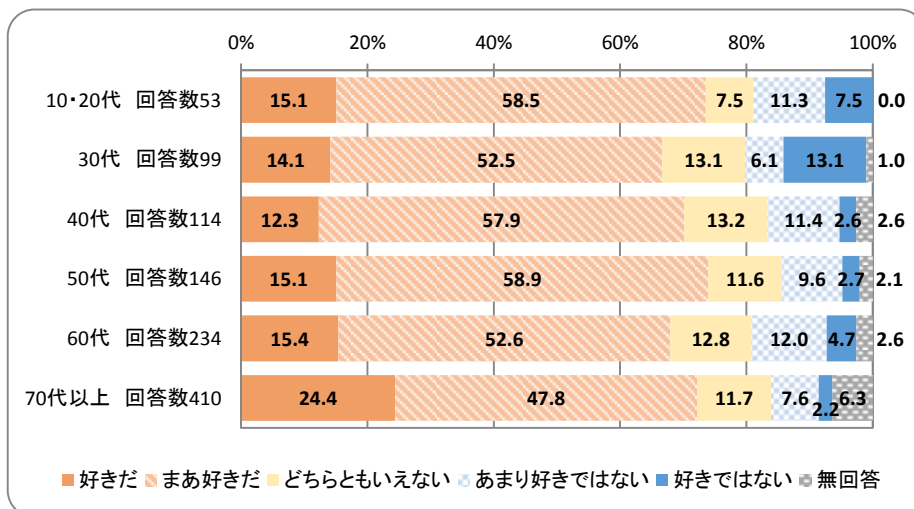


■年代別にみた地域への愛着度

地域への愛着度が最も高い年代は「50代」で74.0%（「好きだ」(15.1%)と「まあ好きだ」(58.9%)の合計)となった。

一方、地域を好きではないという回答が最も多い年代は「30代」で19.2%（「あまり好きではない」(6.1%)と「好きではない」(13.1%)の合計)となっている。

全ての年代で愛着度が6割を超えており、年代を問わず、地域への愛着があることがわかる。

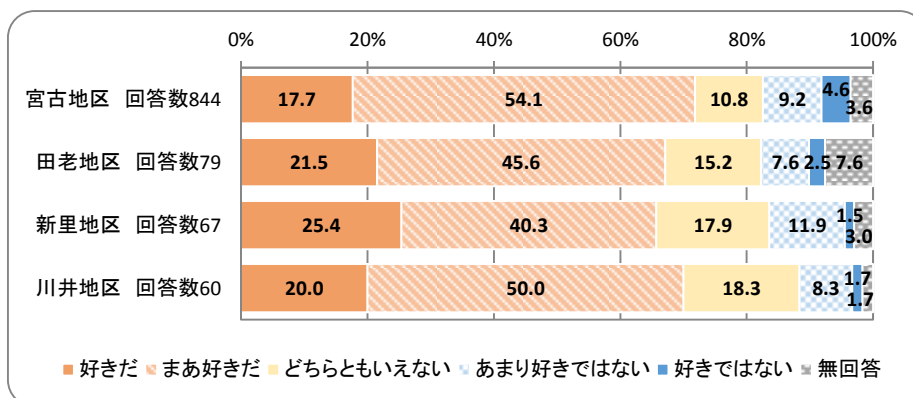


■地区別にみた地域への愛着度

地域への愛着度が最も高い地区は「宮古地区」で71.8%（「好きだ」（17.7%）と「まあ好きだ」（54.1%）の合計）となった。

一方、地域を好きではないという回答が最も多い地区は「宮古地区」で13.8%（「あまり好きではない」（9.2%）と「好きではない」（4.6%）の合計）となっている。

全ての地区で愛着度が6割以上となったが、「川井地区」で「どちらともいえない」という回答が多く、地区により愛着度にばらつきがみられる。

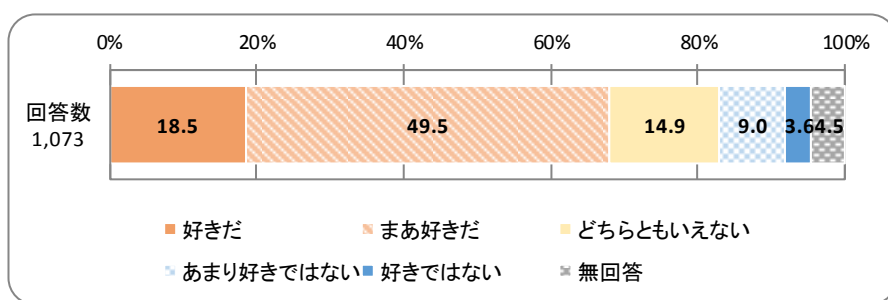


(9) 市への愛着度

問3 あなたは、宮古市をどの程度好きですか。(○印は1つ)

6割が市を「好きだ」と感じている

「好きだ」(「好きだ」(18.5%)と「まあ好きだ」(49.5%)の合計)は68.0%となり、「好きではない」(「あまり好きではない」(9.0%)と「好きではない」(3.6%)の合計)は12.6%で、「好きだ」が「好きではない」を55.4ポイント上回った。

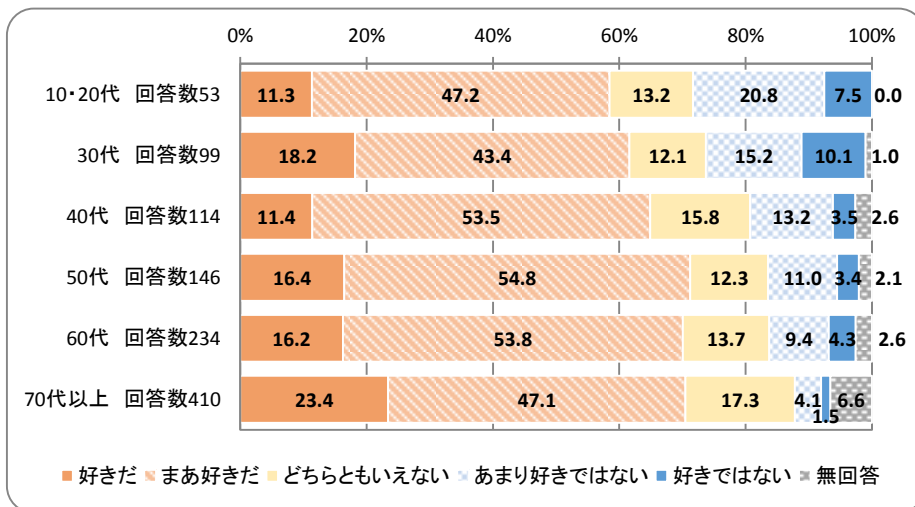


■年代別にみた市への愛着度

市への愛着度が最も高い年代は「50代」で71.2% (「好きだ」(16.4%)と「まあ好きだ」(54.8%)の合計) になった。

一方、市を好きではないという回答が最も多い年代は「10・20代」で28.3% (「あまり好きではない」(20.8%)と「好きではない」(7.5%)の合計) となっている。

全ての年代で愛着度がおおむね6割を超えており、年代を問わず、市への愛着があることがわかる。

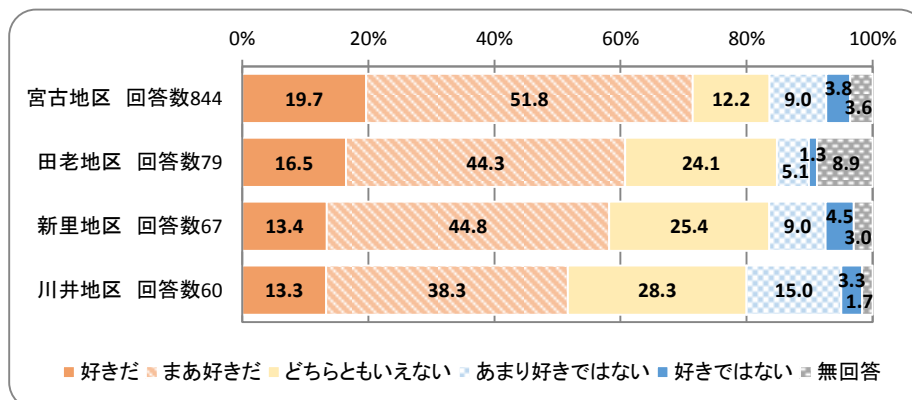


■地区別にみた市への愛着度

市への愛着度が最も高い地区は「宮古地区」で71.5%（「好きだ」(19.7%)と「まあ好きだ」(51.8%)の合計)となった。

一方、市を好きではないという回答が最も多い地区は「川井地区」で18.3%（「あまり好きではない」(15.0%)と「好きではない」(3.3%)の合計)となっている。

最も愛着度が低い「川井地区」でも愛着度は51.6%と5割近くになっており、居住地区に関係なく、市へ愛着を感じていることがわかる。

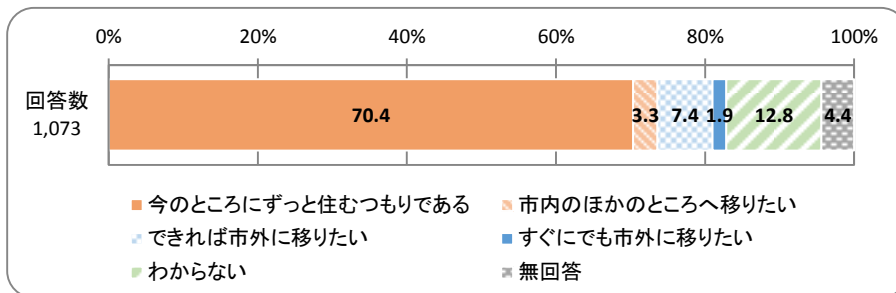


(10) 定住意向

Q6 あなたは、宮古市内に今後とも住み続けたいと思いますか。(○印は1つ)

7割が市内への定住を望んでいる

「今のところにずっと住むつもりである」が最も多く70.4%となった。次いで「できれば市外に移りたい」(7.4%)、「市内のほかのところへ移りたい」(3.3%)、「すぐにでも市外に移りたい」(1.9%)の順となっている。市内への定住意向は73.7%（「今のところにずっと住むつもりである」(70.4%)と「市内のほかのところへ移りたい」(3.3%)の合計）となり、回答者の7割以上が定住を望んでいることがわかる。

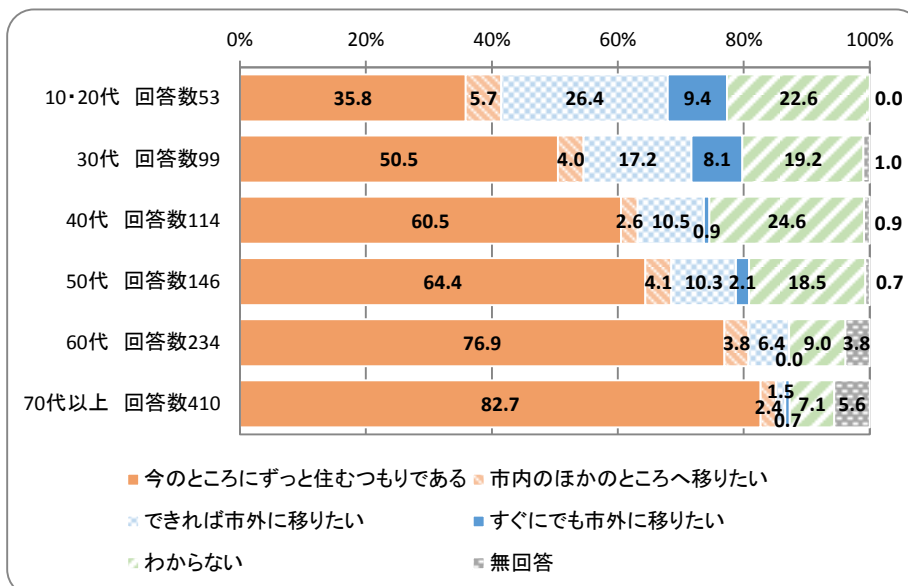


■年代別にみた定住意向

定住意向が最も高い年代は「70代以上」で85.1%（「今のところにずっと住むつもりである」(82.7%)と「市内のほかのところへ移りたい」(2.4%)の合計）となった。

一方、定住意向が最も低い年代は「10・20代」で35.8%（「できれば市外に移りたい」(26.4%)と「すぐにでも市外に移りたい」(9.4%)の合計）となっている。

年代が低いほど市外に移りたいという意見が多くなっている。

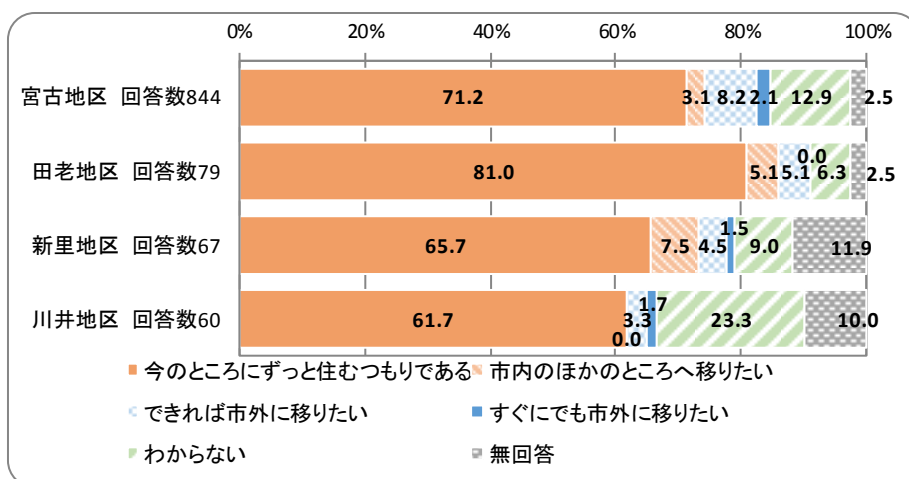


■地区別にみた定住意向

定住意向が最も高い地区は「田老地区」で86.1%（「今のところずっと住むつもりである」（81.0%）と「市内のほかのところへ移りたい」（5.1%）の合計）となった。

一方、定住意向が最も低い地区は「宮古地区」で10.3%（「できれば市外に移りたい」（8.2%）と「すぐにでも市外に移りたい」（2.1%）の合計）となっている。

全ての地区で定住意向が6割を超えている。

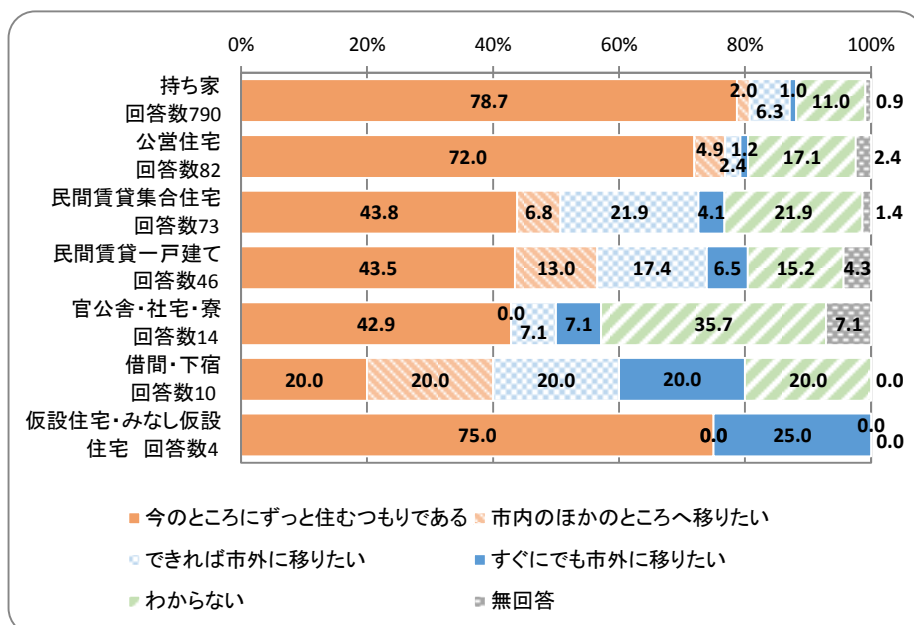


■居住形態別にみた定住意向

定住意向が最も高い居住形態は「持ち家」で80.7%（「今のところずっと住むつもりである」（78.7%）と「市内のほかのところへ移りたい」（2.0%）の合計）となった。

一方、定住意向が最も低い居住形態は「借間・下宿」で40.0%（「できれば市外に移りたい」（20.0%）と「すぐにでも市外に移りたい」（20.0%）の合計）となっている。

東日本大震災後、「仮設住宅・みなし仮設」に居住している方の7割（「今のところずっと住むつもりである」（75.0%））が定住意向を持っており、市外への移住を検討している方は2割（「すぐにでも市外に移りたい」（25.0%））となっている。

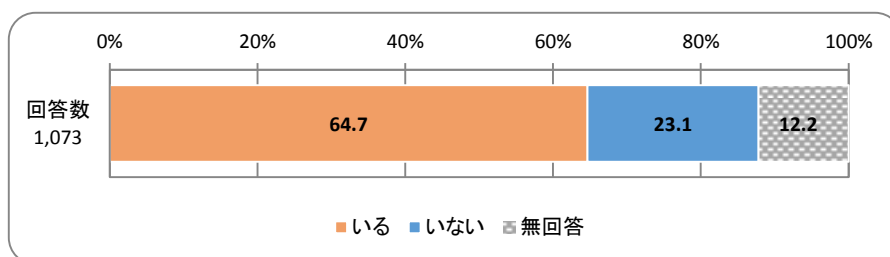


(11) 市外在住の家族の定住（移住）意向

Q13 あなたのご家族（親、兄弟姉妹、子ども）で、宮古市以外で生活している方がいますか。
（○印は1つ）

6割が市外で生活している家族がいる

「いる」は64.7%と、6割以上の方が市外で生活している家族がいると回答した。

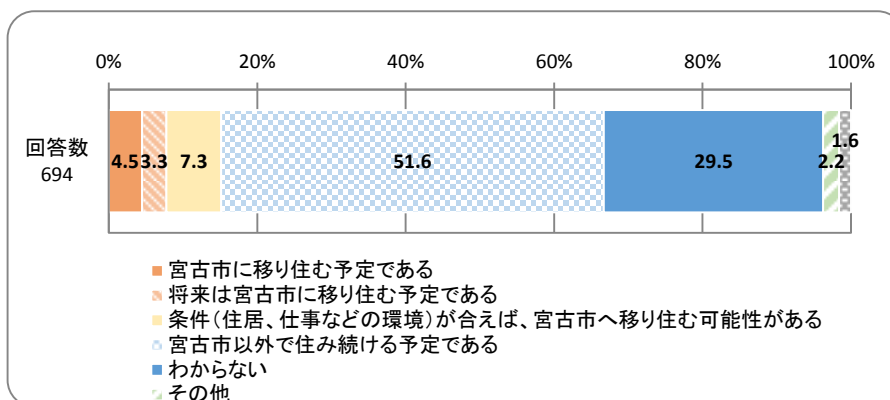


Q13-1 その方は、今後、宮古市に定住する（移り住む）意向がありますか。（○印は1つ）

市外で生活している家族の宮古市への定住意向は1割未満

市外で生活している家族がいると回答した方のうち、家族に宮古市への定住意向があると回答したのは7.8%（「宮古市に移り住む予定である」(4.5%)と「将来は宮古市に移り住む予定である」(3.3%)の合計）となった。また、「条件（住居、仕事などの環境）が合えば、宮古市へ移り住む可能性がある」は7.3%となっている。

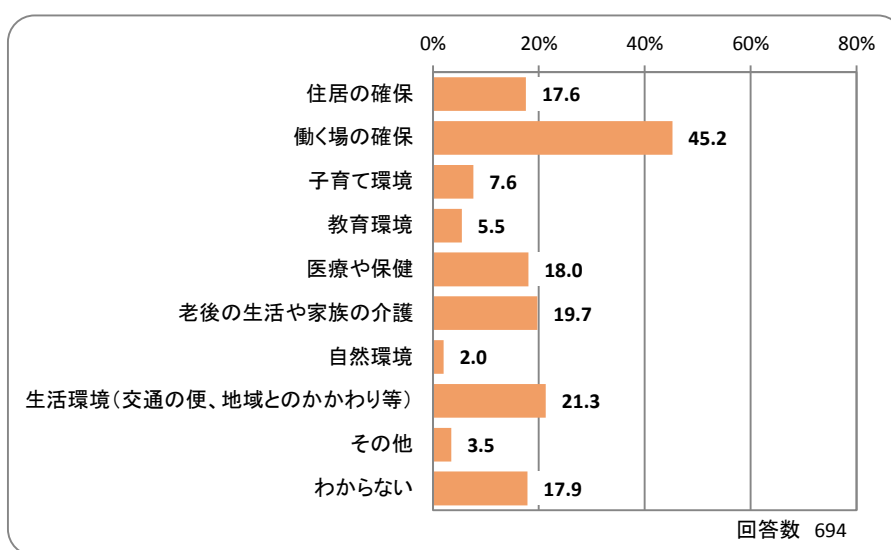
一方、「宮古市以外で住み続ける予定である」は51.6%と最も多くなっており、5割以上は宮古市への定住予定がないという結果になっている。



Q13-2 その方が、宮古市に定住する（移り住む）場合、関心の高いことは何だと思えますか。
（○印は3つまで）

市外で生活している家族が宮古市へ定住するのに重要なのは「働く場の確保」

市外で生活している家族がいると回答した方のうち、家族が宮古市へ定住する場合に関心が高いと回答した項目は、「働く場の確保」が最も多く45.2%となった。次いで「生活環境（交通の便、地域とのかかわり等）」（21.3%）、「老後の生活や家族の介護」（19.7%）の順となっている。

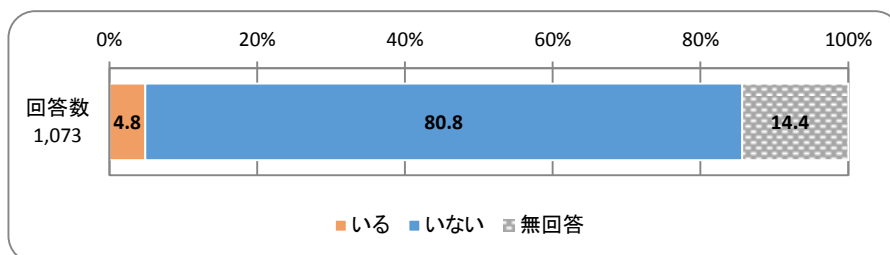


(12) 市外在住の知人の定住（移住）意向

Q14 あなたのお知り合い（市外在住者）で、宮古市へ移り住むことを希望している方がいますか。（○印は1つ）

市外在住の知人の宮古市への定住意向は1割未満

「いる」は4.8%と、宮古市への定住を望む市外在住の知人がいると回答したのは1割未満だった。

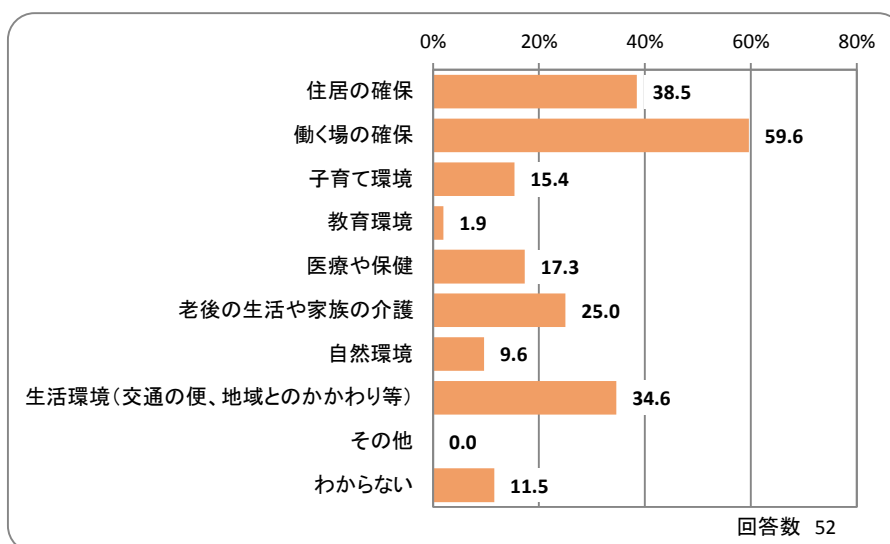


Q14-1 その方が、宮古市に定住する（移り住む）場合、関心の高いことは何だと聞いていますか。（○印は3つまで）

市外在住の知人が宮古市へ定住するのに重要なのは「働く場の確保」

宮古市への定住を望む市外在住の知人がいると回答した方のうち、知人が宮古市へ定住する場合に関心が高いと回答した項目は、「働く場の確保」が最も多く 59.6%となった。次いで「住居の確保」(38.5%)、「生活環境（交通の便、地域とのかかわり等）」(34.6%)の順となっている。

6割近くが就労を重要視しており、住居や生活環境にも大きな関心を寄せていることが窺える。



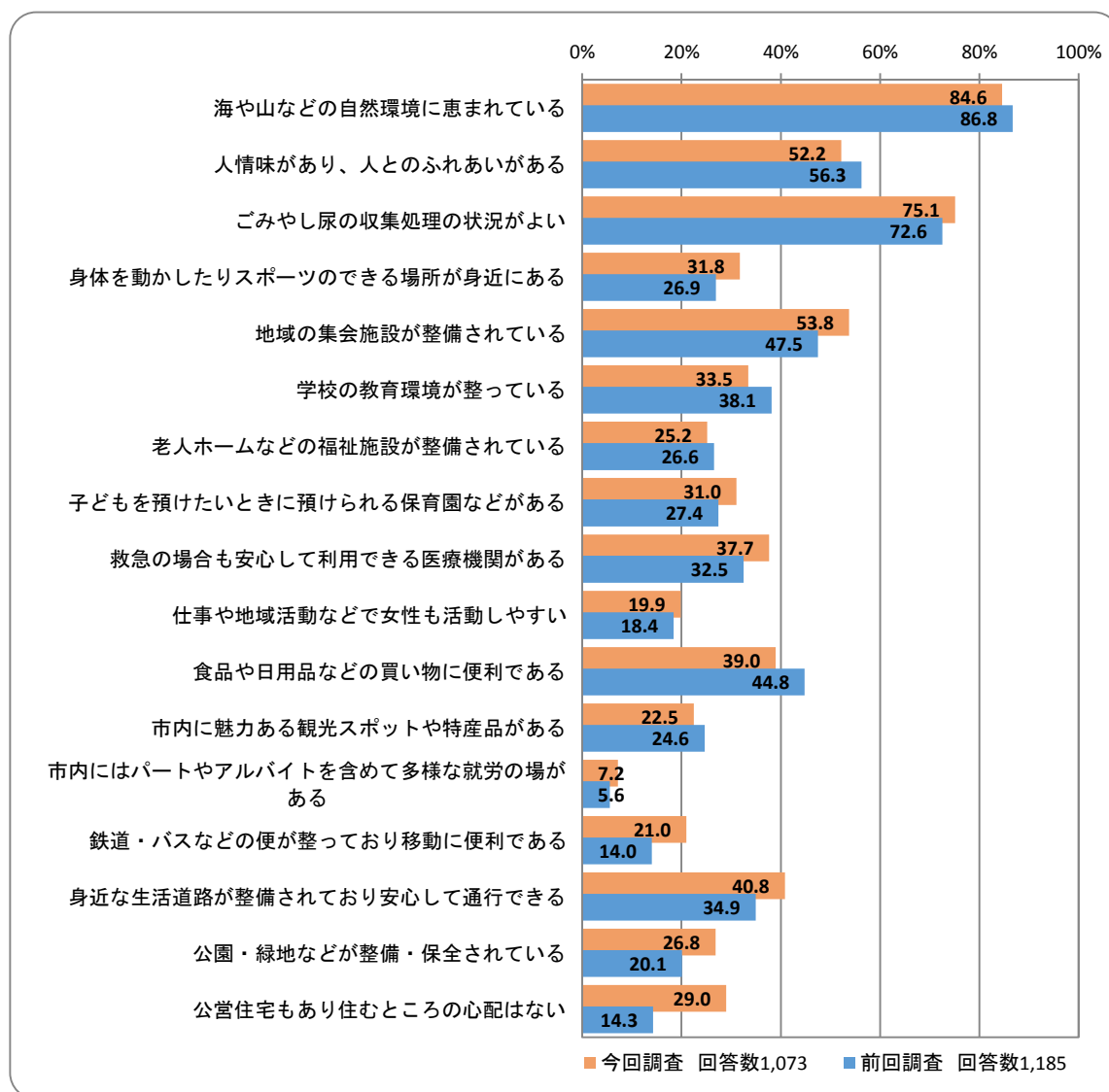
(13) くらしやすさの時系列比較

市のくらしやすさに関する満足度や不満足度について、今回調査と前回調査（平成 25 年）を比較（時系列比較）する。比較にあたり、回答の「満足している」と「まあ満足している」の回答割合を合わせた数値を「満足度」とし、「あまり満足していない」と「満足していない」の回答割合を合わせた数値を「不満足度」として捉えることとする。

■宮古市のくらしやすさ（満足度）

前回調査から満足度が最も上がった項目は、「公営住宅もあり住むところの心配はない」で 14.7 ポイントとなった。次いで「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」（7.0 ポイント）「公園・緑地などが整備・保全されている」（6.7 ポイント）、の順となっている。

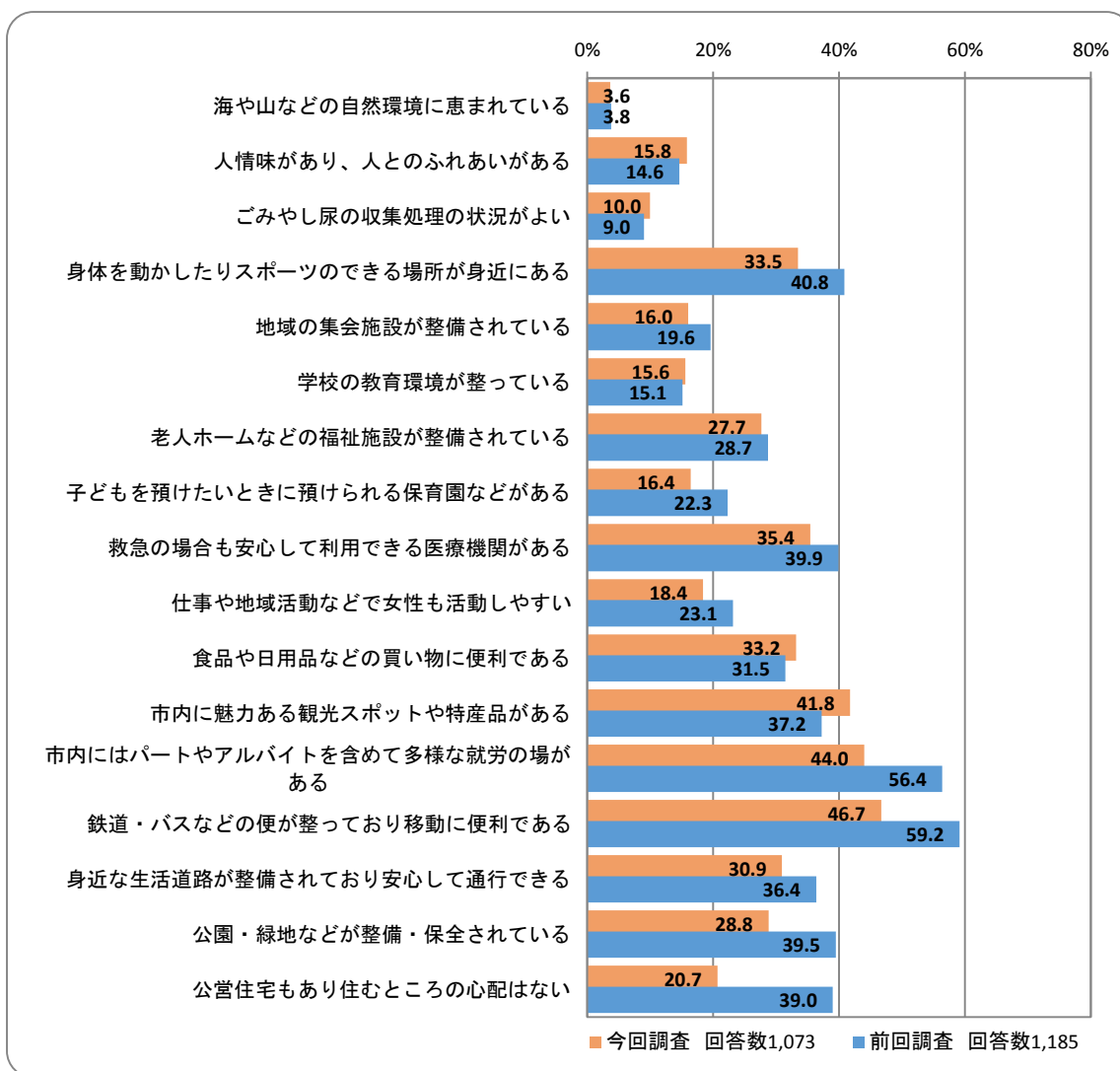
一方、満足度が最も下がった項目は、「食品や日用品などの買い物に便利である」で-5.8 ポイント、次いで「学校の教育環境が整っている」（-4.6 ポイント）、「人情味があり、人とのふれあいがある」（-4.1 ポイント）の順となっている。



■宮古市のくらしやすさ（不満足度）

前回調査から不満足度が最も下がった項目は、「公営住宅もあり住むところの心配はない」で-18.3ポイントとなった。次いで「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」（-12.5ポイント）、「市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある」（-12.4ポイント）の順となっている。

一方、不満足度が最も上がった項目は、「市内に魅力ある観光スポットや特産品がある」で4.6ポイント、次いで「食品や日用品などの買い物に便利である」（1.7ポイント）、「人情味があり、人とのふれあいがある」（1.2ポイント）の順となっている。

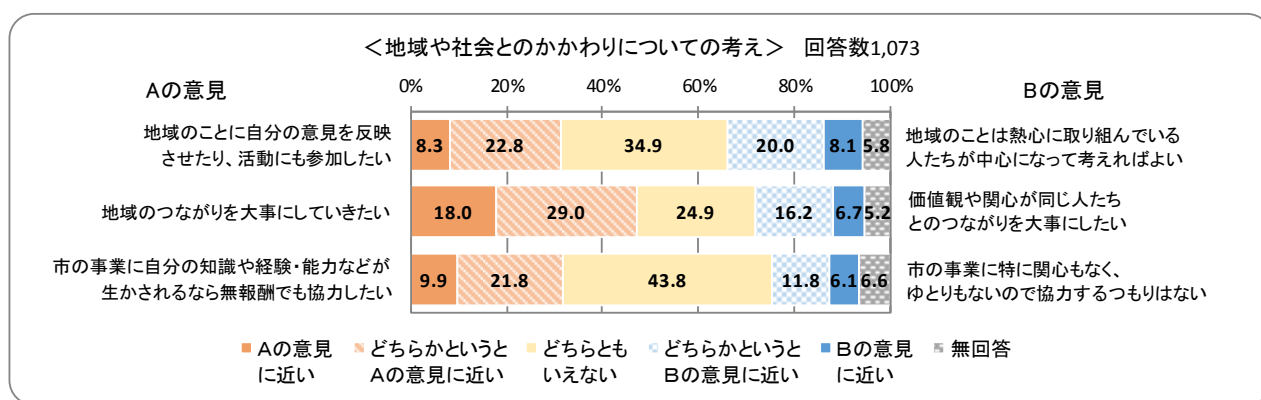


2. 地域や社会とのかかわりに対する意識

(1) 地域や社会への参加意識

問4 以下のようなA・Bの異なる意見があるとして、あなたはA・Bどちらの意見に近いお考えをお持ちですか。
 あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

地域や社会に係わる活動には協力的



■地域活動への参加意識

Aの意見（「Aの意見に近い」(8.3%)と「どちらかというAの意見に近い」(22.8%)の合計)は31.1%、Bの意見（「どちらかというBの意見に近い」(20.0%)と「Bの意見に近い」(8.1%)の合計)は28.1%となり、Aの意見がBの意見をわずかに3.0ポイント上回った。

地域活動への参加に対しては、積極的な意見と消極的な意見が均衡している。

■人とのつながりに対する価値観

Aの意見（「Aの意見に近い」(18.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(29.0%)の合計)は47.0%、Bの意見（「どちらかというBの意見に近い」(16.2%)と「Bの意見に近い」(6.7%)の合計)は22.9%となり、Aの意見がBの意見を24.1ポイント上回った。

同じ価値観の人たちとのつながりはもちろんだが、地域のつながりも大事にしたいという意見が半数を占めた。

■市の事業への協力意識

Aの意見（「Aの意見に近い」(9.9%)と「どちらかというAの意見に近い」(21.8%)の合計)は31.7%、Bの意見（「どちらかというBの意見に近い」(11.8%)と「Bの意見に近い」(6.1%)の合計)は17.9%となり、Aの意見がBの意見を13.8ポイント上回った。

市の事業に対して比較的協力的な回答が多い反面、「どちらともいえない」という回答も43.8%に上る。

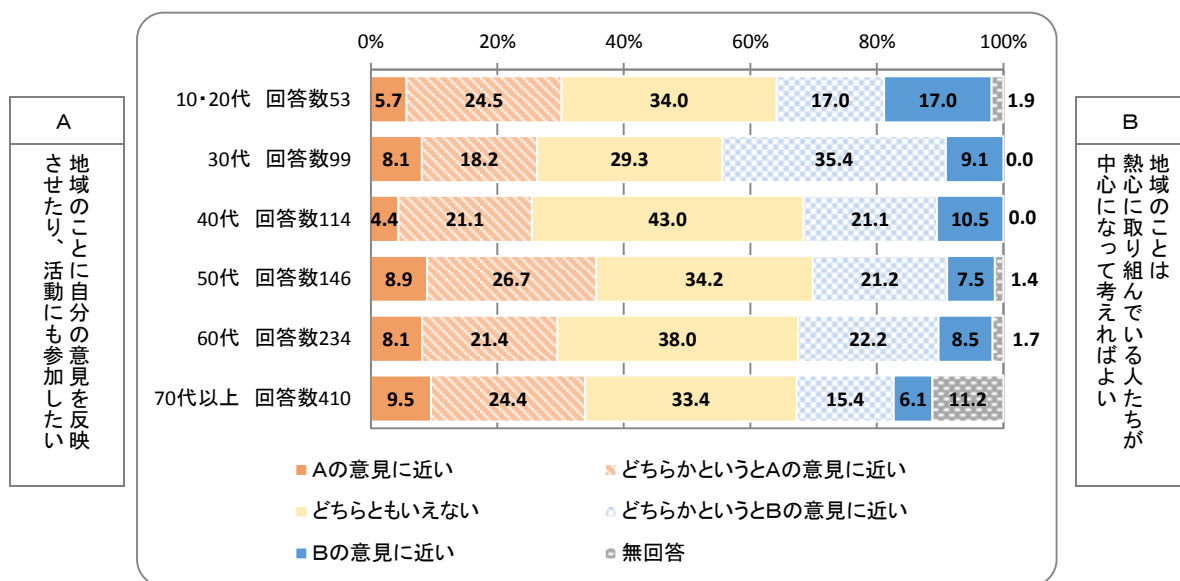
(2) 年代別にみた地域や社会への参加意識

年代が低いほど地域や社会への参加意識は低い

■地域活動への参加意識

Aの意見に最も近い年代は「50代」で35.6%（「Aの意見に近い」（8.9%）と「どちらかという」とAの意見に近い」（26.7%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「30代」で44.5%（「どちらかという」とBの意見に近い」（35.4%）と「Bの意見に近い」（9.1%）の合計）となった。

地域活動への参加意識は、若年層は低く、高齢者は高い傾向が見られる。



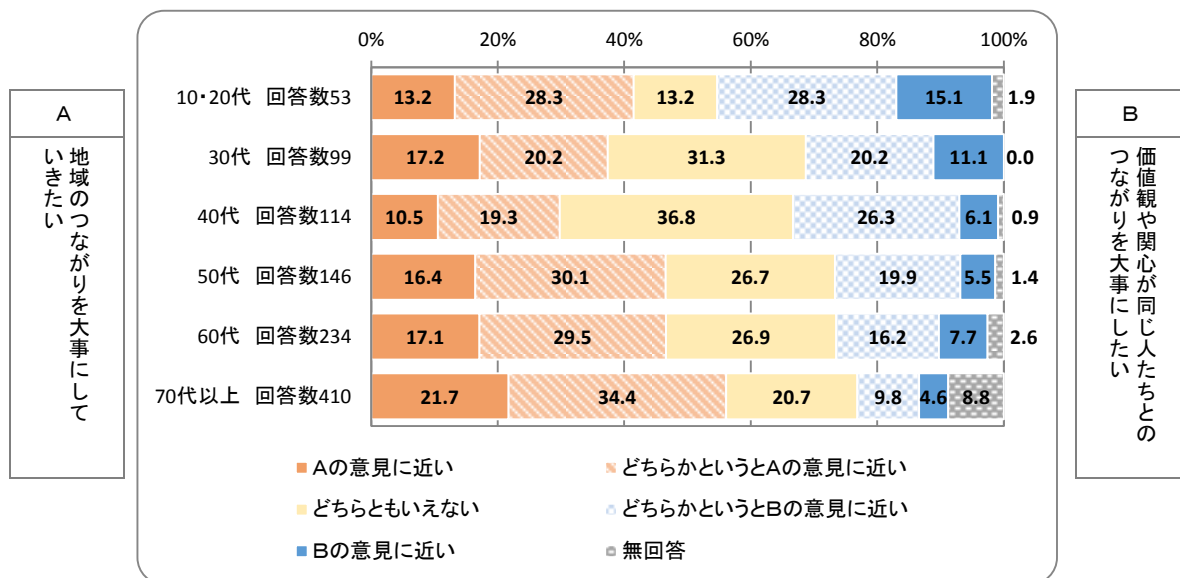
A
地域のこと
に自分の
意見も参
加したい

B
地域のこ
とに中心
になつて
考えれば
よい人た
ちが

■人とのつながりに対する価値観

Aの意見に最も近い年代は「70代以上」で56.1%（「Aの意見に近い」（21.7%）と「どちらかという」とAの意見に近い」（34.4%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「10・20代」で43.4%（「どちらかという」とBの意見に近い」（28.3%）と「Bの意見に近い」（15.1%）の合計）となった。

若年層に比べて、高齢者の方が地域のつながりに対して積極的な傾向が見られる。



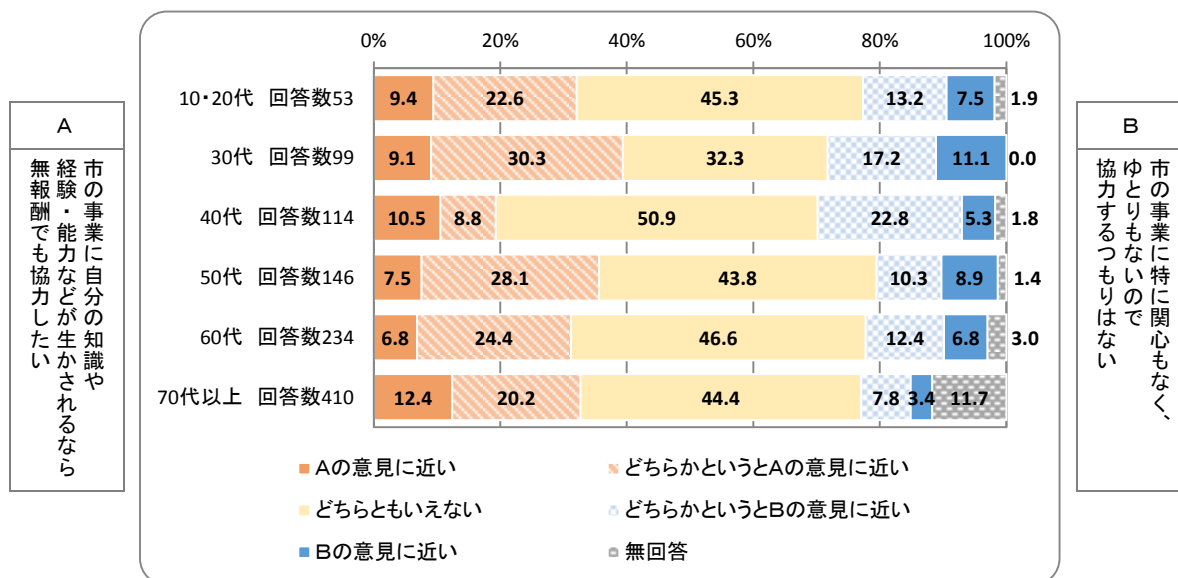
A
地域のつ
ながりを
大事にし
て

B
価値観や
関心が同
じ人たち
とのつな
がりを大
事にしな
い

■市の事業への協力意識

Aの意見に最も近い年代は「30代」で39.4%（「Aの意見に近い」（9.1%）と「どちらかという
とAの意見に近い」（30.3%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「30代」で28.3%（「どちらか
というとBの意見に近い」（17.2%）と「Bの意見に近い」（11.1%）の合計）となった。

概ねどの年齢層においても、同様の傾向が見られたが、40代においては、他の年齢層に比べて低い
傾向が見られた。



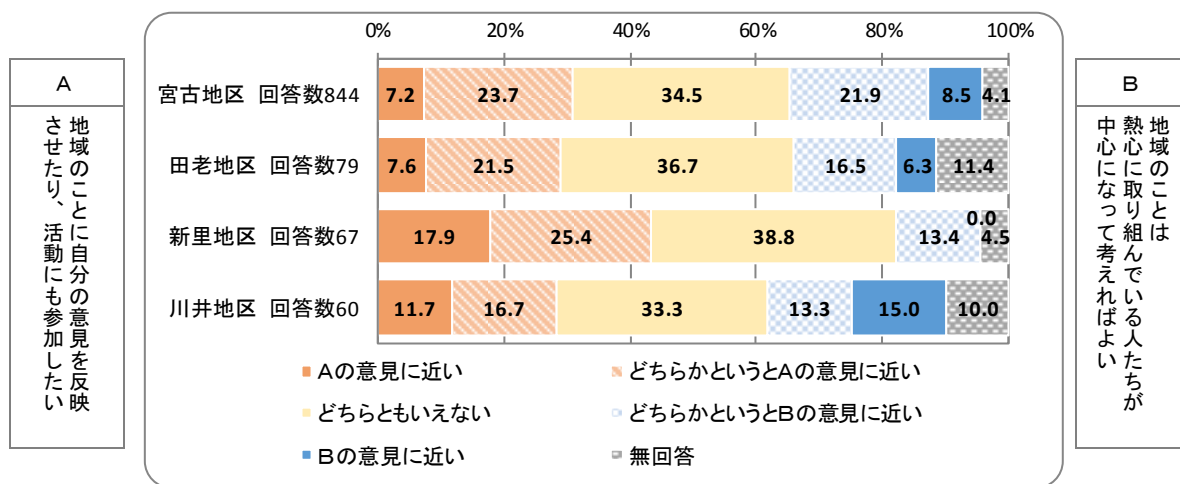
(3) 地区別にみた地域や社会への参加意識

「新里地区」における地域や社会への参加意識が高い

■地域活動への参加意識

Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で43.3%（「Aの意見に近い」（17.9%）と「どちらかというAの意見に近い」（25.4%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「宮古地区」で30.4%（「どちらかというBの意見に近い」（21.9%）と「Bの意見に近い」（8.5%）の合計）となった。

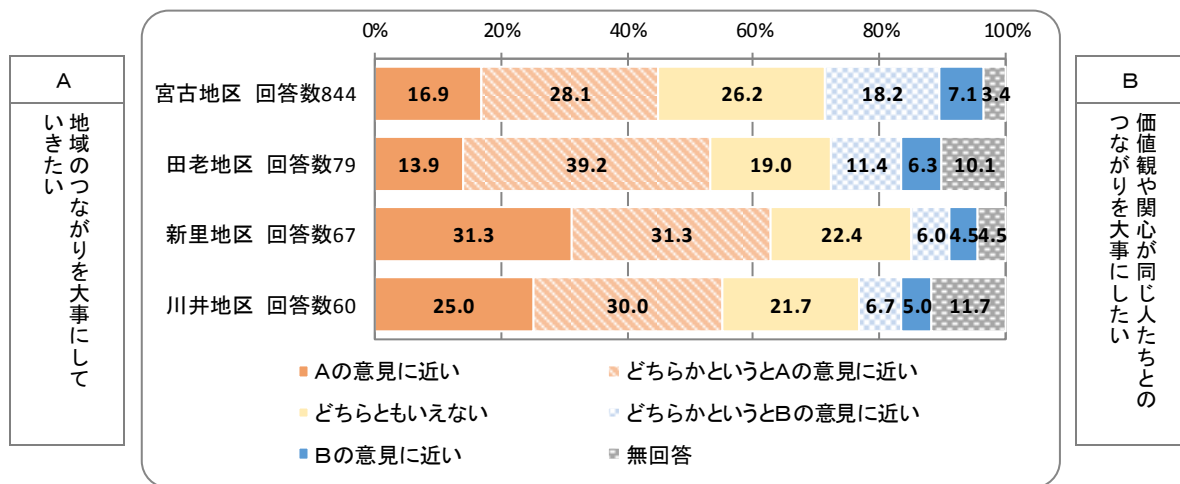
「新里地区」は、「地域活動への参加」という意識が他の地区に比べて高い傾向が見られる。



■人とのつながりに対する価値観

Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で62.6%（「Aの意見に近い」（31.3%）と「どちらかというAの意見に近い」（31.3%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「宮古地区」で25.3%（「どちらかというBの意見に近い」（18.2%）と「Bの意見に近い」（7.1%）の合計）となった。

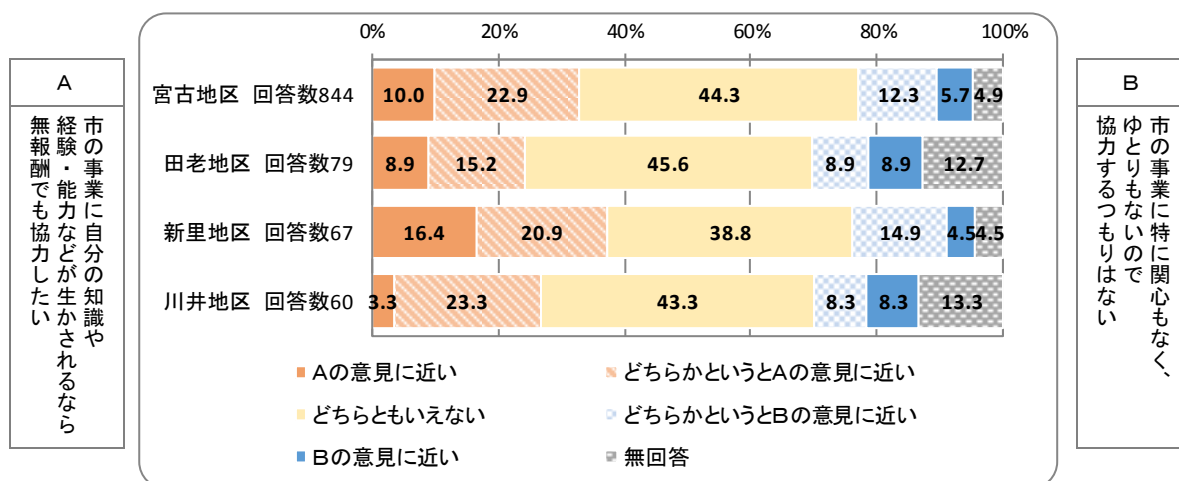
全地区とも、「地域のつながりを大事にしていきたい」という意識が高いが「新里地区」は特に高い傾向が見られる。



■市の事業への協力意識

Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で37.3%（「Aの意見に近い」（16.4%）と「どちらかというAの意見に近い」（20.9%）の合計）、Bの意見に最も近い地区も「新里地区」で19.4%（「どちらかというBの意見に近い」（14.9%）と「Bの意見に近い」（4.5%）の合計）となった。

「新里地区」と「宮古地区」は他の地区と比べて市の事業に協力したいという意識が高くなっている。

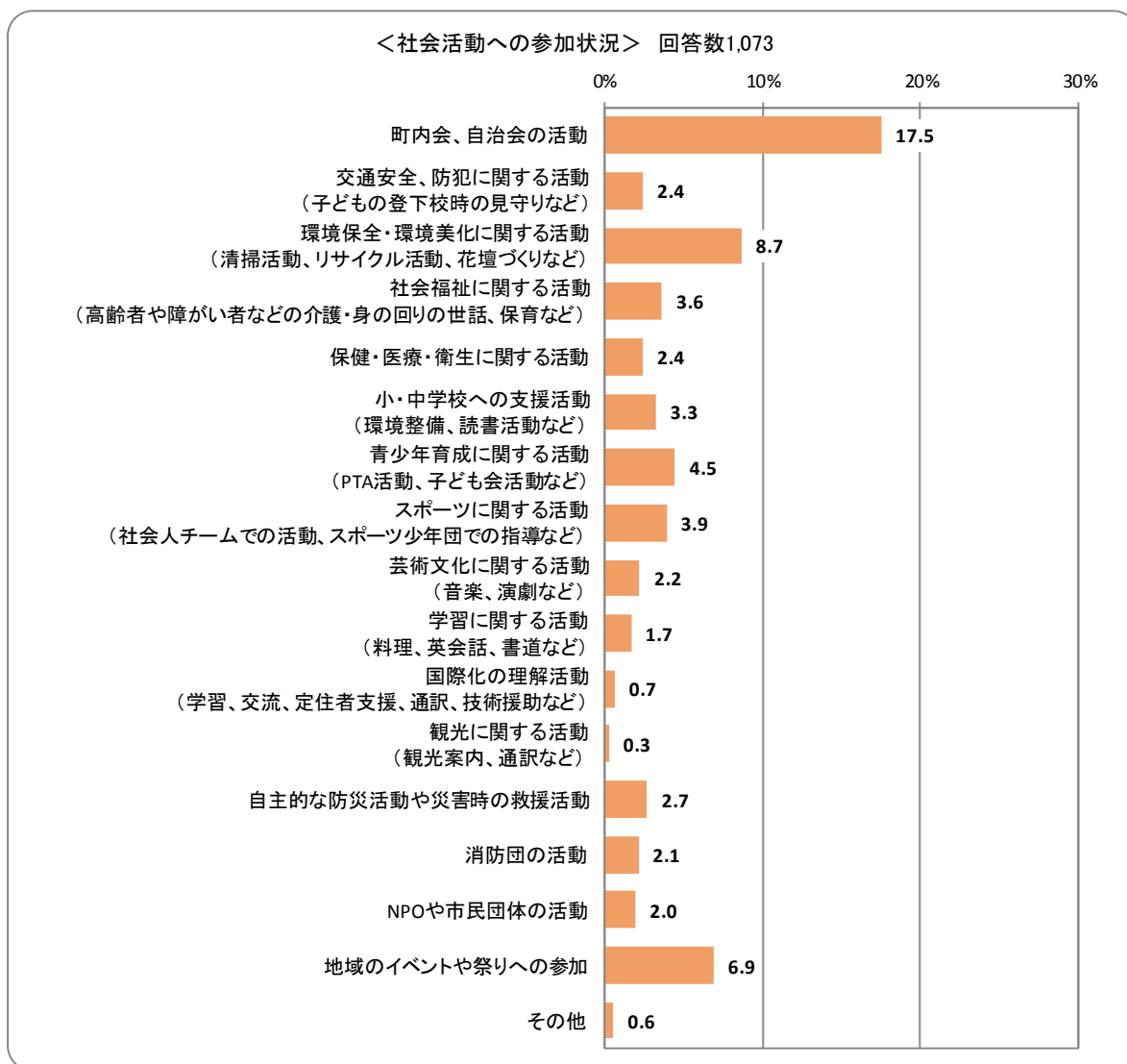


(4) 社会活動への参加状況

問5 あなたは、本来の仕事、学業とは別に次のような活動に関心がありますか。また、誘われれば参加してもよいと思われる活動はありますか。
あてはまるものに○をつけてください。

参加している活動のトップでさえ2割未満

現在、参加している活動は「町内会、自治会の活動」が最も多く17.5%となったが、2割にも満たない低い値となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（8.7%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（6.9%）の順となっている。



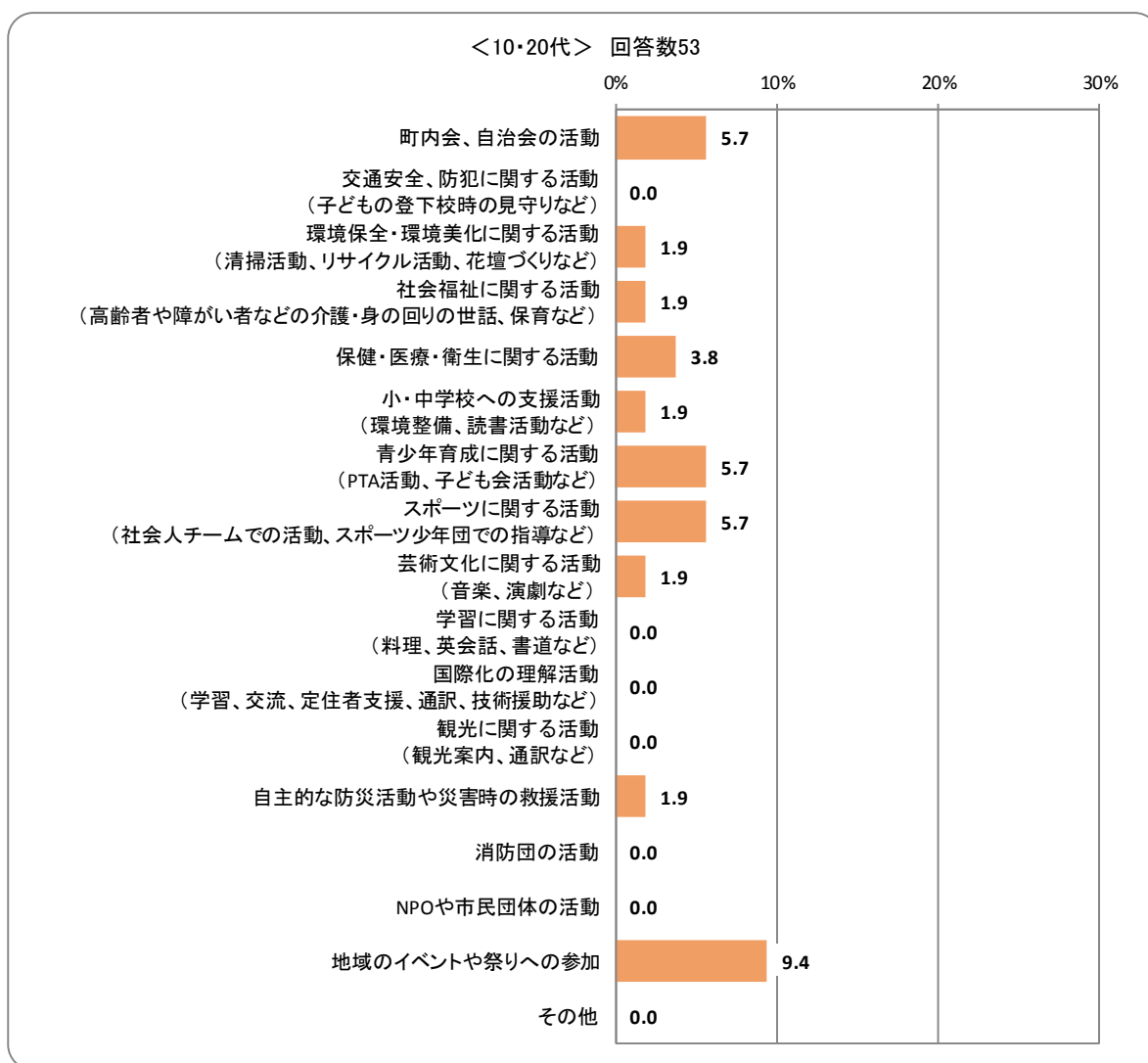
(5) 年代別にみた社会活動への参加状況

「10・20代」の社会活動への参加率が低い

■10・20代の傾向

「地域のイベントや祭りへの参加」が最も多く 9.4%となったが、1割にも満たない低い値となった。次いで同数で「町内会、自治会の活動」、「青少年育成に関する活動（PTA活動、子ども会活動など）」、「スポーツに関する活動（社会人チームでの活動、スポーツ少年団での指導など）」（5.7%）の順となっている。

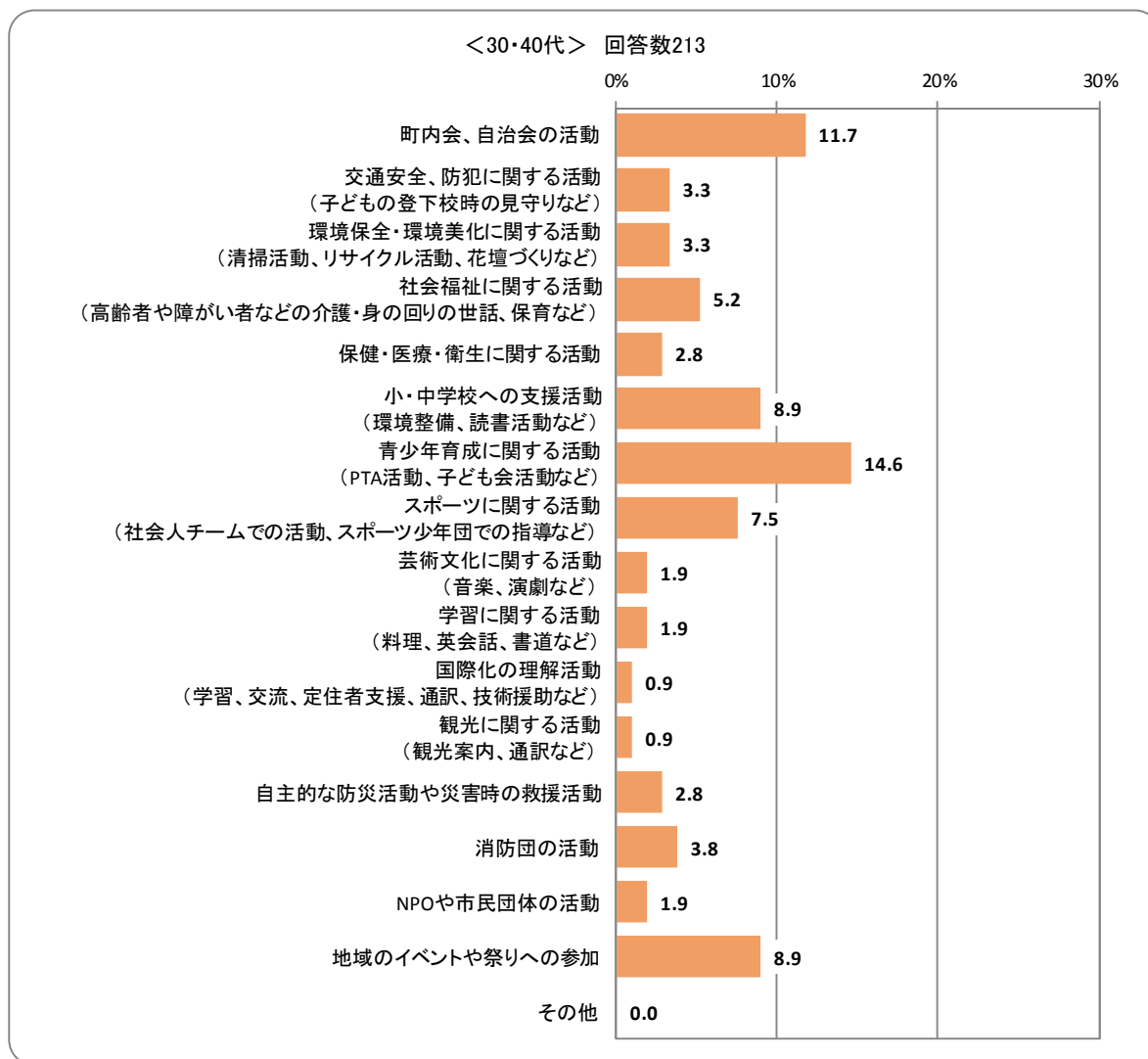
他の年齢層と比べて、イベントへの関心が高い傾向があることが窺える。



■30・40代の傾向

「青少年育成に関する活動（PTA活動、子ども会活動など）」が最も多く14.6%となった。次いで「町内会、自治会の活動」（11.7%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（8.9%）の順となっている。

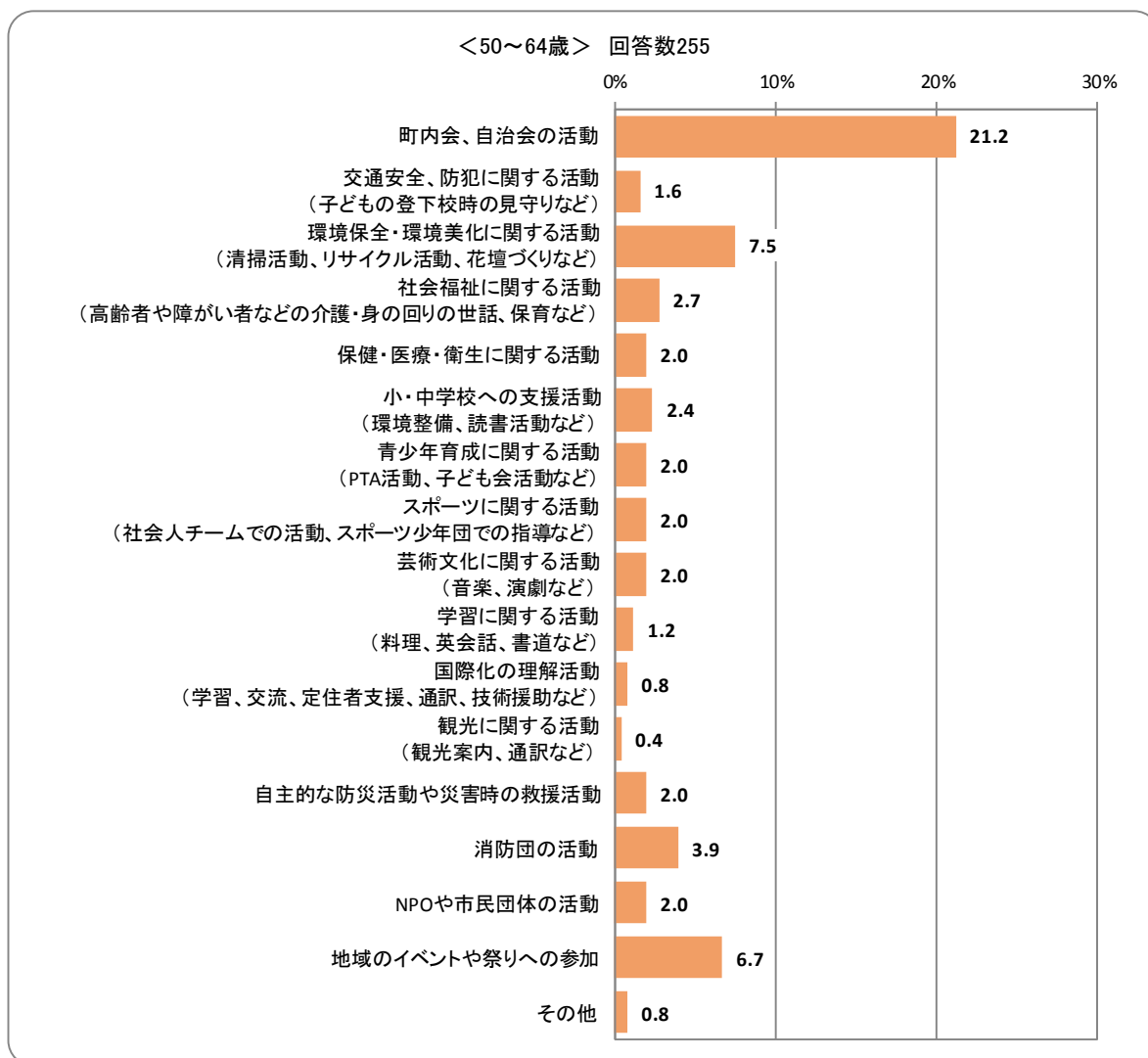
PTA、子どもに関する活動、地域の集まりやイベントへの参加率が高くなっているところに、子育て世代の特徴が出ているように思われる。



■50～64歳の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く21.2%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（7.5%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（6.7%）の順となっている。

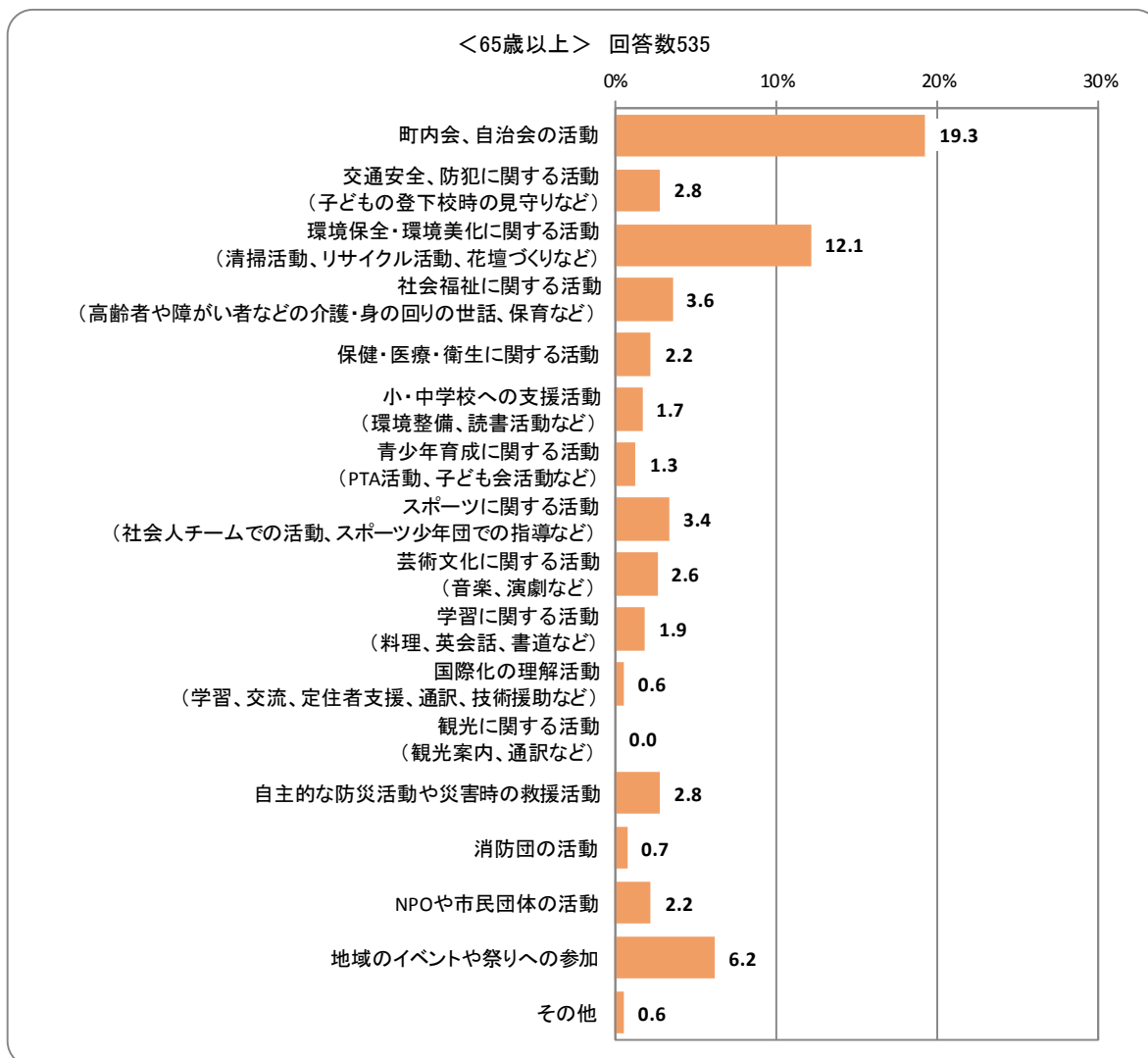
町内会や自治会の活動に多く参加しているという結果になった。



■65歳以上の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く19.3%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（12.1%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（6.2%）の順となっている。

全ての年代の中で最も社会活動への参加率が高くなっている。



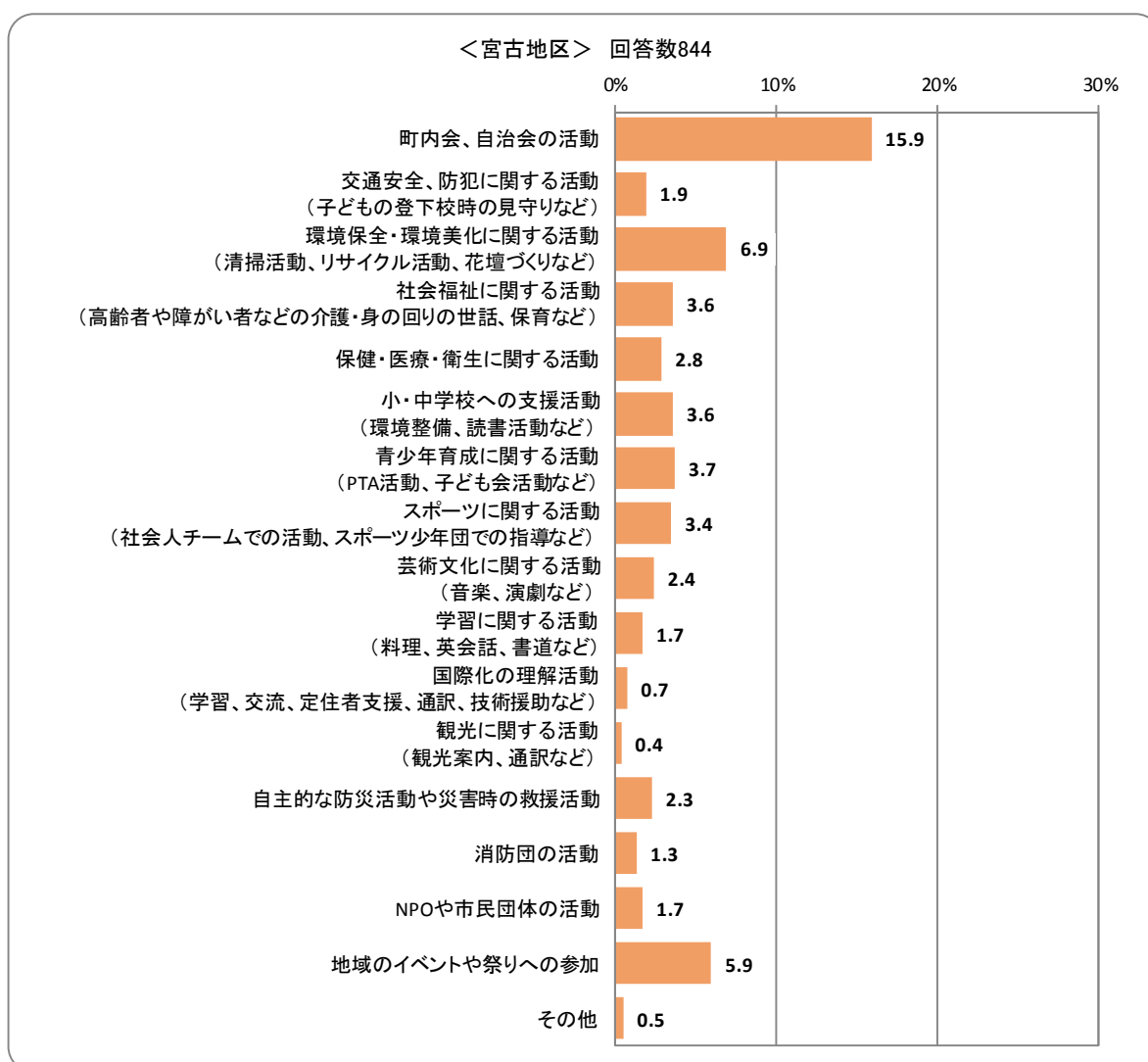
(6) 地区別にみた社会活動への参加状況

「新里地区」、「川井地区」における社会活動への参加が比較的活発

■宮古地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く 15.9%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(6.9%)、「地域のイベントや祭りへの参加」(5.9%)の順となっている。

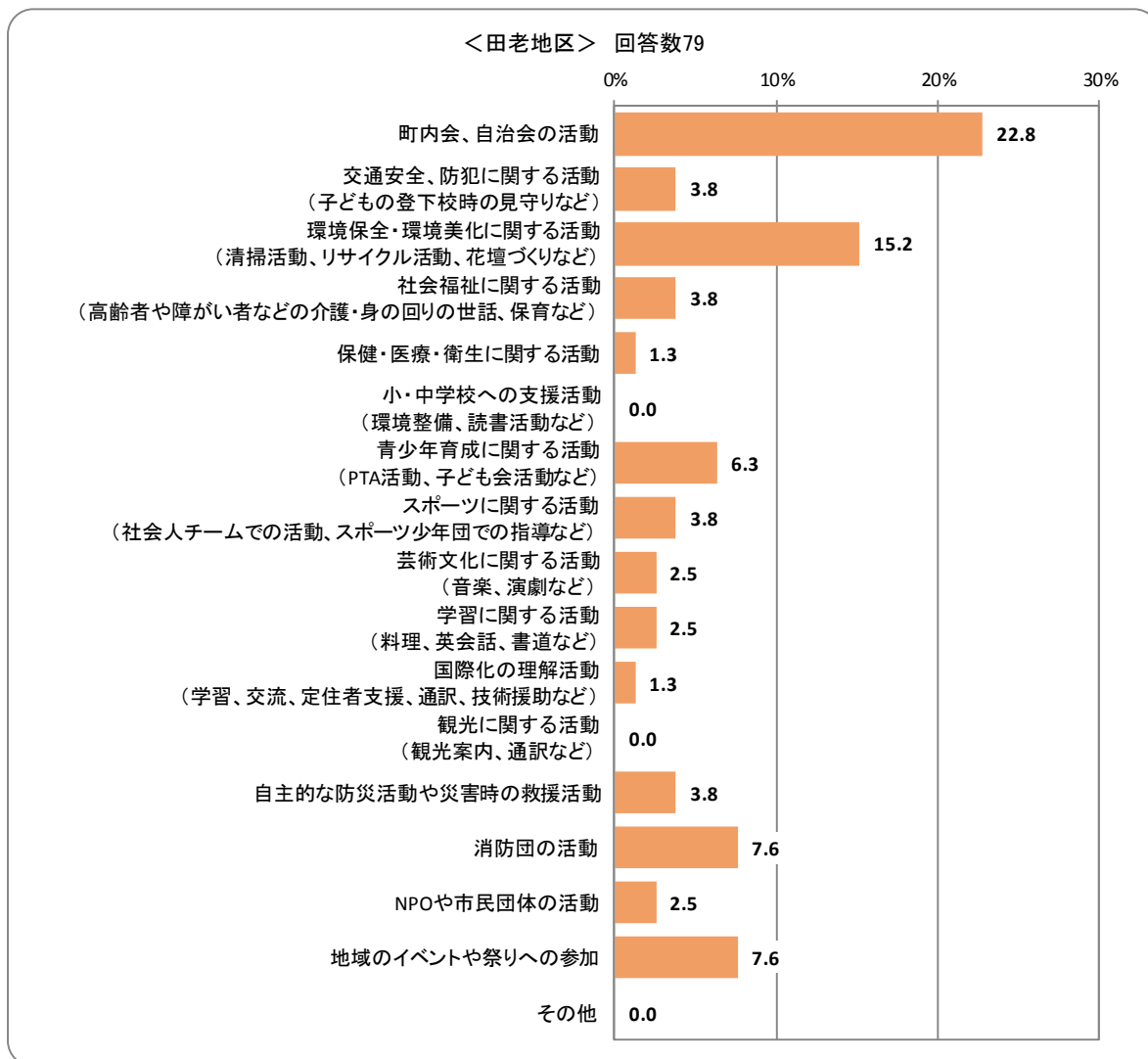
「町内会、自治会の活動」以外は、1割にも満たない参加状況となった。



■ 田老地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く 22.8%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（15.2%）、同数で「消防団の活動」「地域のイベントや祭りへの参加」（7.6%）の順となっている。

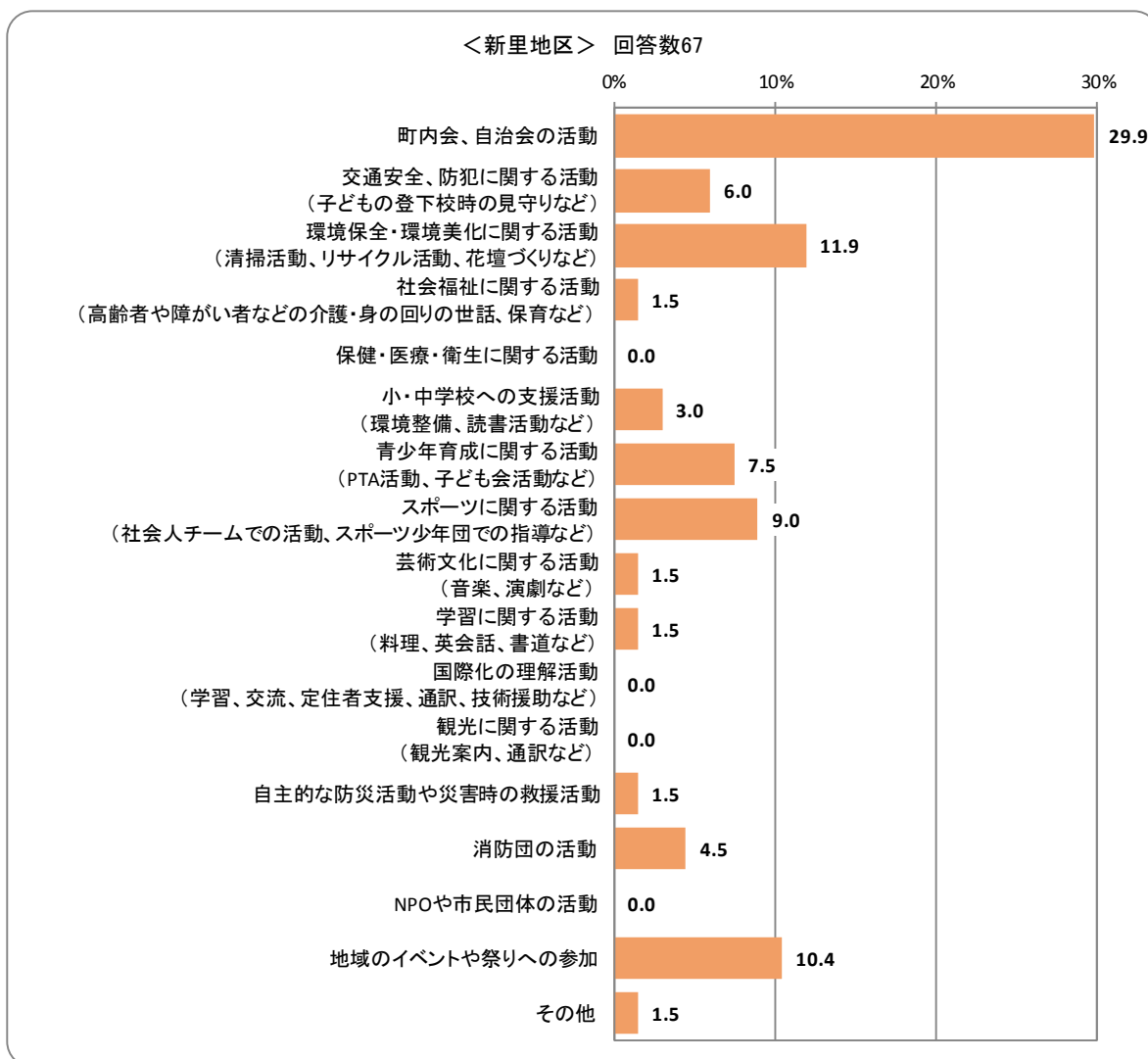
町内会や自治会の活動に多く参加しているという結果となった。



■新里地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く 29.9%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（11.9%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（10.4%）の順となっている。

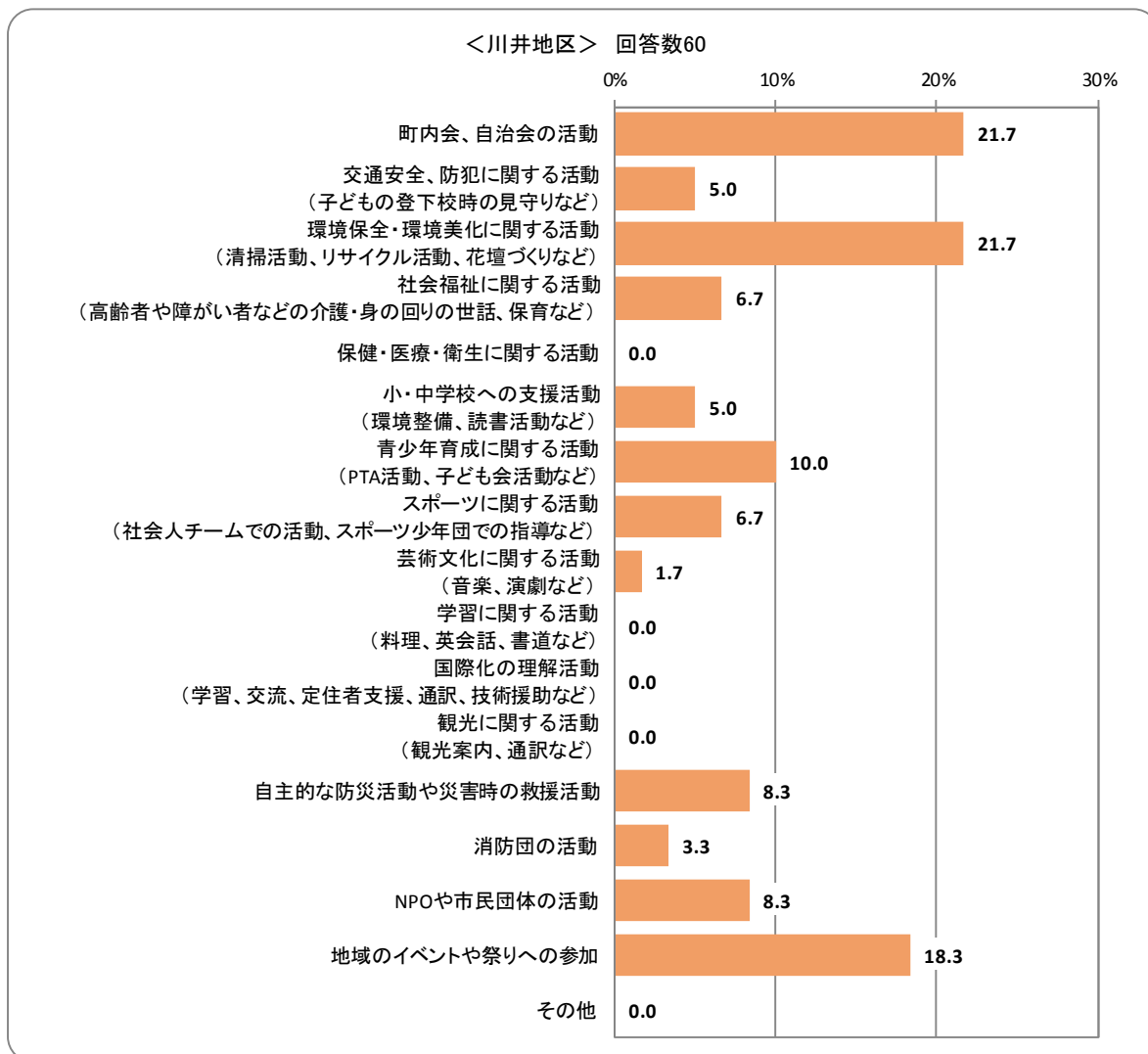
参加率が1割を超える活動が3つあり、社会活動への参加率は高めである。



■川井地区の傾向

同数で「町内会、自治会の活動」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」が最も多く21.7%となった。次いで「地域のイベントや祭りへの参加」（18.3%）、青少年育成に関する活動（PTA活動、子ども会活動など）（10.0%）の順となっている。

参加者が2割を超える活動が2つあり、社会活動への参加率は高めである。

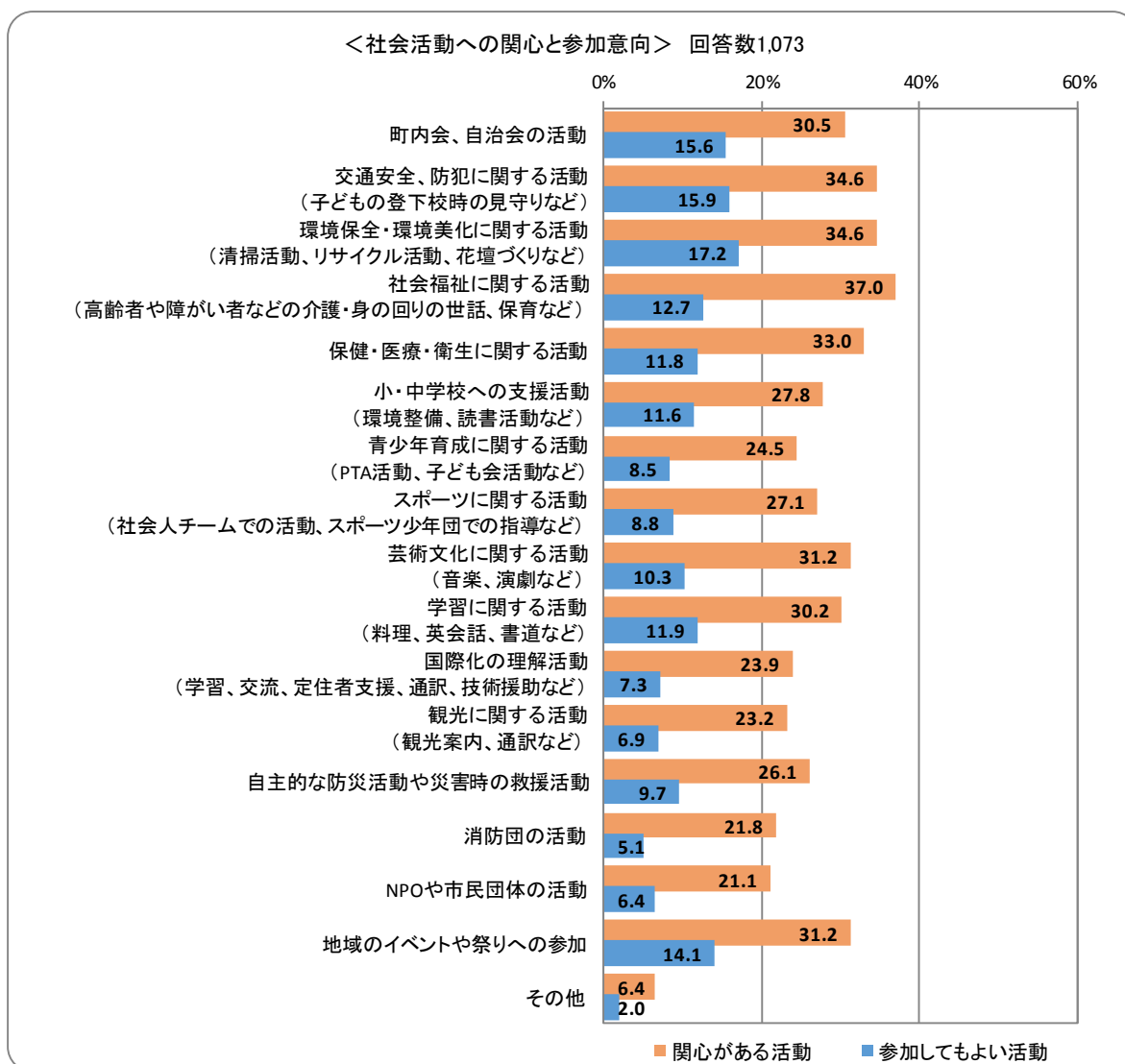


(7) 社会活動への関心と参加意向

社会活動への関心と参加意向は必ずしも比例していない

最も関心が高い活動は「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の37.0%となったが、参加してもよいと考える割合は12.7%と約半分になっている。このほかに関心が高い活動は、同数で「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（34.6%）、「保健・医療・衛生に関する活動」（33.0%）となったが、これらの活動のうち参加意向がもっとも高い活動は「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」の17.2%となっている。

その他、参加意向の高い活動は、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（15.9%）、「町内会、自治会の活動」（15.6%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（14.1%）となっている。



(8) 年代別にみた社会活動への関心と参加意向

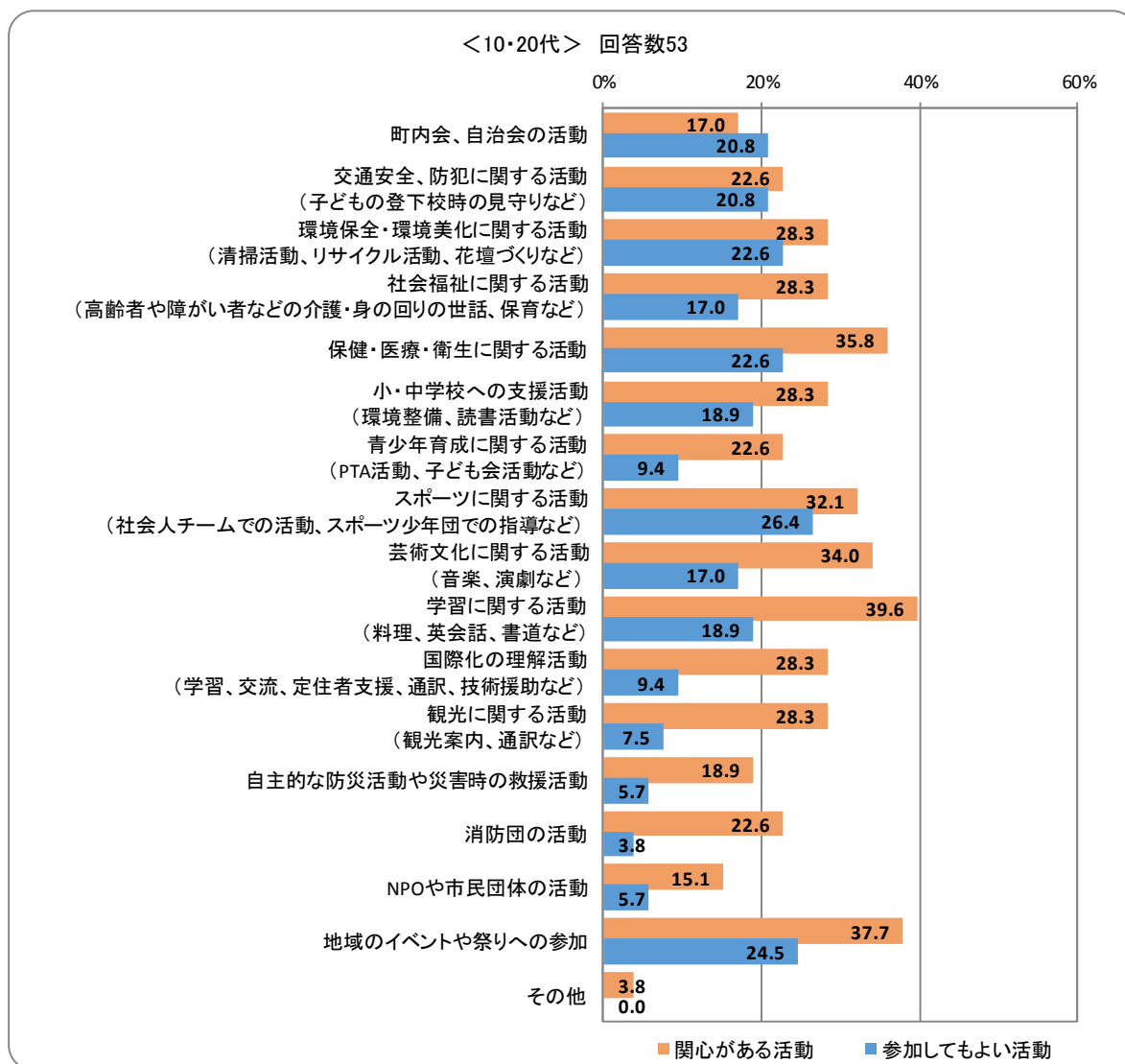
社会活動への関心が高いのは「65歳以上」だが、参加意向が高いのは「10・20代」

■10・20代の傾向

最も関心が高い活動は「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」の39.6%となった。次いで「地域のイベントや祭りへの参加」（37.7%）、「保健・医療・衛生に関する活動」（35.8%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「スポーツに関する活動（社会人チームでの活動、スポーツ少年団での指導など）」の26.4%となった。次いで「地域のイベントや祭りへの参加」（24.5%）、同数で「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「保健・医療・衛生に関する活動」（22.6%）の順となっている。

学習に関する活動への関心、参加意向ともに高めの傾向となっている。

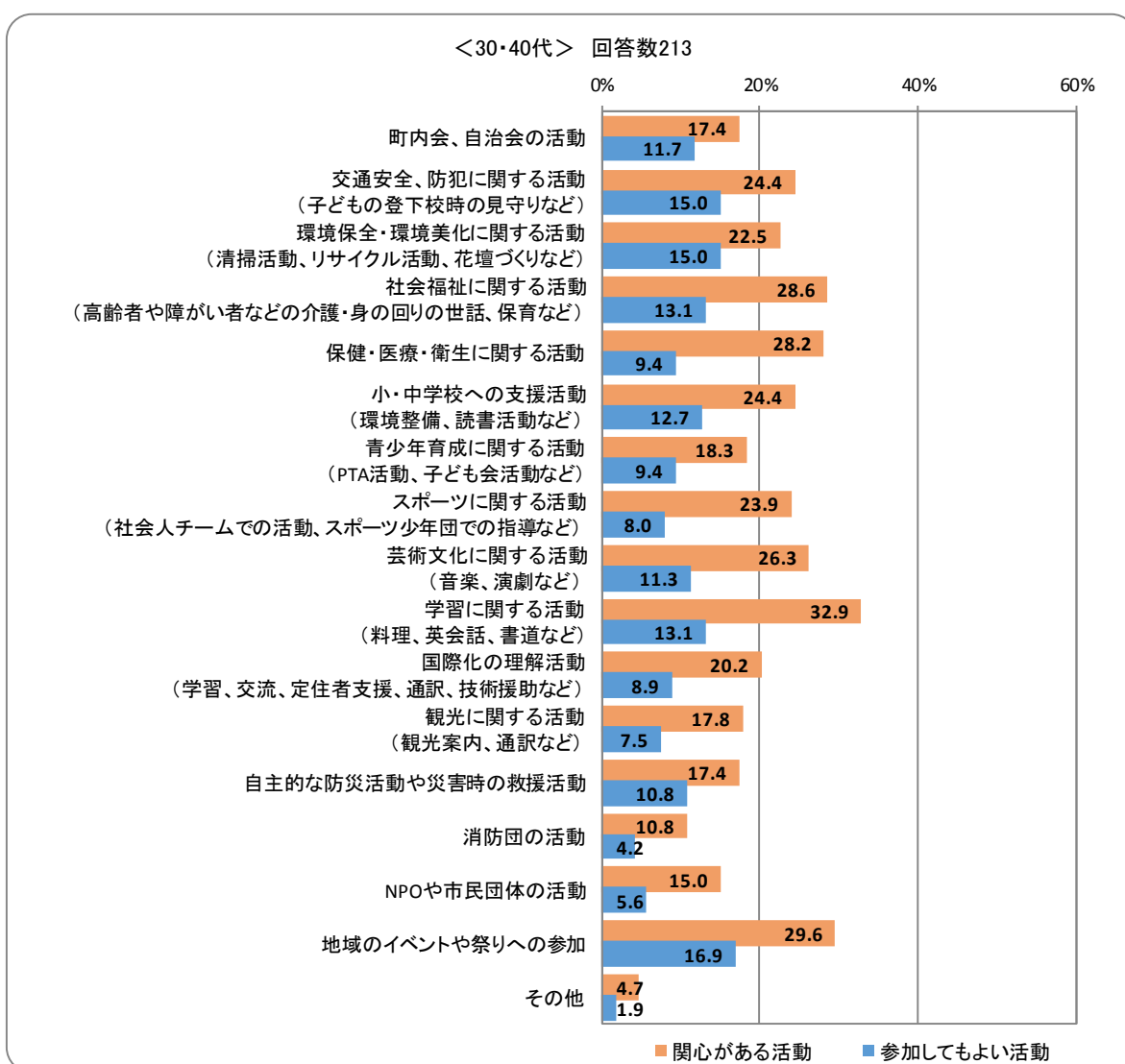


■30・40代の傾向

最も関心が高い活動は「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」の32.9%となった。次いで「地域のイベントや祭りへの参加」（29.6%）、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」（28.6%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「地域のイベントや祭りへの参加」の16.9%となった。次いで同数で「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（15.0%）、同数で「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」、「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」（13.1%）の順となっている。

殆どの活動に対して関心の高さが2割を超えているが、参加意向はあまり高くはない。全ての年代の中で最も社会活動への関心が低くなっている。

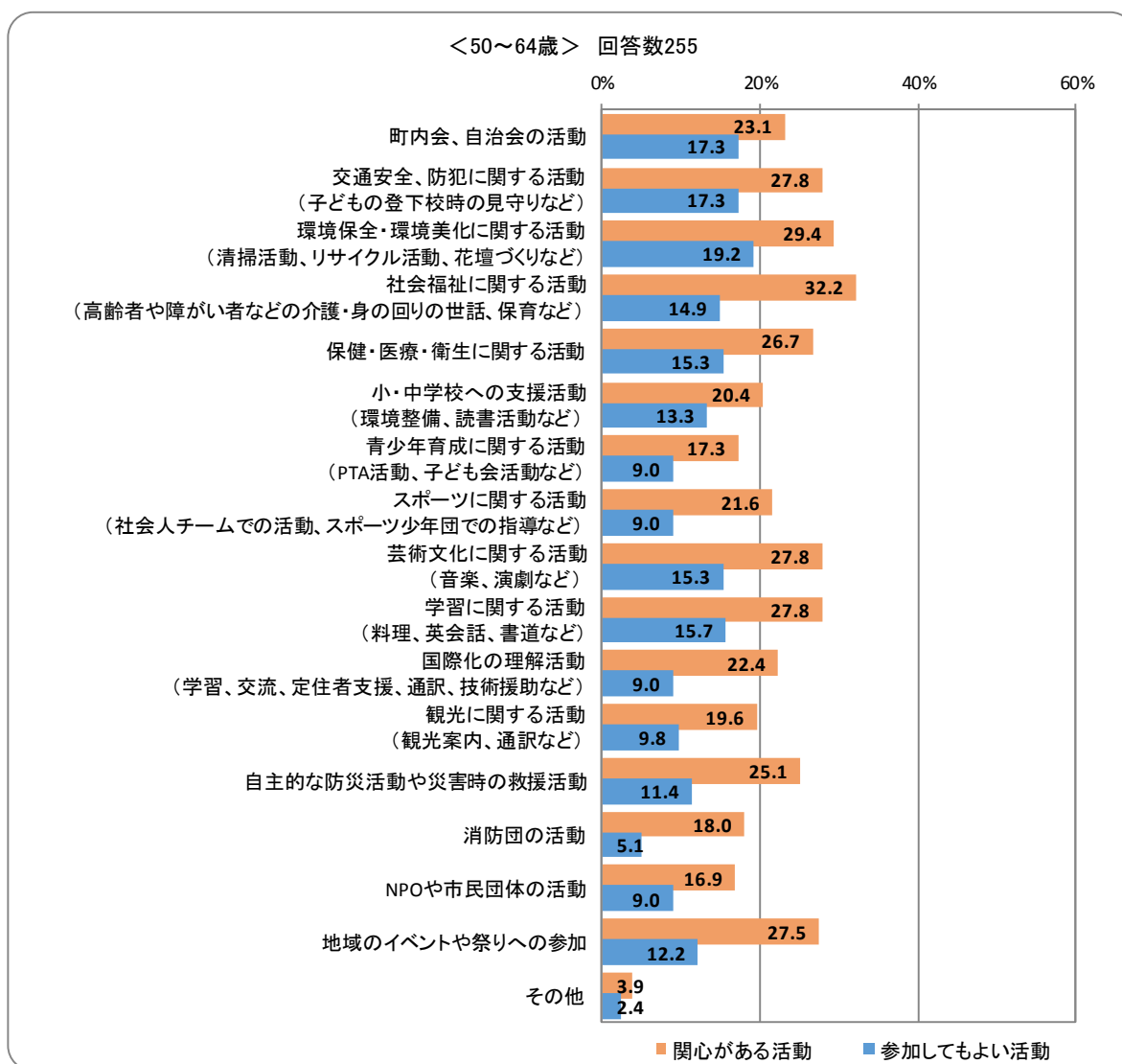


■50～64歳の傾向

最も関心が高い活動は「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の32.2%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（29.4%）、同数で「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」、「芸術文化に関する活動（音楽、演劇など）」、「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」（27.8%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「地域のイベントや祭りへの参加」の19.2%となった。次いで「町内会、自治会の活動」、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（17.3%）、「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」（15.7%）の順となっている。

多くの活動に対して関心の高さが2割を超えているが、参加意向はあまり高くはない。

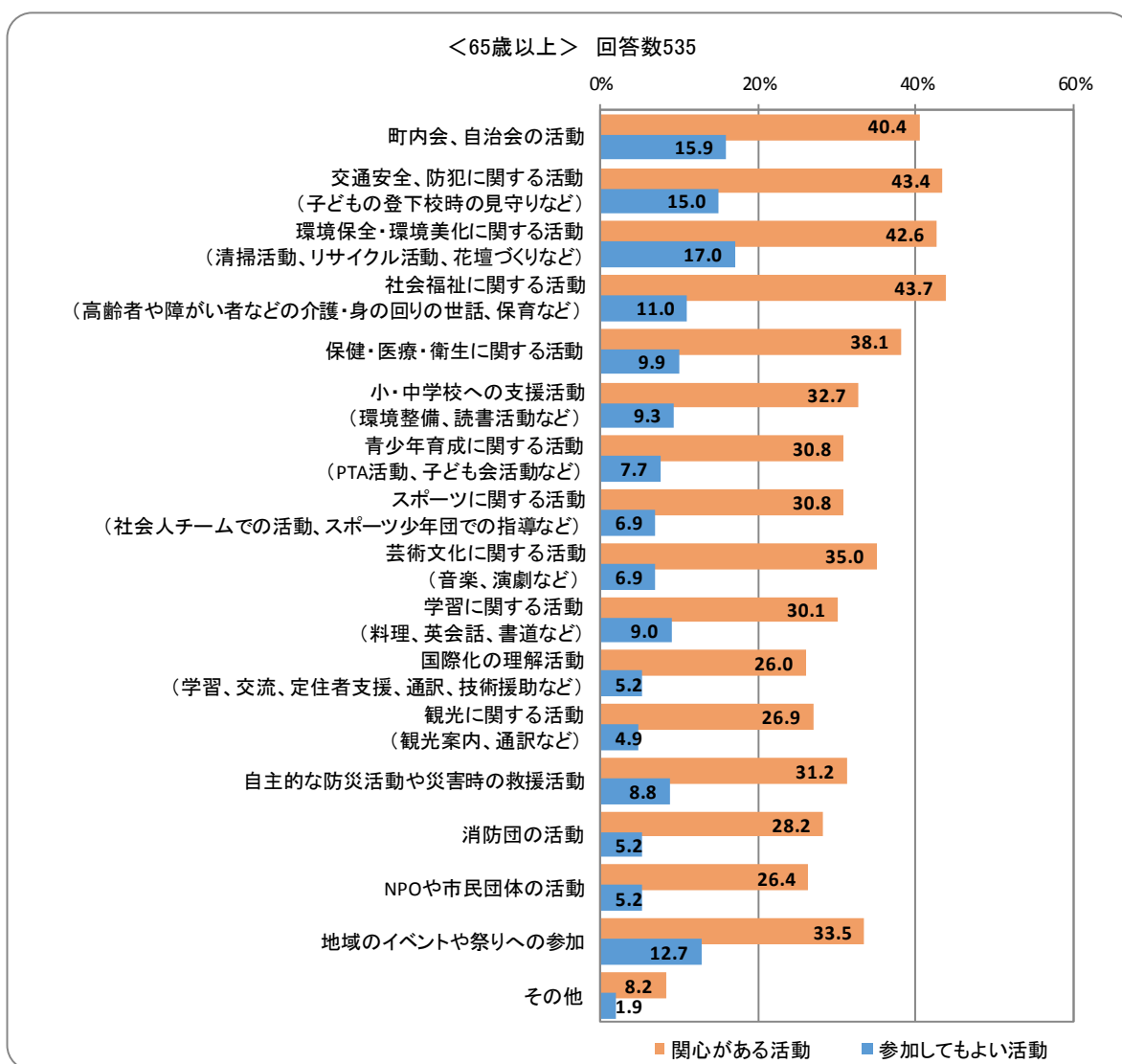


■65歳以上の傾向

最も関心が高い活動は「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の43.7%となった。次いで「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（43.4%）、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（42.6%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」の17.0%となった。次いで町内会、自治会の活動（15.9%）、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（15.0%）の順となっている。

社会活動への関心は高いものの、参加意向は低いことがわかる。



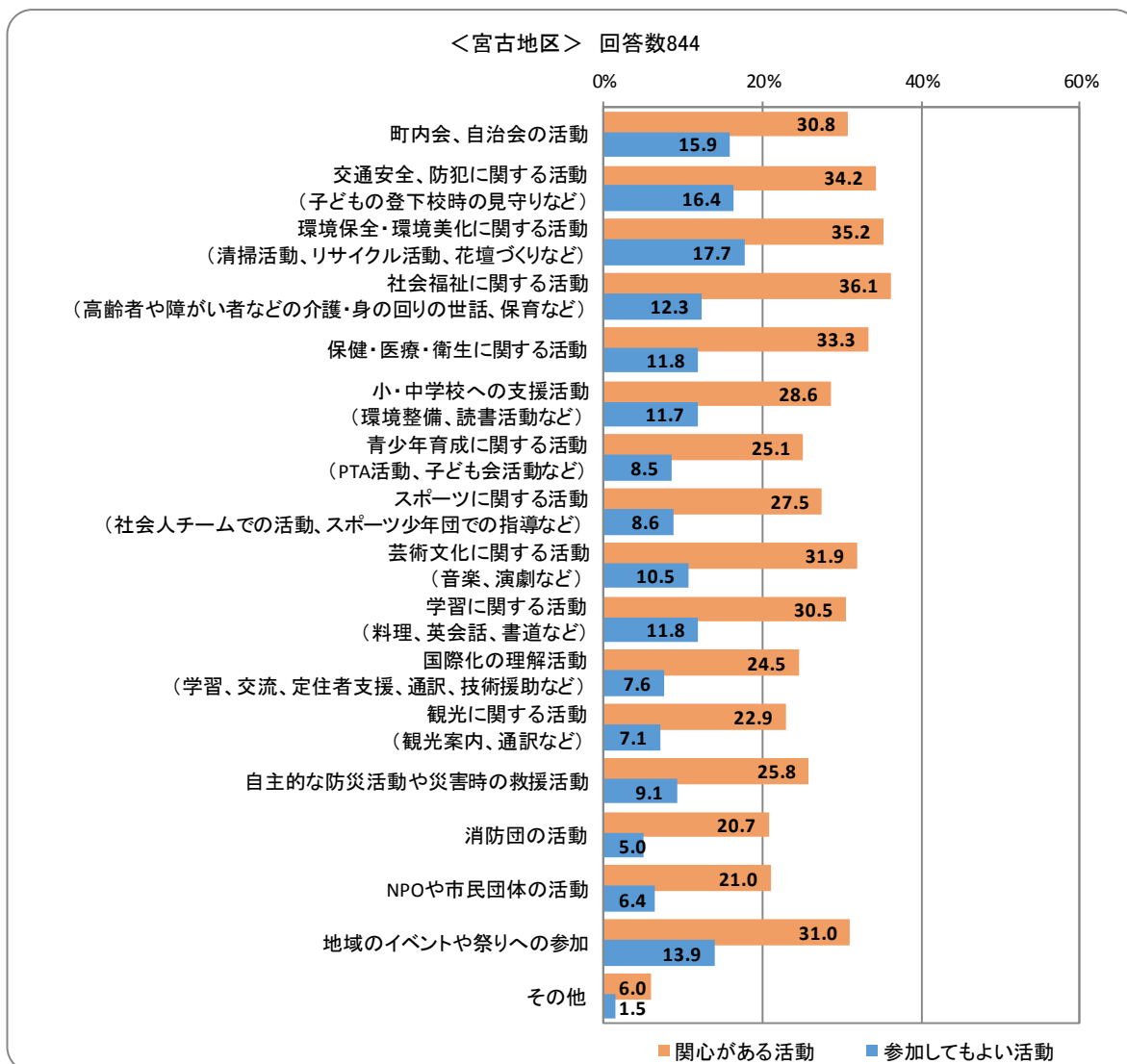
(9) 地区別にみた社会活動への関心と参加意向

社会活動への関心が高いのは「田老地区」、参加意向が高いのは「川井地区」

■宮古地区の傾向

最も関心が高い活動は「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の36.1%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（35.2%）、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（34.2%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」の17.7%となった。次いで「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（16.4%）、「町内会、自治会の活動」（15.9%）の順となっている。

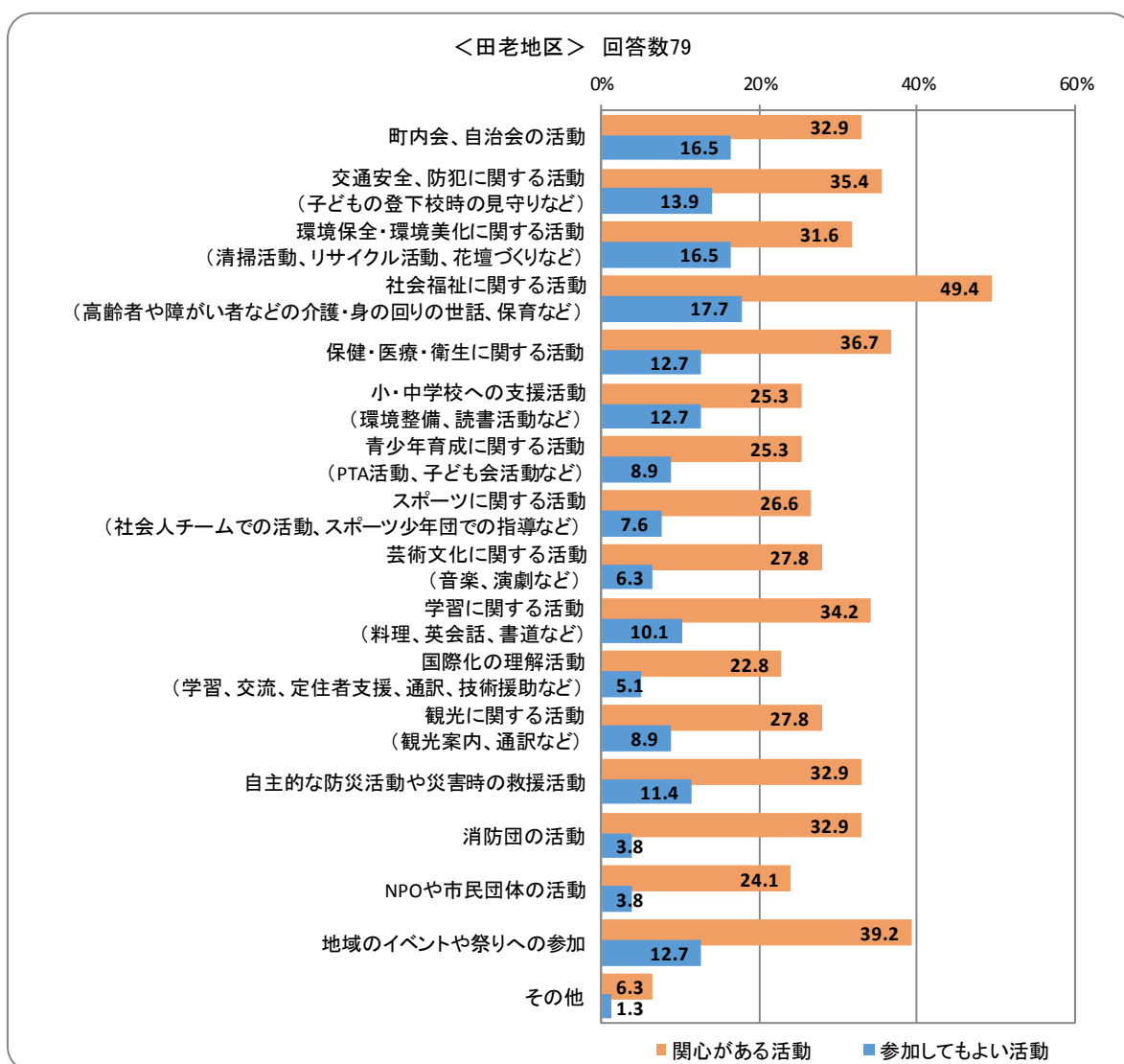


■ 田老地区の傾向

最も関心が高い活動は「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の49.4%となった。次いで「地域のイベントや祭りへの参加」（39.2%）、「保健・医療・衛生に関する活動」（36.7%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の17.7%となった。次いで同数で「町内会、自治会の活動」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（16.5%）、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（13.9%）の順となっている。

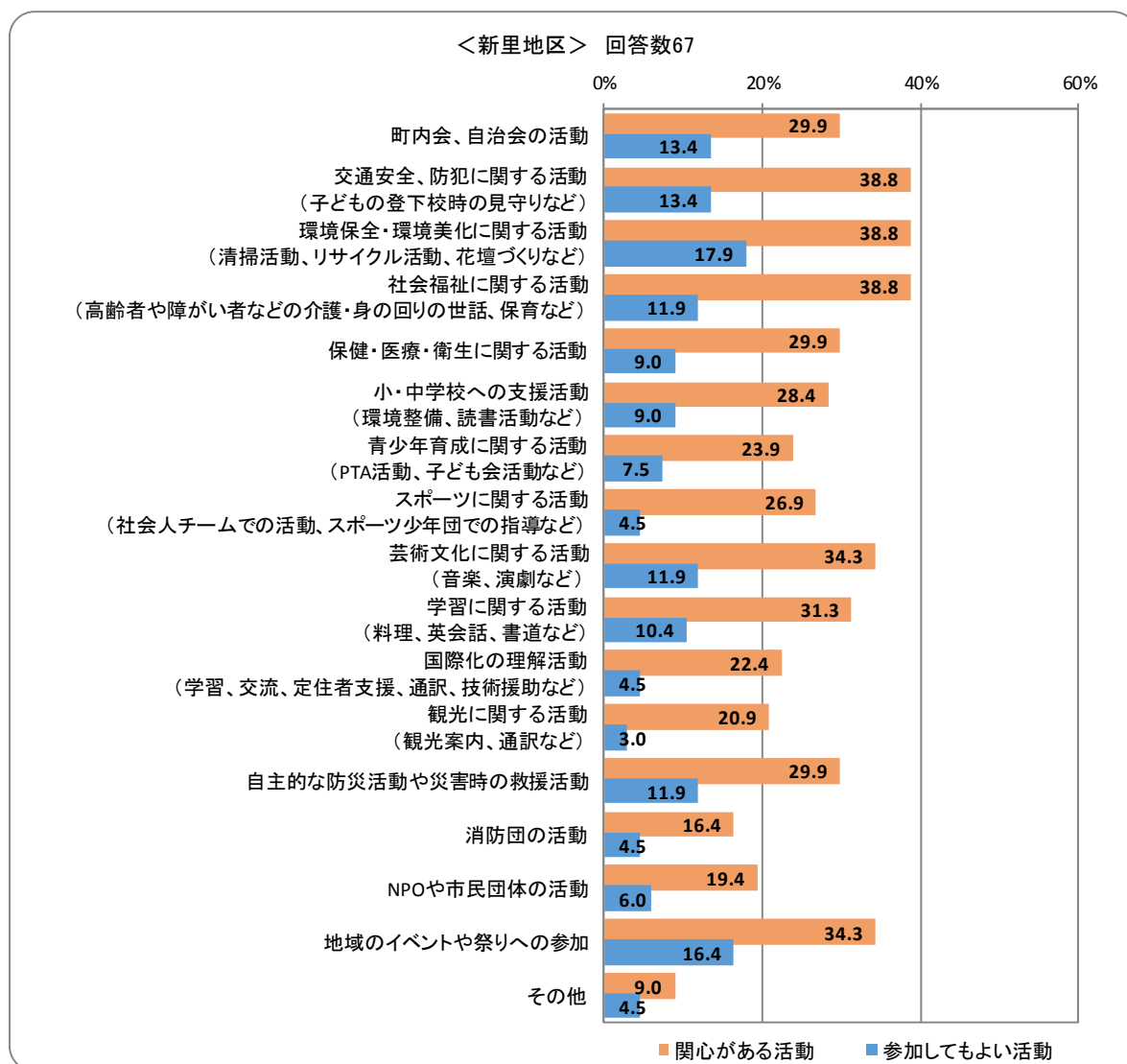
社会活動への関心が全ての地区の中で最も高く、参加意向も高くなっている。



■新里地区の傾向

最も関心が高い活動は同数で「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」で38.8%となった。次いで同数で「芸術文化に関する活動（音楽、演劇など）」、「地域のイベントや祭りへの参加」（34.3%）、「学習に関する活動（料理、英会話、書道）」（31.3%）の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」の17.9%となった。次いで「地域のイベントや祭りへの参加」（16.4%）、同数で「町内会、自治会の活動」、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（13.4%）の順となっている。

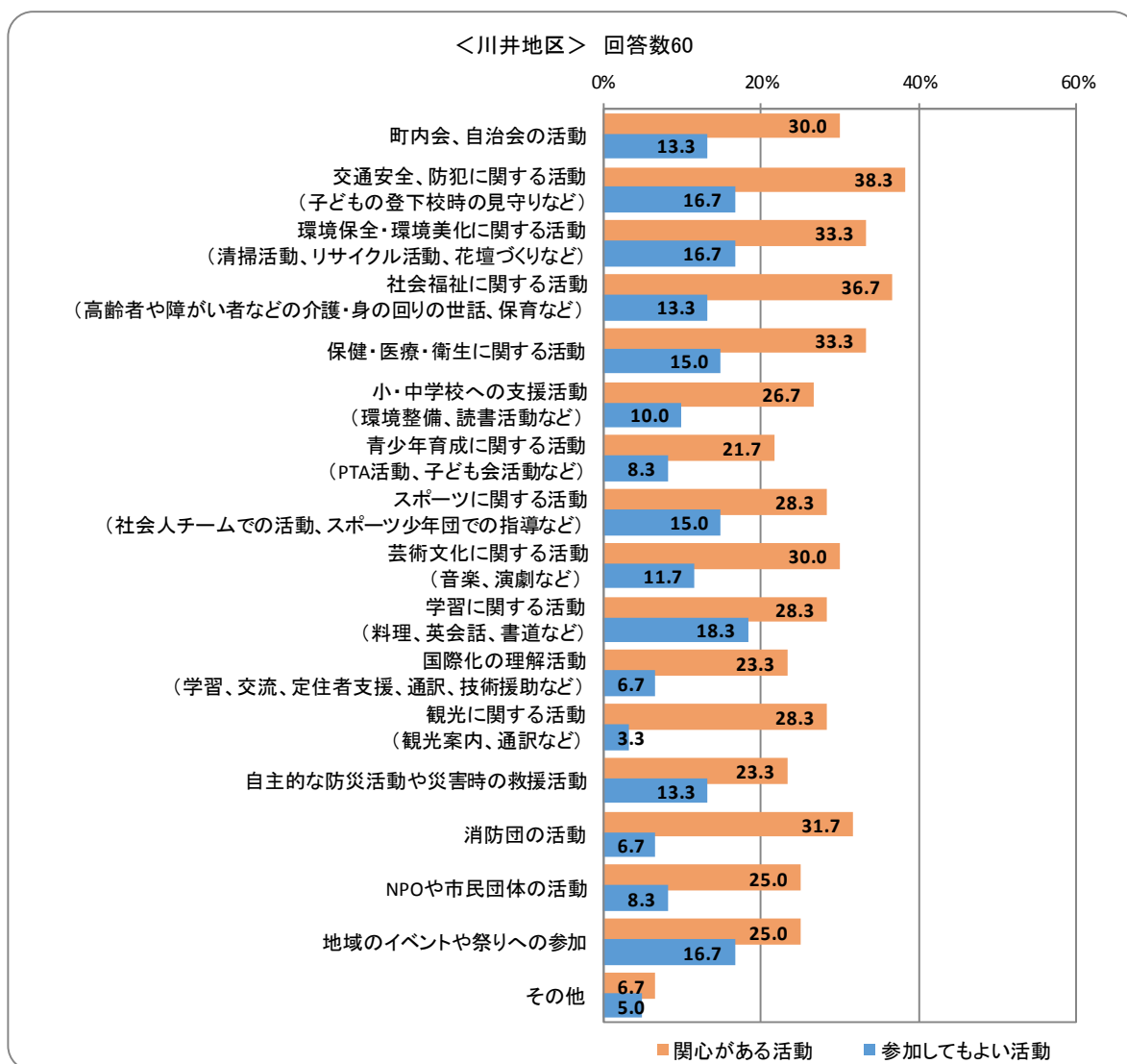


■川井地区の傾向

最も関心が高い活動は「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」(38.3%)となった。次いで「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」(36.7%)、同数で「環境保全、環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「保健・医療・衛生に関する活動」(33.3%)の順となっている。

最も参加意向の高い活動は「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」の18.3%となった。次いで、同数で「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「地域のイベントや祭りへの参加」(16.7%)の順となっている。

参加意向が全ての地区の中で最も高くなっている。

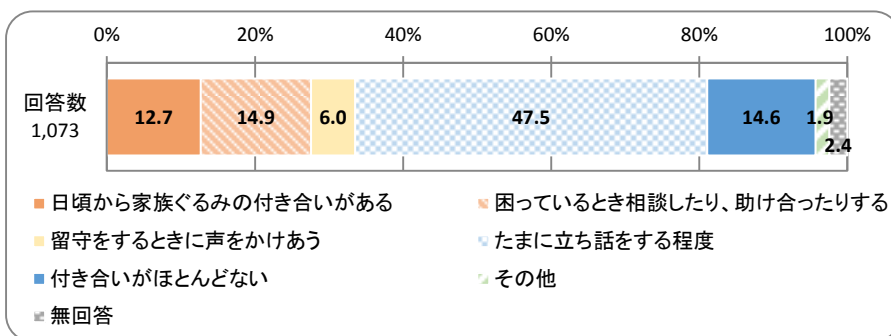


(10) 近所付き合いの状況

問6 あなたは普段近所の人とどのような付き合いをしていますか（○印は1つ）

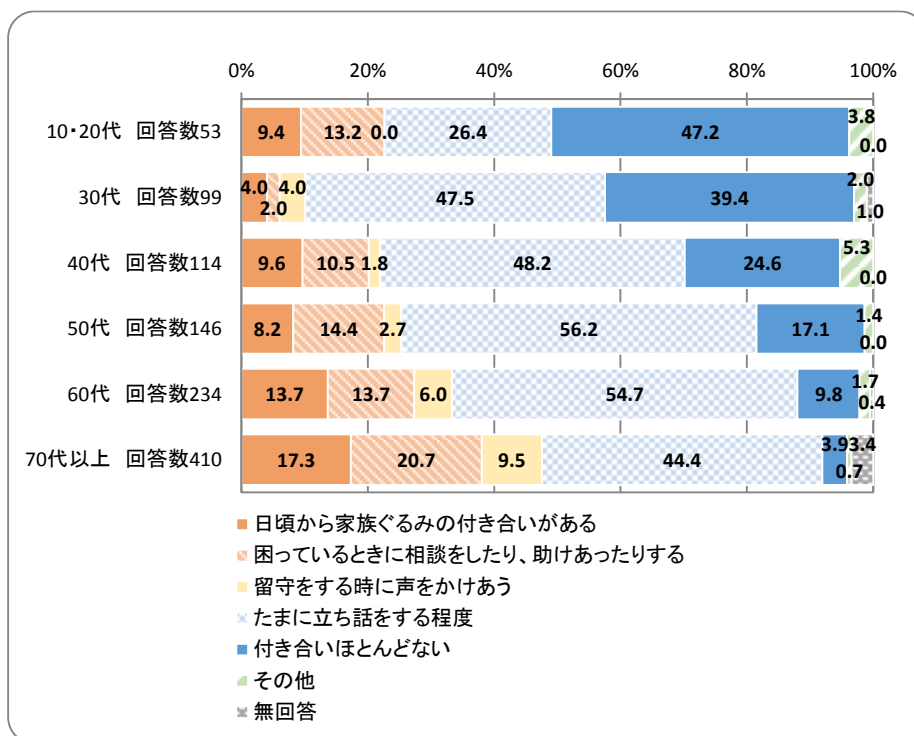
3割近くが日頃の近所付き合いがある

「たまに立ち話をする程度」が最も多く47.5%となった。次いで「困っているとき相談したり、助け合ったりする」（14.9%）、「付き合いがほとんどない」（14.6%）、「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」（12.7%）の順となっている。日頃の近所付き合いがあるのは27.6%（「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」（12.7%）と「困っているとき相談したり、助け合ったりする」（14.9%）の合計）となり、回答者の3割近くを占めている。



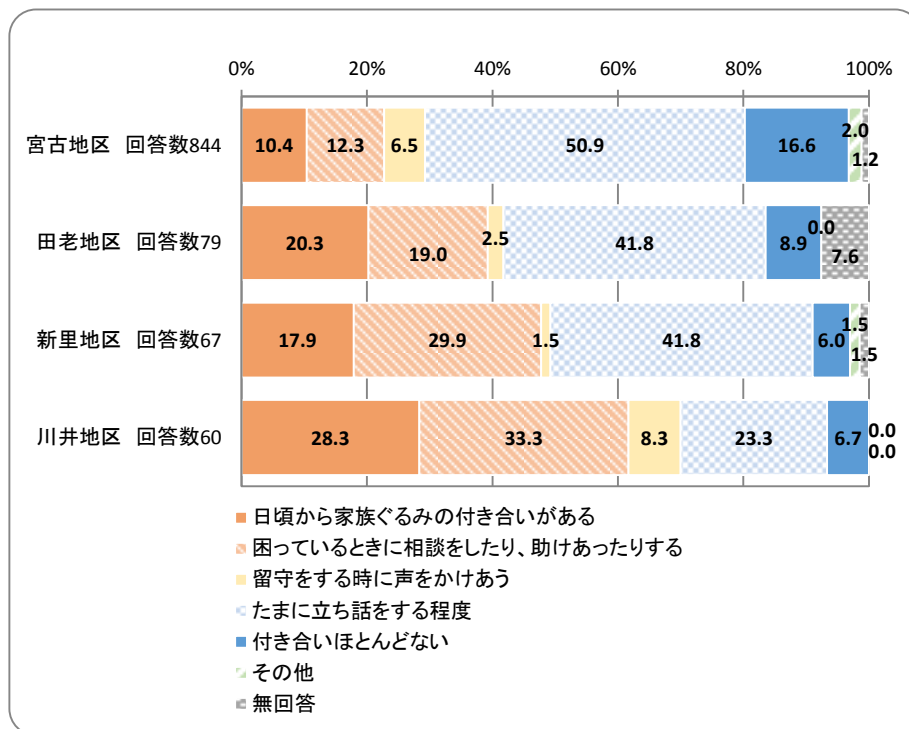
■年代別にみた日頃の近所付き合い

日頃の近所付き合いが最もあるのは「70代以上」で38.0%（「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」(17.3%)と「困っているとき相談したり、助け合ったりする」(20.7%)の合計）となった。一方で、付き合いが最もないのは「10・20代」で47.2%となり回答の5割近くを占めている。



■ 地区別にみた日頃の近所付き合い

日頃の近所付き合いが最もあるのは「川井地区」で 61.6%（「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」（28.3%）と「困っているとき相談したり、助け合ったりする」（33.3%）の合計）となった。一方、付き合いが最もないのは「宮古地区」で 16.0% となり回答の 2 割近くを占めている。

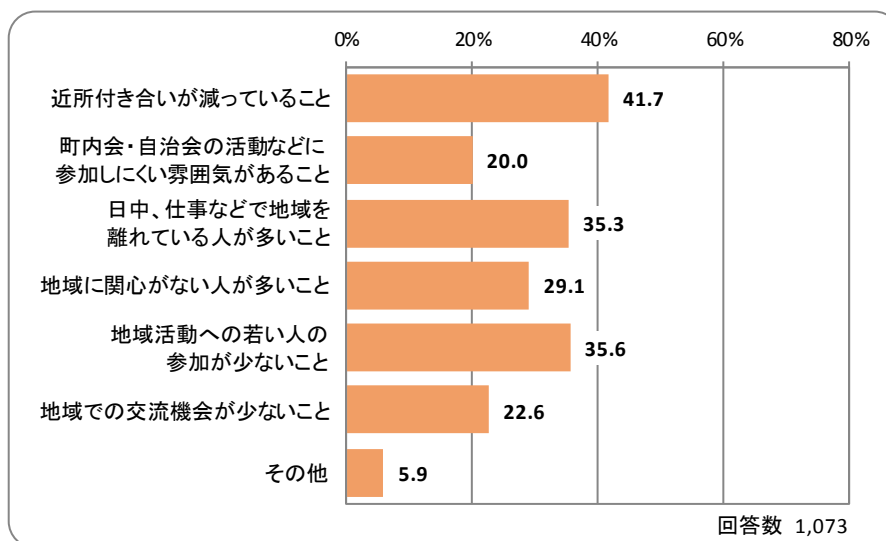


(11) 住みよい地域社会を実現していくうえでの問題点

問7 地域住民がお互いに力をあわせて、住みよい地域社会を実現していくうえで、問題になることは何だと思えますか。（〇印はいつでも）

住みよい地域社会実現への要は近所付き合い

住みよい地域社会を実現していくうえでの問題点として回答した項目は、「近所付き合いが減っていること」が最も多く41.7%となった。次いで「地域活動への若い人の参加が少ないこと」(35.6%)、「日中、仕事などで地域を離れている人が多いこと」(35.3%)の順となっている。

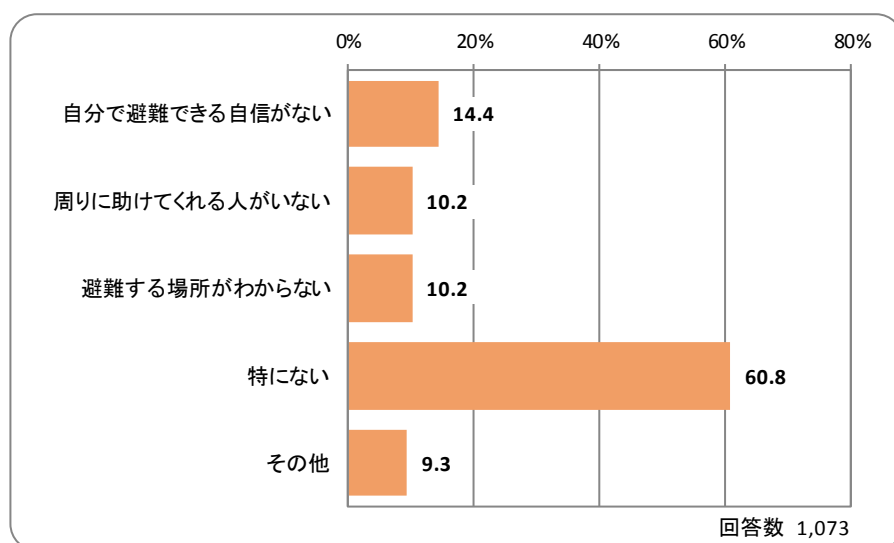


(12) 災害における避難時の心配事

問8 災害の避難の際に心配なことがありますか。(〇印はいつでも)

6割が心配事は「特になし」

災害における避難時の心配事として回答した項目は、「特になし」が最も多く60.8%となった。次いで「自分で避難できる自信がない」(14.4%)、同数で「周りに助けしてくれる人がいない」、「避難する場所がわからない」10.2%の順となっている。



3. 市政への関心と行政サービス

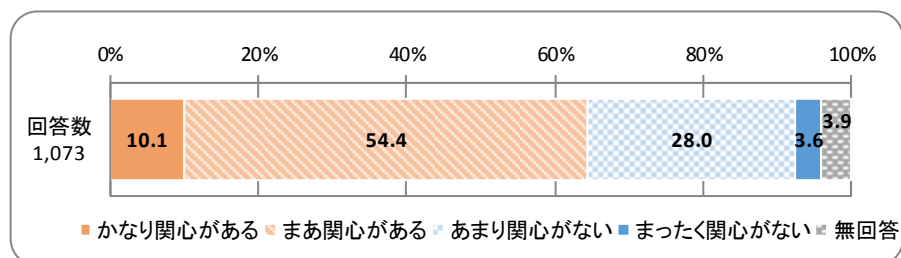
(1) 市政への関心度

問9 あなたは、市政に関して日頃から関心をお持ちですか。(○印は1つ)

6割以上が市政に関心がある

「関心がある」(「かなり関心がある」(10.1%)と「まあ関心がある」(54.4%)の合計)は64.5%となり、「関心がない」(「あまり関心がない」(28.0%)と「まったく関心がない」(3.6%)の合計)の31.6%を32.9ポイント上回った。

回答者の6割以上が市政になんらかの関心を持っていることがわかる。

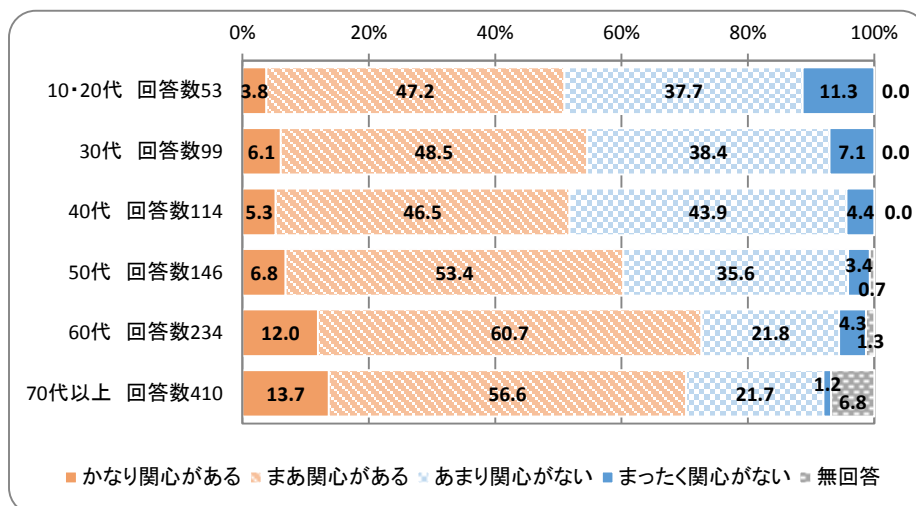


■年代別にみた市政への関心

市政への関心が最も高い年代は「60代」で72.7% (「かなり関心がある」(12.0%)と「まあ関心がある」(60.7%)の合計)となった。

一方、市政への関心が最も低い年代は「10・20代」で49.0% (「あまり関心がない」(37.7%)と「まったく関心がない」(11.3%)の合計)となっている。

年代が低いほど市政への関心も低く、年代と市政への関心の高さが比例する傾向にある。

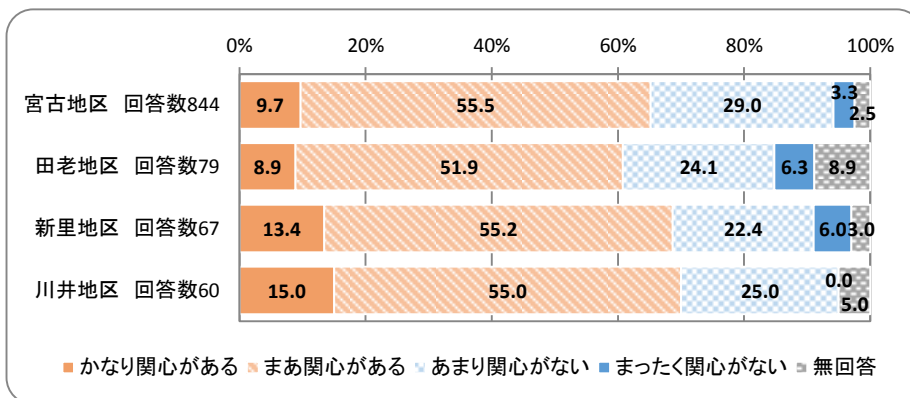


■ 地区別にみた市政への関心

市政への関心が最も高い地区は「川井地区」で70.0%（「かなり関心がある」（15.0%）と「まあ関心がある」（55.0%）の合計）となった。

一方、市政への関心が最も低い地区は「宮古地区」で32.3%（「あまり関心がない」（29.0%）と「まったく関心がない」（3.3%）の合計）となっている。

地区によって市政への関心の高さにばらつきがみられる。

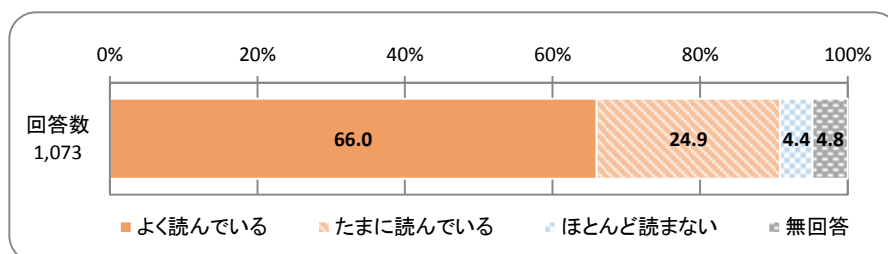


(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況

問10 あなたは、市が発行している広報紙「広報みやこ」をどの程度お読みですか。
(○印は1つ)

9割が広報紙「広報みやこ」を利用している

「読んでいる」（「よく読んでいる」（66.0%）と「たまに読んでいる」（24.9%）の合計）は、90.9%となり、回答者の9割が広報を利用していることがわかる。

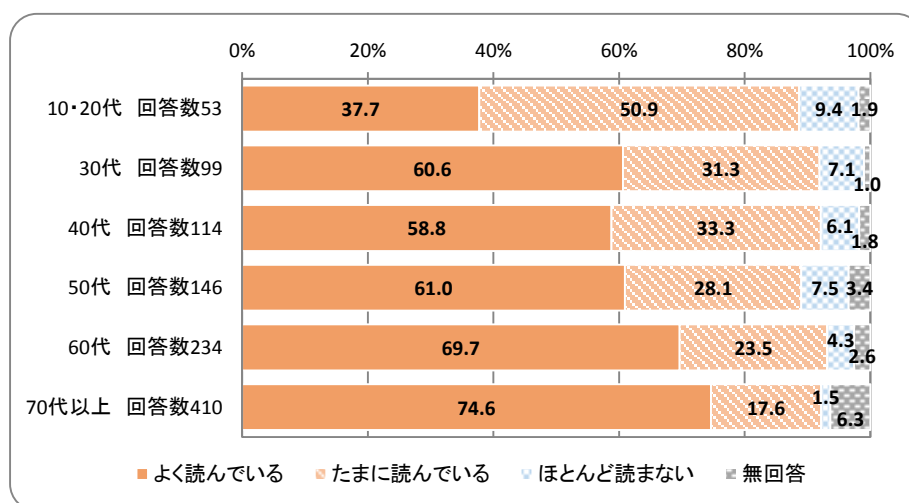


■年代別にみた広報紙「広報みやこ」の利用状況

利用率が最も高い年代は「60代」で93.2%（「よく読んでいる」（69.7%）と「たまに読んでいる」（23.5%）の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は「10・20代」で「ほとんど読まない」（9.4%）となっている。

「10・20代」、「50代」を除く全ての年代で利用率が9割を超えていることから、広報が幅広い年代の市民に利用されていることがわかる。

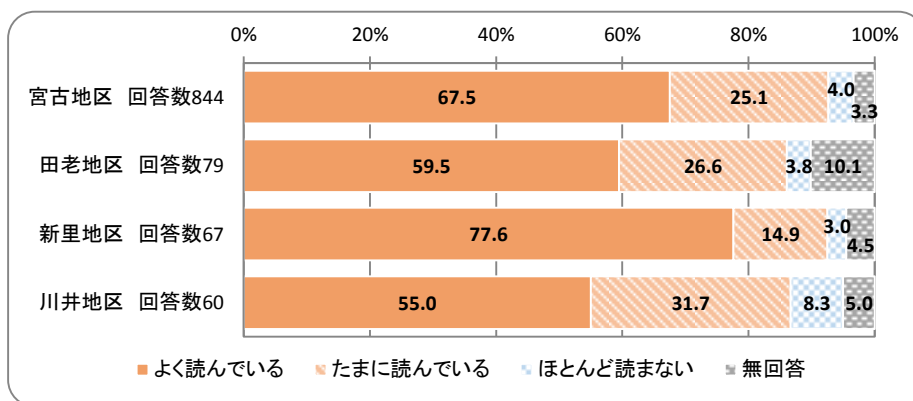


■地区別にみた「広報みやこ」の利用状況

利用率が最も高い地区は「宮古地区」で92.6%（「よく読んでいる」（67.5%）と「たまに読んでいる」（25.1%）の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は「川井地区」で「ほとんど読まない」（8.3%）となっている。

利用率が最も低い「川井地区」においても利用率は8割を超えており、広報がどの地区においても利用されていることがわかる。



(3) 広報紙の内容についての意見

問 10-1 広報紙の内容について、ご意見・ご感想などがありましたらお書きください。

イベント情報を望む声が多い

■広報紙の内容について寄せられた意見・感想など

- ・ イベント情報をもう少し詳しく載せてほしい
- ・ 現在の段階での復興の状況を知らせてほしい
- ・ 市民文化会館の1ヶ月の催事予定を掲載してほしい
- ・ 体育館や公民館でやっているスポーツ、サークルの情報がほしい
- ・ 文字をもう少し大きく、みやすくしてほしい
- ・ 月に1回でよいと思う
- ・ 毎回のイベント情報や情報掲示板を楽しみにしている
- ・ 市長のひとりごとを毎回お願いしたい
- ・ 市民の声を聞いたりするコーナーなどがあればいい

以上のような内容の意見が多かった。

(4) 行政サービスについての感想

問 11 あなたは、現在の市の行政サービスについて、どのような感想をお持ちですか。
あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1ずつ)

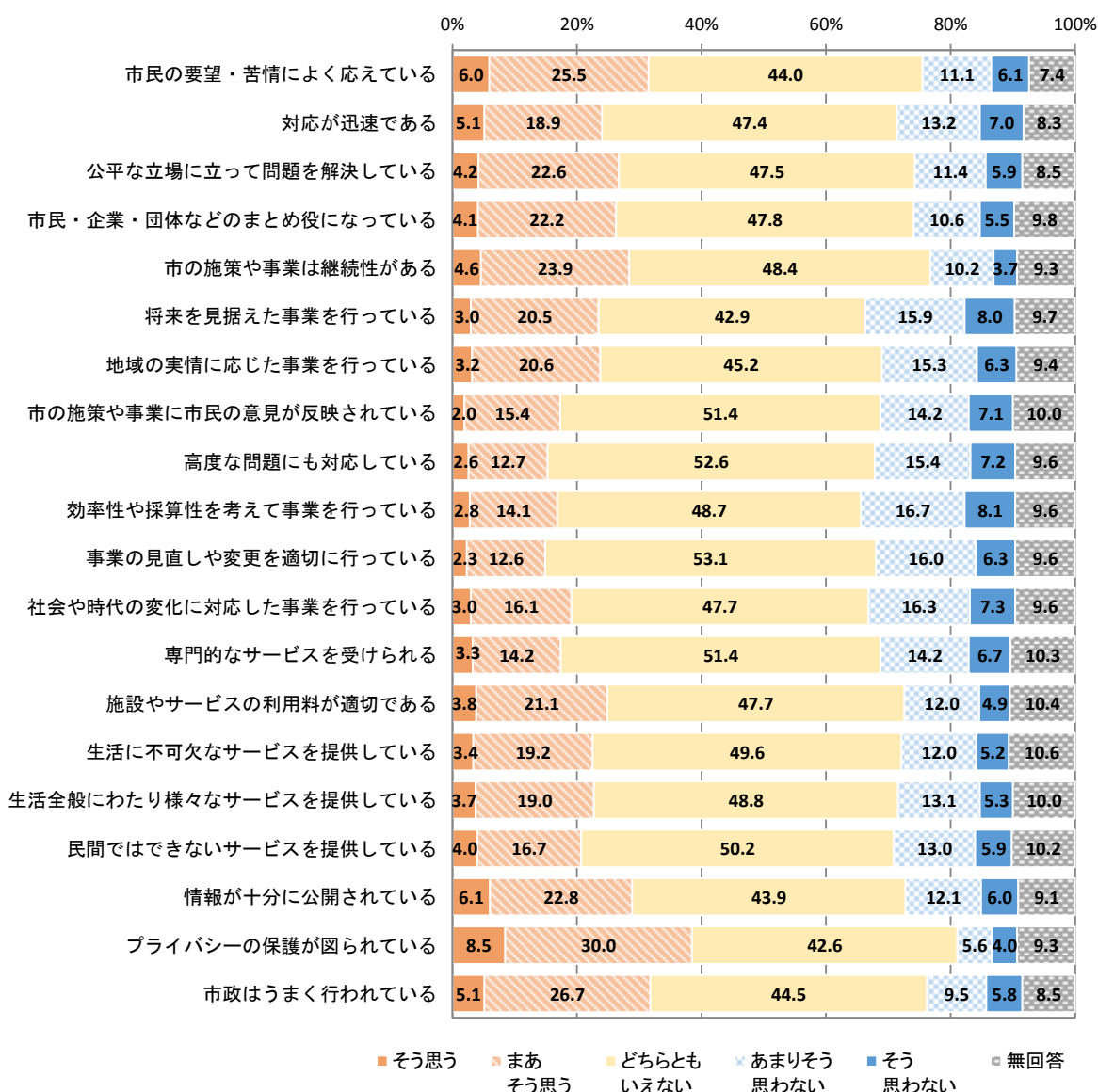
プライバシーの保護が図られており、市政はうまくいっているとの感想が多い

市が行っている主な行政サービス 20 項目に対する感想を、5 段階評価の形式で聞いた。

比較的良好と評価されている(「そう思う」と「まあそう思う」)の合計) 行政サービスは、「プライバシーの保護が図られている」で 38.5% となった。次いで「市政はうまく行われている」(31.8%)、「市民の要望・苦情によく応えている」(31.5%) の順となっている。

全体的には「どちらともいえない」の占める割合が高いものの、「あまりそう思わない」や「そう思わない」といった回答も多かった。

＜市の行政サービスについての感想＞ 回答数1,073

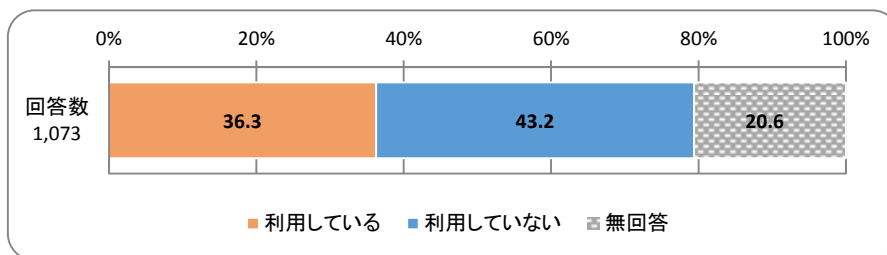


(5) インターネットの利用状況

問12 あなたは、ご自宅や職場などでインターネットを利用されていますか。(○印は1つ)

4割近くがインターネットを利用している

「利用していない」(43.2%)が「利用している」(36.3%)を6.9ポイント上回った。

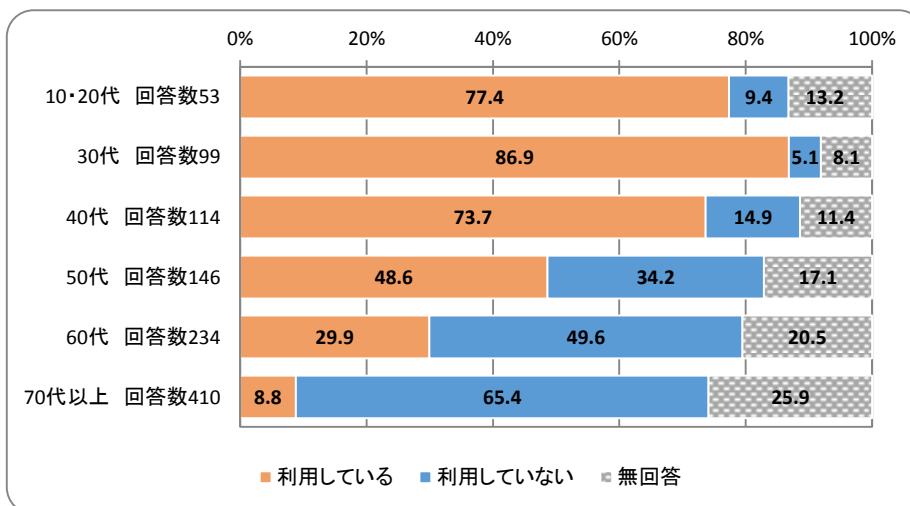


■年代別にみたインターネットの利用状況

利用率が最も高い年代は「30代」で86.9%となった。

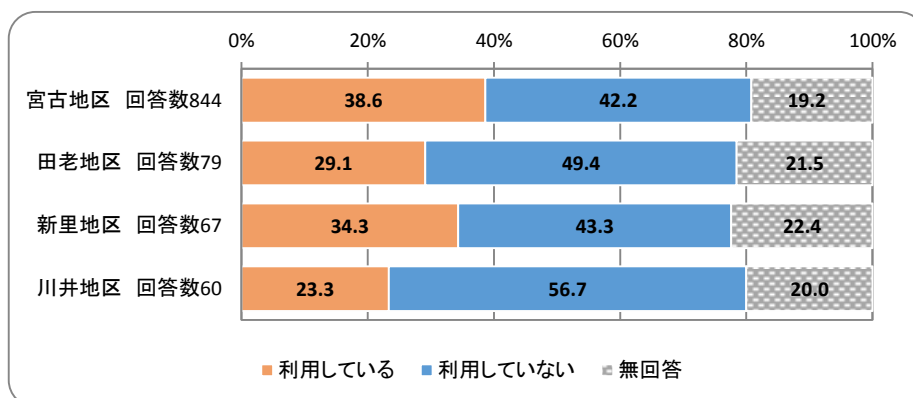
一方、利用率が最も低い年代は「70代以上」で8.8%となっている。

若い年代ほどインターネットの利用率が高く、年代が上がるにつれてインターネットの利用率は低くなっていく傾向にある。



■地区別にみたインターネットの利用状況

利用率が最も高い地区は「宮古地区」で38.6%となった。
 一方、利用率が最も低い地区は「川井地区」で23.3%となっている。

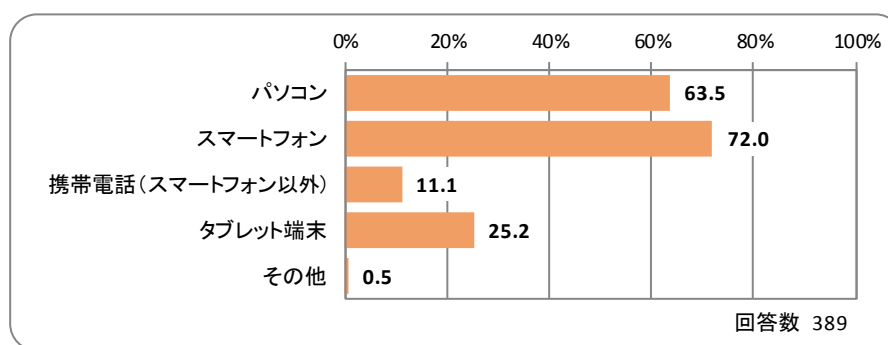


(6) インターネットの利用手段

問 12-1 どのような手段で利用されていますか。(○印はいくつでも)

インターネットの利用手段はスマートフォン、パソコン

「スマートフォン」が最も多く72.0%となった。次いで「パソコン」(63.5%)となっている。

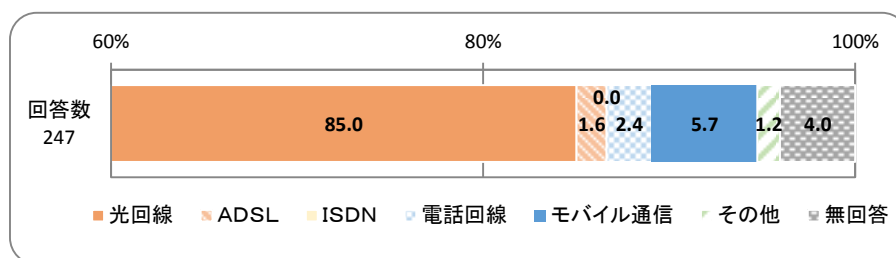


(7) インターネットの利用環境

問 12-1-1 パソコンと答えられた方にお伺いします。
インターネット接続は何を利用していますか。(○印は1つ)

8割がインターネット接続は光回線

「光回線」が最も多く 85.0%となった。次いで「モバイル通信」(5.7%)「電話回線」(2.4%)、の順となっている。

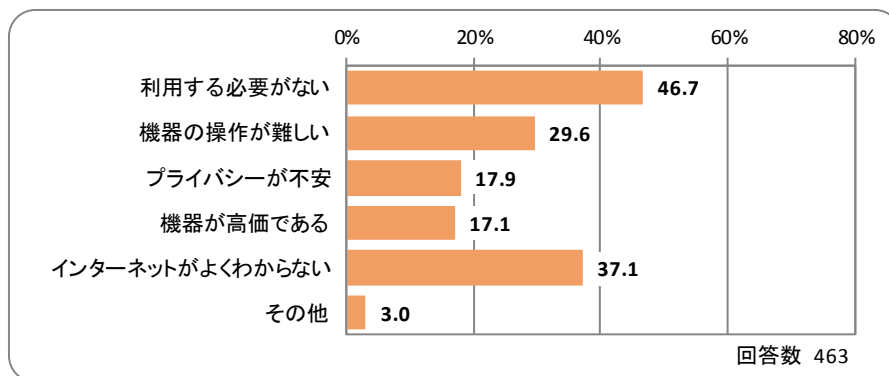


(8) インターネットを利用しない理由

問 12-2 利用されていない理由はなんですか。(○印はいくつでも)

利用しないと回答した方の4割が利用する必要性を感じていない

「利用する必要がない」が最も多く 46.7%となった。次いで「インターネットがよくわからない」(37.1%)、「機器の操作が難しい」(29.6%)の順となっている。

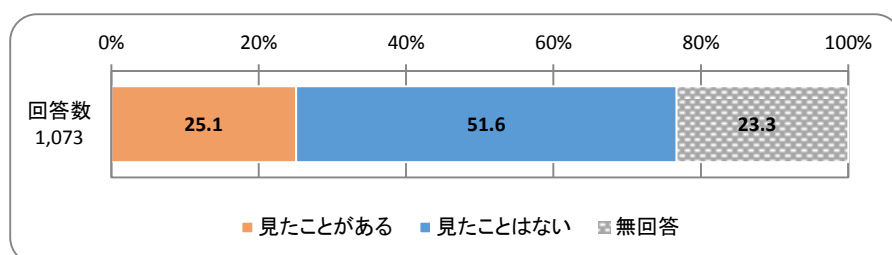


(9) 市のホームページの利用状況

問13 あなたは、市のホームページを見たことがありますか。(○印は1つ)

5割が市のホームページを利用していない

「見たことはない」(51.6%)が「見たことがある」(25.1%)を26.5ポイント上回り、回答者の5割が利用していないことがわかる。

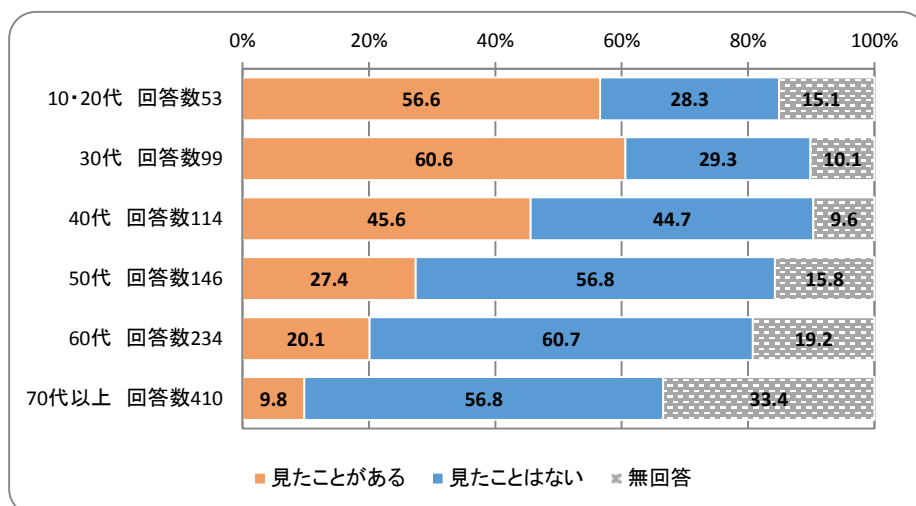


■年代別にみた市のホームページの利用状況

利用率が最も高い年代は「30代」で60.6%となった。

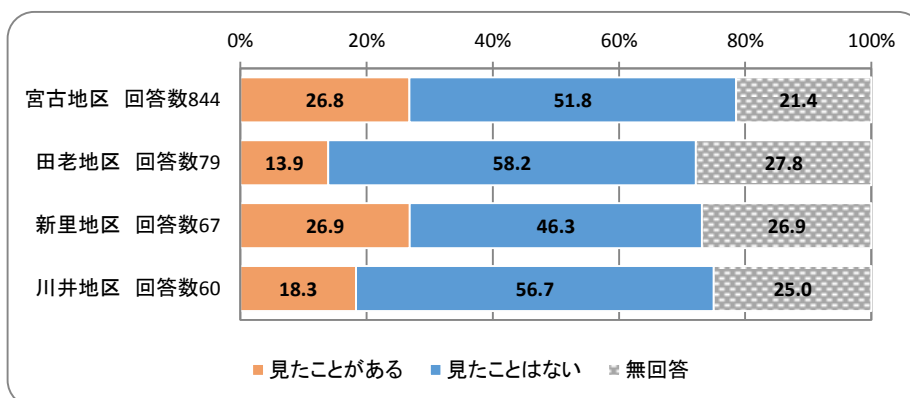
一方、利用率が最も低い年代は「70代以上」で9.8%となっている。

最も利用率が高い「30代」でも、市のホームページを利用したことがあるのは、6割という結果となった。



■ 地区別にみた市のホームページの利用状況

利用率が最も高い地区は「新里地区」で26.9%となった。
一方、利用率が最も低い地区は「田老地区」で13.9%となっている。



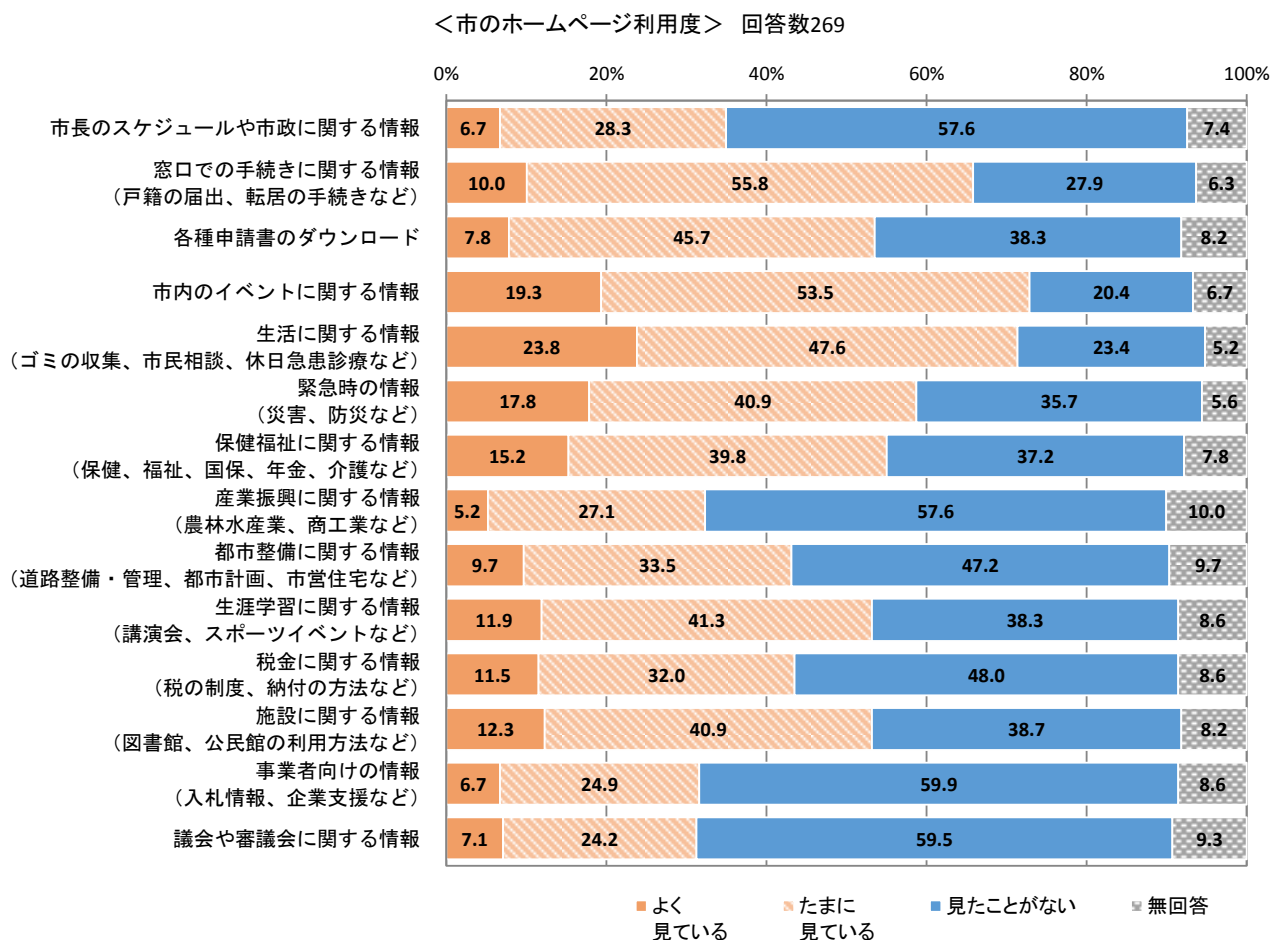
(10) 市のホームページの利用度及び満足度

問 13-1 市のホームページで、次の項目について見たことがありますか。また、その内容についてどのように考えていますか。

市内のイベント情報、生活に関する情報を望む声が多い

■ホームページの利用度

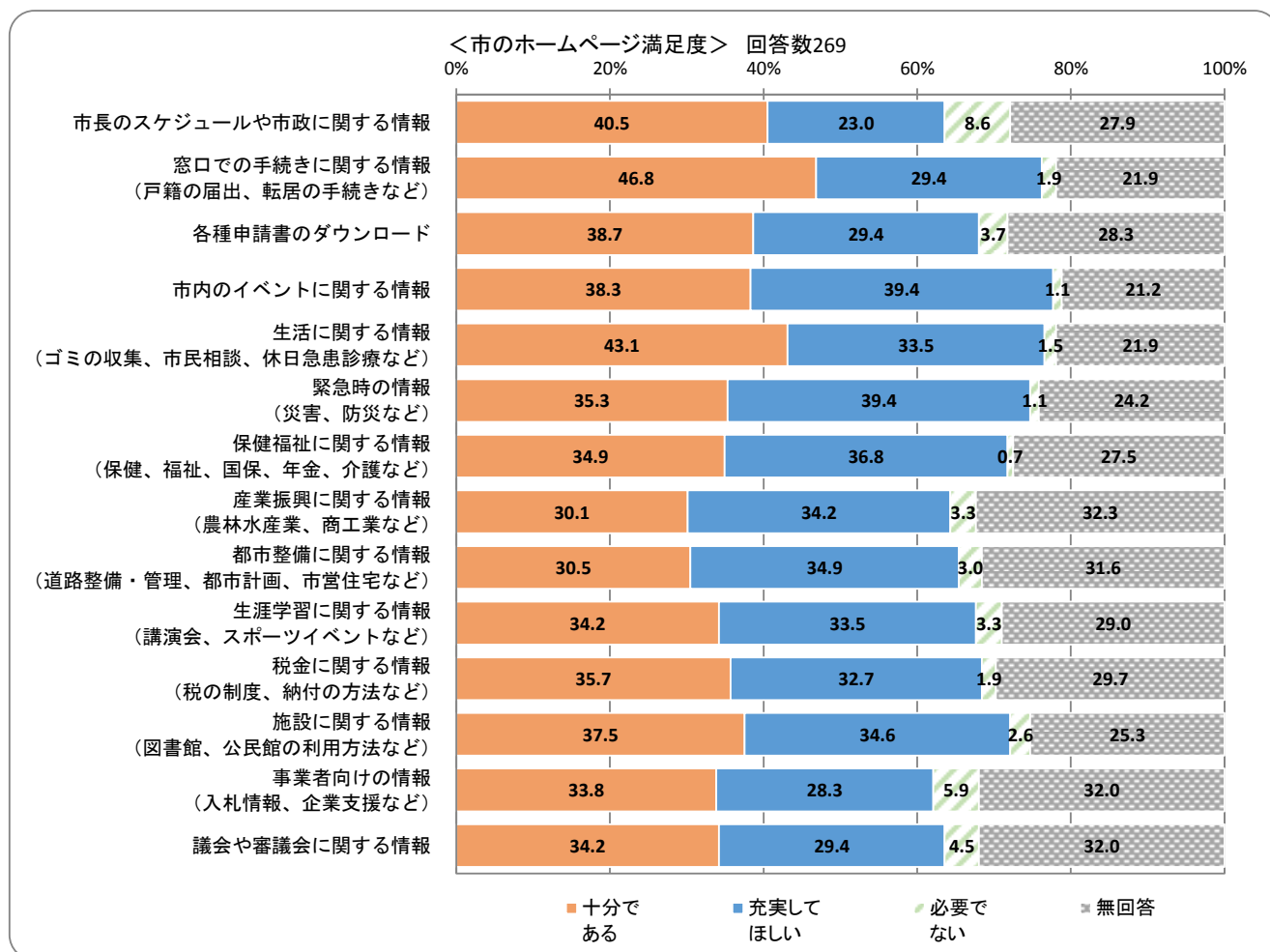
市のホームページに掲載されている情報など13項目に対する利用度（「よく見ている」と「たまに見ている」の合計）が最も高いものは、「市内のイベントに関する情報」で72.8%となった。次いで「生活に関する情報（ゴミの収集、市民相談、休日急患診療など）」（71.4%）、「窓口での手続きに関する情報（戸籍の届出、転居の手続きなど）」（65.8%）の順となっている。



■ホームページの満足度

市のホームページに掲載されている情報など14項目に対する満足度について、「十分である」という回答が最も多かったのは、「窓口での手続きに関する情報（戸籍の届出、転居の手続きなど）」46.8%となった。次いで「生活に関する情報（ごみの収集、市民相談、休日急患診療など）」（43.1%）、「市長のスケジュールや市政に関する情報」（40.5%）の順となっている。

一方、「充実してほしい」という回答が最も多かったのは、同数で「市内のイベントに関する情報」、「緊急時の情報（災害、防災など）」39.4%となった。次いで「保健福祉に関する情報（保健、福祉、国保、年金、介護など）」（36.8%）、「都市整備に関する情報（道路整備・管理、都市計画、市営住宅など）」（34.9%）の順となっている。



(11) 市のホームページで掲載・充実してほしい情報

問 13-2 市のホームページで掲載・充実してほしい情報がありましたらお書きください。

イベント情報、観光情報、復興事業の進捗についての情報を望む声が多い

■市のホームページで掲載・充実してほしい情報として寄せられた意見

- ・最新のイベント等の情報をアップしてほしい
- ・各公民館が情報を発信してほしい
- ・困った時のQ&A
- ・新しくできたお店や、おすすめのお店の情報
- ・介護施設等の空き情報
- ・市の行政変更、法の改正
- ・医療関係情報
- ・市民体育館の利用情報、空き情報
- ・防災行政無線が聞き取りづらい為HPで内容を掲載してほしい

以上のような内容の意見が多かった。

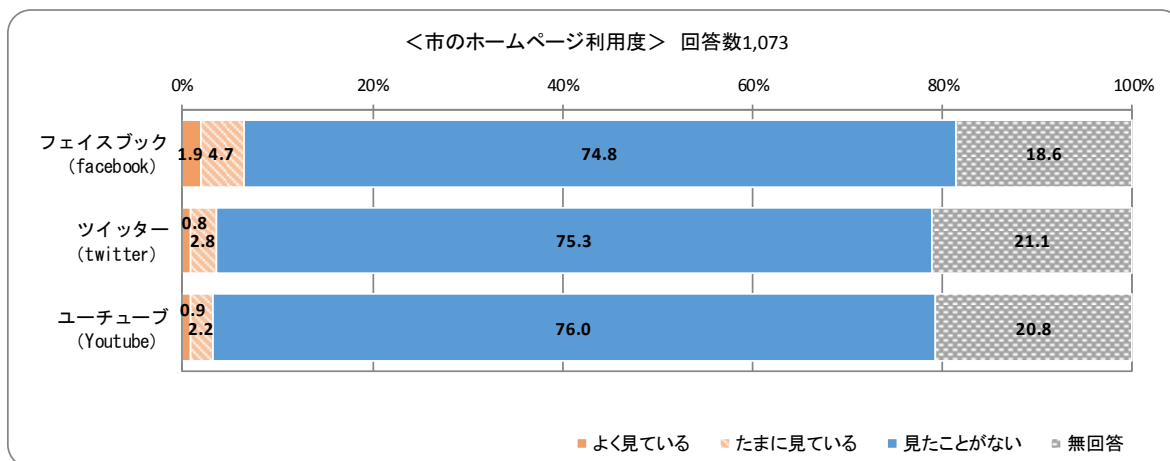
(12) 市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブの利用状況

問 14 あなたは、市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブを見たことがありますか。また、その内容についてどのように考えていますか。あてはまるところに○をつけてください。（○印はそれぞれ1つずつ）

■ SNS 別にみた市公式のホームページを利用度

全ての項目で「見たことがない」、「無回答」が8割以上となった。

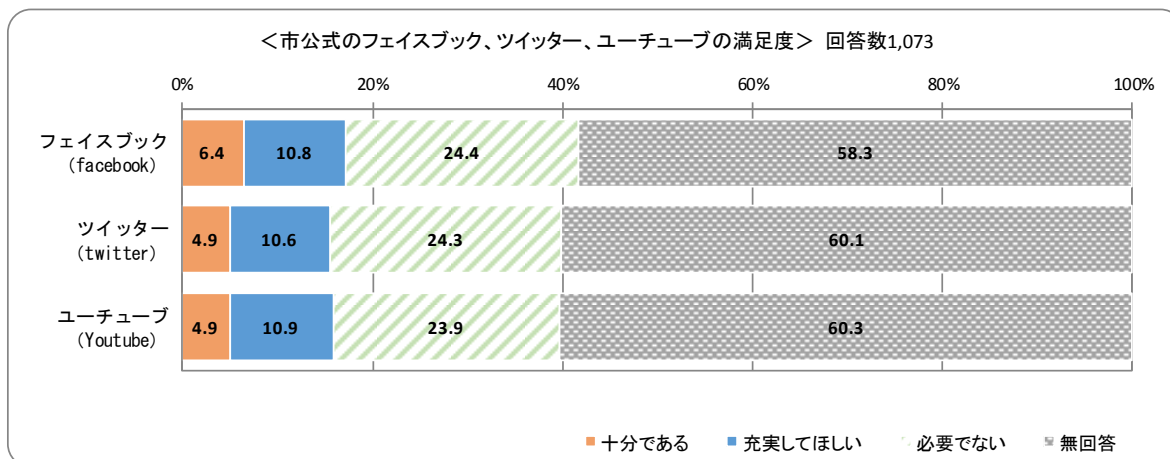
「フェイスブック (facebook)」は「よく見ている」、「たまに見ている」を合計すると 6.6%となっている。



■ SNS 別にみた市公式フェイスブック、ツイッター、ユーチューブの満足度

満足度が最も多い SNS は「フェイスブック (facebook)」で 6.4% となった。

一方で、どの項目も「充実してほしい」が 1割、「必要でない」が 2割を占めている。



(13) 市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブで掲載・充実してほしい情報

問 14-1 市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブで掲載・充実してほしい情報がありましたらお書きください。

防災情報やイベント情報、宮古市のPRを望む声が多い**■市公式のフェイスブック、ツイッター、ユーチューブについての意見・感想**

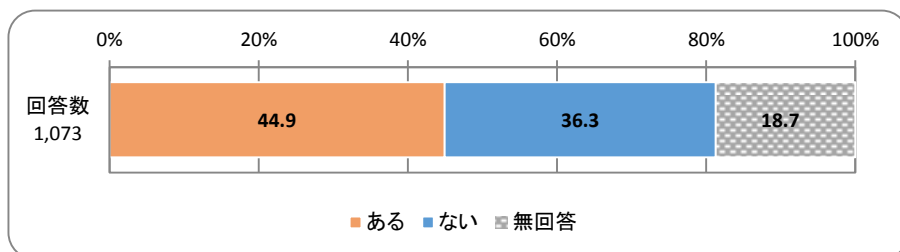
- ・防災行政無災の内容を掲載してほしい。
- ・ツイッターに防災無線を下さい。
- ・市に関するニュースをなるべく遅れないように。
- ・イベント関係、災害関係はしっかり配信して欲しい。
- ・イベント内容を詳しく拡散してほしい。
- ・宮古市をもっともっと全国にアピールしてほしい。(久慈や釜石よりアピール力が全然ない!!)
- ・サーモンくんやみやこちゃんが出演する番組を作って市のPRをしてもらう。
- ・海の満潮・干潮、事故情報。
- ・YouTubeで宮古港の様子をライブ配信してほしい。
- ・ホテル(市内)の企画部にてバイトしているのでFacebookをよく見ている。
- ・宮古市がツイッター、ユーチューブをやっていることを知らなかった。広報誌等で積極的に宣伝すべき。

(14) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用状況

問 15 あなたは、コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）を聞いたことがありますか。（○印は1つ）

4割がコミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）を聞いたことがある

「ある」（44.9%）、「ない」（36.3%）となった。
回答者の4割が聞いたことがあることがわかる。

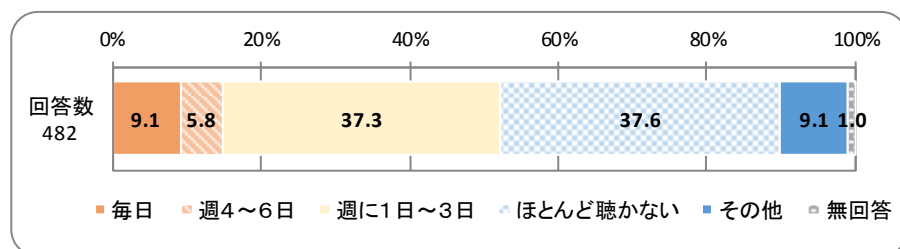


(15) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用頻度

問 15-1 どれくらいの頻度で聴いていますか。（○印は1つ）

利用したことがあると回答した方の4割がほとんど聴かない一方で、5割が週に1日以上聞いている

利用頻度として最も多いのは「ほとんど聴かない」で37.6%となった。次いで「週に1日～3日」（37.3%）、同数で「毎日」、「その他」（9.1%）となった。
回答者の4割がほとんど聴かない一方で、5割が週に1日以上聞いていることがわかる。



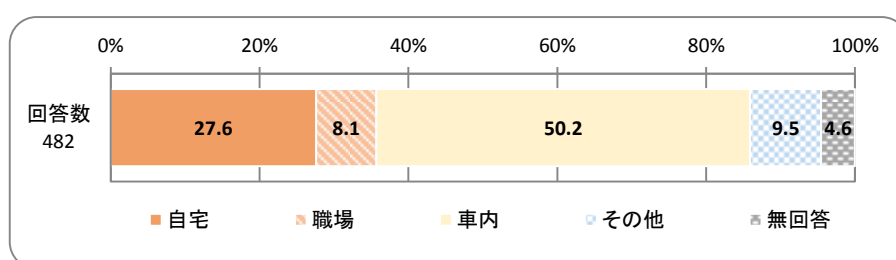
(16) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用場所

問 15-2 どこで聴いていますか。（○印は1つ）

利用したことがあると回答した方の5割が車内で聞いている

利用場所として最も多いのは「車内」で50.2%となった。次いで「自宅」(27.6%)、「職場」(8.1%)となっている。

車で移動中に聞いていることが多い。



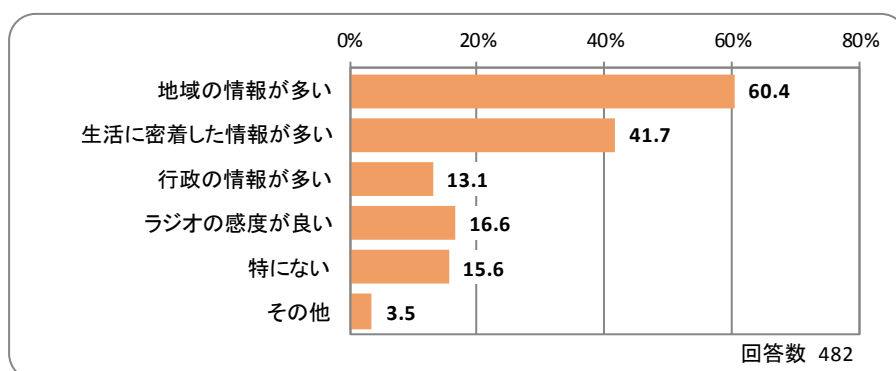
(17) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の良いところ

問 15-3 コミュニティエフエム放送の良いところは何だと思えますか。（○印はいくつでも）

地域や生活に密着した情報が求められている

良いところとして最も多いのは「地域の情報が多い」で60.4%となった。次いで「生活に密着した情報が多い」(41.7%)、「ラジオの感度が良い」(16.6%)となっている。

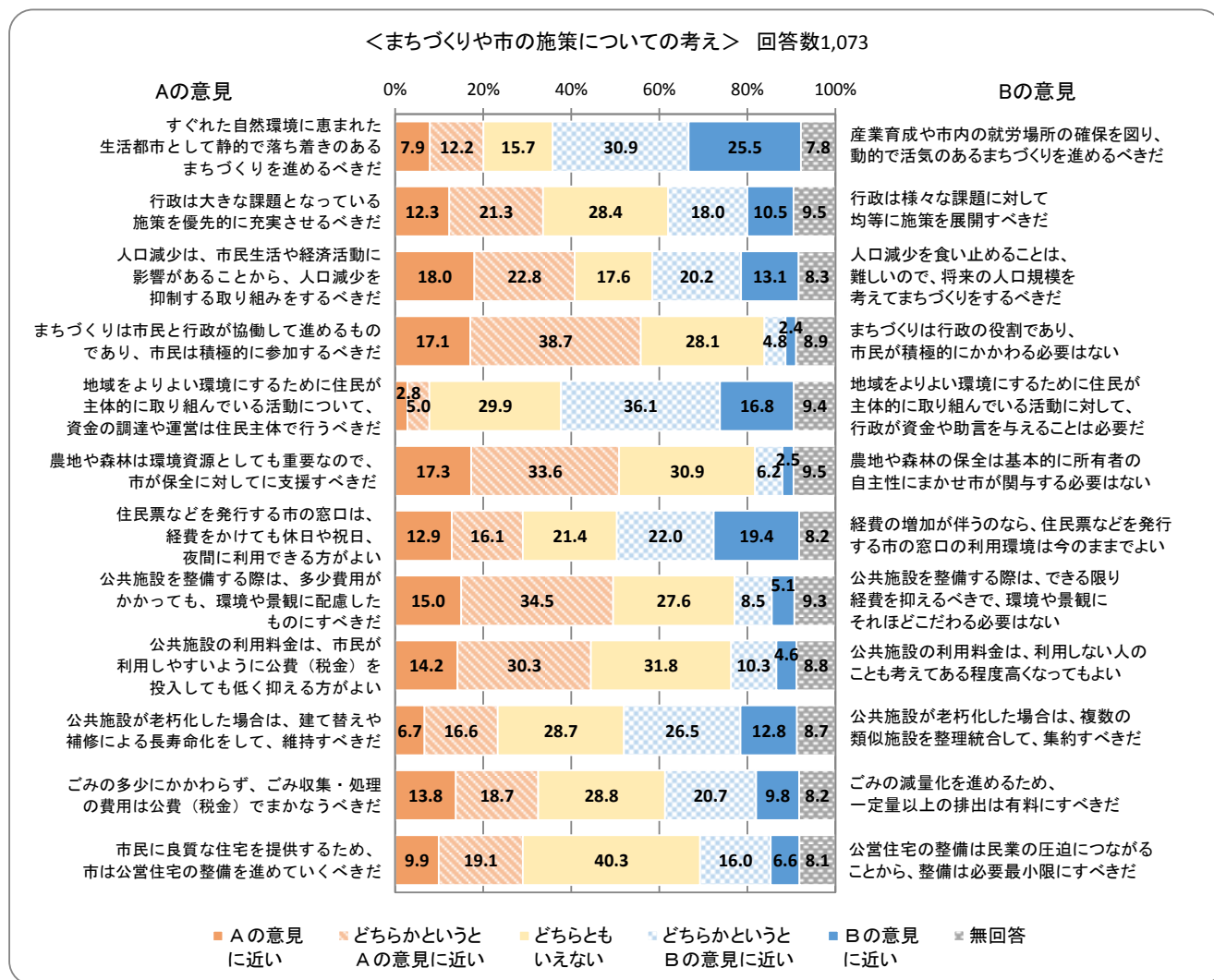
地域や生活に密着した情報が求められている。



4. 今後の宮古市のまちづくり

(1) 各種施策に対する意識

問16 これからのまちづくりや市の施策について、以下の点でA・Bの異なった意見があるして、あなたはどちらに近いお考えをお持ちですか。
 あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)



■まちづくりは静的な都市か動的な都市か

Aの意見(「Aの意見に近い」(7.9%)と「どちらかというAの意見に近い」(12.2%)の合計)は20.1%、Bの意見(「どちらかというBの意見に近い」(30.9%)と「Bの意見に近い」(25.5%)の合計)は56.4%となり、Bの意見がAの意見を36.3ポイント上回った。

静的で落ち着いたまちづくりより、動的で活気のあるまちづくりが求められている。

■施策は優先的対応か均等的対応か

Aの意見（「Aの意見に近い」（12.3%）と「どちらかというともAの意見に近い」（21.3%）の合計）は33.6%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（18.0%）と「Bの意見に近い」（10.5%）の合計）は28.5%となり、Aの意見がBの意見を5.1ポイント上回った。

直面している課題に優先的に取り組むべきとの意見が多い。

■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見（「Aの意見に近い」（18.0%）と「どちらかというともAの意見に近い」（22.8%）の合計）は40.8%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（20.2%）と「Bの意見に近い」（13.1%）の合計）は33.3%となり、Aの意見がBの意見を7.5ポイント上回った。

人口減少を抑制する取り組みを進める意見が多い。

■まちづくりは市民と行政の協働か否か

Aの意見（「Aの意見に近い」（17.1%）と「どちらかというともAの意見に近い」（38.7%）の合計）は55.8%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（4.8%）と「Bの意見に近い」（2.4%）の合計）は7.2%となり、Aの意見がBの意見を48.6ポイント上回った。

まちづくりは市民と行政が協働して進めるべきとの積極的な意見が多い。

■地域活動への公的支援は不要か必要か

Aの意見（「Aの意見に近い」（2.8%）と「どちらかというともAの意見に近い」（5.0%）の合計）は7.8%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（36.1%）と「Bの意見に近い」（16.8%）の合計）は52.9%となり、Bの意見がAの意見を45.1ポイント上回った。

住民が主体的に取り組んでいる活動に対する公的支援が望まれている。

■農地や森林の環境保全への市の関与は必要か不要か

Aの意見（「Aの意見に近い」（17.3%）と「どちらかというともAの意見に近い」（33.6%）の合計）は50.9%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（6.2%）と「Bの意見に近い」（2.5%）の合計）は8.7%となり、Aの意見がBの意見を42.2ポイント上回った。

環境資源の保全には、市からの財政的支援を望む意見が多い。

■窓口対応は休祝日・夜間等対応も必要か現状維持か

Aの意見（「Aの意見に近い」（12.9%）と「どちらかというともAの意見に近い」（16.1%）の合計）は29.0%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（22.0%）と「Bの意見に近い」（19.4%）の合計）は41.4%となり、Bの意見がAの意見を12.4ポイント上回った。

窓口対応は、現状維持を求める意見が多い。

■ 公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

Aの意見（「Aの意見に近い」（15.0%）と「どちらかというともAの意見に近い」（34.5%）の合計）は49.5%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（8.5%）と「Bの意見に近い」（5.1%）の合計）は13.6%となり、Aの意見がBの意見を35.9ポイント上回った。

公共施設の整備には、経費削減よりも環境や景観への配慮を求める意見が多い。

■ 公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

Aの意見（「Aの意見に近い」（14.2%）と「どちらかというともAの意見に近い」（30.3%）の合計）は44.5%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（10.3%）と「Bの意見に近い」（4.6%）の合計）は14.9%となり、Aの意見がBの意見を29.6ポイント上回った。

公共施設の利用料金は低く抑えることが望まれている。

■ 公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

Aの意見（「Aの意見に近い」（6.7%）と「どちらかというともAの意見に近い」（16.6%）の合計）は23.3%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（26.5%）と「Bの意見に近い」（12.8%）の合計）は39.3%となり、Bの意見がAの意見を16.0ポイント上回った。

公共施設の老朽化には、施設の集約化で対応すべきとの意見が多い。

■ ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

Aの意見（「Aの意見に近い」（13.8%）と「どちらかというともAの意見に近い」（18.7%）の合計）は32.5%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（20.7%）と「Bの意見に近い」（9.8%）の合計）は30.5%となり、Aの意見がBの意見を2.0ポイント上回った。

ごみ収集・処理の費用は公費でまかなうべきとの意見が多いが、一部有料化を望む声もほぼ同じくらいになっている。

■ 公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

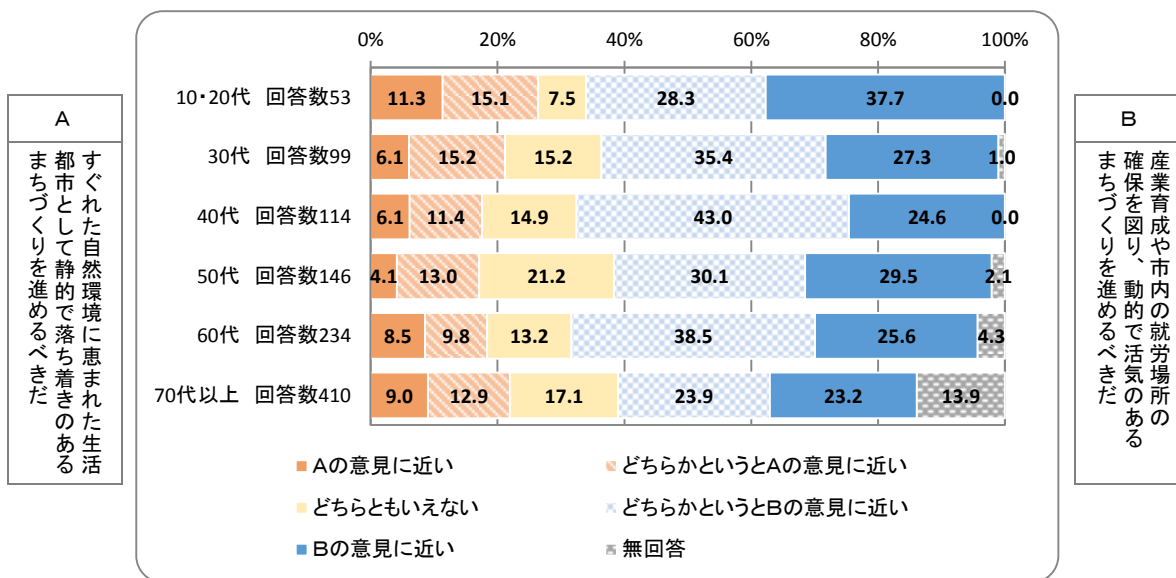
Aの意見（「Aの意見に近い」（9.9%）と「どちらかというともAの意見に近い」（19.1%）の合計）は29.0%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（16.0%）と「Bの意見に近い」（6.6%）の合計）は22.6%となり、Aの意見がBの意見を6.4ポイント上回った。

公営住宅の整備を推進すべきとの意見が多いが、「どちらともいえない」という回答も40.3%と多く、判断できかねている様子が窺える。

(2) 年代別にみた各種施策に対する意識

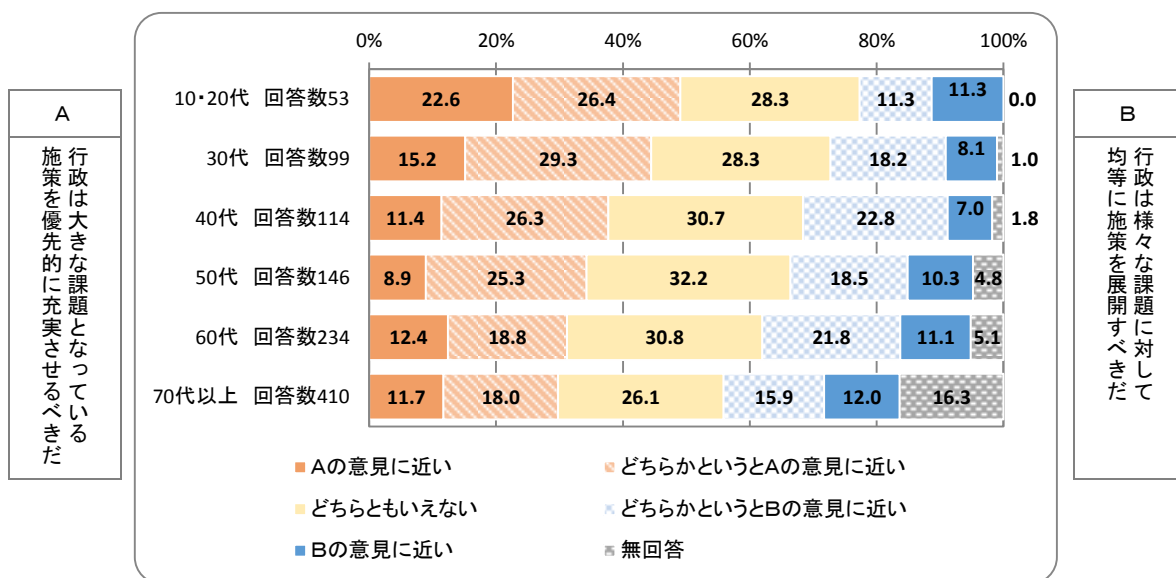
■まちづくりは静的な都市か動的な都市か

Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で26.4%（「Aの意見に近い」（11.3%）と「どちらかというAの意見に近い」（15.1%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「40代」で67.6%（「どちらかというBの意見に近い」（43.0%）と「Bの意見に近い」（24.6%）の合計）となった。
 全ての年代で、動的で活気のあるまちづくりが求められている。



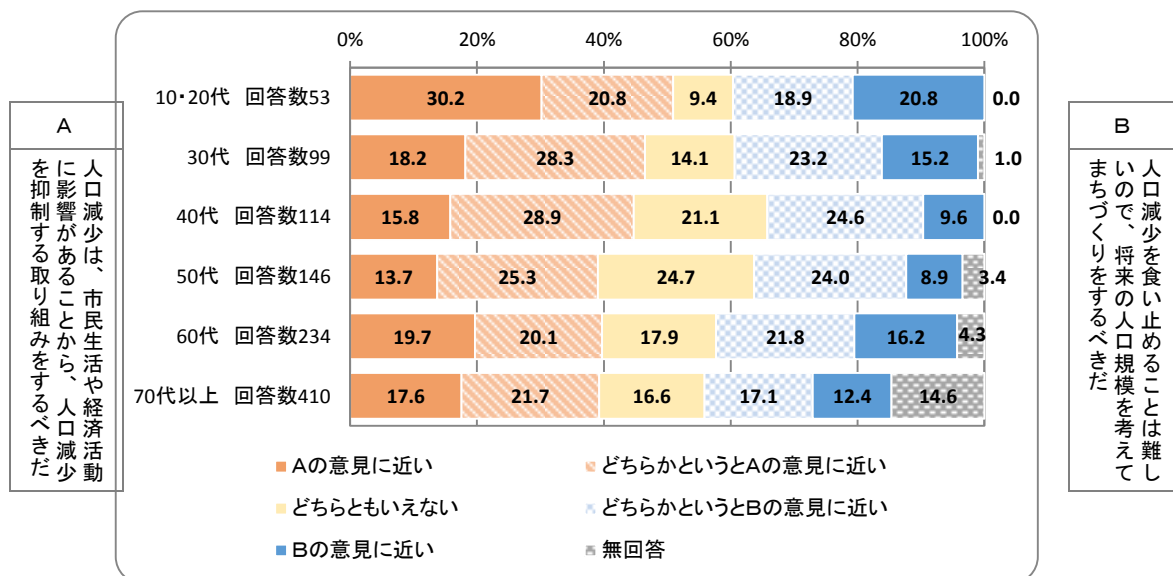
■施策は優先的対応か均等的対応か

Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で49.0%（「Aの意見に近い」（22.6%）と「どちらかというAの意見に近い」（26.4%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「60代」で32.9%（「どちらかというBの意見に近い」（21.8%）と「Bの意見に近い」（11.1%）の合計）となった。
 年代が低くなるほどAの意見に近いという傾向にある。



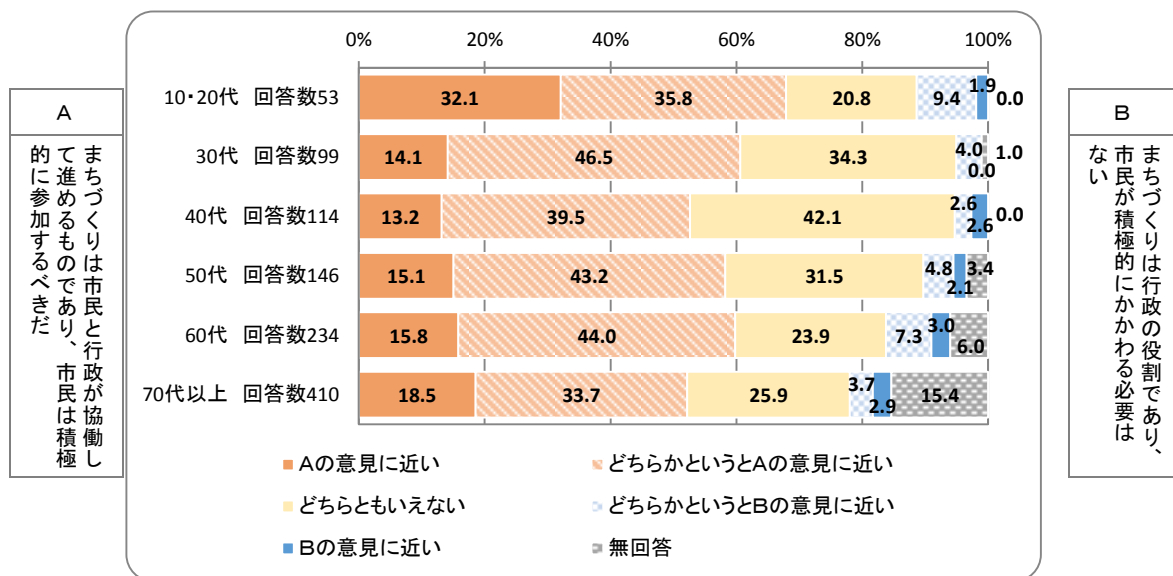
■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で51.0%（「Aの意見に近い」（30.2%）と「どちらかというAの意見に近い」（20.8%）の合計）、Bの意見に最も近い年代も「10・20代」で39.7%（「どちらかというBの意見に近い」（18.9%）と「Bの意見に近い」（20.8%）の合計）となった。
若年層が、人口減少の抑制に関心があることが窺える。



■まちづくりは市民と行政の協働か否か

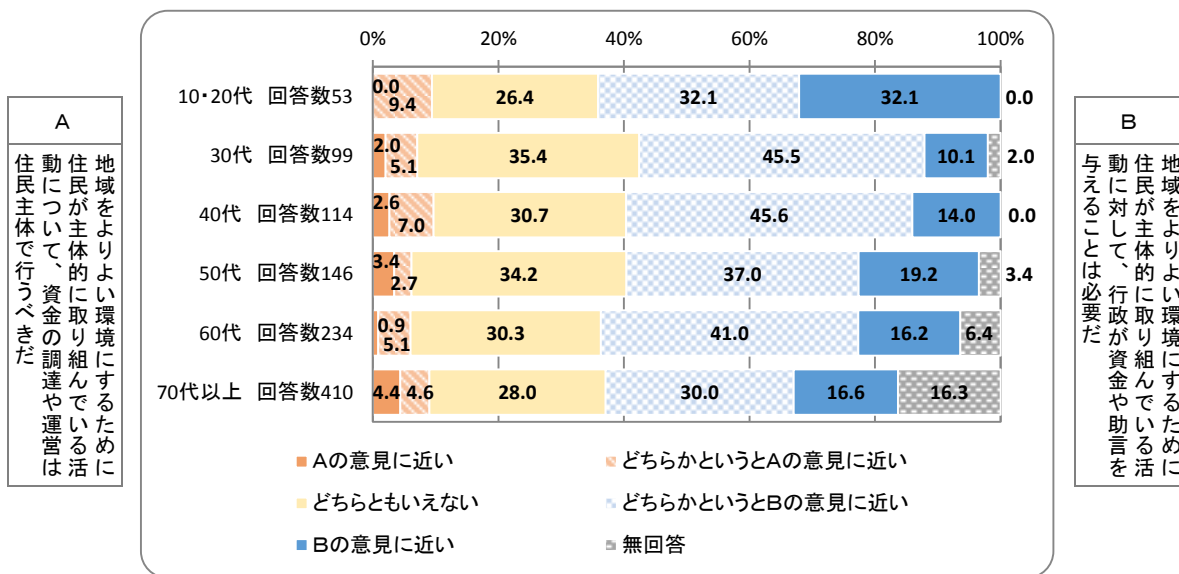
Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で67.9%（「Aの意見に近い」（32.1%）と「どちらかというAの意見に近い」（35.8%）の合計）、Bの意見に最も近い年代も「10・20代」で11.3%（「どちらかというBの意見に近い」（9.4%）と「Bの意見に近い」（1.9%）の合計）となった。
全ての年代でAの意見が5割を超えており、年代を問わず、まちづくりへの市民の積極的な参加が望まれていることがわかる。



■地域活動への公的支援は不要か必要か

Aの意見に最も近い年代は「40代」で9.6%（「Aの意見に近い」（2.6%）と「どちらかというAの意見に近い」（7.0%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「10・20代」で64.2%（「どちらかというBの意見に近い」（32.1%）と「Bの意見に近い」（32.1%）の合計）となった。

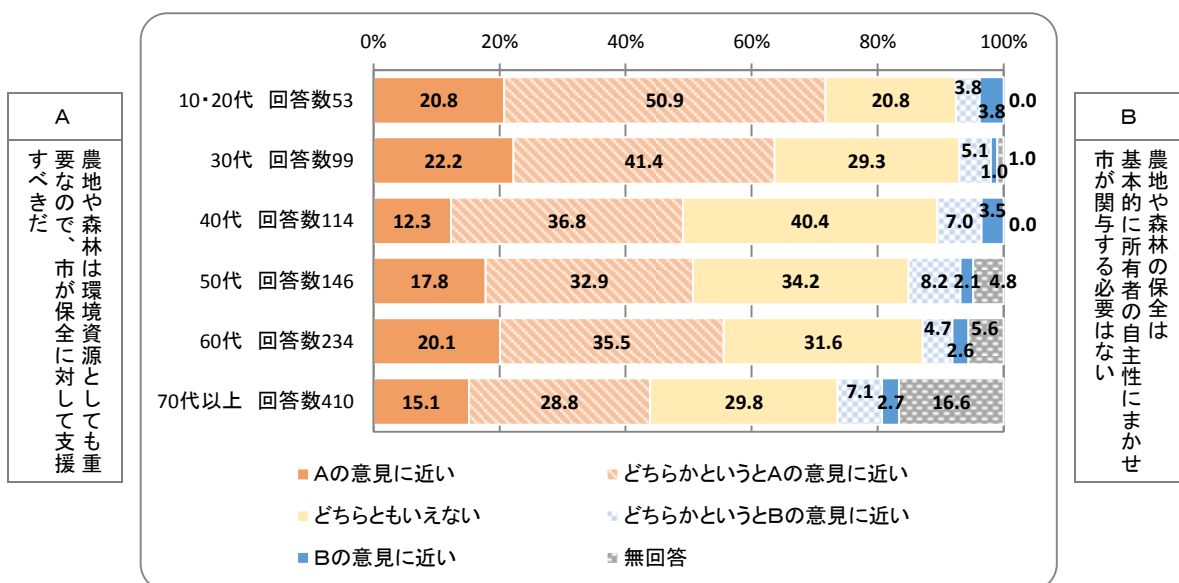
住民主体の活動に対しては公的支援を望む意見が多く、年代による差はみられない。



■農地や森林の環境保全への市の関与は必要か不要か

Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で71.7%（「Aの意見に近い」（20.8%）と「どちらかというAの意見に近い」（50.9%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「40代」で10.5%（「どちらかというBの意見に近い」（7.0%）と「Bの意見に近い」（3.5%）の合計）となった。

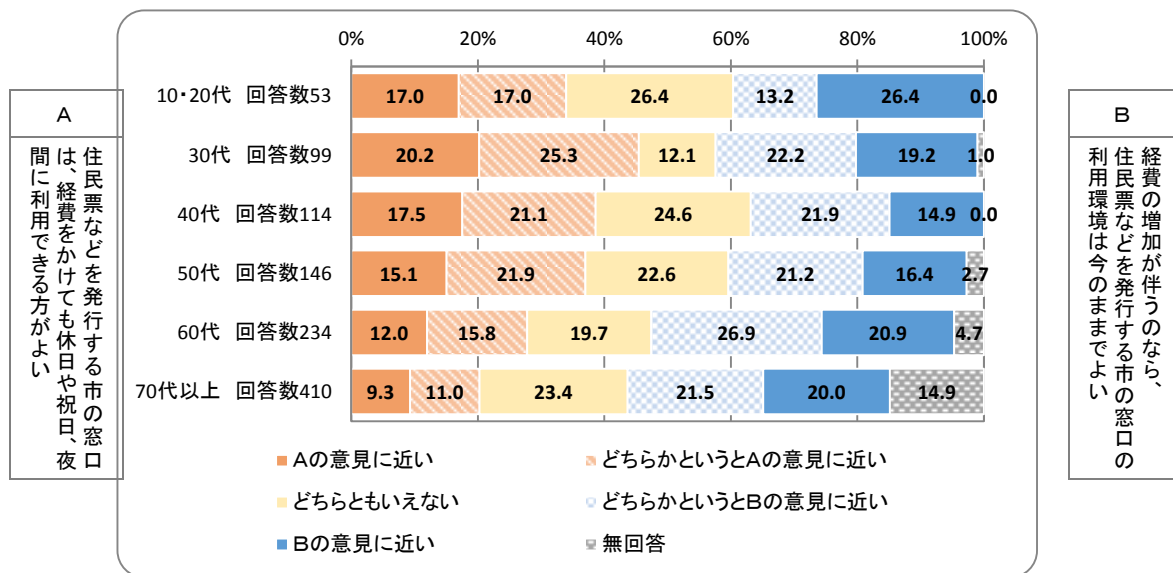
年代を問わず、環境資源の保全への市の関与が期待されており、特に、10・20代、30代において、高い割合を占めている。



■ 窓口対応は休休日・夜間等対応も必要か現状維持か

Aの意見に最も近い年代は「30代」で45.5%（「Aの意見に近い」（20.2%）と「どちらかという」とAの意見に近い」（25.3%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「60代」で47.8%（「どちらかという」とBの意見に近い」（26.9%）と「Bの意見に近い」（20.9%）の合計）となった。

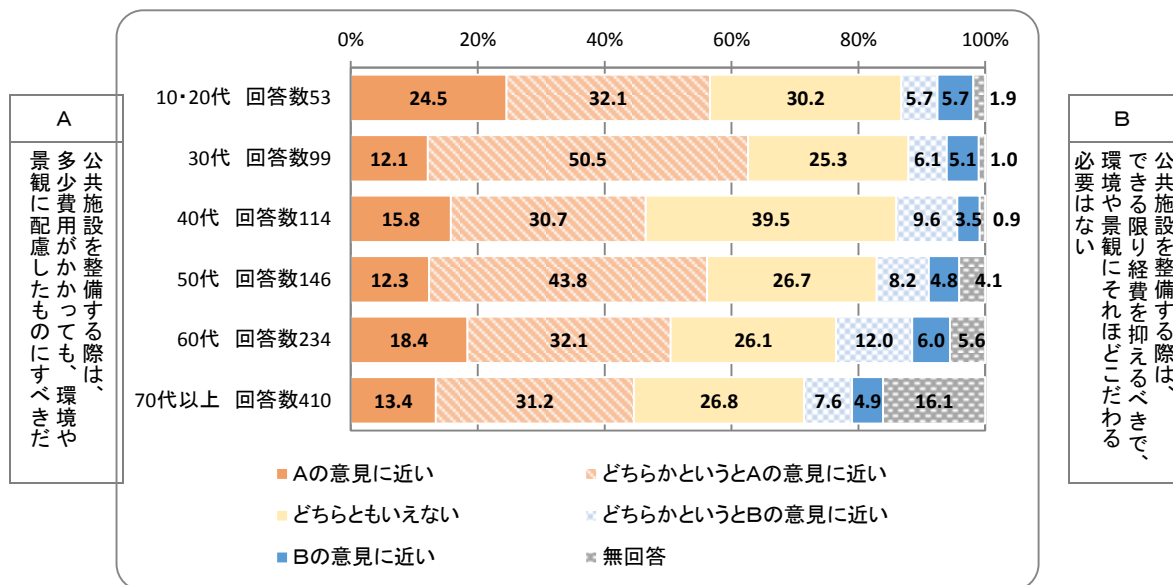
若い年代では利便性が重視され、年代が高くなるほどコスト面が重視される傾向になっている。



■ 公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

Aの意見に最も近い年代は「30代」で62.6%（「Aの意見に近い」（12.1%）と「どちらかという」とAの意見に近い」（50.5%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「60代」で18.0%（「どちらかという」とBの意見に近い」（12.0%）と「Bの意見に近い」（6.0%）の合計）となった。

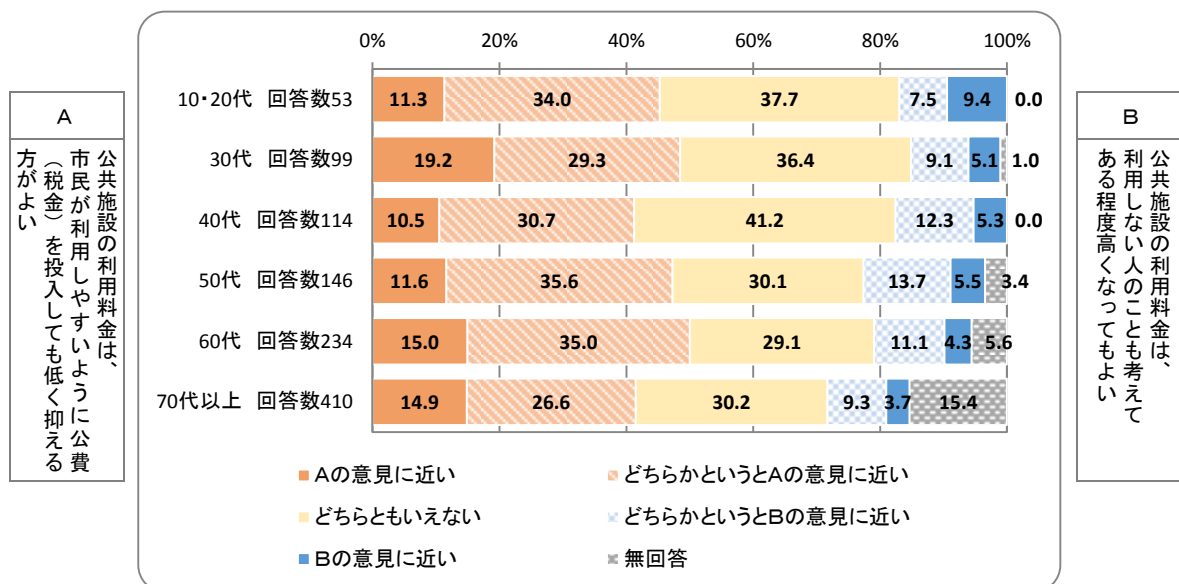
年代を問わず、環境や景観に配慮された公共施設を求める意見が多い。



■ 公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

Aの意見に最も近い年代は「60代」で50.0%（「Aの意見に近い」（15.0%）と「どちらかというAの意見に近い」（35.0%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「50代」で19.2%（「どちらかというBの意見に近い」（13.7%）と「Bの意見に近い」（5.5%）の合計）となった。

公共施設の利用料金は低く抑えることが望まれており、年代による差はみられない。



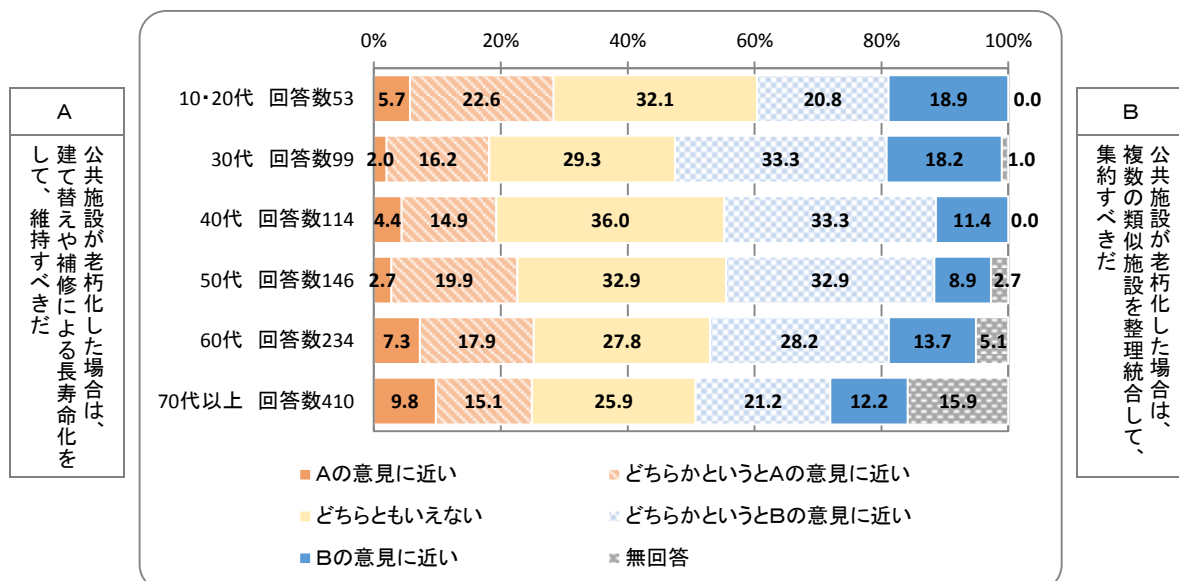
A
公共施設の利用料金は、
市民が利用しやすいように公費
(税金)を投入しても低く抑える
方がよい

B
公共施設の利用料金は、
利用しない人のことも考えて
ある程度高くなってもよい

■ 公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で28.3%（「Aの意見に近い」（5.7%）と「どちらかというAの意見に近い」（22.6%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「30代」で51.5%（「どちらかというBの意見に近い」（33.3%）と「Bの意見に近い」（18.2%）の合計）となった。

年代を問わず、公共施設の老朽化には、施設の集約化で対応すべきとの意見が多い。



A
公共施設が老朽化した場合は、
建て替えや補修による長寿命化を
して、維持すべきだ

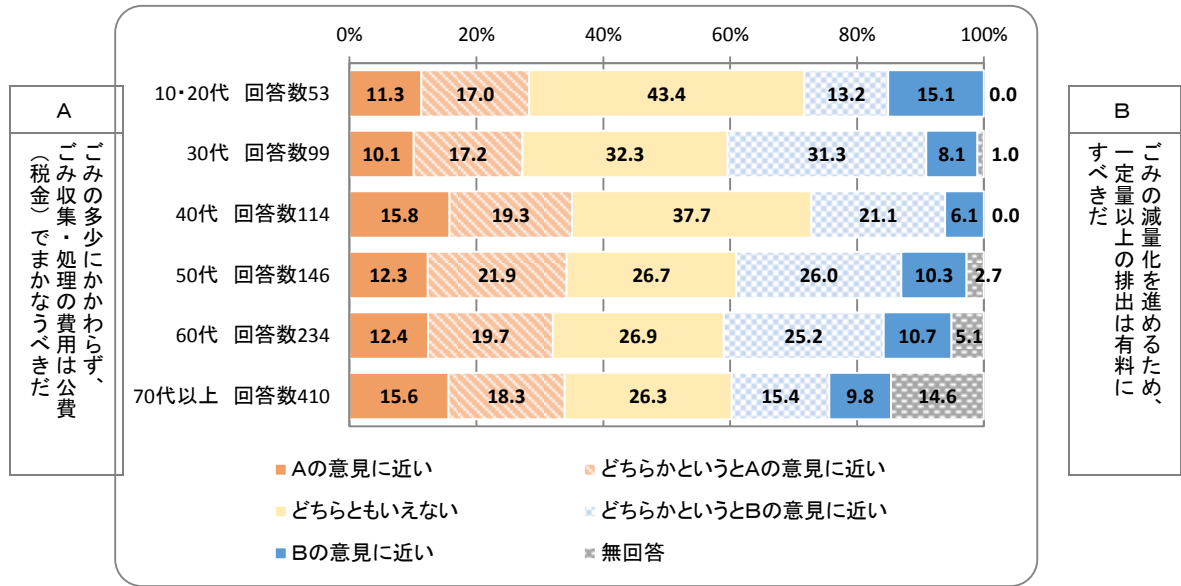
B
公共施設が老朽化した場合は、
複数の類似施設を整理統合して、
集約すべきだ

■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

Aの意見に最も近い年代は「40代」で35.1%（「Aの意見に近い」（15.8%）と「どちらかという」とAの意見に近い」（19.3%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「30代」で39.4%（「どちらかという」とBの意見に近い」（31.3%）と「Bの意見に近い」（8.1%）の合計）となった。

「30代」、「50代」、「60代」では、ごみ収集・処理費用の一部有料化について前向きな意見が多く、「10・20代」、「40代」、「70代以上」では、公費での処理を望む意見が多い。

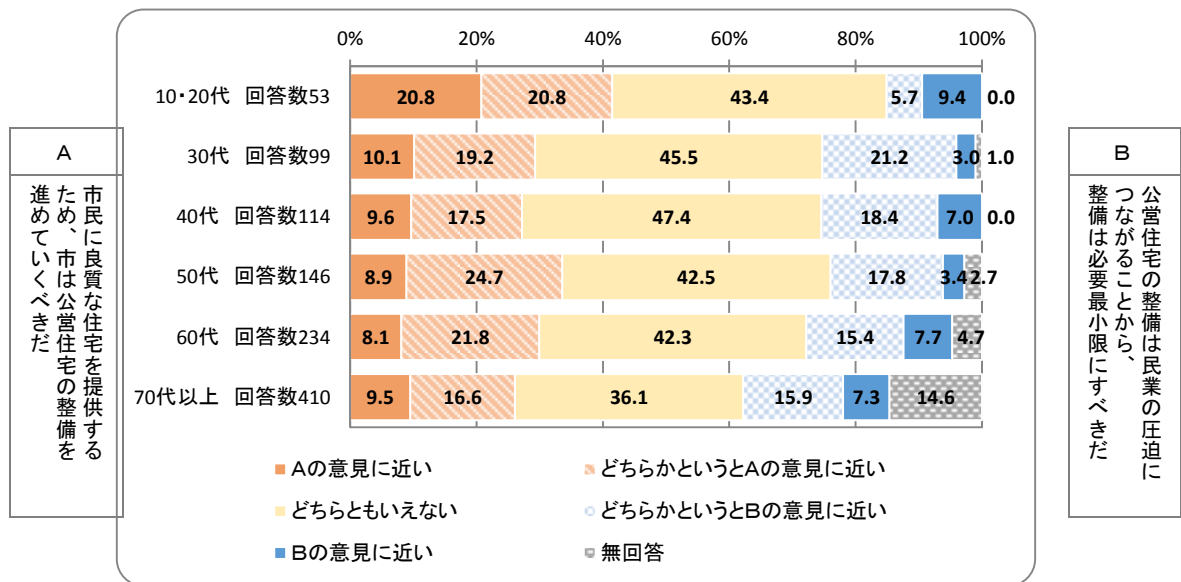
「どちらともいえない」という回答も多く、判断できかねている様子が窺える。



■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

Aの意見に最も近い年代は「10・20代」で41.6%（「Aの意見に近い」（20.8%）と「どちらかという」とAの意見に近い」（20.8%）の合計）、Bの意見に最も近い年代は「40代」で25.4%（「どちらかという」とBの意見に近い」（18.4%）と「Bの意見に近い」（7.0%）の合計）となった。

年代を問わず、公営住宅の整備を推進すべきとの意見が多いが、「どちらともいえない」という回答も多く、判断できかねている様子が窺える。

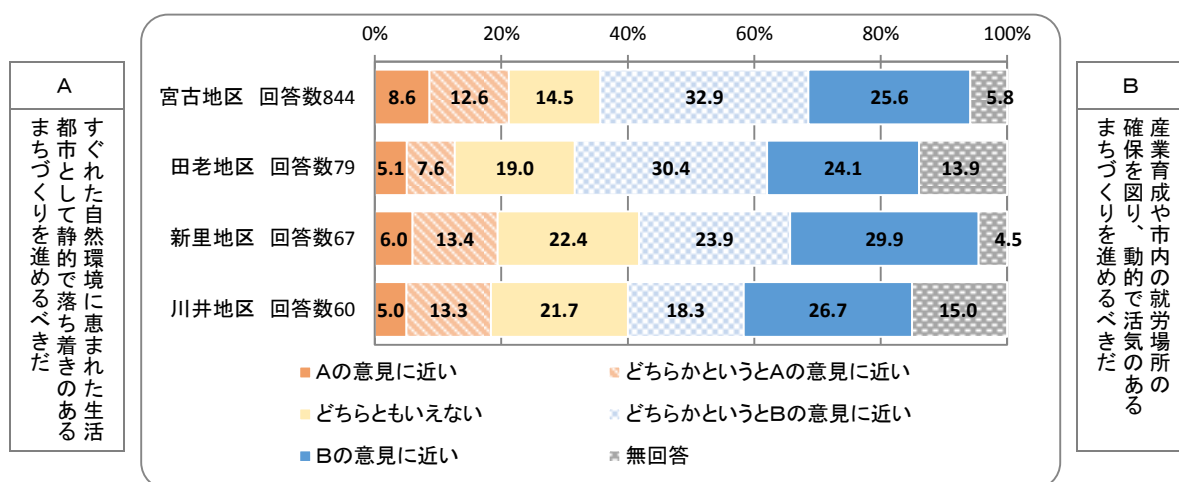


(3) 地区別にみた各種施策に対する意識

■まちづくりは静的な都市か動的な都市か

Aの意見に最も近い地区は「宮古地区」で21.2%（「Aの意見に近い」（8.6%）と「どちらかというとうとAの意見に近い」（12.6%）の合計）、Bの意見に最も近い地区も「宮古地区」で58.5%（「どちらかというとうとBの意見に近い」（32.9%）と「Bの意見に近い」（25.6%）の合計）となった。

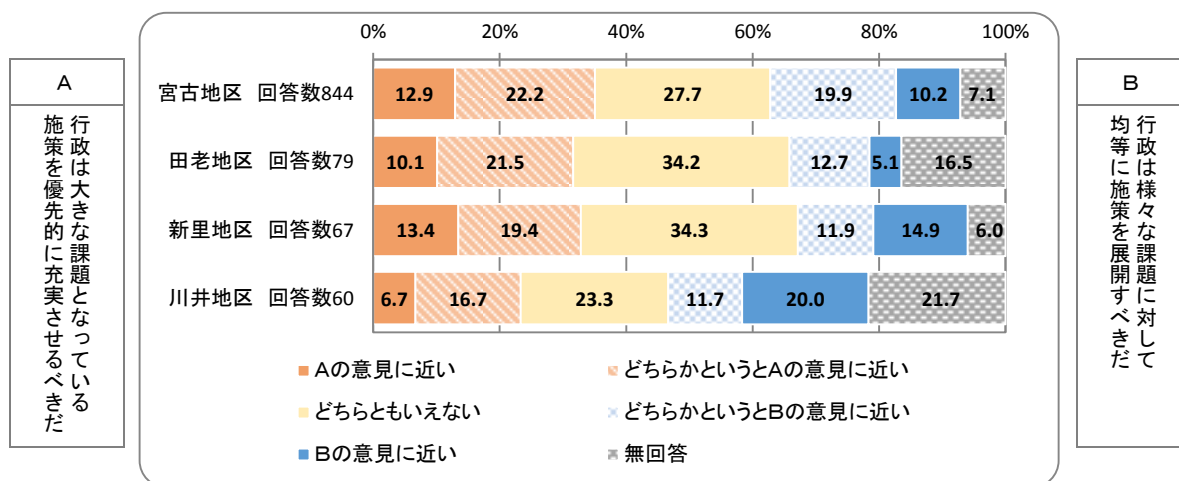
全ての地区で、動的で活気のあるまちづくりが求められている。



■施策は優先的対応か均等的対応か

Aの意見に最も近い地区は「宮古地区」で35.1%（「Aの意見に近い」（12.9%）と「どちらかというとうとAの意見に近い」（22.2%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「川井地区」で31.7%（「どちらかというとうとBの意見に近い」（11.7%）と「Bの意見に近い」（20.0%）の合計）となった。

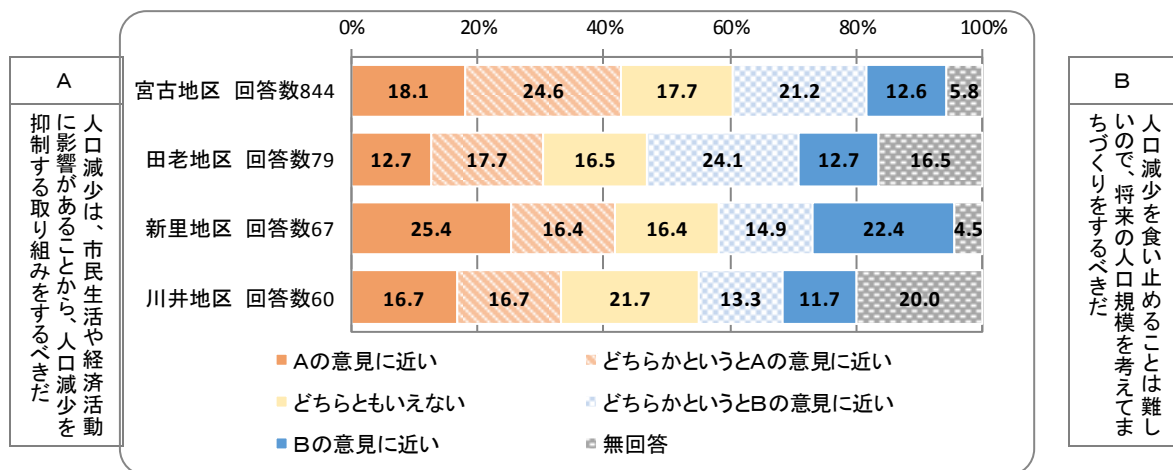
「川井地区」以外では、直面している課題に優先的に取り組むべきとの意見が多い。



■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見に最も近い地区は「宮古地区」で42.7%（「Aの意見に近い」（18.1%）と「どちらかというAの意見に近い」（24.6%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「新里地区」で37.3%（「どちらかというBの意見に近い」（14.9%）と「Bの意見に近い」（22.4%）の合計）となった。

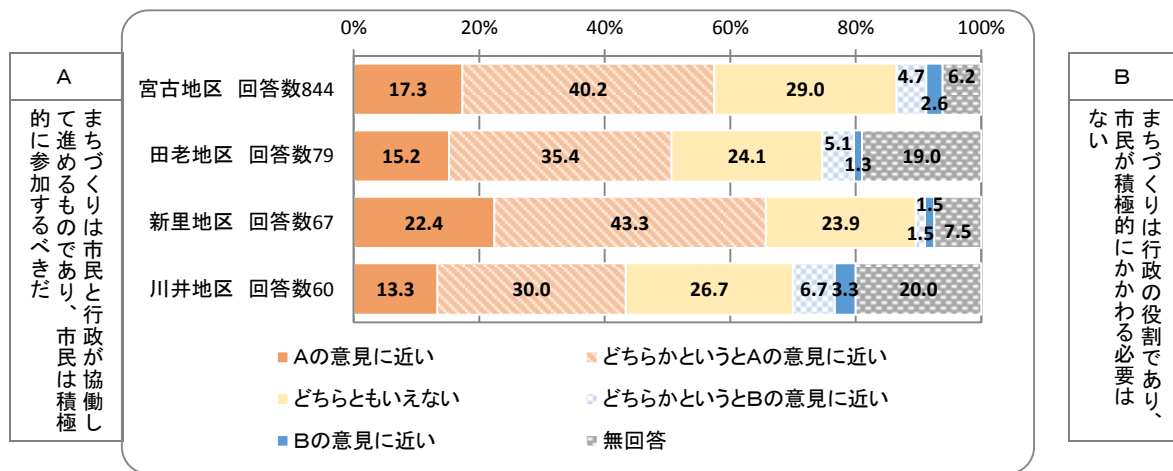
「田老地区」以外では、人口減少を抑制する取り組みをするべきとの意見の方が高い割合を占めている。



■まちづくりは市民と行政の協働か否か

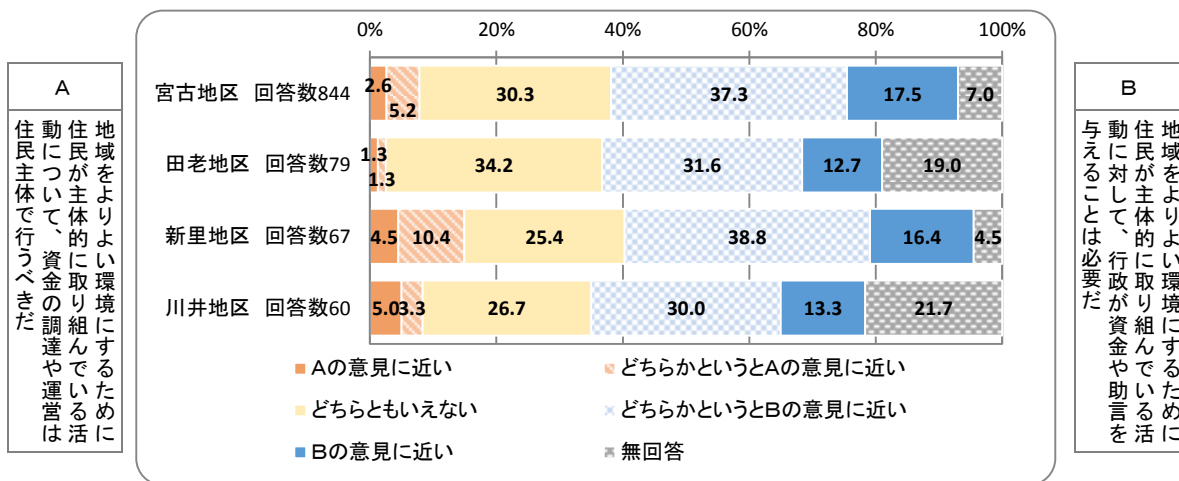
Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で65.7%（「Aの意見に近い」（22.4%）と「どちらかというAの意見に近い」（43.3%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「川井地区」で10.0%（「どちらかというBの意見に近い」（6.7%）と「Bの意見に近い」（3.3%）の合計）となった。

全ての地区でAの意見が多く、地区を問わず、まちづくりへの市民の積極的な参加が望まれていることがわかる。



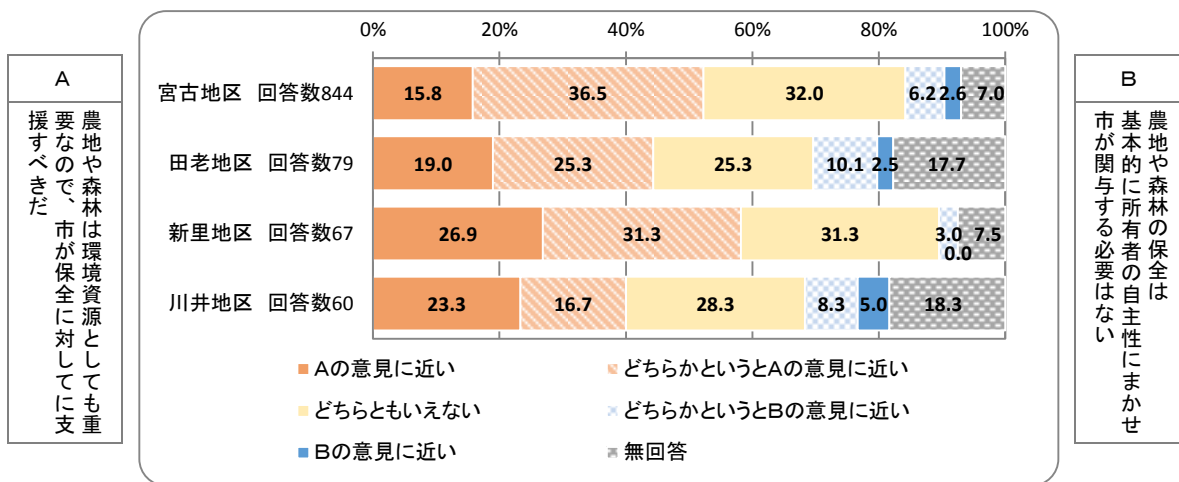
■地域活動への公的支援は不要か必要か

Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で14.9%（「Aの意見に近い」（4.5%）と「どちらかというAの意見に近い」（10.4%）の合計）、Bの意見に最も近い地区も「新里地区」で55.2%（「どちらかというBの意見に近い」（38.8%）と「Bの意見に近い」（16.4%）の合計）となった。
住民主体の活動に対しては公的支援を望む意見が多く、地区による差はみられない。



■農地や森林の環境保全への市の関与は必要か不要か

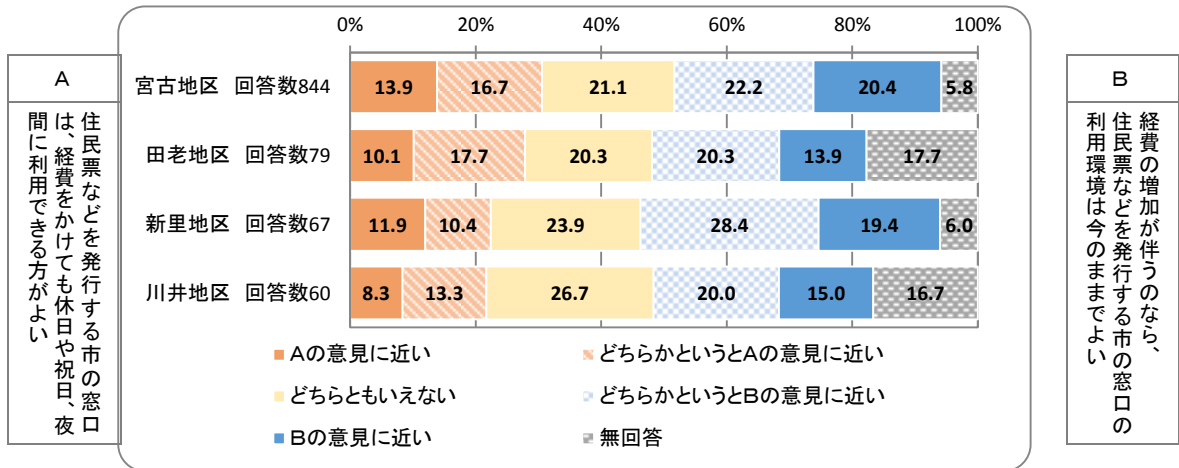
Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で58.2%（「Aの意見に近い」（26.9%）と「どちらかというAの意見に近い」（31.3%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「川井地区」で13.3%（「どちらかというBの意見に近い」（8.3%）と「Bの意見に近い」（5.0%）の合計）となった。
地区を問わず、環境資源の保全への市の関与が期待されているが、「どちらともいえない」という回答も全ての地区でほぼ3割を超えており、判断できかねている様子が窺える。



■ 窓口対応は休休日・夜間等対応も必要か現状維持か

Aの意見に最も近い地区は「宮古地区」で30.6%（「Aの意見に近い」（13.9%）と「どちらかというAの意見に近い」（16.7%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「新里地区」で47.8%（「どちらかというBの意見に近い」（28.4%）と「Bの意見に近い」（19.4%）の合計）となった。

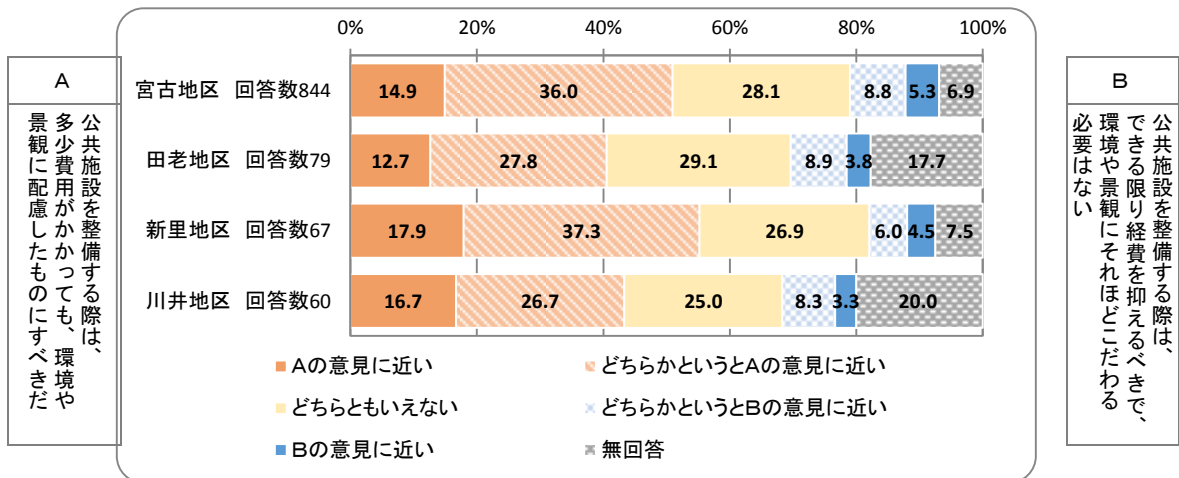
地区を問わず、市の窓口の利用環境は現行でよいとの意見が多い。



■ 公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

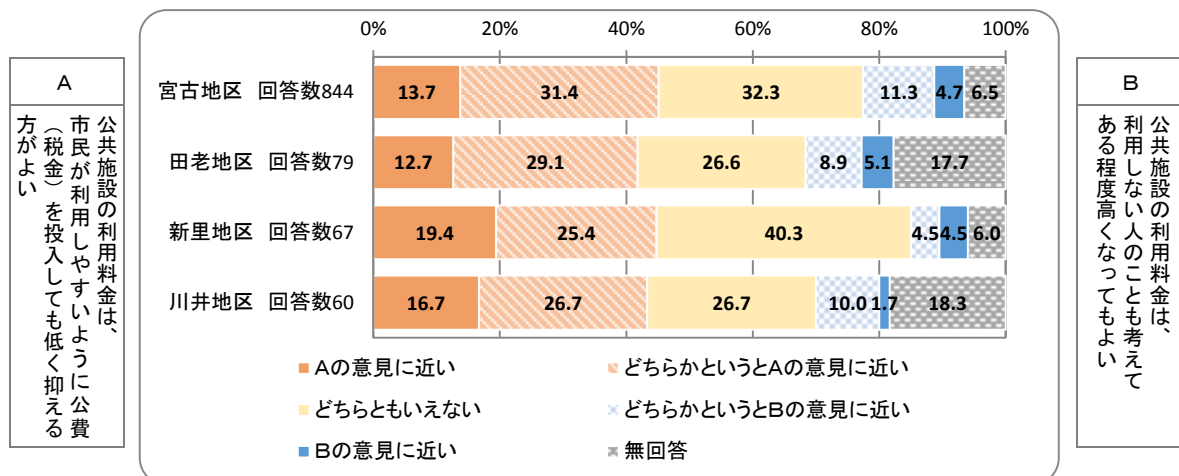
Aの意見に最も近い地区は「新里地区」で55.2%（「Aの意見に近い」（17.9%）と「どちらかというAの意見に近い」（37.3%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「宮古地区」で14.1%（「どちらかというBの意見に近い」（8.8%）と「Bの意見に近い」（5.3%）の合計）となった。

地区を問わず、環境や景観に配慮された公共施設を求める意見が多い。



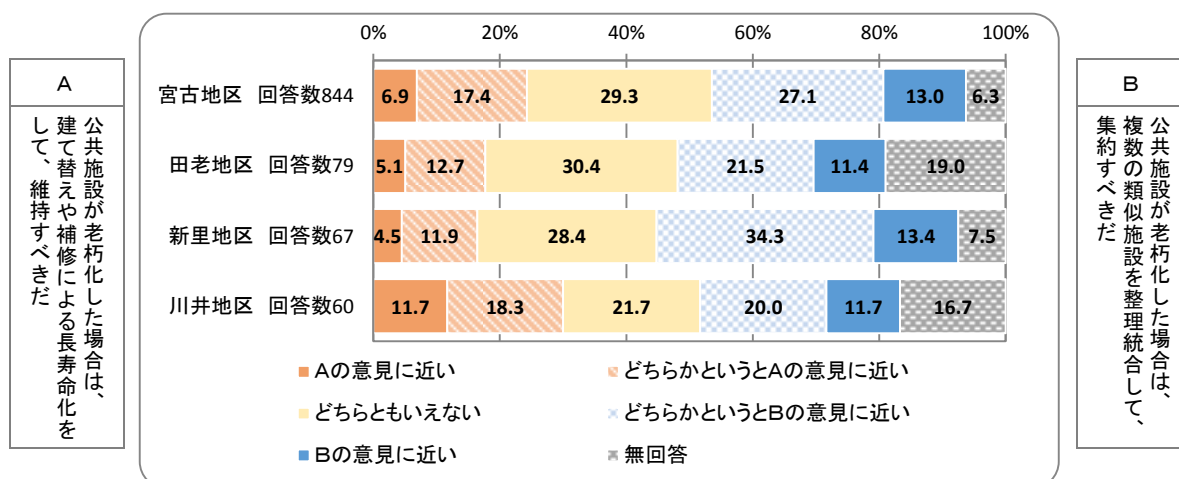
■ 公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

Aの意見に最も近い地区は「宮古地区」で45.1%（「Aの意見に近い」（13.7%）と「どちらかというAの意見に近い」（31.4%）の合計）、Bの意見に最も近い地区も「宮古地区」で16.0%（「どちらかというBの意見に近い」（11.3%）と「Bの意見に近い」（4.7%）の合計）となった。
公共施設の利用料金は低く抑えることが望まれており、地区による差はみられない。



■ 公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

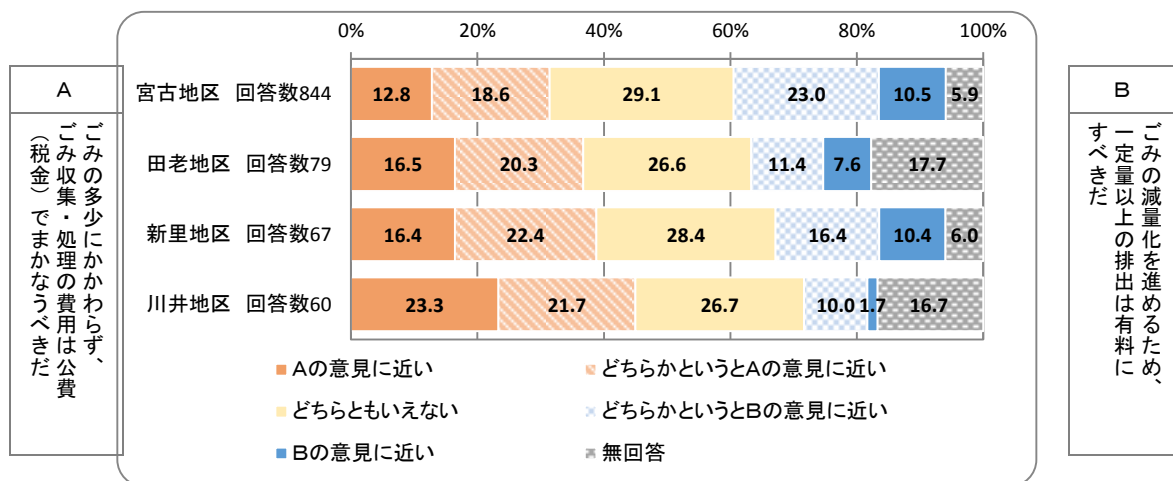
Aの意見に最も近い地区は「川井地区」で30.0%（「Aの意見に近い」（11.7%）と「どちらかというAの意見に近い」（18.3%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「新里地区」で47.7%（「どちらかというBの意見に近い」（34.3%）と「Bの意見に近い」（13.4%）の合計）となった。
地区を問わず、公共施設の老朽化には、施設の集約化で対応すべきとの意見が多い。



■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

Aの意見に最も近い地区は「川井地区」で45.0%（「Aの意見に近い」（23.3%）と「どちらかというAの意見に近い」（21.7%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「宮古地区」で33.5%（「どちらかというBの意見に近い」（23.0%）と「Bの意見に近い」（10.5%）の合計）となった。

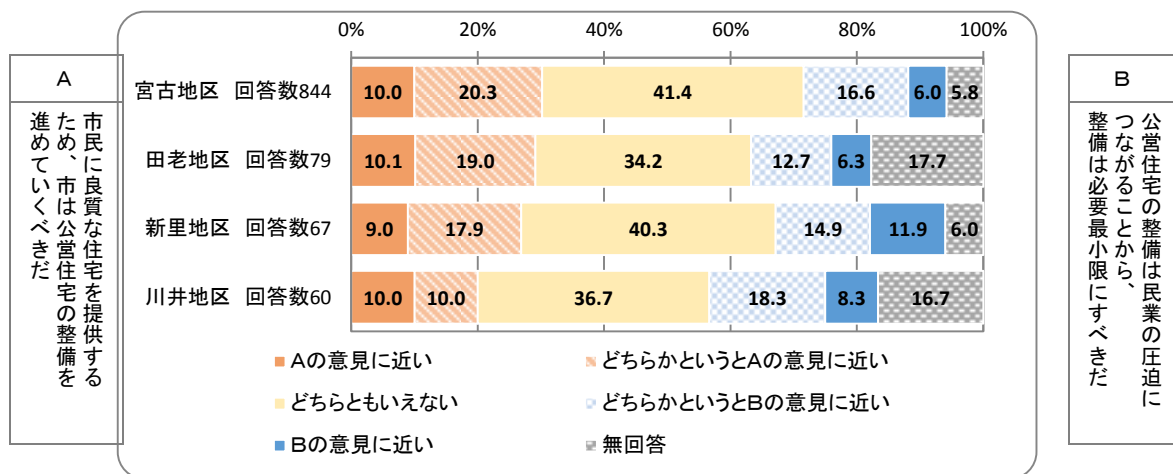
「宮古地区」では、ごみ収集・処理費用の一部有料化について前向きな傾向があり、「川井地区」、「新里地区」、「田老地区」では、公費での処理を望む傾向がある。



■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

Aの意見に最も近い地区は「宮古地区」で30.3%（「Aの意見に近い」（10.0%）と「どちらかというAの意見に近い」（20.3%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は「新里地区」で26.8%（「どちらかというBの意見に近い」（14.9%）と「Bの意見に近い」（11.9%）の合計）となった。

地区を問わず、公営住宅の整備を推進すべきとの意見が多いが、「どちらともいえない」という回答も多く、判断できかねている様子が窺える。



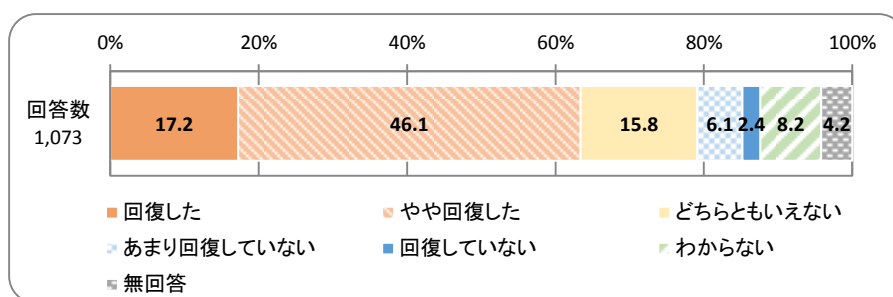
5. 東日本大震災からの復興

(1) 「住まいと暮らしの再建」の状況

問17 あなたの周囲をご覧になって、被災者の住まいと暮らし（生活）は、被災前と比べてどの程度再建（回復）したと感じますか。（○印は1つ）

6割が被災者の生活は再建したと感じている

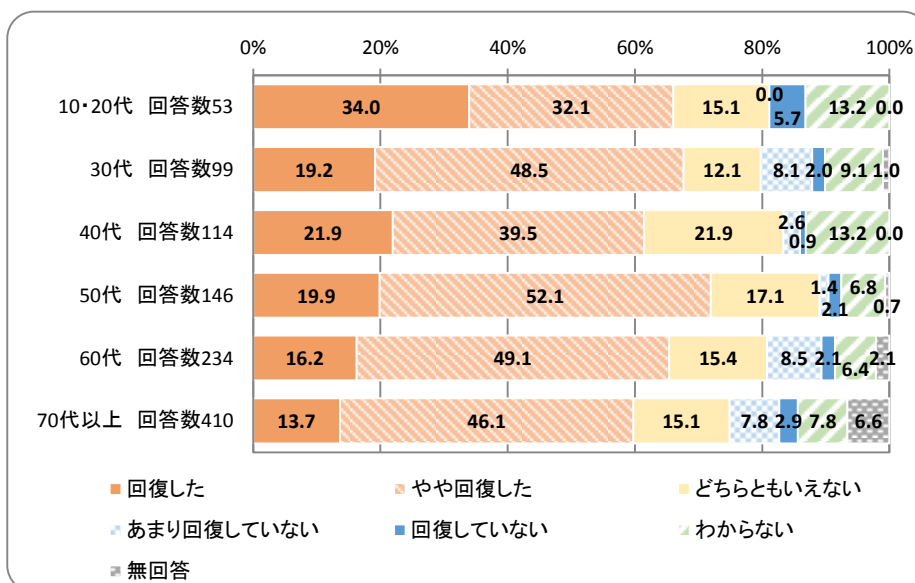
「回復した」（「回復した」（17.2%）と「やや回復した」（46.1%）の合計）は63.3%となり、「回復していない」（「あまり回復していない」（6.1%）と「回復していない」（2.4%）の合計）は8.5%で、「回復した」が「回復していない」を54.8ポイント上回った。



■年代別にみた「住まいと暮らしの再建」の状況

年代別に見ると、「50代」で「回復した」（「回復した」と「やや回復した」の合計）と回答している方が72.0%で最も高い。

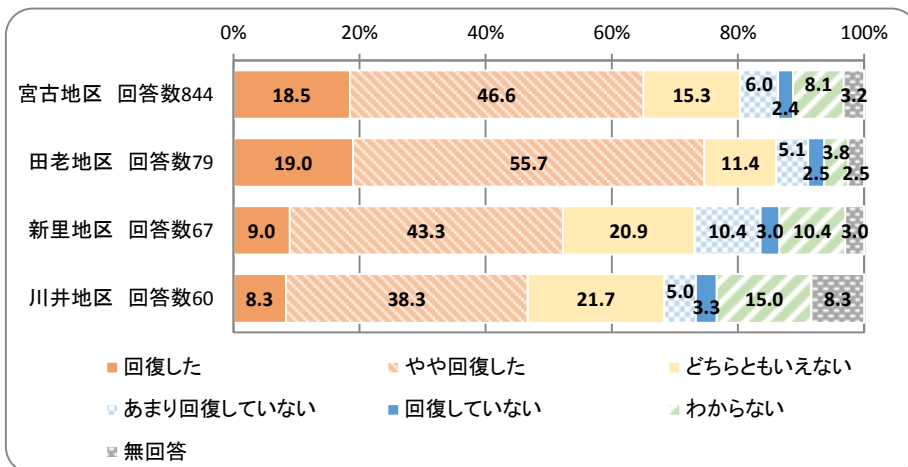
回答者の6割以上が「回復した」（「回復した」と「やや回復した」の合計）という回答が多い。



■地区別にみた「住まいと暮らしの再建」の状況

地区別に見ると、「田老地区」で「回復した」（「回復した」と「やや回復した」の合計）と回答している方が74.7%で最も高い。

回答者のほぼ4割以上が「住まいと暮らしの再建」を実感してきている。特に被災規模が大きかった「田老地区」で回復が実感できている。

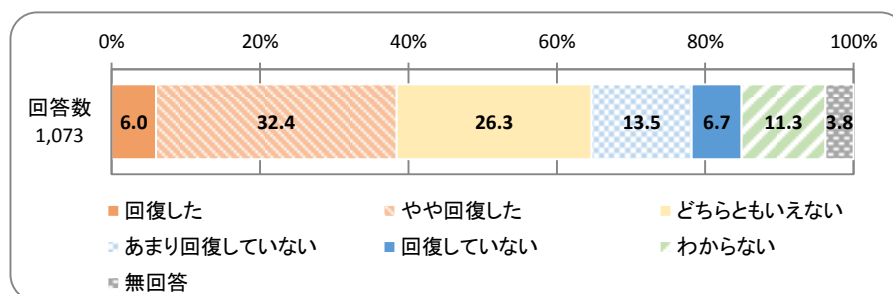


(2) 「産業・経済復興」の状況

問 18 あなたの周囲をご覧になって、宮古市の産業・経済は、被災前と比べてどの程度復興（回復）したと感じますか。（○印は1つ）

4割近くが産業・経済が復興していると感じている

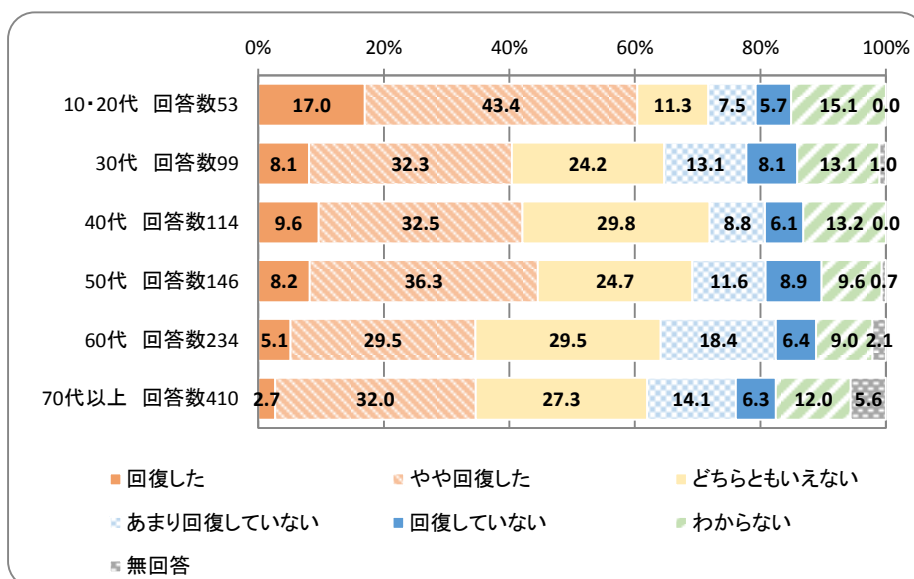
「回復した」（「回復した」（6.0%）と「やや回復した」（32.4%）の合計）は38.4%となり、「回復していない」（「あまり回復していない」（13.5%）と「回復していない」（6.7%）の合計）は20.2%で、「回復した」が「回復していない」を18.2ポイント上回った。



■年代別にみた「産業・経済復興」の状況

年代別に見ると、「10・20代」で「回復した」（「回復した」と「やや回復した」の合計）と回答している方が60.4%で最も高い。

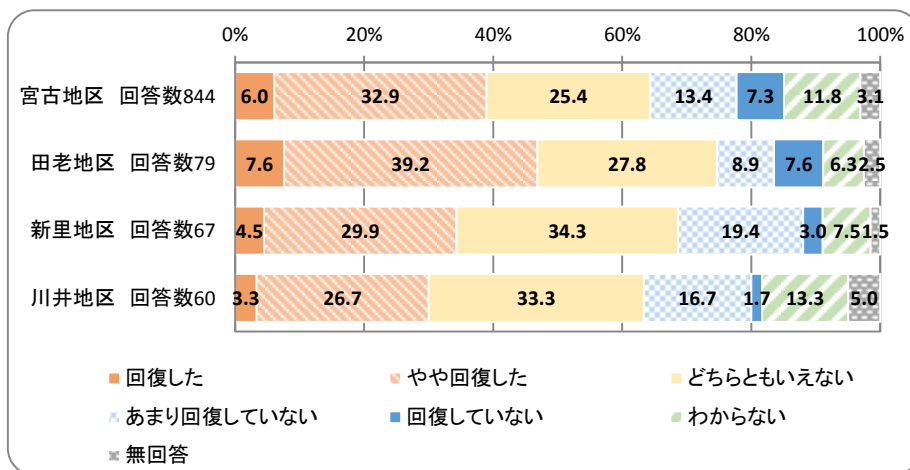
年齢層が低くなるほど、「回復した」（「回復した」と「やや回復した」の合計）という回答が多い傾向が見られる。



■地区別にみた「産業・経済復興」の状況

地区別に見ると、「田老地区」で「回復した」（「回復した」と「やや回復した」の合計）と回答している方が46.8%で最も高い。

特に被災規模が大きかった「田老地区」で「産業・経済復興」の回復が実感できている。

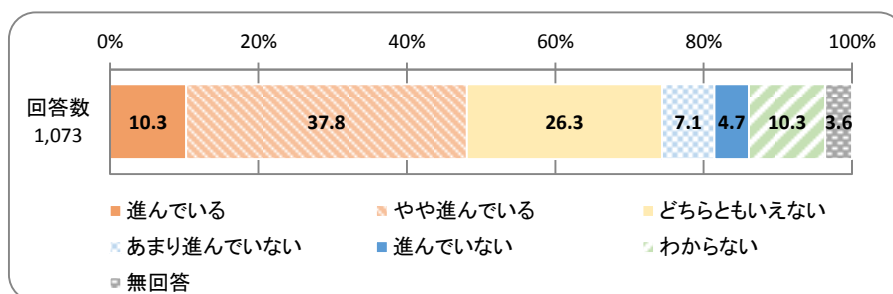


(3) 「安全な地域づくり」の状況

問 19 あなたの周囲をご覧になって、安全な地域づくりは、被災前と比べてどの程度進んでいると感じますか。(○印は1つ)

4割が安全な地域づくりは進んでいると感じている

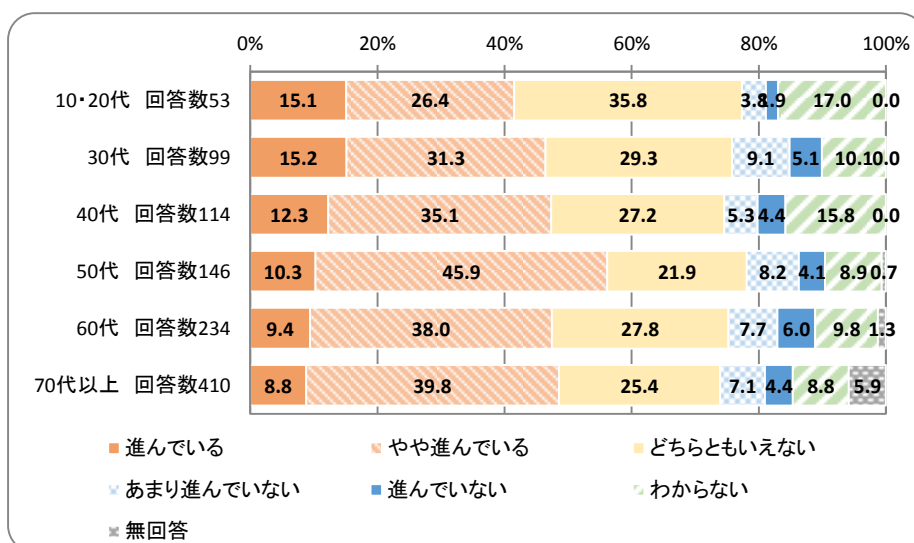
「進んでいる」(「進んでいる」(10.3%)と「やや進んでいる」(37.8%)の合計)は48.1%となり、「進んでいない」(「あまり進んでいない」(7.1%)と「進んでいない」(4.7%)の合計)は11.8%で、「進んでいる」が「進んでいない」を36.3ポイント上回った。



■年代別にみた「安全な地域づくり」の状況

年代別に見ると、「50代」で「進んでいる」(「進んでいる」(10.3%)と「やや進んでいる」(45.9%)の合計)と回答している方が56.2%で最も高い。

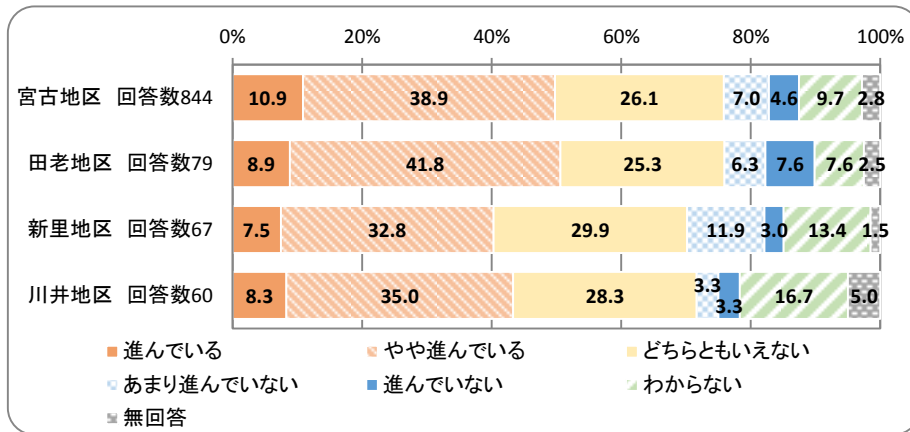
回答者の全世代の4割以上が「進んでいる」と実感している。



■地区別にみた「安全な地域づくり」の状況

地区別に見ると、「田老地区」で「進んでいる」（「進んでいる」（8.9%）と「やや進んでいる」（41.8%）の合計）と回答している方が50.7%で最も高い。

平成28年台風第10号で被害規模が大きかった新里地区においては、他地区と比べて、「進んでいる」と感じている方が少ないという結果となった。

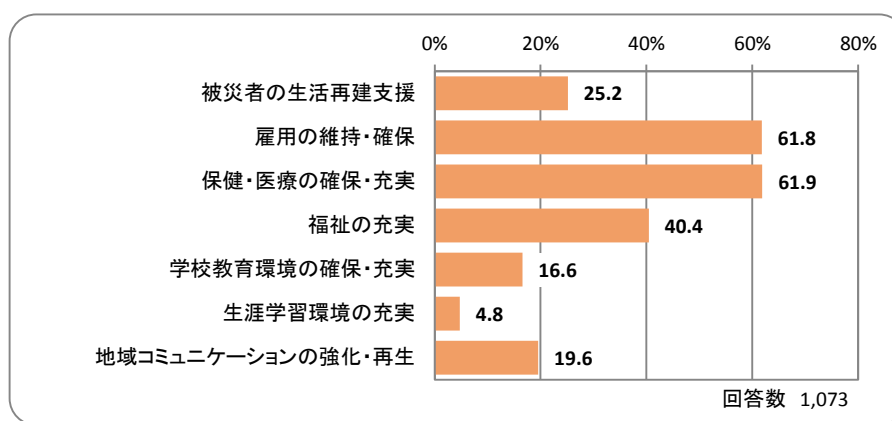


(4) 「住まいと暮らしの再建」において重要な施策

問 20 「住まいと暮らしの再建」において、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。（〇印は3つまで）

雇用や保健、医療の確保・充実についての取り組みが重視されている

「保健・医療の確保・充実」が最も多く61.9%となった。次いで「雇用の維持・確保」（61.8%）、「福祉の充実」（40.4%）の順となっている。

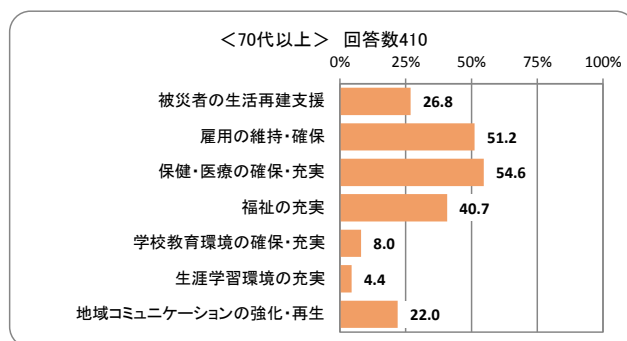
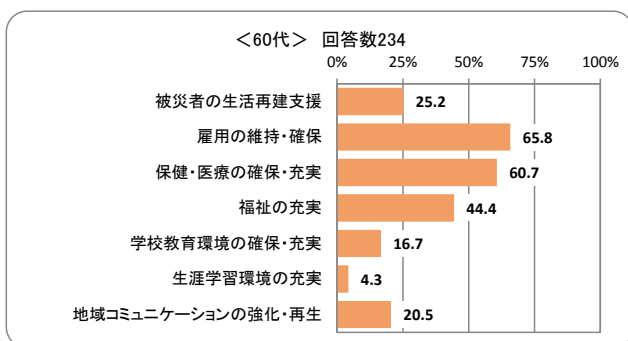
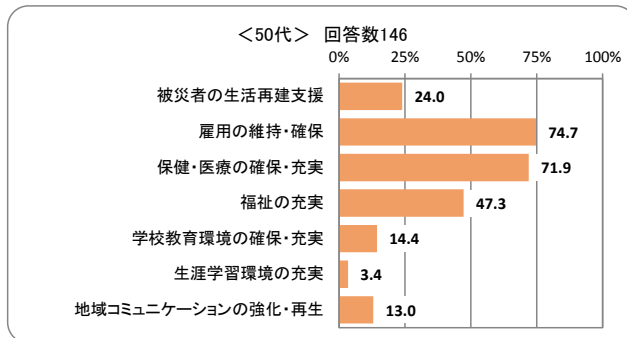
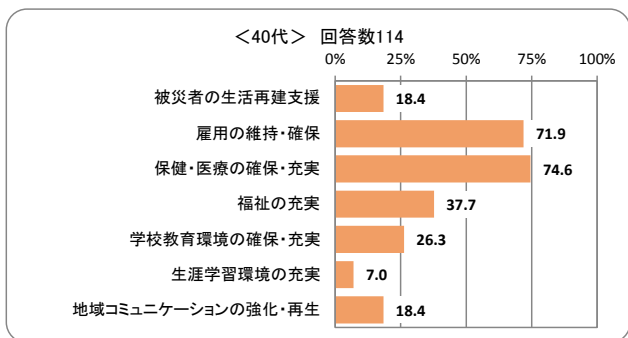
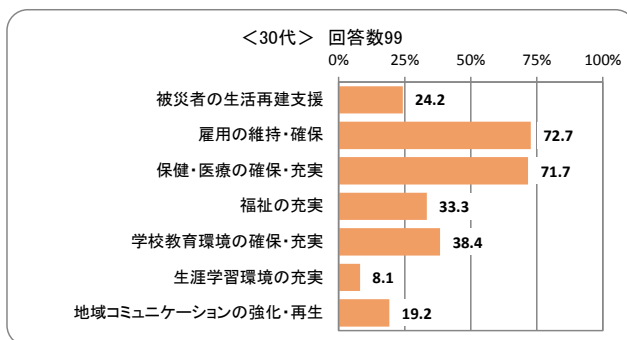
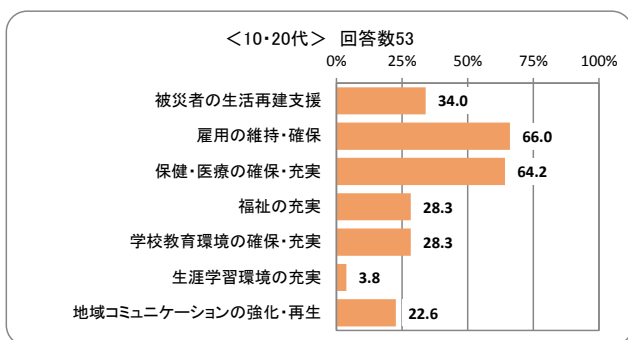


■年代別にみた「住まいと暮らしの再建」において重要な施策

年代を問わず雇用や保健、医療の確保・充実の取り組みが重視されている

世代別に順位は異なるものの、「雇用の維持・確保」、「保健・医療の確保・充実」に対する回答が上位2位以内を占めている。

10代から40代で「学校教育環境の確保・充実」の割合が20%以上となっており、他の世代と比べて高い。50代以上では「福祉の充実」の割合が40%以上となっており、他の世代と比べて高い。

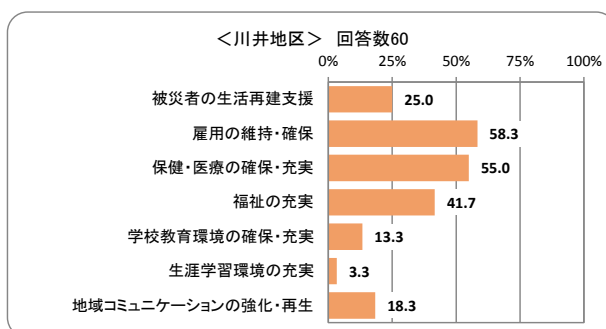
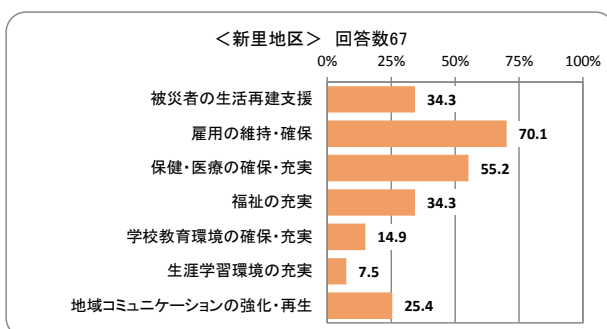
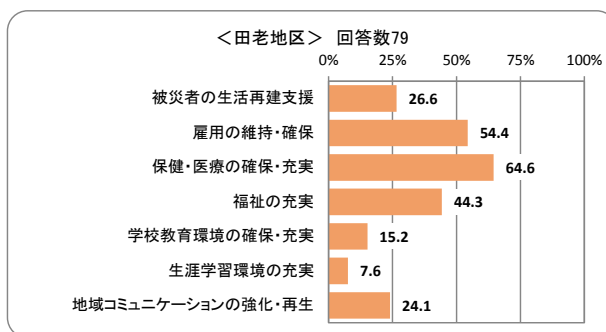
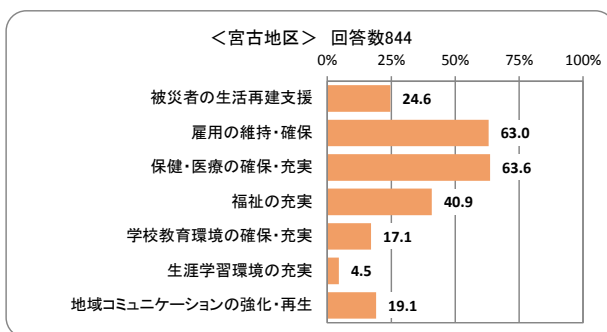


■地区別にみた「住まいと暮らしの再建」において重要な施策

地域を問わず雇用や保健、医療の確保・充実の取り組みが重視されている

地区別で順位は異なるものの「雇用の維持・確保」、「保健・医療の確保・充実」に対する回答が上位2位以内を占めている。

次いで「福祉の充実」が地区を問わず高くなっている。

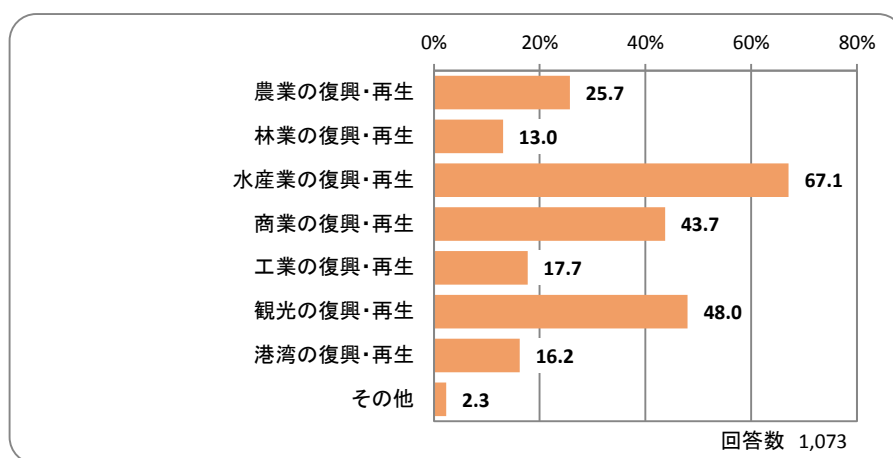


(5) 「産業・経済復興」において重要な施策

問 21 「産業・経済復興」において、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。（○印は3つまで）

水産業の復興・再生への取り組みが最も重視されている

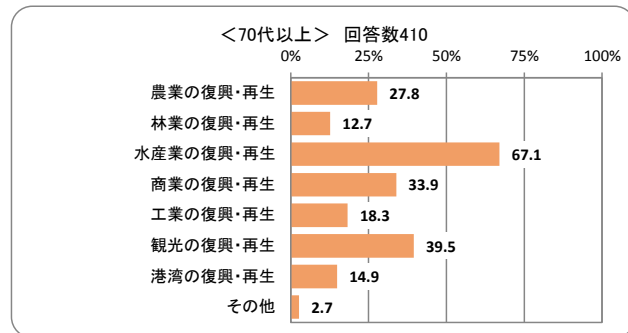
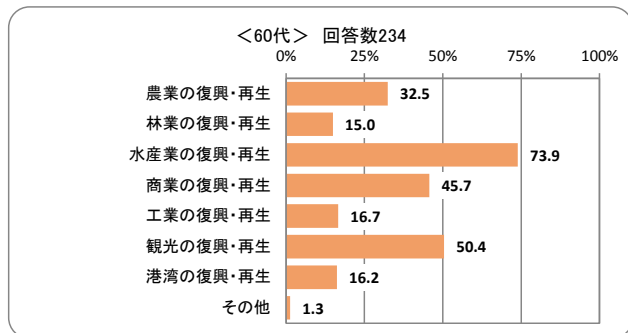
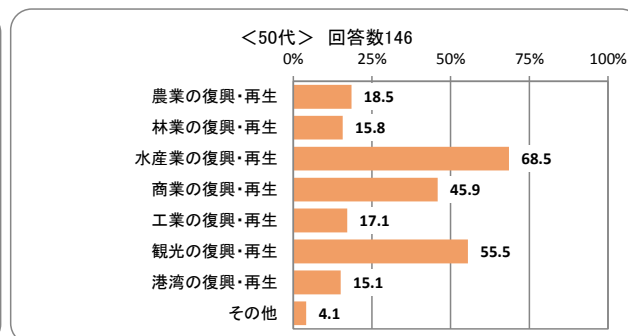
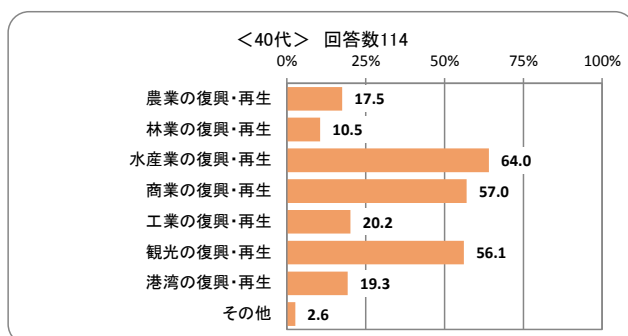
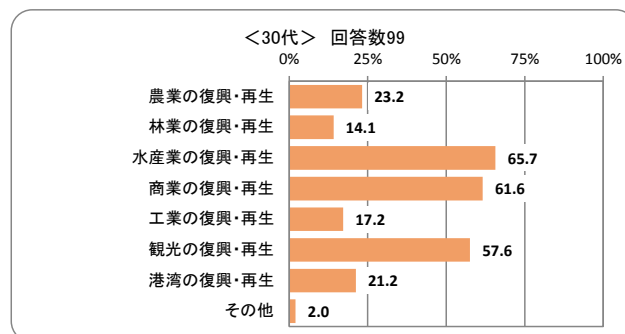
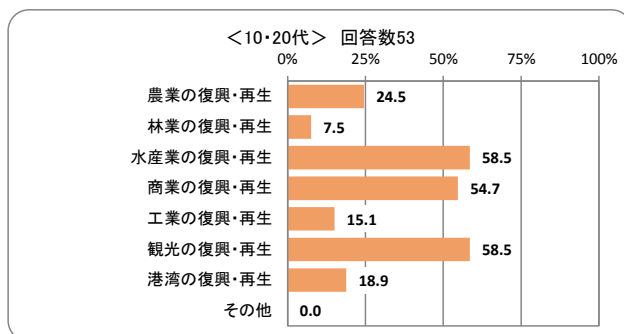
「水産業の復興・再生」が最も多く67.1%となった。次いで「観光の復興・再生」（48.0%）、「商業の復興・再生」（43.7%）の順となっている。



■年代別にみた「産業・経済復興」において重要な施策

年代を問わず水産業や商業、観光の復興・再生が重視されている

年代を問わず「水産業の復興・再生」が最も高くなっている。次いで年代別に順位は異なるものの「商業の復興・再生」、「観光の復興・再生」に対する回答が高くなっている。



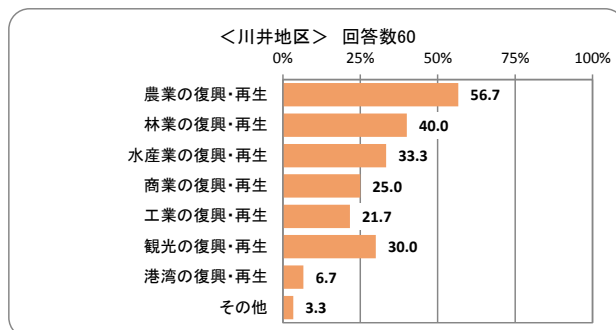
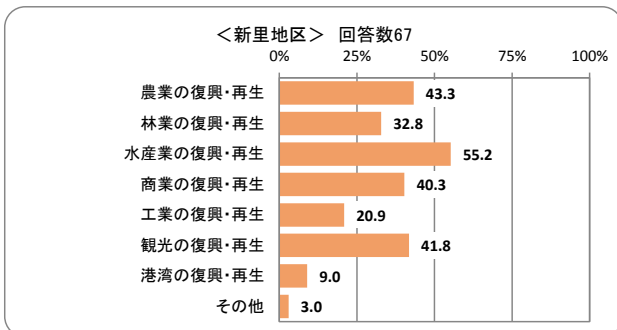
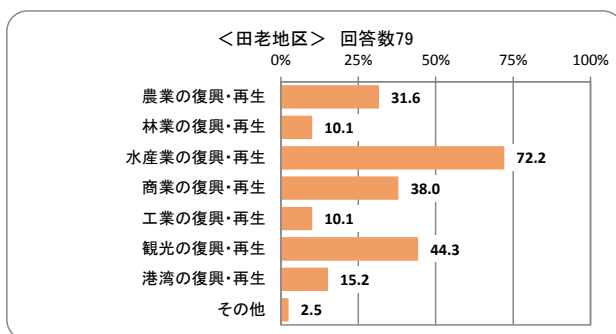
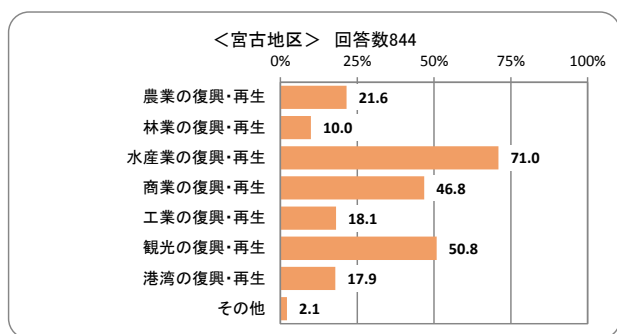
■地区別にみた「産業・経済復興」において重要な施策

地区を問わず「水産業の復興・再生」を重要視しているが、地区の特性に合わせた施策の実施が求められる

地区別に重要な施策が異なるものの、地区を問わず「水産業の復興・再生」が上位3位以内となっている。

「水産業の復興・再生」以外で地区別の重要な施策を見ると、「観光の復興・再生」が「宮古地区」で50.8%、「田老地区」で44.3%、「農業の復興・再生」が「新里地区」で43.3%、「川井地区」で56.7%となっている。

各地区で産業・経済の構造が異なるため、地区の特性に合わせた施策の実施が求められる。

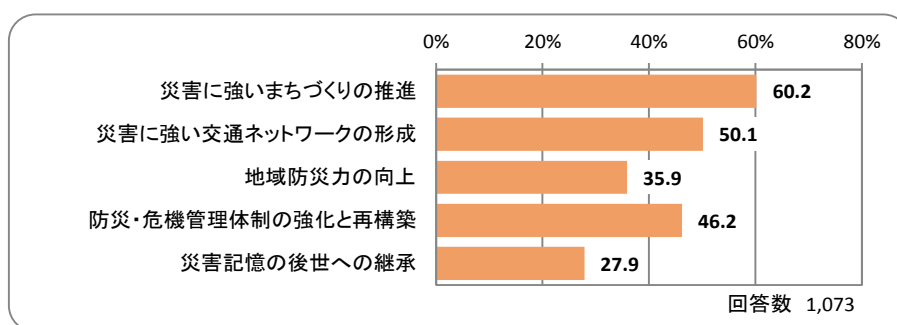


(6) 「安全な地域づくり」において重要な施策

問 22 「安全な地域づくり」において、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。（○印は3つまで）

災害に強いまちづくり、交通ネットワークの形成が重視されている

「災害に強いまちづくりの推進」が最も多く60.2%となった。次いで「災害に強い交通ネットワークの形成」（50.1%）、「防災・危機管理体制の強化と再構築」（46.2%）の順となっている。

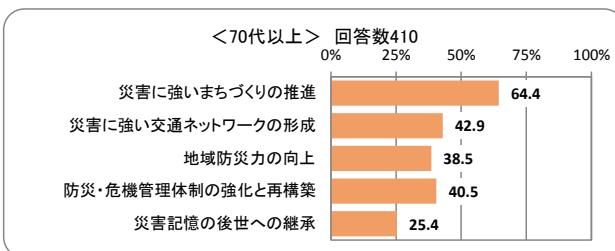
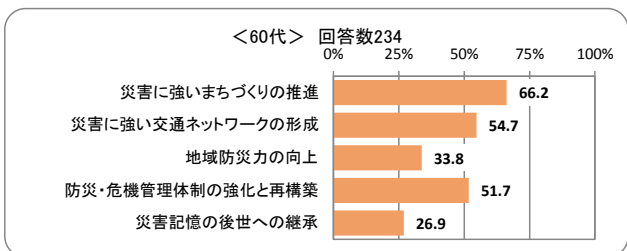
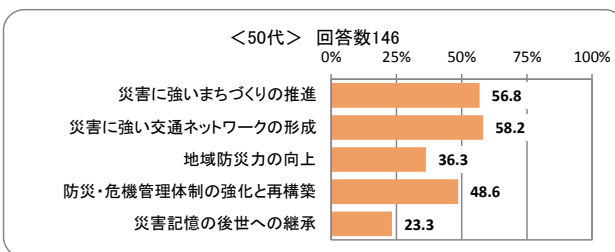
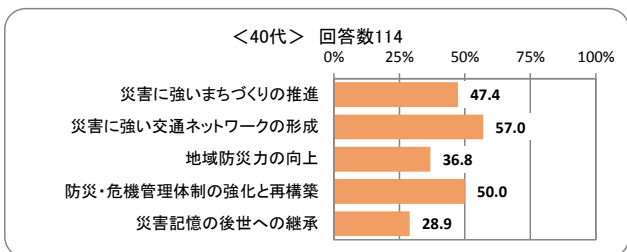
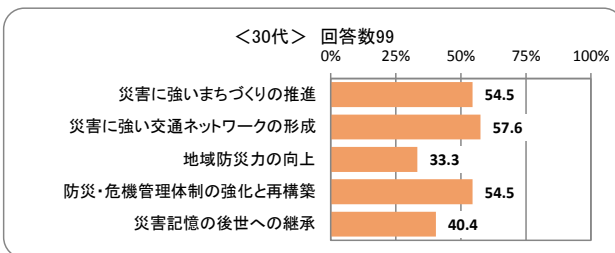
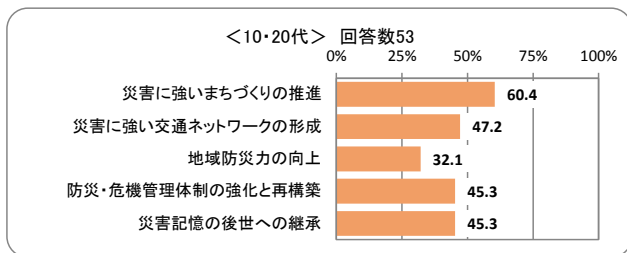


■年代別にみた「安全な地域づくり」において重要な施策

年代を問わず災害に強いまちづくり、交通ネットワークの形成が重視されている

10・20代、60代以上で「災害に強いまちづくりの推進」の回答が最も高くなっており、30代～50代で「災害に強い交通ネットワークの形成」の回答が最も高くなっている。

40代以上で「災害記憶の後世への継承」は回答が低くなっている。

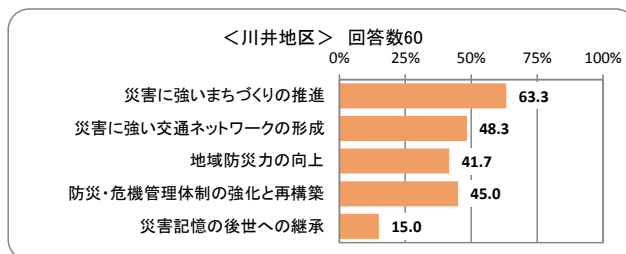
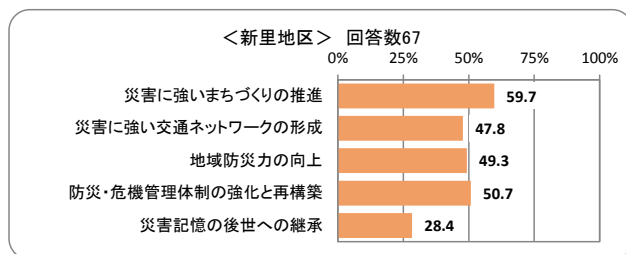
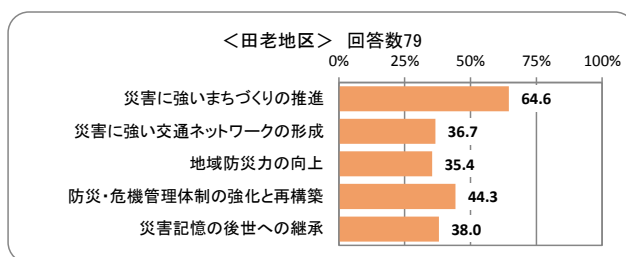
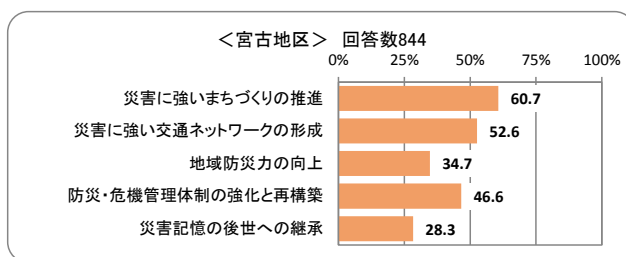


■地区別にみた「安全な地域づくり」において重要な施策

地区を問わず災害に強いまちづくりが重視されている

地区を問わず「災害に強いまちづくりの推進」が最も高くなっている。

2位以下は地区別に順位が異なるため、地区の特性に合わせた施策の実施が求められる。



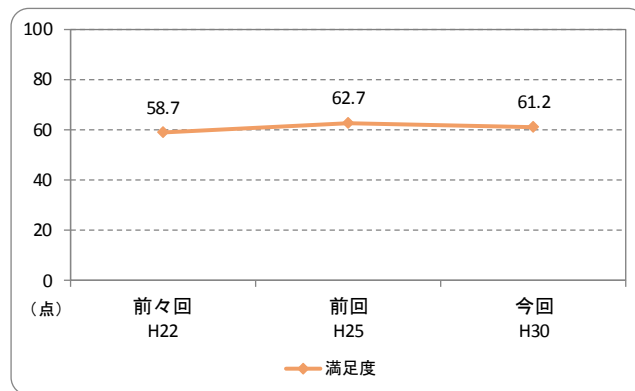
第4章 前回調査との比較

1. 身近な生活環境への評価

(1) 生活環境に対する満足度（分野別・項目別）

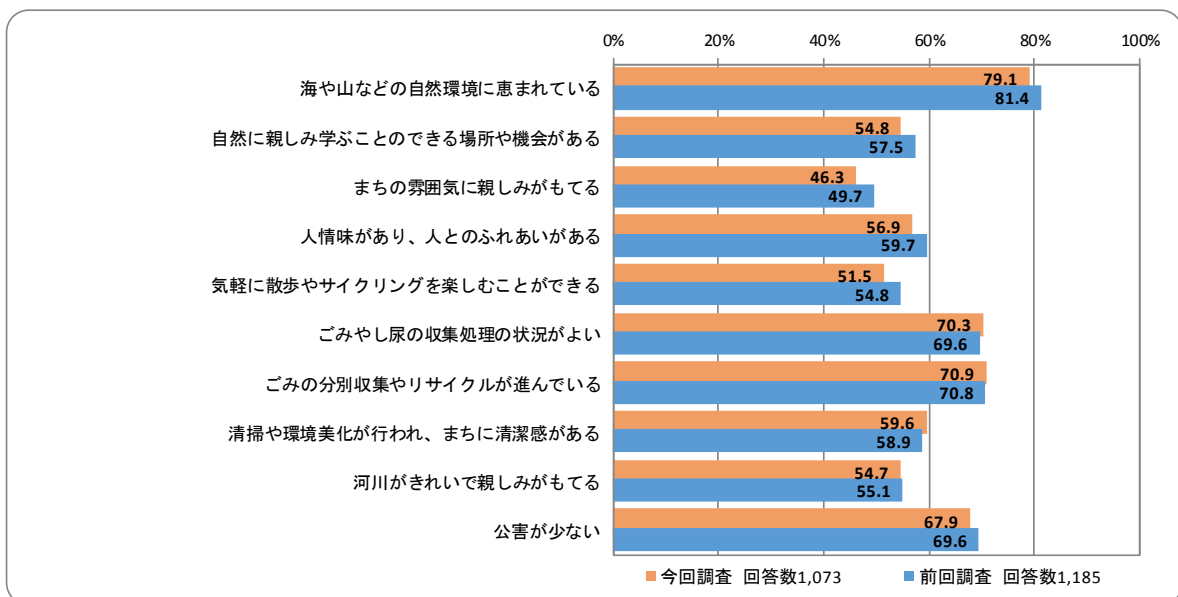
■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の平均点（前々回：58.7点、前回：62.7点、今回：61.2点）をみると、大きな変化は無いが、前回と比べ1.5点減少している。



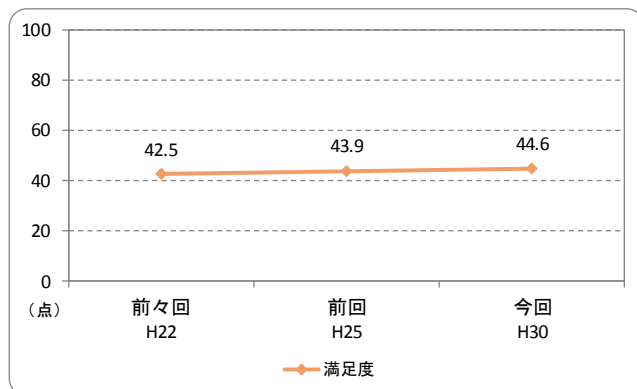
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「海や山などの自然環境に恵まれている」で79.1点となった。一方、最も低いのも前回と同様「まちの雰囲気親しみがもてる」で46.3点となった。

前回と比べ最も増加したのは同数で「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」（前回：69.6点、今回：70.3点）、「清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある」（前回：58.9点、今回：59.6点）で0.7点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「まちの雰囲気親しみがもてる」（前回：49.7点、今回：46.3点）で3.4点減少している。



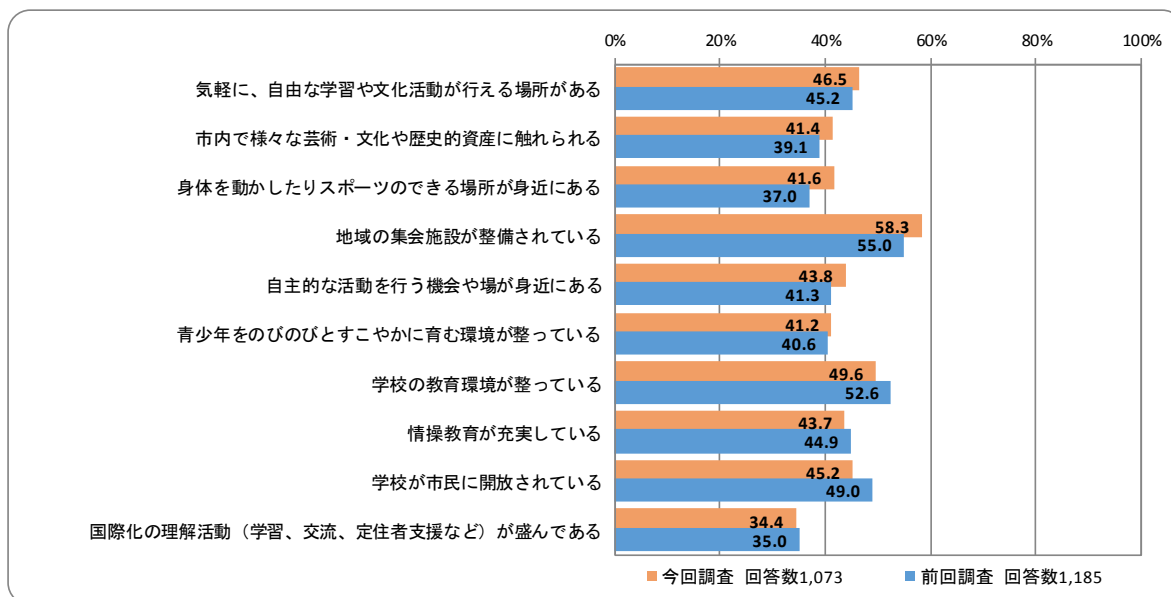
■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の平均点（前々回：42.5点、前回：43.9点、今回：44.6点）をみると、大きな変化は無いが、前回と比べ0.7点増加している。



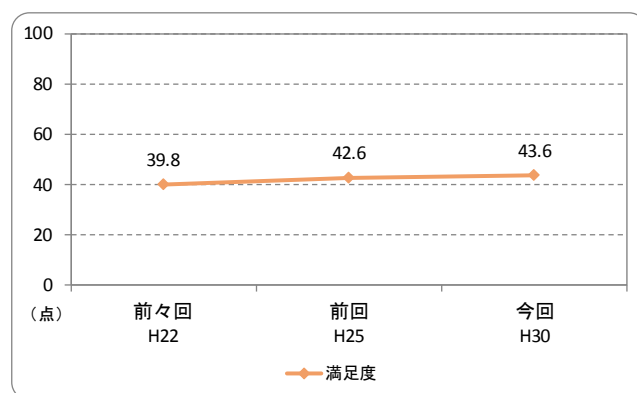
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「地域の集会施設が整備されている」で58.3点となった。一方、最も低いのも前回と同様「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである」で34.4点となった。

前回と比べ最も増加したのは「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」（前回：41.6点、今回：37.0点）で4.6点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「学校が市民に開放されている」（前回：45.2点、今回：49.0点）で3.8点減少している。



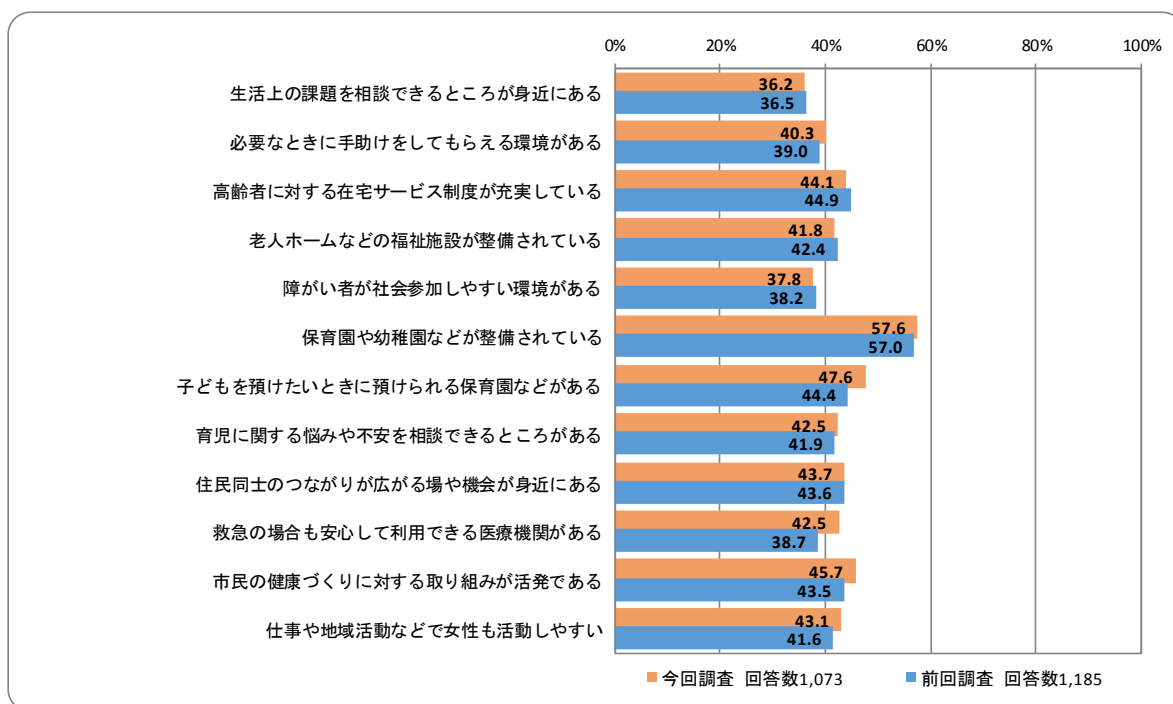
■「福祉・健康」の満足度

福祉・健康における満足度の平均点（前々回：39.8点、前回：42.6点、今回：43.6点）をみると、大きな変化は無いが、前回と比べ1.0点増加している。



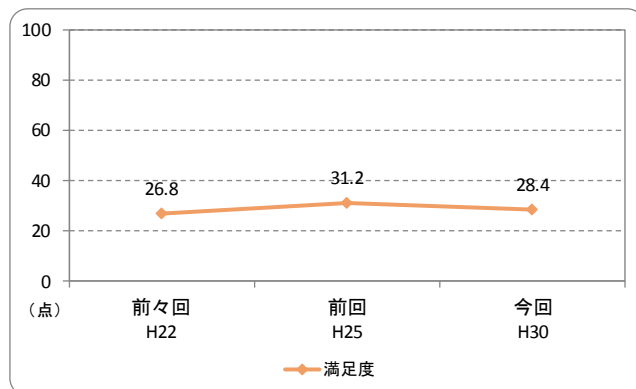
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「保育園や幼稚園などが整備されている」で57.6点となった。一方、最も低いのも前回と同様「生活上の課題を相談できる場所が身近にある」で36.2点となった。

前回と比べ最も増加したのは「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」（前回：38.7点、今回：42.5点）で3.8点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「高齢者に対する在宅サービス制度が充実している」（前回：44.9点、今回：44.1点）で0.8点減少している。



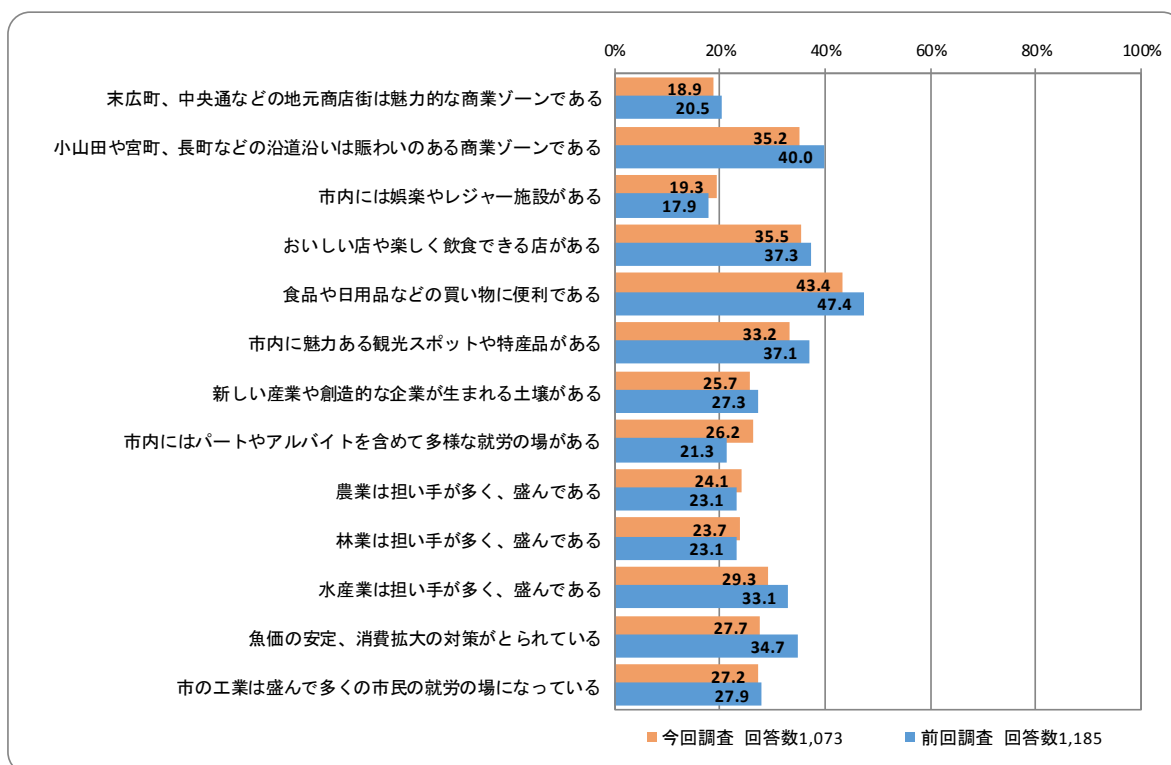
■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の平均点（前々回：26.8点、前回：31.2点、今回：28.4点）をみると、大きな変化は無いが、前回と比べ2.8点減少している。



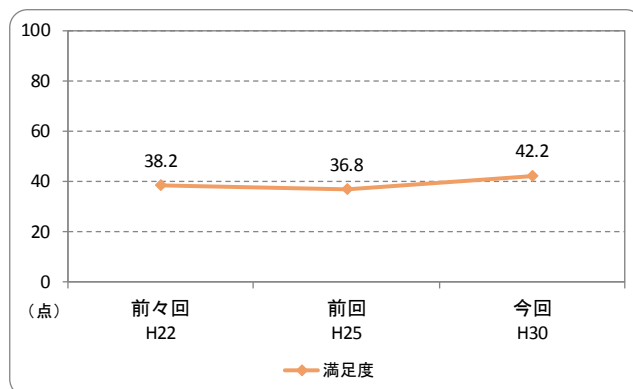
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「食品や日用品などの買い物に便利である」で43.4点となった。一方、最も低いのは「末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである」で18.9点となった。

前回と比べ最も増加したのは「市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある」（前回：21.3点、今回：26.2点）で4.9点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「魚価の安定、消費拡大の対策がとられている」（前回：34.7点、今回：27.7点）で7.0点減少している。



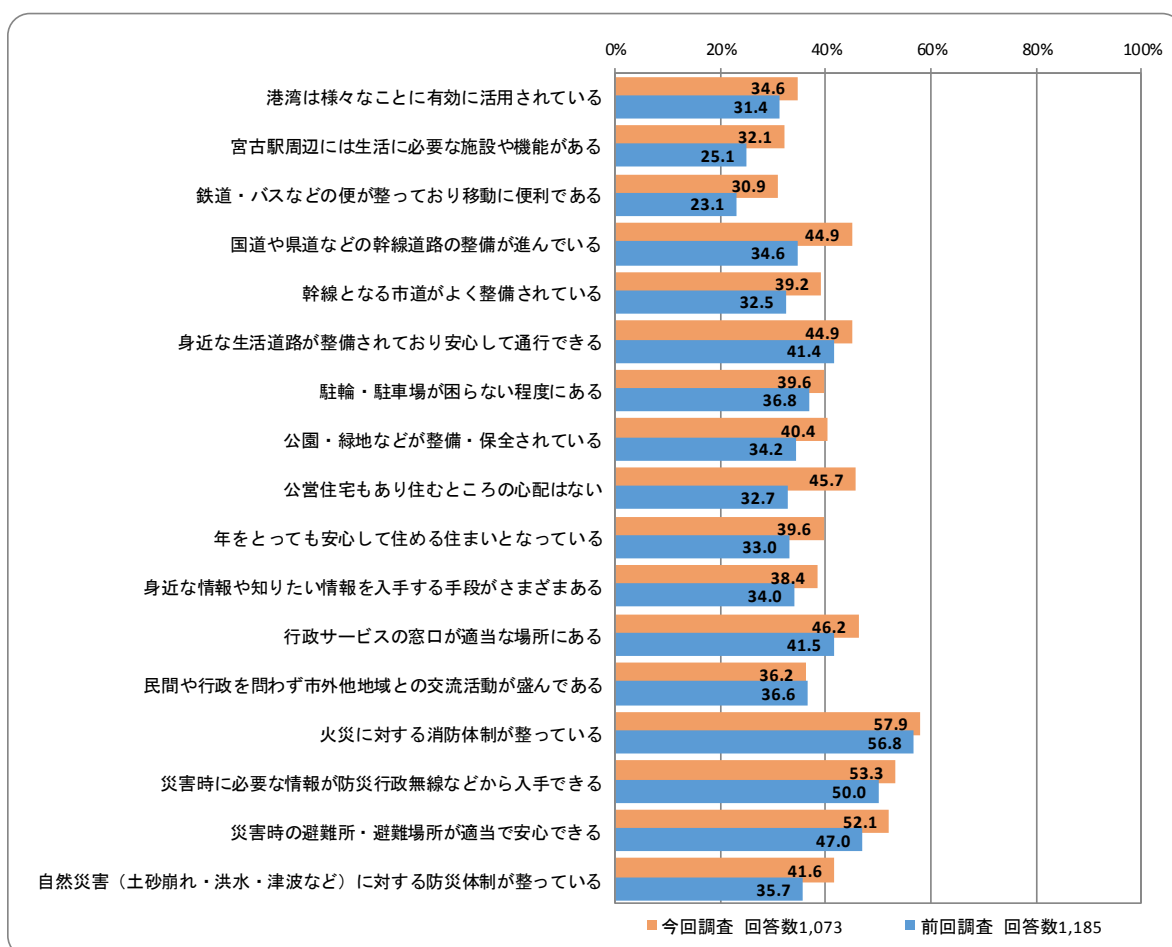
■「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の平均点（前々回：38.2点、前回：36.8点、今回：42.2）をみると、前回と比べ5.4点増加しており、分野別で最も変化がみられた。



項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「火災に対する消防体制が整っている」で57.9点となった。一方、最も低いのは「鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である」で30.9点となった。

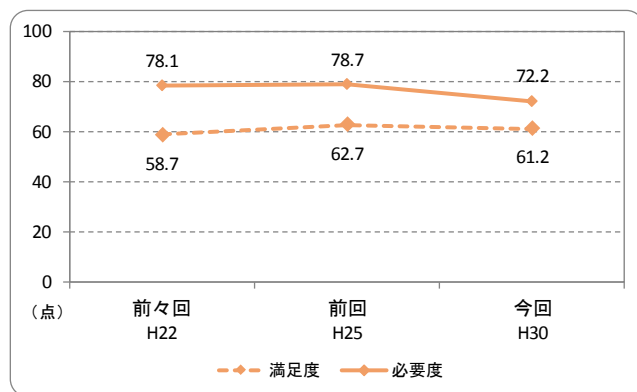
前回と比べ最も増加したのは「公営住宅もあり住むところの心配はない」（前回：32.7点、今回：45.7点）で13.0点増加している。一方で、前回と比べ唯一減少したのは「民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである」（前回：36.6点、今回：36.2点）で0.4点減少している。



(2) 生活環境に対する必要度（分野別・項目別）

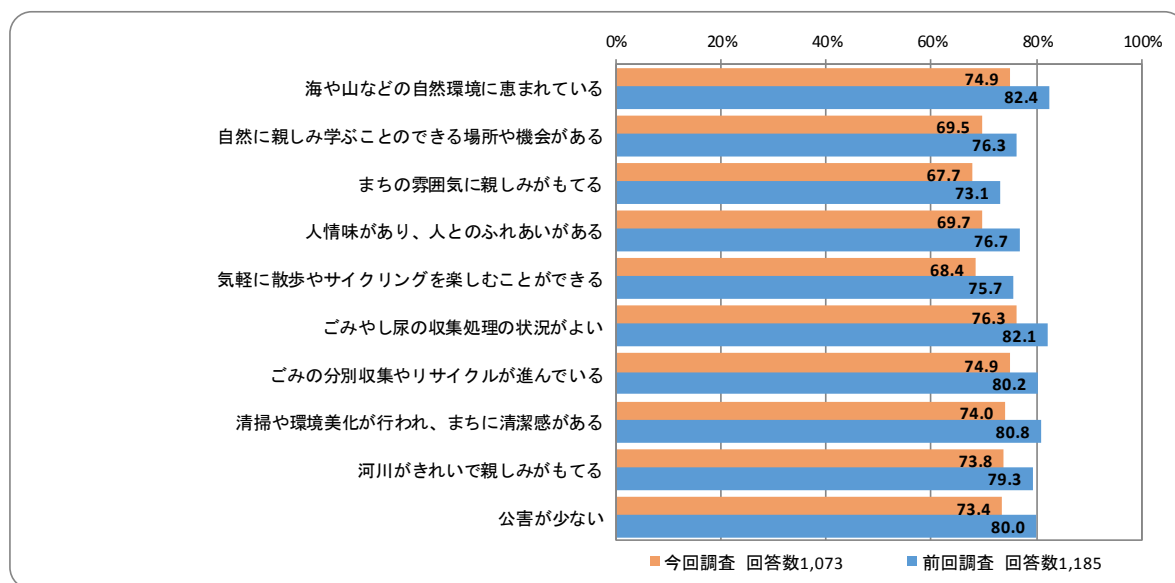
■「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の平均点（前々回：78.1点、前回：78.7点、今回：72.2点）をみると、前回と比べ6.5点減少しているが、全分野のうち最も必要度の平均点が高い。



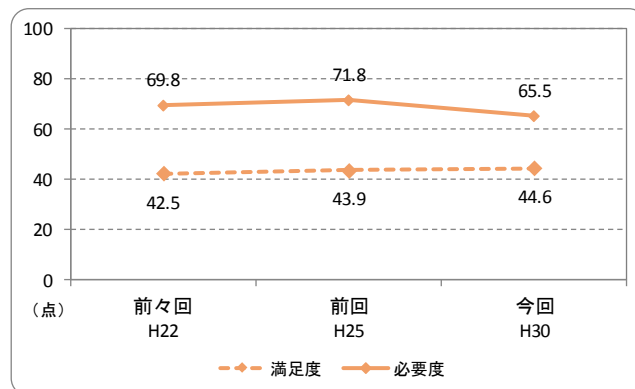
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは「ごみやし尿の収集処理の状況がよい」で76.3点となった。一方、最も低いのは前回と同様「まちの雰囲気に親しみがもてる」で67.7点となった。

全項目で必要度が減少しており、前回と比べ最も減少したのは「海や山などの自然環境に恵まれている」（前回：82.4点、今回：74.9点）で7.5点減少している。



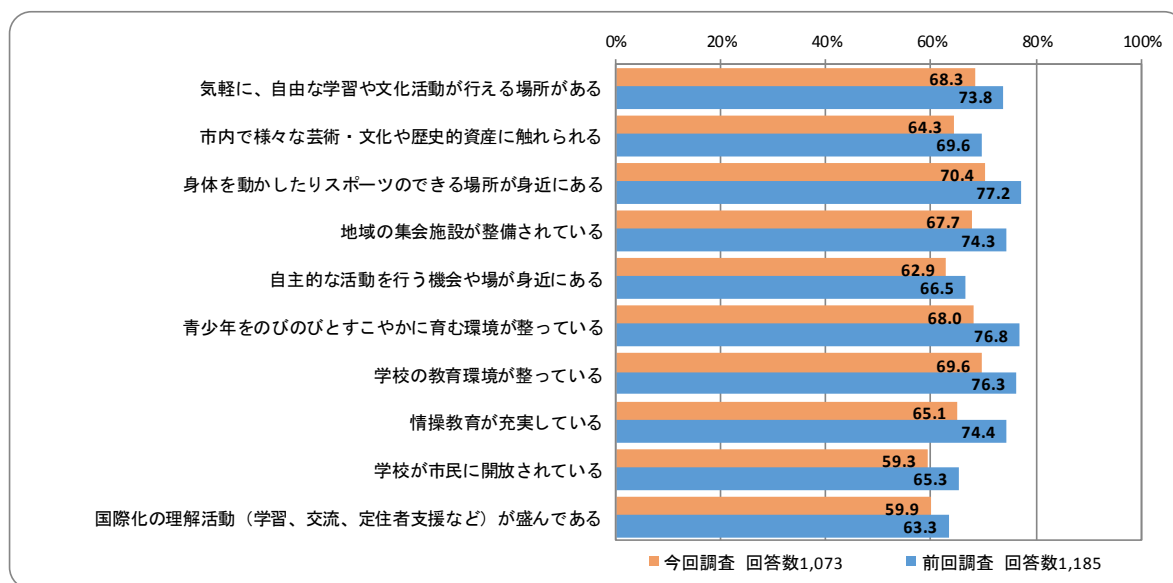
■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の平均点（前々回：69.8点、前回：71.8点、今回：65.5点）をみると、前回と比べ6.3点減少している。



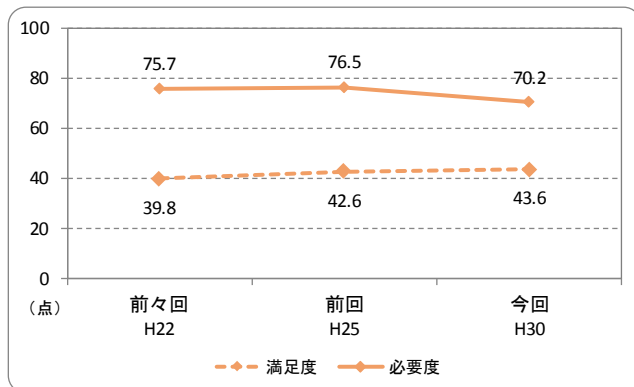
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある」で70.4点となった。一方、最も低いのは「学校が市民に開放されている」で59.3点となった。

全項目で必要度が減少しており、前回と比べ最も減少したのは「情操教育が充実している」（前回：74.4点、今回：65.1点）で9.3点減少している。



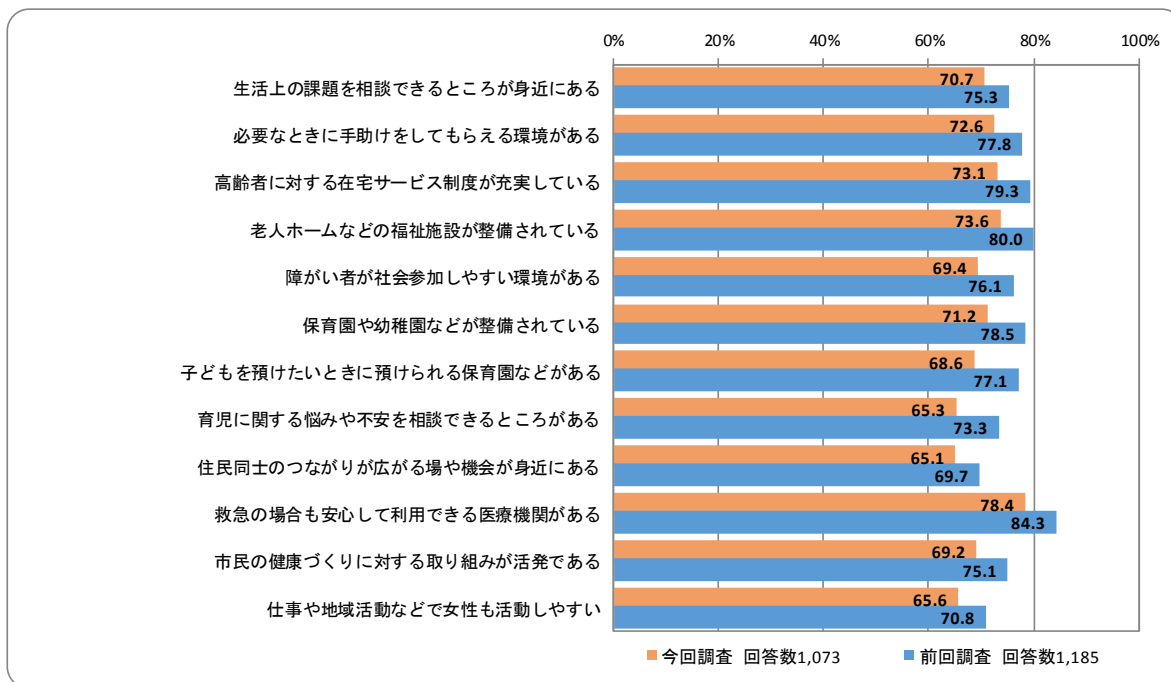
■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の平均点（前々回：75.7点、前回：76.5点、今回：70.2点）をみると、前回と比べ6.3点の減少している。



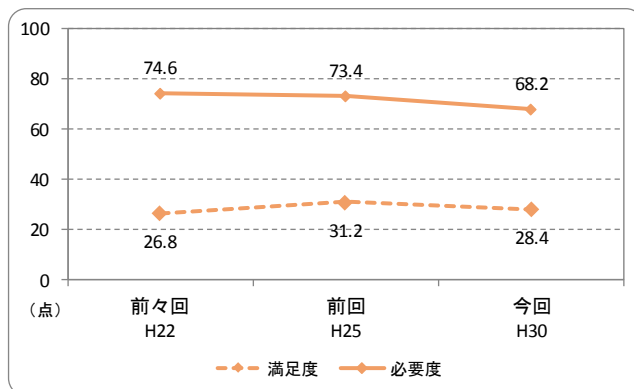
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「救急の場合も安心して利用できる医療機関がある」で78.4点となった。一方、最も低いのも前回と同様「住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある」で65.1点となった。

全項目で必要度が減少しており、前回と比べ最も減少したのは「子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある」（前回：77.1点、今回：68.6点）で8.5点減少している。



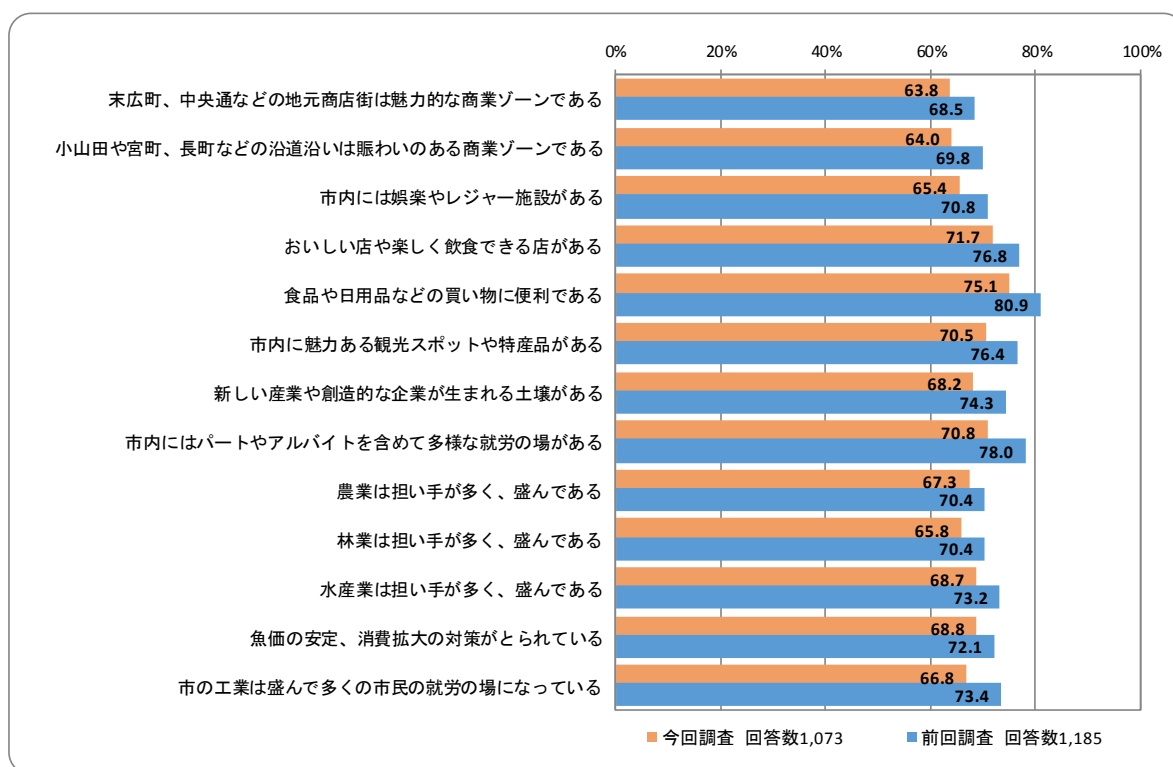
■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の平均点（前々回：74.6点、前回：73.4点、今回：68.2点）をみると、前回と比べ5.2点減少している。



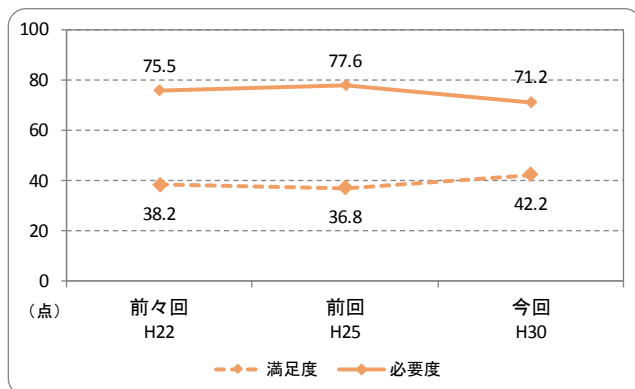
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「食品や日用品などの買い物に便利である」で75.1点となった。一方、最も低いのも前回と同様「末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである」で63.8点となった。

全項目で必要度が減少しており、前回と比べ最も減少したのは「市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある」(前回：78.0点、今回：70.8点)で7.2点減少している。



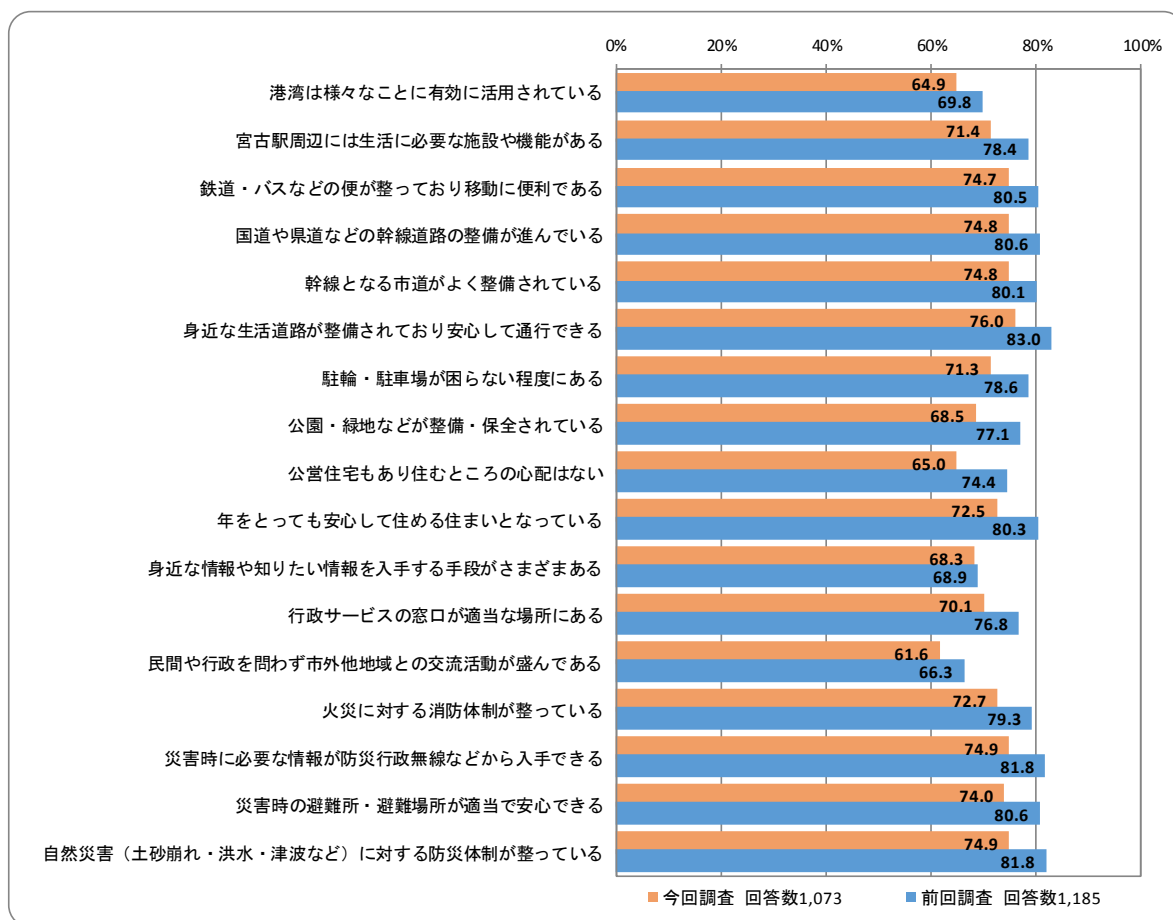
■「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の平均点（前々回：75.5点、前回：77.6点、今回：71.2点）をみると、前回と比べ6.4点減少している。



項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「身近な生活道路が整備されており安心して通行できる」で76.0点となった。一方、最も低いのも前回と同様「民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである」で61.6点となった。

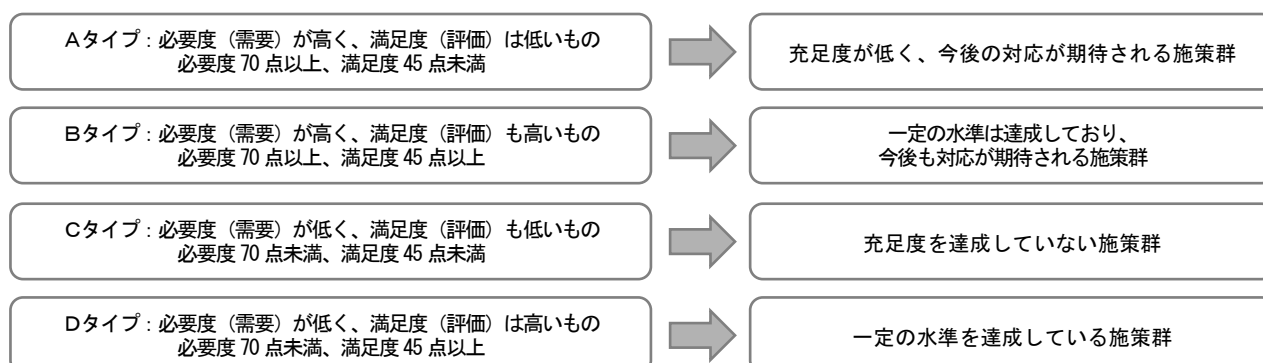
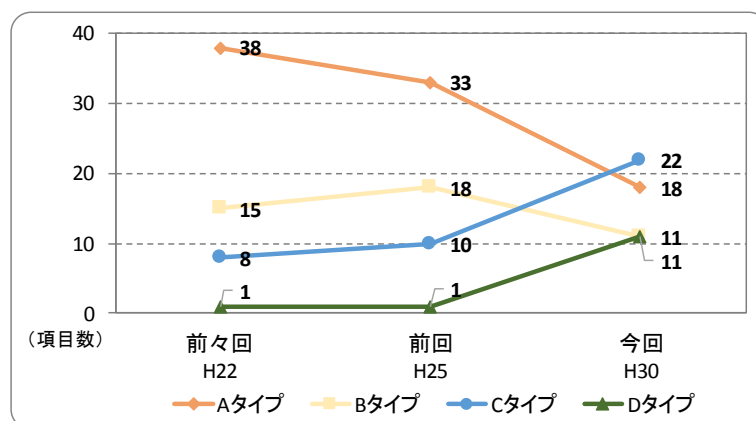
全項目で必要度が減少しており、前回と比べ最も減少したのは「公営住宅もあり住むところの心配はない」（前回：74.4点、今回：65.0点）で9.4点減少している。



(3) 行政施策の類型化

前回Aタイプに属していた項目は33個あったが、今回は18個となった。Bタイプでは前回18個あったが、今回11個となった。Cタイプでは前回10個あったが、今回は22個となった。Dタイプでは前回1個で、今回は11個となった。

前回から大きく変化が見られ、A（充足度が低く、今後の対応が期待される施策群）、B（一定の水準は達成しており、今後も対応が期待される施策群）が減少し、C（充足度を達成していない施策群）、D（一定の水準を達成している施策群）は増加している。



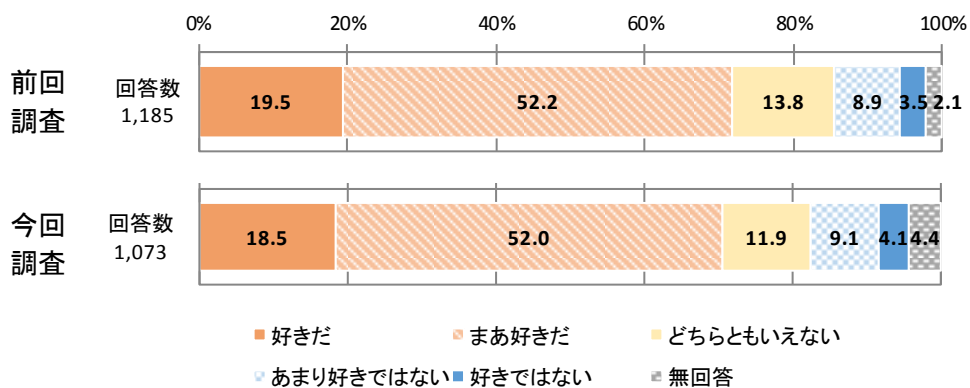
項目別にみると、前回Aタイプに属していた33項目のうち、1項目がBタイプ、12項目がCタイプ、3項目がDタイプとなり、大半が必要度が低く、満足度も低い施策に分類された。また、前回Bタイプに属していた18項目のうち、1項目がAタイプ、7項目がDタイプとなり、大半が必要度が低く、満足度が高い施策に分類された。

今回 \ 前回	A	B	C	D	合計(今回)
A	17	1			18
B	1	10			11
C	12		10		22
D	3	7		1	11
合計(前回)	33	18	10	1	62

(4) 地域への愛着度

前回と同様の結果が得られ、多くが地域を好きだと感じている。

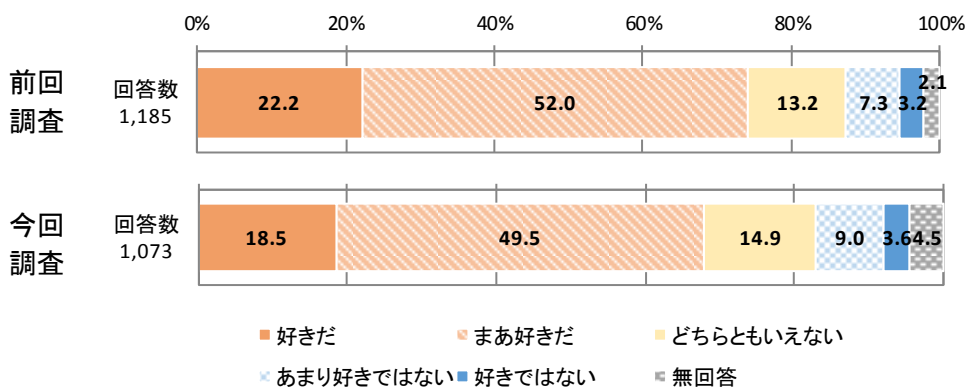
前回と比較すると、「好きだ」、「まあ好きだ」の合計値（前回：71.7%、今回：70.5%）が前回より低く、「好きではない」、「あまり好きではない」の合計値（前回：12.4%、今回：13.2%）は前回より高くなっており、前回より地域への愛着度が低くなっている。



(5) 市への愛着度

前回と同様の結果が得られ、多くが市を好きだと感じている。

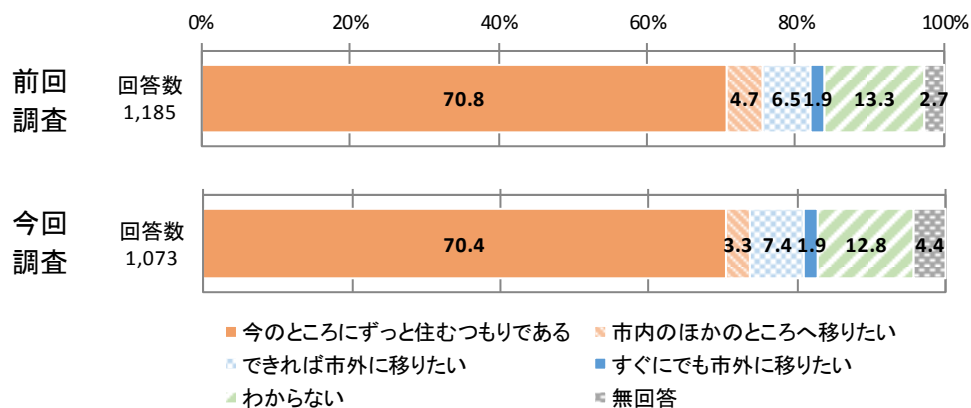
前回と比較すると、「好きだ」、「まあ好きだ」の合計値（前回：74.2%、今回：68.0%）が前回より低く、「好きではない」、「あまり好きではない」の合計値（前回：10.5%、今回：12.6%）は前回より高くなっており、前回より市への愛着度が低くなっている。



(6) 定住意向

前回と同様の結果が得られ、多くが市内への定住を望んでいる。

前回と比較すると、「今のところにずっと住むつもりである」、「市内のほかのところへ移りたい」の合計値（前回：75.5%、今回：73.7%）が前回より低く、「できれば市外に移りたい」、「すぐにでも市外に移りたい」の合計値（前回：8.4%、今回：9.3%）が前回より高くなっており、前回より定住意向が減少している。



2. 地域や社会とのかかわりに対する意識

(1) 地域や社会への参加意識

■地域活動への参加意識

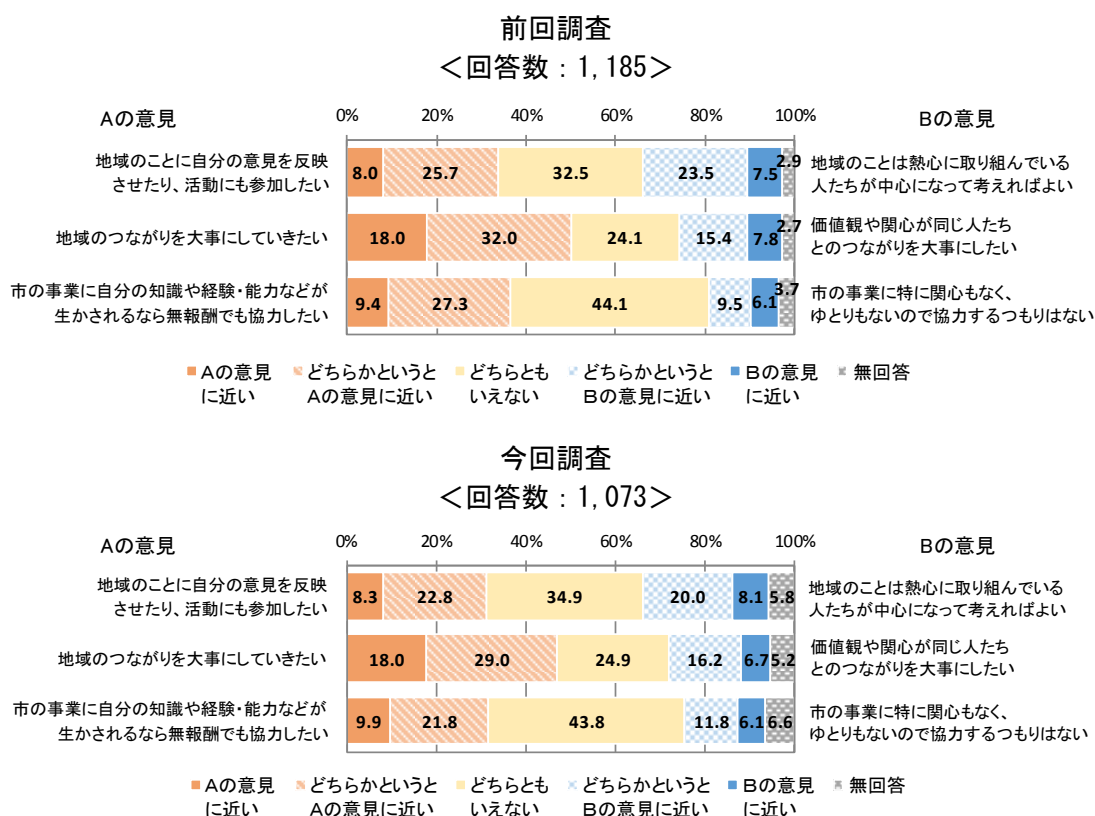
前回調査と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回調査ではAの意見とBの意見との差が、2.7ポイントだったのに対し、今回は3.0ポイントの差となり、その差は微増しているものの、「どちらともいえない」、「無回答」が前回よりも高くなっている。

■人とのつながりに関する価値

前回調査と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回調査ではAの意見とBの意見との差が、26.8ポイントだったのに対し、今回は24.1ポイントの差となり、その差は微減しているものの、「どちらともいえない」、「無回答」が前回よりも高くなっている。

■市の事業への協力意識

前回調査と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回調査ではAの意見とBの意見との差が、21.1ポイントだったのに対し、今回は13.8ポイントの差となり、その差は減少した。Bの意見に近い方が前回から2.3ポイント（前回：15.6%、今回：17.9%）増加している。

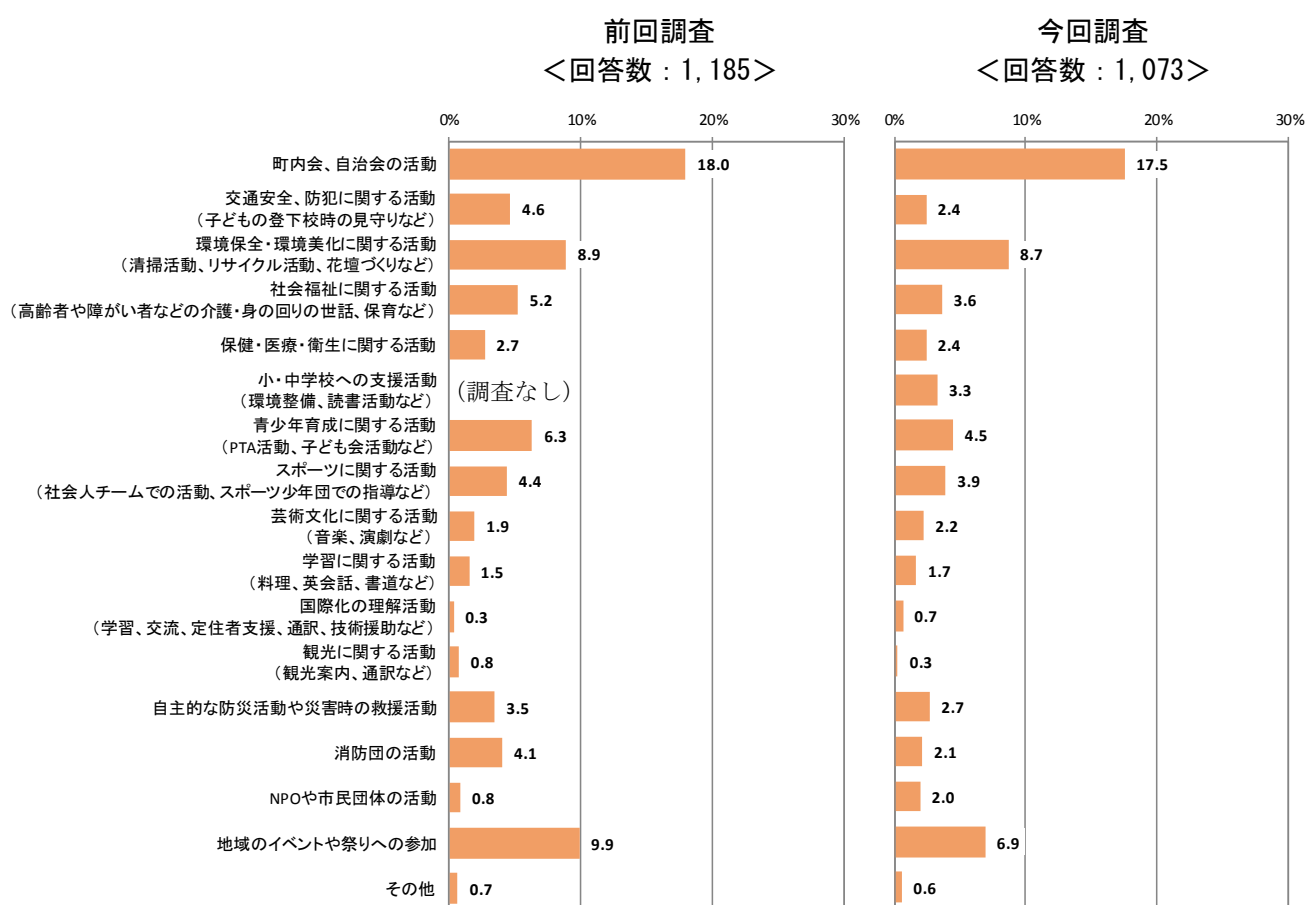


(2) 社会活動への参加状況

現在参加している活動をみると前回同様、「町内会、自治会の活動」、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「地域のイベントや祭りへの参加」が上位3位以内となっている。

順位をみると、今回は2位が「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、3位が「地域のイベントや祭りへの参加」となっており、前回と順位に変動が見られる。

項目別にみて、参加割合が増加したのは、「NPOや市民団体の活動」、「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援、通訳、技術援助など）」、「芸術文化に関する活動（音楽、演劇など）」、「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」の4項目となっている。



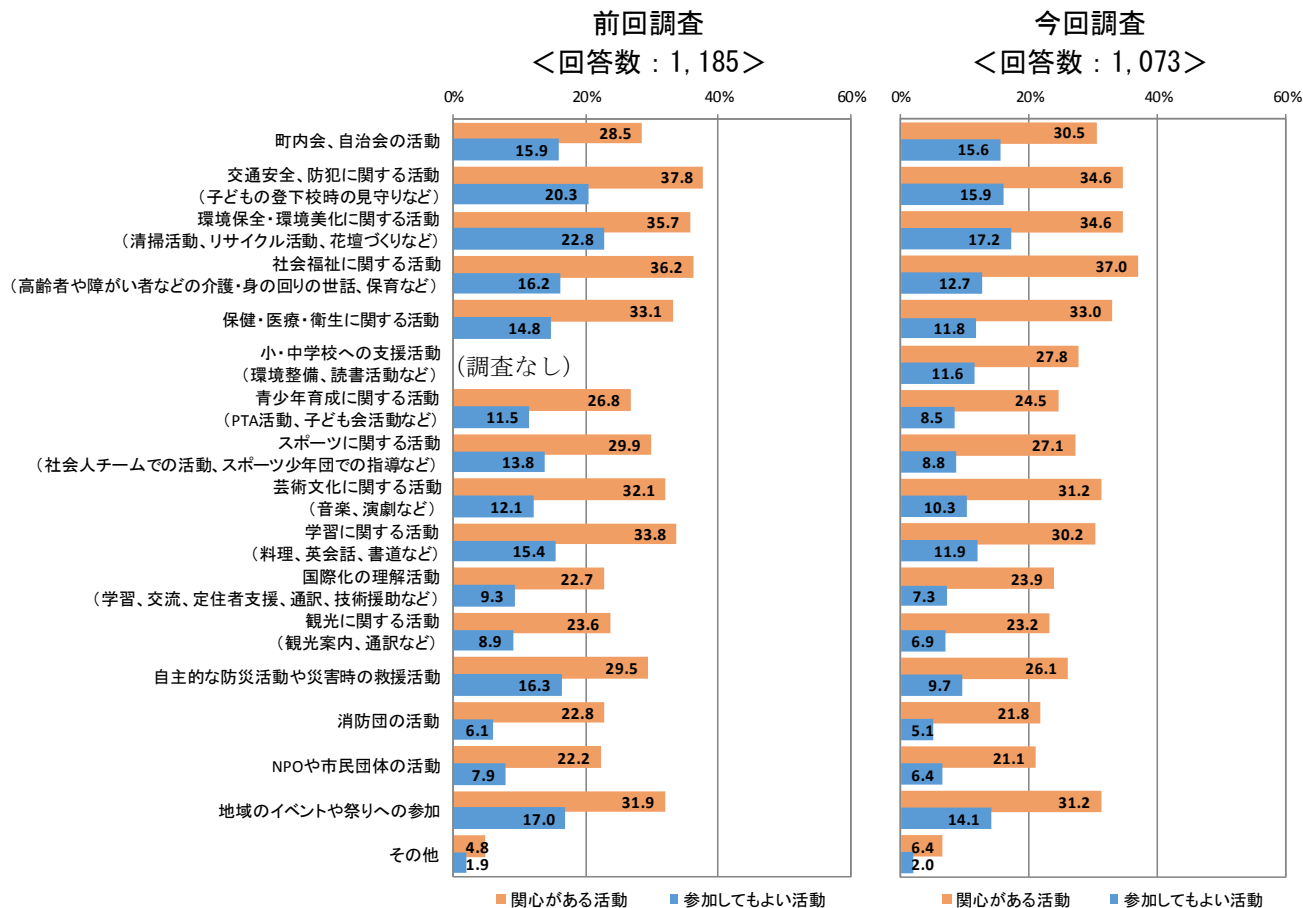
(3) 社会活動への関心と参加意向

社会参加活動への関心では、前回最も関心度が高かった、「交通安全、防災に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」は今回の調査で2番目に多い回答となり、前回2番目に多い回答だった「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」が最も多い回答になっている。

また、全体的に関心度が低くなっている中で、前回より関心度が上がった項目は、「その他」を除くと「町内会、自治会の活動」、「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援、通訳、技術援助など）」、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の3項目となっている。

社会参加活動への参加意向では、前回最も参加意向が高かった、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」が今回も同様に、最も参加意向が高い項目となった。

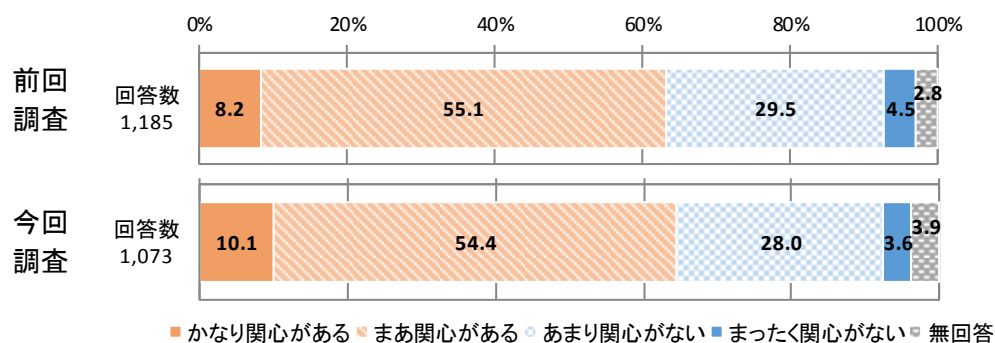
また、参加意向に関しては前回より全体的に低く、前回より参加意向が上がった項目は、17項目中1項目で「その他」のみとなっている。



3. 市政への関心と行政サービス

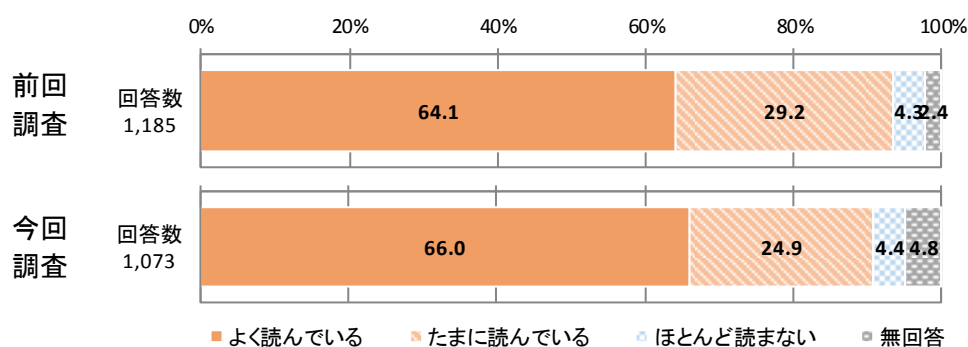
(1) 市政への関心度

前回と同様の結果が得られ、多くが市政に関心があると回答している。前回と比較すると、「かなり関心がある」、「まあ関心がある」の合計値（前回：63.3%、今回：64.5%）が前回より高く、「まったく関心がない」、「あまり関心がない」の合計値（前回：34.0%、今回：31.6%）が前回より低くなり、前回より市政への関心が増加している。



(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況

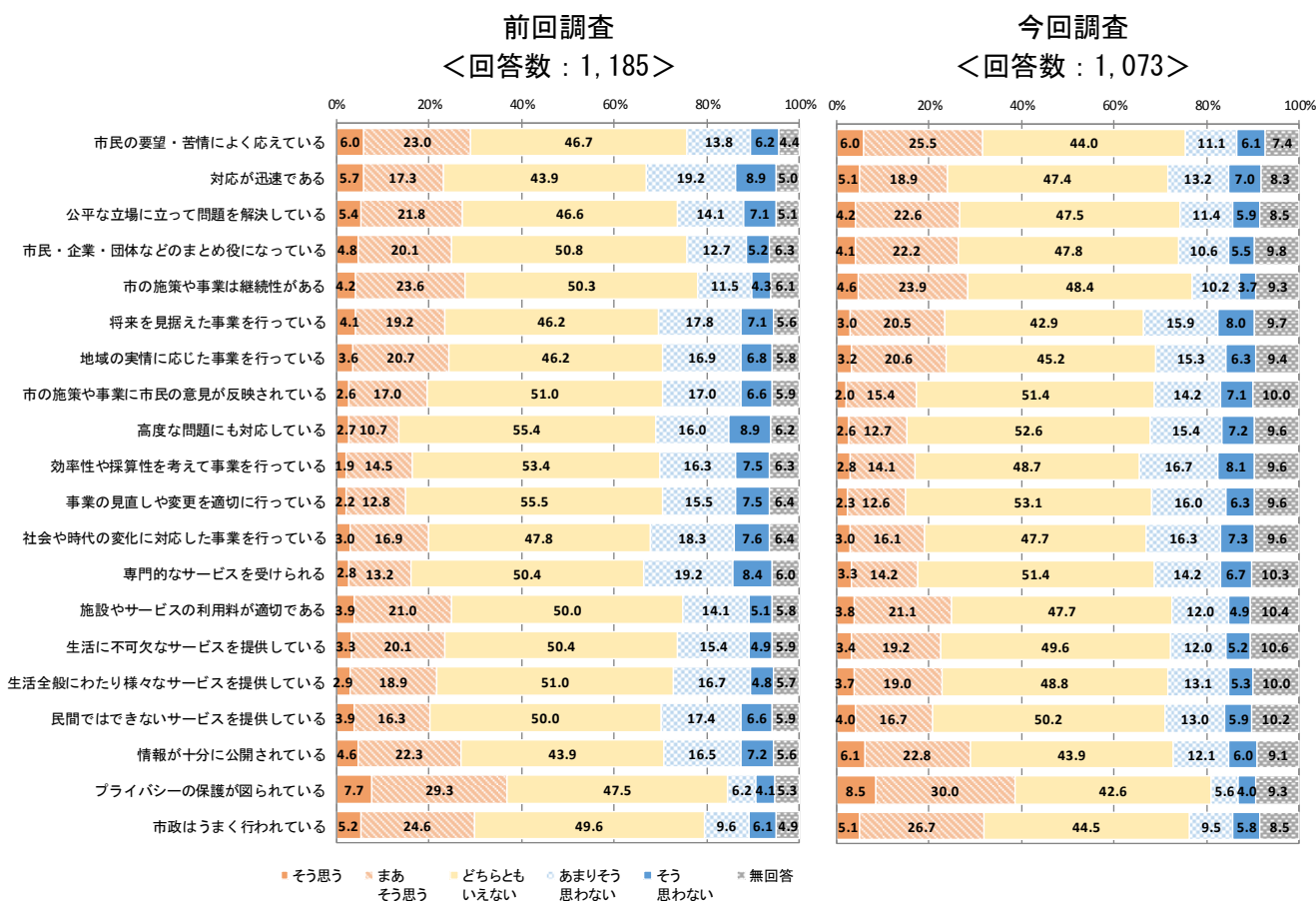
前回と同様の結果が得られ、多くが広報紙を読んでいるものの、前回と比較すると、「よく読んでいる」、「たまに読んでいる」の合計値（前回：93.3%、今回：90.9%）が前回より低く、「ほとんど読まない」（4.4%）（前回：4.3%）が前回より高くなり、前回より広報紙を読んでいる人が減少している。



(3) 行政サービスについての感想

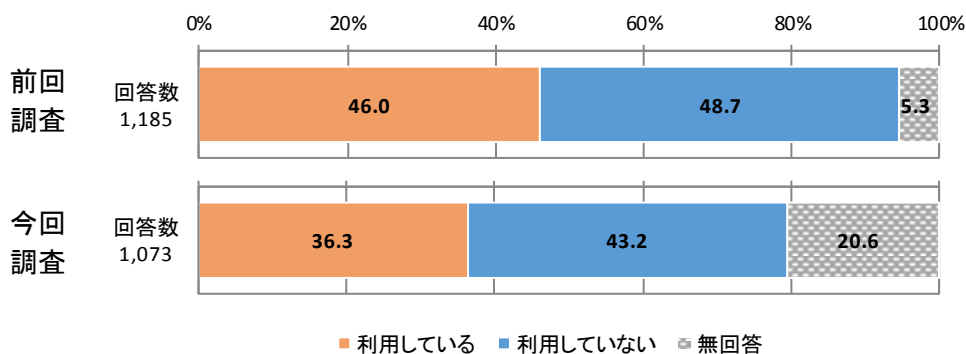
前回と同様に「そう思う」、「まあそう思う」の合計が最も高かったのは、「プライバシーの保護が図られている」となった。次いで多い項目は「市政はうまく行われている」となり、項目別傾向をみても全ての項目において前回とほぼ同様の結果となっている。

「効率性や採算性を考えて事業を行っている」を除いて、全ての項目で「あまりそう思わない」、「そう思わない」の合計が減少しているものの、「どちらともいえない」という感想も多くあり、判断できかねている様子も窺える。



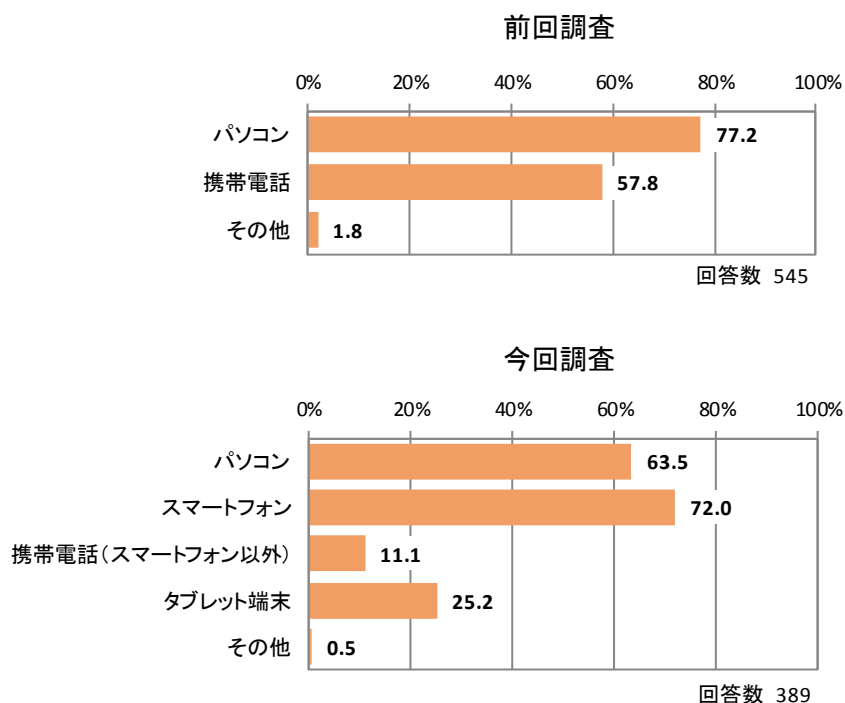
(4) インターネットの利用状況

前回と比べ、「利用している」(前回：46.0%、今回：36.3%)という回答が9.7ポイント減少している。今回は「無回答」が15.3ポイント増加しており関心の低さが伺える。



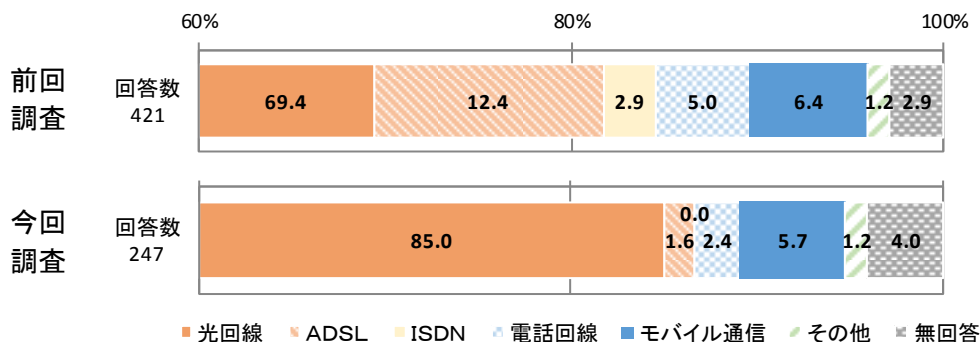
(5) インターネットの利用手段

「パソコン」が63.5%、「スマートフォン」が72.0%となっており、前回選択項目としてなかったスマートフォンでのインターネット利用が増加している。



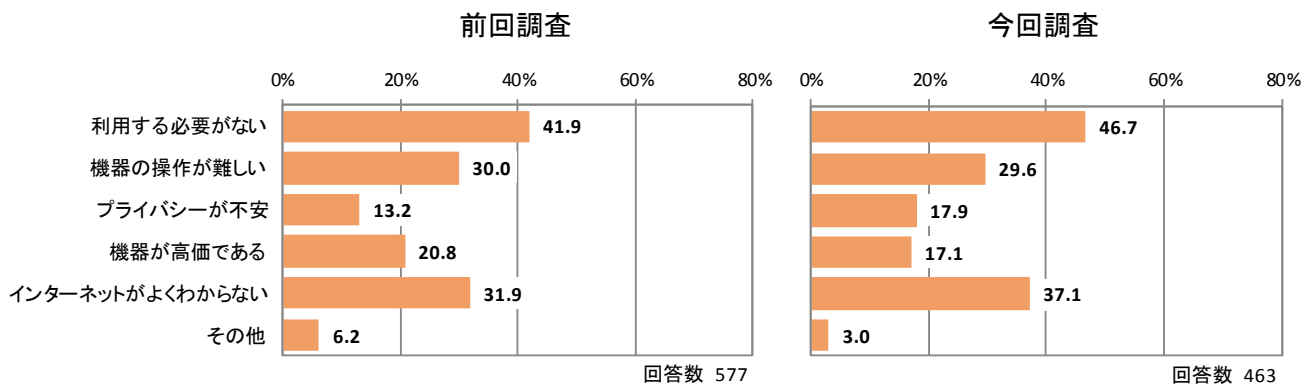
(6) インターネットの環境

前回に比べ、「光回線」利用の割合が15.6ポイントと大幅に増加している。
一方、「ADSL」、「ISDN」、「電話回線」の利用が減少している。



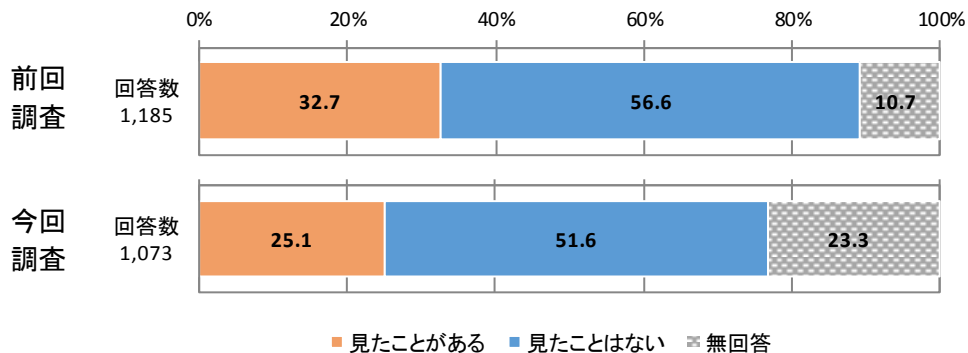
(7) インターネットを利用しない理由

前回と同様の結果が得られ、「利用する必要がない」が最も多い回答となっている。



(8) 市のホームページの利用状況

「見たことがある」(前回：32.7%、今回：25.1%)が前回より7.6ポイント減少し、「見たことはない」(前回：56.6%、今回：51.6%)も前回より5.0ポイント減少している。今回は「無回答」が12.6ポイント増加しており関心の低さが伺える



4. 今後の宮古市のまちづくり

(1) 各種施策に対する意識

■まちづくりは静的な都市か動的な都市か

前回と同様の結果が得られ、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、36.7ポイントだったのに対し、今回は36.3ポイントの差となり、その差は減少したが、傾向に大きな変化はなかった。

■施策は優先的対応か均等的対応か

前回と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、14.6ポイントだったのに対し、今回は5.1ポイントの差となり、大きな課題に対して施策を展開すべきという意見が増加している。

■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見がBの意見を上回った。また、またAの意見とBの意見との差が、7.5ポイントとなり、人口減少を抑制する取り組みを進める意見が多かった。

■まちづくりは行政と市民の協働か否か

前回と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、58.0ポイントだったのに対し、今回は48.6ポイントの差となり、その差は減少したが、まちづくりは市民と行政が協働して進めるべきとの積極的な意見が多い。

■地域活動への公的支援は不要か必要か

前回と同様の結果が得られ、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、47.7ポイントだったのに対し、今回は45.1ポイントの差となり、その差は減少したが、傾向に大きな変化はなかった。

■農地や森林保全への市の関与は必要か不要か

前回と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、34.4ポイントだったのに対し、今回は42.2ポイントの差となり、その差は増加したが、環境資源の保全には、市からの財政的支援を望む意見が多い。

■窓口対応は休祝日・夜間等対応も必要か現状維持か

前回と同様の結果が得られ、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が1.4ポイントだったのに対し、今回は12.4ポイントの差となり、その差は増加した。市の窓口対応は今のままでよいという傾向が見られた。

■公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

前回と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、43.8ポイントだったのに対し、今回は35.9ポイントの差となり、その差は減少したが、公共施設の整備には、経費削減よりも環境や景観への配慮を求める意見が多い。

■公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

前回と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、27.7ポイントだったのに対し、今回は29.6ポイントの差となり、その差は増加したが、大きな傾向に変化はなかった。

■公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

前回と同様の結果が得られ、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、12.3ポイントだったのに対し、今回は16.0ポイントの差となり、長寿命化よりも施設の集約・統合に対する意識が高い。

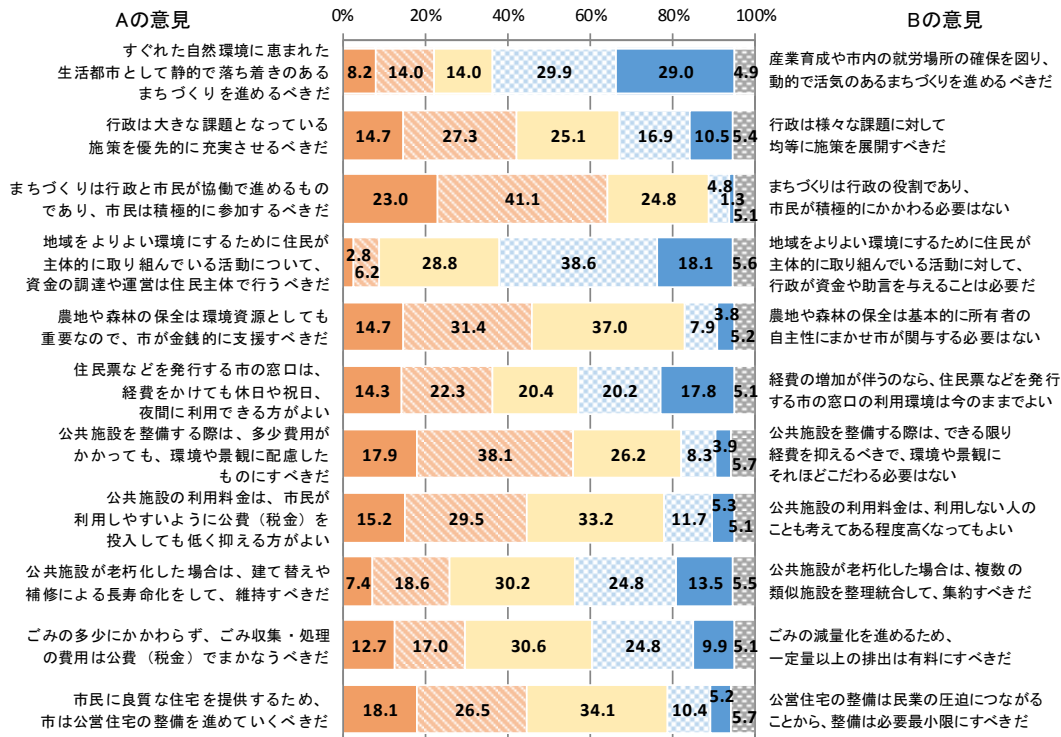
■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

前回とは異なり、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、5.0ポイントだったのに対し、今回は2.0ポイントの差となり、その差は減少した。ごみ収集・処理費用の費用は公費でまかなうべきという意見が増加している。

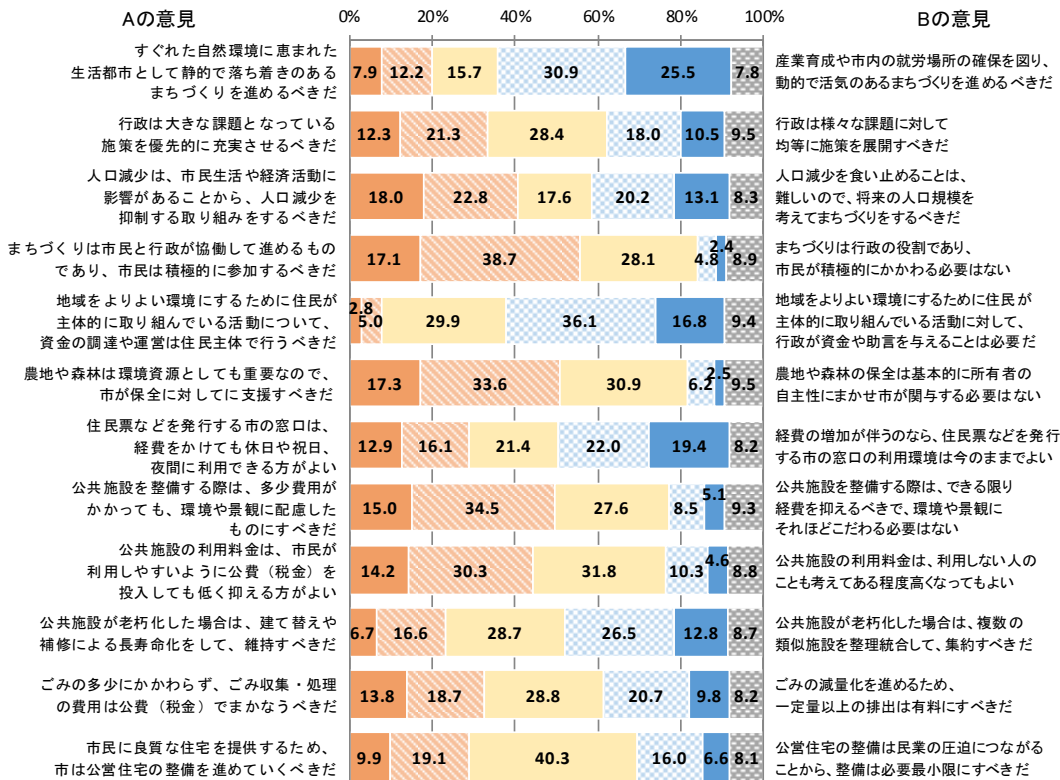
■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

前回と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、29.0ポイントだったのに対し、今回は6.4ポイントの差となり、その差は大幅に減少した。公営住宅の整備は必要最小限にすべきという意識が増加した。

前回調査
 <回答数：1,185>



今回調査
 <回答数：1,073>

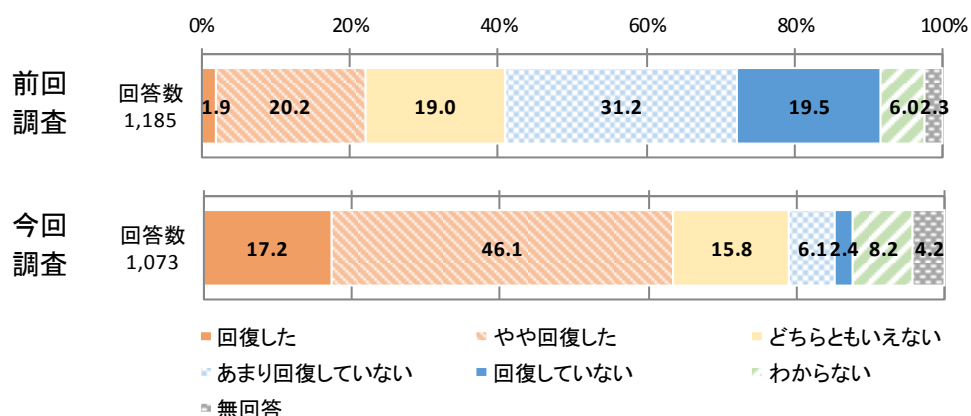


■ Aの意見に近い ■ どちらかという Aの意見に近い ■ どちらとも いえない ■ どちらかという Bの意見に近い ■ Bの意見に近い ■ 無回答

5. 東日本大震災からの復興

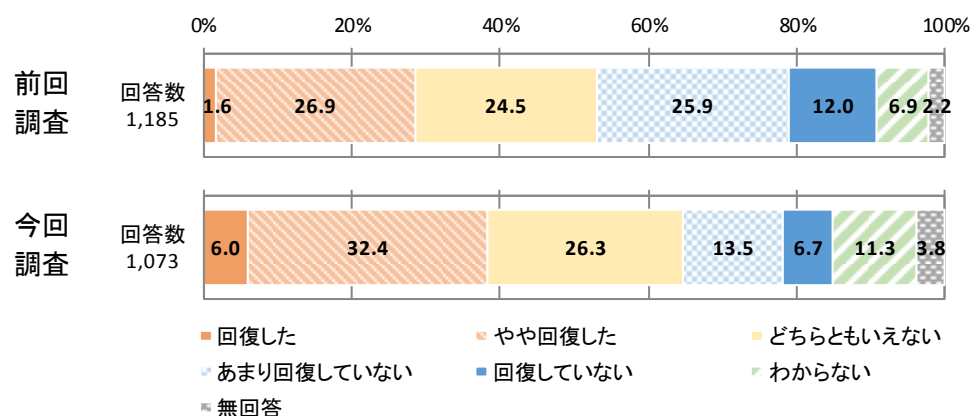
(1) 「住まいと暮らしの再建」の状況

前回と比較すると、「回復した」、「やや回復した」の合計値（前回：22.1%、今回：63.3%）が前回より大幅に高く、「あまり回復していない」、「回復していない」の合計値（前回：50.7%、今回：8.5%）は前回より大幅に低くなっており、前回より4割以上が被災者の生活が再建したと感じている。



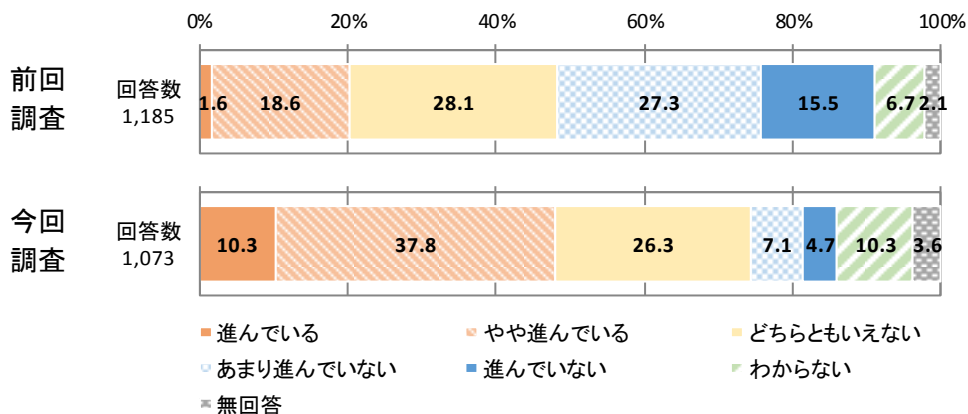
(2) 「産業・経済復興」の状況

前回と比較すると、「回復した」、「やや回復した」の合計値（前回：28.5%、今回：38.4%）が前回より高く、「あまり回復していない」、「回復していない」の合計値（前回：37.9%、今回：20.2%）は前回より低くなっており、前回より1割が産業・経済が復興していると感じている。



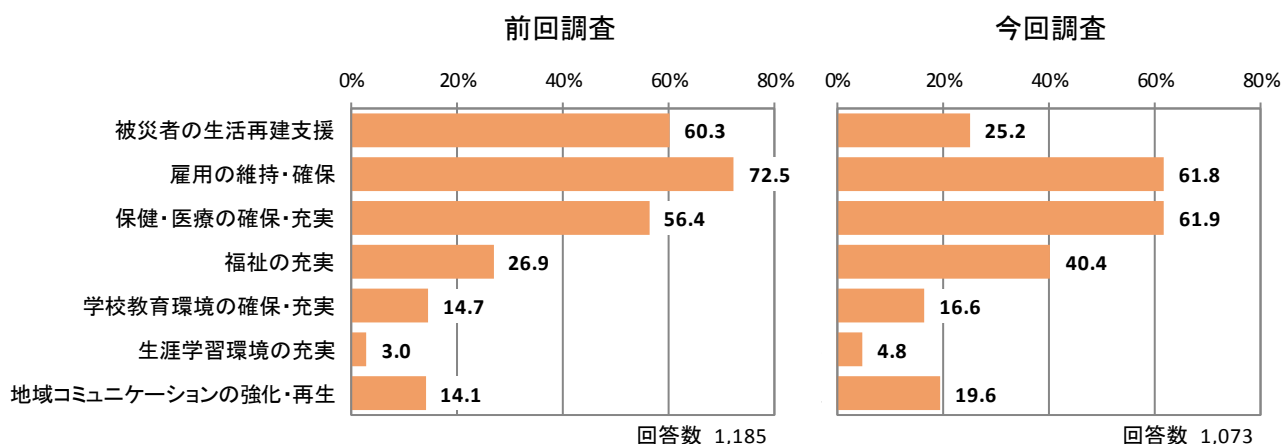
(3) 「安全な地域づくり」の状況

前回と比較すると、「進んでいる」、「やや進んでいる」の合計値（前回：20.2%、今回：48.1%）が高く、「あまり進んでいない」、「進んでいない」の合計値（前回：42.8%、今回：11.8%）が低くなっている。安全な地域づくりが進んでいると感じている方が大幅に増加していることがわかる。



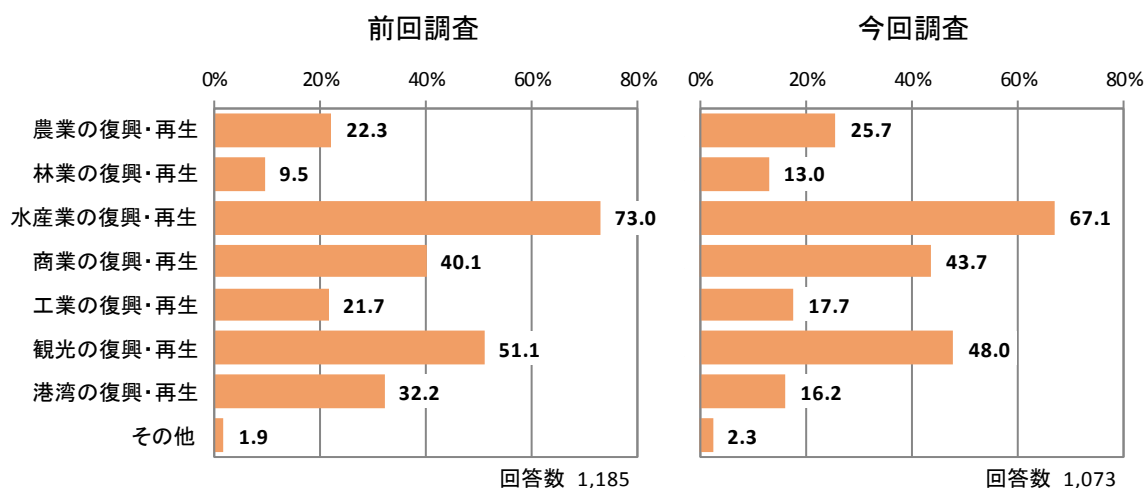
(4) 「住まいと暮らしの再建」において重要な施策

前回と比較すると、前回最も多い回答のあった「雇用の維持・確保」が今回は61.8%（前回：72.5%）と僅差で2番目に多い回答となっており、前回3番目に多い回答のあった「保健・医療の確保・充実」が今回は61.9%（前回：56.4%）と最も多い回答があった。前回2番目に多い回答のあった「被災者の生活再建支援」は大幅に減少し、今回は25.2%（前回：60.3%）と4番目に多い回答となっており、前回4番目に多い回答のあった「福祉の充実」が今回40.4%（前回：26.9%）と3番目に多い回答となっている。



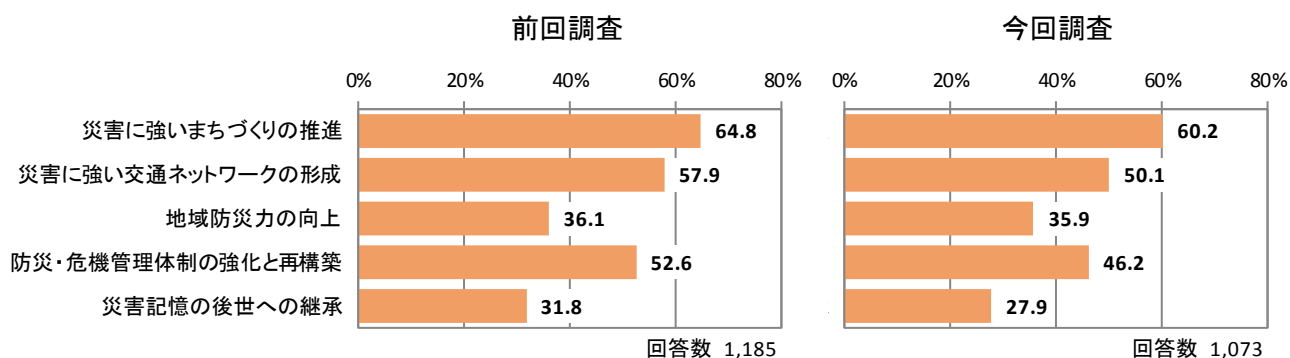
(5) 「産業・経済復興」において重要な施策

前回と同様の結果が得られ、「水産業の復興・再生」が最も多い回答（前回：73.0%、今回：67.1%）となっている。次いで、「観光の復興・再生」（前回：51.1%、今回：48.0%）、「商業の復興・再生」（前回：40.1%、今回：43.7%）となっている。



(6) 「安全な地域づくり」において重要な施策

前回と同様の結果が得られ、「災害に強いまちづくりの推進」が最も多い回答（前回：64.8%、今回：60.2%）となっている。次いで、「災害に強い交通ネットワークの形成」（前回：57.9%、今回：50.1%）、「防災・危機管理体制の強化と再構築」（前回：52.6%、今回：46.2%）となっている。



宮古市市民意識調査

ご協力のお願い

日頃から、市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

宮古市は、市のまちづくりの指針である総合計画に基づき、様々な施策・事業を行っています。

平成23年3月11日に発災した東日本大震災では、多くの尊い命や貴重な財産が奪われてしまいました。

現在は、市民の皆さまのご理解とご協力のもと、復興後の新たなまちづくりを進めております。

そこで、市では、市民の皆さまからまちづくりに関してご意見等をいただき、平成31年度に策定する総合計画をはじめ、今後の市政の参考とするため、「宮古市市民意識調査」を実施することにいたしました。

調査の対象として、市内にお住まいの3,000人の方を無作為に選びましたところ、あなたに回答をお願いすることになりました。お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、より多くの皆さまのご意見を施策に反映したいと考えておりますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた調査票は、**11月30日**までに同封の返信用封筒に入れて投函してください。

平成30年11月

宮古市長 山本正徳

ご記入にあたってのお願い

- 1 **あて名の、ご本人が回答してください。**
- 2 回答は、あてはまる番号を選び、その番号を○印で囲んでください。
- 3 「○印は1つ」など回答が限られている質問では、あなたがもっともあてはまるとお考えになる回答を指定の数以内で選び、○印をつけてください。
- 4 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが()内に、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 5 すべてのご記入が終わりましたら、記入もれや間違いがないか、ご面倒でももう一度お確かめください。
- 6 この調査に関するご質問は、下記にお願いいたします。

宮古市企画部企画課 TEL 0193-62-2111(内4612)

あなたの身の回りの生活環境についてお聞きします

問1

あなたは次のことがらについて、日頃の生活の中でどのように感じていますか。また、あなた自身の生活にとってどの程度必要なことですか。あてはまるところに○をつけてください。
(○印はそれぞれ1つずつ)

	日頃の生活の中で					必要度		
	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	必要である	どちらともいえない	必要でない
1) 海や山などの自然環境に恵まれている	1	2	3	4	5	1	2	3
2) 自然に親しみ学ぶことのできる場所や機会がある	1	2	3	4	5	1	2	3
3) まちの雰囲気や親しみがもてる	1	2	3	4	5	1	2	3
4) 人情味があり、人とのふれあいがある	1	2	3	4	5	1	2	3
5) 気軽に散歩やサイクリングを楽しむことができる	1	2	3	4	5	1	2	3
6) ごみやし尿の収集処理の状況がよい	1	2	3	4	5	1	2	3
7) ごみの分別収集やリサイクルが進んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
8) 清掃や環境美化が行われ、まちに清潔感がある	1	2	3	4	5	1	2	3
9) 河川がきれいで親しみがもてる	1	2	3	4	5	1	2	3
10) 公害が少ない	1	2	3	4	5	1	2	3
11) 気軽に、自由な学習や文化活動が行える場所がある	1	2	3	4	5	1	2	3
12) 市内で様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる	1	2	3	4	5	1	2	3
13) 身体を動かしたりスポーツのできる場所が身近にある	1	2	3	4	5	1	2	3
14) 地域の集会施設が整備されている	1	2	3	4	5	1	2	3
15) 自主的な活動を行う機会や場が身近にある	1	2	3	4	5	1	2	3
16) 青少年をのびのびとすこやかに育む環境が整っている	1	2	3	4	5	1	2	3
17) 学校の教育環境が整っている	1	2	3	4	5	1	2	3
18) 情操教育が充実している	1	2	3	4	5	1	2	3
19) 学校が市民に開放されている	1	2	3	4	5	1	2	3
20) 国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）が盛んである	1	2	3	4	5	1	2	3
21) 生活上の課題を相談できるところが身近にある	1	2	3	4	5	1	2	3
22) 必要なときに手助けをしてもらえる環境がある	1	2	3	4	5	1	2	3
23) 高齢者に対する在宅サービス制度が充実している	1	2	3	4	5	1	2	3
24) 老人ホームなどの福祉施設が整備されている	1	2	3	4	5	1	2	3
25) 障がい者が社会参加しやすい環境がある	1	2	3	4	5	1	2	3

	日頃の生活の中で					必 要 度		
	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	必要である	どちらともいえない	必要でない
26) 保育園や幼稚園などが整備されている	1	2	3	4	5	1	2	3
27) 子どもを預けたいときに預けられる保育園などがある	1	2	3	4	5	1	2	3
28) 育児に関する悩みや不安を相談できるところがある	1	2	3	4	5	1	2	3
29) 住民同士のつながりが広がる場や機会が身近にある	1	2	3	4	5	1	2	3
30) 救急の場合も安心して利用できる医療機関がある	1	2	3	4	5	1	2	3
31) 市民の健康づくりに対する取り組みが活発である	1	2	3	4	5	1	2	3
32) 仕事や地域活動などで女性も活動しやすい	1	2	3	4	5	1	2	3
33) 末広町、中央通などの地元商店街は魅力的な商業ゾーンである	1	2	3	4	5	1	2	3
34) 小山田や宮町、長町などの沿道沿いは賑わいのある商業ゾーンである	1	2	3	4	5	1	2	3
35) 市内には娯楽やレジャー施設がある	1	2	3	4	5	1	2	3
36) おいしい店や楽しく飲食できる店がある	1	2	3	4	5	1	2	3
37) 食品や日用品などの買い物に便利である	1	2	3	4	5	1	2	3
38) 市内に魅力ある観光スポットや特産品がある	1	2	3	4	5	1	2	3
39) 新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌がある	1	2	3	4	5	1	2	3
40) 市内にはパートやアルバイトを含めて多様な就労の場がある	1	2	3	4	5	1	2	3
41) 農業は担い手が多く、盛んである	1	2	3	4	5	1	2	3
42) 林業は担い手が多く、盛んである	1	2	3	4	5	1	2	3
43) 水産業は担い手が多く、盛んである	1	2	3	4	5	1	2	3
44) 魚価の安定、消費拡大の対策がとられている	1	2	3	4	5	1	2	3
45) 市の工業は盛んで多くの市民の就労の場になっている	1	2	3	4	5	1	2	3
46) 港湾は様々なことに有効に活用されている	1	2	3	4	5	1	2	3
47) 宮古駅周辺には生活に必要な施設や機能がある	1	2	3	4	5	1	2	3
48) 鉄道・バスなどの便が整っており移動に便利である	1	2	3	4	5	1	2	3
49) 国道や県道などの幹線道路の整備が進んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
50) 幹線となる市道がよく整備されている	1	2	3	4	5	1	2	3

	日頃の生活の中で					必 要 度		
	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	必要である	どちらともいえない	必要でない
51) 身近な生活道路が整備されており安心して通行できる	1	2	3	4	5	1	2	3
52) 駐輪・駐車場が困らない程度にある	1	2	3	4	5	1	2	3
53) 公園・緑地などが整備・保全されている	1	2	3	4	5	1	2	3
54) 公営住宅もあり住むところの心配はない	1	2	3	4	5	1	2	3
55) 年をとっても安心して住める住まいとなっている	1	2	3	4	5	1	2	3
56) 身近な情報や知りたい情報を入手する手段がさまざまある	1	2	3	4	5	1	2	3
57) 行政サービスの窓口が適当な場所にある	1	2	3	4	5	1	2	3
58) 民間や行政を問わず市外他地域との交流活動が盛んである	1	2	3	4	5	1	2	3
59) 火災に対する消防体制が整っている	1	2	3	4	5	1	2	3
60) 災害時に必要な情報が防災行政無線などから入手できる	1	2	3	4	5	1	2	3
61) 災害時の避難所・避難場所が適当で安心できる	1	2	3	4	5	1	2	3
62) 自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制が整っている	1	2	3	4	5	1	2	3

問2 あなたは、今お住まいの地域をどの程度好きですか。(○印は1つ)

1. 好きだ 2. まあ好きだ 3. あまり好きではない
4. 好きではない 5. どちらともいえない

問3 あなたは、宮古市をどの程度好きですか。(○印は1つ)

1. 好きだ 2. まあ好きだ 3. あまり好きではない
4. 好きではない 5. どちらともいえない

地域や社会とのかかわりについてお聞きします

問4 以下のようなA・Bの異なる意見があるとして、あなたはA・Bどちらの意見に近いお考えをお持ちですか。あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

Aの意見	Aの意見に近い	Aどちらかというところ	どちらともいえない	Bどちらかというところ	Bの意見に近い	Bの意見
地域のことに自分の意見を反映させたり、活動にも参加したい	1	2	3	4	5	地域のことは熱心に取り組んでいる人たちが中心になって考えればよい
地域のつながりを大事にしていきたい	1	2	3	4	5	価値観や関心が同じ人たちとのつながりを大事にしたい
市の事業に自分の知識や経験・能力などが活かされるなら無報酬でも協力したい	1	2	3	4	5	市の事業に特に関心もなく、ゆとりもないので協力するつもりはない

問5

あなたは、本来の仕事、学業とは別に次のような活動に関心がありますか。また、誘われれば参加してもよいと思われる活動はありますか。あてはまるものに○をつけてください。

	関心がある	現在している活動	参加してもよい
1) 町内会、自治会の活動	1	1	2
2) 交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）	1	1	2
3) 環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）	1	1	2
4) 社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）	1	1	2
5) 保健・医療・衛生に関する活動	1	1	2
6) 小・中学校への支援活動（環境整備、読書活動など）	1	1	2
7) 青少年育成に関する活動（PTA活動、子ども会活動など）	1	1	2
8) スポーツに関する活動（社会人チームでの活動、スポーツ少年団での指導など）	1	1	2
9) 芸術文化に関する活動（音楽、演劇など）	1	1	2
10) 学習に関する活動（料理、英会話、書道など）	1	1	2
11) 国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援、通訳、技術援助など）	1	1	2
12) 観光に関する活動（観光案内、通訳など）	1	1	2
13) 自主的な防災活動や災害時の救援活動	1	1	2
14) 消防団の活動	1	1	2
15) NPOや市民団体の活動	1	1	2
16) 地域のイベントや祭りへの参加	1	1	2
17) その他（具体的に)	1	1	2

問6 あなたは、普段近所の人とどのような付き合いをしていますか。(○印は1つ)

1. 日頃から家族ぐるみの付き合いがある
2. 困っているときに相談をしたり、助けあったりする
3. 留守をする時に声をかけあう
4. たまに立ち話をする程度
5. 付き合いがほとんどない
6. その他 ()

問7 地域住民がお互いに力をあわせて、住みよい地域社会を実現していくうえで、問題になることは何だと思えますか。(○印はいくつでも)

1. 近所付き合いが減っていること
2. 町内会・自治会の活動などに参加しにくい雰囲気があること
3. 日中、仕事などで地域を離れている人が多いこと
4. 地域に関心のない人が多いこと
5. 地域活動への若い人の参加が少ないこと
6. 地域での交流機会が少ないこと
7. その他 ()

問8 災害の避難の際に心配なことがありますか。(○印はいくつでも)

1. 自分で避難できる自信がない
2. 周りに助けてくれる人がいない
3. 避難する場所がわからない
4. 特にない
5. その他 ()

問12 あなたは、ご自宅や職場などでインターネットを利用されていますか。(○印は1つ)

1. 利用している (問12-1にお進みください) | 2. 利用していない (問12-2にお進みください)

問12-1 どのような手段で利用されていますか。(○印はいくつでも)

1. パソコン 2. スマートフォン 3. 携帯電話 (スマートフォン以外) 4. タブレット端末
5. その他 ()

問12-1-1 「パソコン」と答えられた方にお伺いします。
インターネット接続は何を利用していますか。(○印は1つ)

1. 光回線 2. ADSL 3. ISDN
4. 電話回線 5. モバイル通信 6. その他 ()

問12-2 利用されていない理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 利用する必要がない 2. 機器の操作が難しい 3. プライバシーが不安
4. 機器が高価である 5. インターネットがよくわからない
6. その他 ()

問13 あなたは、市のホームページを見たことがありますか。(○印は1つ)

1. 見たことがある (問13-1にお進みください) | 2. 見たことはない (問13-2にお進みください)

問13-1 (問13-2にもお答えください。)

市のホームページで、次の項目について見たことがありますか。
また、その内容についてどのように考えていますか。
あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

	利用度			満足度		
	よく見ている	たまに見ている	見たことがない	十分である	充実してほしい	必要でない
1) 市長のスケジュールや市政に関する情報	1	2	3	1	2	3
2) 窓口での手続きに関する情報 (戸籍の届出、転居の手続きなど)	1	2	3	1	2	3
3) 各種申請書のダウンロード	1	2	3	1	2	3
4) 市内のイベントに関する情報	1	2	3	1	2	3
5) 生活に関する情報 (ゴミの収集、市民相談、休日急患診療など)	1	2	3	1	2	3
6) 緊急時の情報 (災害、防災など)	1	2	3	1	2	3
7) 保健福祉に関する情報 (保健、福祉、国保、年金、介護など)	1	2	3	1	2	3
8) 産業振興に関する情報 (農林水産業、商工業など)	1	2	3	1	2	3
9) 都市整備に関する情報 (道路整備・管理、都市計画、市営住宅など)	1	2	3	1	2	3
10) 生涯学習に関する情報 (講演会、スポーツイベントなど)	1	2	3	1	2	3
11) 税金に関する情報 (税の制度、納付の方法など)	1	2	3	1	2	3
12) 施設に関する情報 (図書館、公民館の利用方法など)	1	2	3	1	2	3
13) 事業者向けの情報 (入札情報、企業支援など)	1	2	3	1	2	3
14) 議会や審議会に関する情報	1	2	3	1	2	3

問13-2 市のホームページで掲載・充実してほしい情報がありましたらお書きください。

これからの宮古市のまちづくりについてお聞きします

問16 これからのまちづくりや市の施策について、以下の点でA・Bの異なった意見があるとして、あなたはどちらに近いお考えをお持ちですか。あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つつ)

Aの意見	Aの意見に近い	Aどちらかというところ	いどちともいえない	Bどちらかというところ	Bの意見に近い	Bの意見
すぐれた自然環境に恵まれた生活都市として静的で落ち着いたあるまちづくりを進めるべきだ	1	2	3	4	5	産業育成や市内の就労場所の確保を図り、動的で活気のあるまちづくりを進めるべきだ
行政は大きな課題となっている施策を優先的に充実させるべきだ	1	2	3	4	5	行政は様々な課題に対して均等に施策を展開すべきだ
人口減少は、市民生活や経済活動に影響があることから、人口減少を抑制する取り組みをするべきだ	1	2	3	4	5	人口減少を食い止めることは難しいので、将来の人口規模を考えてまちづくりをするべきだ
まちづくりは市民と行政が協働して進めるものであり、市民は積極的に参加するべきだ	1	2	3	4	5	まちづくりは行政の役割であり、市民が積極的にかかわる必要はない
地域をよりよい環境にするために住民が主体的に取り組んでいる活動について、資金の調達や運営は住民主体で行うべきだ	1	2	3	4	5	地域をよりよい環境にするために住民が主体的に取り組んでいる活動に対して、行政が資金や助言を与えることは必要だ
農地や森林は環境資源としても重要なので、市が保全に対して支援すべきだ	1	2	3	4	5	農地や森林の保全は基本的に所有者の自主性にまかせ市が関与する必要はない
住民票などを発行する市の窓口は、経費をかけても休日や祝日、夜間に利用できる方がよい	1	2	3	4	5	経費の増加が伴うのなら、住民票などを発行する市の窓口の利用環境は今のままでよい
公共施設を整備する際は、多少費用がかかっても、環境や景観に配慮したものにすべきだ	1	2	3	4	5	公共施設を整備する際は、できる限り経費を抑えるべきで、環境や景観にそれほどこだわる必要はない
公共施設の利用料金は、市民が利用しやすいように公費(税金)を投入しても低く抑える方がよい	1	2	3	4	5	公共施設の利用料金は、利用しない人のことも考えてある程度高くなってもよい
公共施設が老朽化した場合は、建て替えや補修による長寿命化をして、維持すべきだ	1	2	3	4	5	公共施設が老朽化した場合は、複数の類似施設を整理統合して、集約すべきだ
ごみの多少にかかわらず、ごみ収集・処理の費用は公費(税金)でまかなうべきだ	1	2	3	4	5	ごみの減量化を進めるため、一定量以上の排出は有料にすべきだ
市民に良質な住宅を提供するため、市は公営住宅の整備を進めていくべきだ	1	2	3	4	5	公営住宅の整備は民業の圧迫につながることから、整備は必要最小限にすべきだ

東日本大震災からの復興についてお聞きします

問17 あなたの周囲をご覧になって、被災者の住まいと暮らし(生活)は、被災前と比べてどの程度再建(回復)したと感じますか。(○印は1つ)

- | | | |
|---------------|------------|--------------|
| 1. 回復した | 2. やや回復した | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり回復していない | 5. 回復していない | 6. わからない |

問18 あなたの周囲をご覧になって、宮古市の産業・経済は、被災前と比べてどの程度復興(回復)したと感じますか。(○印は1つ)

- | | | |
|---------------|------------|--------------|
| 1. 回復した | 2. やや回復した | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり回復していない | 5. 回復していない | 6. わからない |

問19 あなたの周囲をご覧になって、安全な地域づくりは、被災前と比べてどの程度進んでいると感じますか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1. 進んでいる | 2. やや進んでいる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んでいない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問20 「住まいと暮らしの再建」において、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。(○印は3つまで)

- | | | |
|---------------|----------------------|----------------|
| 1. 被災者の生活再建支援 | 2. 雇用の維持・確保 | 3. 保健・医療の確保・充実 |
| 4. 福祉の充実 | 5. 学校教育環境の確保・充実 | |
| 6. 生涯学習環境の充実 | 7. 地域コミュニケーションの強化・再生 | |

問21 「産業・経済復興」において、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。(○印は3つまで)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 農業の復興・再生 | 2. 林業の復興・再生 | 3. 水産業の復興・再生 |
| 4. 商業の復興・再生 | 5. 工業の復興・再生 | 6. 観光の復興・再生 |
| 7. 港湾の復興・再生 | 8. その他 () | |

問22 「安全な地域づくり」において、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 災害に強いまちづくりの推進 | 2. 災害に強い交通ネットワークの形成 |
| 3. 地域防災力の向上 | 4. 防災・危機管理体制の強化と再構築 |
| 5. 災害記憶の後世への継承 | |

Q6 あなたは、宮古市内に今後とも住み続けたいと思いますか。(○印は1つ)

1. 今のところにずっと住むつもりである
2. 市内のほかのところへ移りたい
3. できれば市外に移りたい
4. すぐにでも市外に移りたい
5. わからない

Q7 あなたのお住まいの形態は。(○印は1つ)

1. 持ち家
2. 公営住宅
3. 民間賃貸集合住宅
4. 民間賃貸一戸建て
5. 官公舎・社宅・寮
6. 借間・下宿
7. 仮設住宅・みなし仮設住宅
8. その他 ()

Q8 あなたは結婚されていますか。(○印は1つ)

1. 未婚
2. 既婚 (共働きをしていない)
3. 既婚 (共働きをしている)
4. 離別・死別

Q9 あなたが現在一緒にお住まいのご家族の構成は、次のうちのどれにあたりますか。(○印は1つ)

1. 単身世帯 (1人で住んでいる世帯)
2. 一世代世帯 (夫婦で住んでいる世帯)
3. 二世帯世帯 (親と子で住んでいる世帯)
4. 三世帯世帯 (親と子と孫で住んでいる世帯)
5. その他の世帯 (1~4のいずれにもあてはまらない世帯)

Q10 お子さんはいらっしゃいますか。(○印は1つ)

1. 子どもがいる
2. 子どもはいない

↓
Q10-1 あなたの一番下のお子さんは、現在どのような成長段階にありますか。(○印は1つ)

1. 小学校入学前
2. 小学校在学中
3. 中学校在学中
4. 高校在学中
5. 大学・大学院 (短大・専修学校等含む) 在学中
6. 学校教育修了・未婚
7. 学校教育修了・既婚
8. その他 ()

市政全般についてご提案・アイデア・ご意見などがありましたら、なんでも結構ですので
ご自由にお書きください。

A large rectangular box with a double-line border, containing 20 horizontal dotted lines for writing.

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、記入もれがないかもう一度ご確認ください。